

名 称	寺 内 正 毅 文 書
標 題	朝鮮銀行関係

分 類 番 号	
	439
	29

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

朝鮮銀行關係

第九號





朝鮮總督閣下ヨリ本野大使宛御私信案

本年一月二十日付ヨリテ朝鮮銀行ヨリ露領浦鹽斯德ニ  
同行支店設置ニ関シ豫メ露國政府、内意聞合、件ニ  
付別紙、通り願書外務次官宛提出罷在、左處右ハ  
既ニ閣下、御手許ニ回付セラレ且ツ之ニ関シ種々閣下、  
御配慮ヲ煩ハシ居、義トハ被存、カ朝鮮銀行ニ於テ  
互可相成ハ一日モ早ク御回示ヲ得度様希望申出、居リ  
且ツ同銀行支店設置、計畫ハ日露親善、今日最モ  
時宜ク得タルヤニ被存、カ國務卿多端、御迷惑  
トハ奉存、カ得共同政府ト御交渉、上何分、御回答ヲ  
給ハリ、カ幸甚ニ奉存、カ尚從來佛國、大銀行ニシテ

村ハ同盟國タル關係ヨリ如何様、待遇ニ異ス居テ哉

朝鮮銀行、取調ニテハ判明致サ、ル由ニテハ可相成。

右ノ同様ノ待遇ニ得タキ哉ノ希望ニ有之趣ニ付其邊  
ノ處御倉置被下度此致御依頼申上ル

處御舍置被下度此御依頼

五

27

五

陸 年 一 月 一 日

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

437

2857

今般鮮露貿易ノ進捗ヲ計リ併ニテ日露國交ノ親善  
 ニ資センカ爲メ明治四十四年六月三十日條約第四號日  
 露兩國間會社互認ニ関スル協約ニ本キ露國浦鹽斯德  
 ニ發行支店開設ノ計畫致度候ニ付テハ御手数數之段實  
 以テ恐縮ノ至ニ候ヘト又先以右認可方及ニ其條件ニシテ露  
 國政府ノ内意一應御確メ被下間敷候哉本来弊行支店  
 開設ニシヤテハ露國政府ハ協約上當然之ヲ認可可致ト存  
 候又其條件ノ如何ハ弊行營業上影響スル所尠カラズ候  
 過般御迷付ヲ忝テ致シ候在浦鹽斯德帝國總領事館ノ

調査ニ係ル外國事業會社支店設置ニ關スル認可條件ノ如キモノヲ以テ弊行支店ニ又適用セラル、様相成候テハ營業上甚々困却可致候ニ付テハ甚々乍勝手右條件ニ對スル弊行ノ希望ヲ此處ニ開陳致候間何卒御交渉ノ折リノ御参考迄ニ御舍置被下度候

一、支店限リノ貸借對照表ヲ公表スルコトハ營業上苦痛不勘候ニ付其公表ノ義務ハ之ヲ免除セラレ唯一定ノ時期毎ニ之ヲ露國政府ニ提出スルコトニ止メラレ度コト尤又銀行全体ノ貸借對照表ハ每半季末露國政府ニ提出スルハ勿論廣ク之レヲ公表スルコト

二、使用人ノ國籍ニ關スル制限ハ之ヲ廢止セラレタキコト尤又露國臣民又ハ露語ヲ解スルモノ數名ヲ使用スルコト

三、主要帳簿記帳、國語ニ關スル制限ハ之ヲ廢止セラル度コト  
尤モ露國政府ニ提出スル書類等ハ露語ヲ以テスルハ勿論  
ナハコト

尚弊行支店設置、旨趣ハ前頭、通りニモ有之此際露國  
政府ニ於テモ特別、取計ニ依リ簡易ナル條件ヲ以テ認可  
致スヤ否其内意御聴取被下度奉懇請候尚課税モ頗  
ル過重ニ有之候ニ付モ特ニ低減、途又無之モノモ併セテ御  
交渉被下候ハ、仕合ニ奉存候右弊行、希望スル各項ニシ  
テ幸ニ露國政府、同情ヲ以テ認容セラルコト、又相成候上  
ハ更モテ右支店設置ニ關シ監督官廳、許可ヲ受ケ相當ノ  
手續相運可申答ニ有之候間御舍置奉願候  
右御懇請申上度如此御座候也

大正 年 月 日

(五十六)

外國に於て日本と云ふは保るに協定し適用法規

日本銀行  
朝鮮銀行

第三條、外國に於て日本と云ふは保るに協定し適用法規

ノミナリに義と云ふ保るに協定し適用法規

ち在るに保るに協定し適用法規

一、日本と云ふは保るに協定し適用法規

二、日本と云ふは保るに協定し適用法規

三、日本と云ふは保るに協定し適用法規

朝鮮銀行



朝鮮銀行

第三、予を除く日本、および彼等日本、於テ商業ヲ爲ムヲ以テ主たる  
 目的トスル者也、又、於テ及ぶるヲト爲日本、於テ及ぶる者也  
 ト同一規定、行フヲ要ス

第三の予入条、第四の予七條（株主發行ノ規定）、第五の予又条（株式譲渡ノ規定）

茅乃亭全(江右樓、形存、園上親定) 茅乃亭五余基頂(樓亦多記及)

二、圖式(4) 第三、五條第一項(債務履行規定) 第七、七條(受託債務移轉)

第三十七條（株主名簿、印鑑、配当、代議者の決定）第三十七條第

二項(抄写本増の規程)ノ規程ニ日本ニ於テハ外國人ハ、柿木ノ後

家ノ奉行ニ其儘ニ移轉、之ヲ母國ニ此陽令、於之如

テ日本、何ヶ条あるヲ以テ本々ト看做ス

テ日本に於ける政治ヲ以テ本邦ト看做ス



朝鮮銀行

大正 年 月 日

[illegible]

阿年恩又  
字奧系未  
伯靈時寺  
內正毅殿

外務省轉送

在露

本野一郎

相習佐別席

中錦士使子從

習聞古者書面內

噴破印付帝，百

即名道之貴如  
此年亦貴

月令

和祥記

水相聖福

池生張老太殿

後主御之

三ノリ436

明治二十  
年五月二日

按敎令、市法寧之、紋慶賀三王、手  
存、去、五月二日附、以、露領浦廟斯  
德、朝鮮銀行支店設置、件、閣、市、問  
合、之、趣、敎、承、致、以、本、件、就、以、本、年、一、月  
廿八日附、以、我、外、務、大、臣、ヲ、本、使、移、牒、  
有、之、早、速、露、王、政、府、之、意、交、海、關、長、慶、  
其、後、數、月、ヲ、經、之、何、等、ノ、回、答、ニ、接、セ、  
依、之、右、如、何、ノ、運、ニ、相、成、店、ハ、或、ハ、外、務、省  
ニ、督、促、致、以、又、同、方、ヲ、大、藏、省、務、兩、省  
ニ、協、議、中、ノ、事、相、分、カ、リ、ハ、付、更、ニ、同、而  
省、ノ、意、向、ヲ、内、ニ、為、未、探、以、其、各、主、務  
官、ノ、打、明、ノ、話、ニ、就、以、露、國、政、府、ニ、三、十

年來自國銀行業者ノ利益ヲ保  
 護スル急務ヲ感シ總テ露國ニ外ニ  
 銀行支店ヲ設置ス可キナル方針  
 ヲ執リ莫未ニ推佛ノ出願者ニ對シテ孰  
 シモ之ヲ拒絕シ来リ佛王クレヂット・リ  
 子銀行支店ハ三十有餘年以前ノ設  
 置ニ係リ當時露國ノ金融機關尙未  
 幼稚ノ時代ニ屬シ其ノ如ク設置ス有  
 益ナリト認メル事情有之タレトモ  
 然露國銀行業者ニ追テ莫未ニ外  
 國ノ業者ノ競多ク防クコトノお成  
 ル付庫羅斯德、朝鮮銀行ノ支店  
 設置ノ件ニ因ンテ右一般政策ニ基キ

乍貴遺憾許り、難キモノト思ひ置る  
日露兩國向來社會互認、肉親の契約、  
概り露國政府力本邦銀行支店ノ設  
置、總一可也、然レ得サルノ要、務ク互ニ店  
に互ノトラ信セズ、然レ此点、就テは萬ト外  
務省ト意見見、又總セテ、多シト云セ、店  
に又、レ、カ、ツ、ト、リ、オ、チ、一、銀行支店長ノ談  
、露國ノ於、外、玉、銀行支店、唯、何、支  
店、ノ、一、有、之、總、テ、露、國、法、律、ニ、循、從、シ  
、然、レ、業、ニ、居、リ、然、レ、ニ、モ、亦、前、總、理  
大臣、ニ、ラ、ツ、オ、フ、氏、ノ、如、ク、同、支、店、ノ、如、ク  
モ、一、業、ヲ、一、際、期、ニ、及、ス、ニ、付、將、來、決、シ  
テ、同、様、ノ、許、リ、ヲ、モ、ハ、サル、ヘ、レ、ト、處、次、同、支



店長：明言レタリト起、有之

本件、肉シテ高務大藏両者ノ内ニ意前

述ノ如ク有之又日兩路協約ノ明文、於

テ會社ノ營業許可ニ双方法律ノ

定ム所ニ從フ、中モトシテ兩路主ノ

法律ニ於テ、銀行ノ營業ハ高務大

臣又ハ國會ノ許可ヲ要ストノ定メ、相

成告ム付テハ、右ノ兩路國ニ於テ朝鮮

銀行支店ノ設置ヲ許可スルヲ適宜

ト認メサレハ法律上ヨリ強テ論争スル

餘地無之モノト被存ハ、其尙ホ外務

省ヨリ公然、四答ニ接セサルハ前ニ於テ

成ハ、外務大臣、對シテ懇談スル途ヲ

我願意ノ貫徹ニ精ニ尽力致  
居ハ儀、有之ハ内破答、儀ニ違  
可申道ハ其不取敢本件是迄、  
然未一應茲、及序回教ハ致具

大正四年七月廿七日

東亞

朝鮮總督公署寺内正毅殿

大正五年五月十五日午後二時三十分施行

山縣政務總督

總督

暗部

御前大隈首相ニ面會ノ上朝鮮銀行  
ノ額奉ニ付連ニ閣議決定ニ様嚴談相  
半々ニ之来本件ニ單ニ朝鮮銀行ノ利  
益尙欺ニアル満州ニ於テニ帝國ノ經濟荒  
廢ヲ因ラントスル主旨ニ外ナラズ銀行ノ  
準備定ヲ整ニ閣議ノ決定ヲ待ツノミナリ

故一事情ヲ尽シ一日ニ早ク実行致シタリ旨  
申陳ヘシタシ又貴族院議員候補者  
ノ儀是非有官ル希キヲ容レム様重ク  
申出シタシ

(主管)

電

受

大正五年五月十六日午前十時

五十分 新橋

著 發

總 督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

總督

山縣

第 百 號

貴電持誦銀行小額券、件、過  
般來度々内閣及大藏側、文  
涉、重、昨日モ亦大隈首相、面  
會、上、委曲陳述致タル、首相、於  
テモ同意ヲ表セラレ速カニ相運バ  
ベキ旨答ヘラレ又勅選議員ニ付テ

明洋恩督府

モ一名夫々是非任命の様要求セシ

是亦兼知<sup>シタリト</sup>事ナレトモ其裏面

ニ江水書記官長免角手加減ヲ<sup>ナシ</sup>居

ル<sup>ト</sup>噂<sup>アル</sup>ガ故ニ更ニ江水氏<sup>ニ</sup>モ嚴談ニ

及ビタル処手欣ニ関スル書類ハ大抵省ヨリ

詮議ノ爲一時取<sup>出</sup>下<sup>ヲ</sup>願出テ既ニ返戻

シタリト<sup>コト</sup>是レ何レモ其責ヲ免ル<sup>コト</sup>

ニ勉メ<sup>貞ニ</sup>固<sup>ヲ</sup>思フ<sup>活氣</sup>ナキハ概嘆ノ外

ナシ右ノ次第ニ付更ニ本日ハ大抵側ヲ<sup>氣</sup>シ

御報致スベシ

総務局長  
総務了

荒井長安

電受

明治三十五年五月十六日午後五時在府署

暗号

総督

山縣

銀行券の關する件は今朝總理に對し  
右解決セザル以上は小官歸任出来ザル  
旨ヲ以テ迫リ又大藏省ニ對シテ何故  
書面ヲ取下ゲタルヤヲ質シタルニ竹官原  
次官ハ左ルコトナシト答ヘタルモ實際ハ  
國庫課長ノ手許ニテ添付書類ノ入  
用ヲ生ジ一時内閣ヨリ借來タリタルコト

判明シ直チニ内閣へ返戻スベシトノコト  
ナリ尚昨日江水ノ言ニ依ル満鉄ノ回  
答未タ来ラズ是亦詮議上ニ差支ユ  
トノコトナリシ故満鉄ニ對シテハ至急回  
答アル様小官ヨリ中村總裁へ依頼シ  
置ケリ尚今後ノ模様ハ追テ御報  
申上グベシ



結了



暗號

大正五年五月七日午後四時接

總督

山縣

朝鮮銀行小額券閣下本日更夫

藏大臣並江本書記官長ニ面

會督促タル書記官長言ニ概

ハ本閣議案ニ一、滿州ニ於テ

金銀行券ハ強制通用力ヲ害

セズ且軍票ノ利上ヲ妨ケサル範圍

内ニ郵便局ハ金庫ニ於テ銀ノ仕

拂ヲ為ササルヲ並ニ滿鉄ニ於テモ同一

ノ方針ヲ執ルコト 二 滿州ニ於ケル取  
引所ノ建ヲ一切金建ニスル方針  
ヲ執ルコト 三 滿州ニ於テ朝鮮銀  
行ノ仕拂手取及銀行ヲ認許スルコト  
四 正金銀行ニ仕拂手取ノ及銀行ヲ認  
許セサルコトノ諸問題ヲ包含スル爲  
容易ニ解決セサルヘシトノコトナリシヲ以テ  
ト官ハ本問題決定セガレハ歸任シ難  
キニヨリ若シ急遽金休リ解決ヲ見難  
キ場合ニ於テハ此際鮮銀小額ヲ方ノ件

ミツカ離シ是非明日、閣議ニテ決  
定アリタキ旨ヲ鰥談シ書記官長ニ  
大休其ノ意ヲ諒セリ明日閣議ノ模  
様ハ追テ申上グベシ尚閣議定事ニ付  
テハ極秘ノ趣ニ付閣下限リ御承  
知置リ請フ右ノ次第ニ付明日ノ出  
発ハ一時見合ハセ更ニ御報申上リ  
ヘシ

(主管)

電

受

總督

政務總監

總務局長

3

3

秘書官

主任

大正五年五月十九日午後二時三十分

新橋 甲府 發

總督

山縣

第 三 號

今朝大隈首相ヲ訪ヒ小額銀行  
券ニ関シ本日、閣議ニ於テ是非共  
決定相成様且又若シ本件ト關聯  
セル他ノ案件ノ為ニ困難ヲ生スル恐  
アリ本件ノ引離シテ決定相成様  
懇々申入レタル処首相モ大ニ諒トセ

レレ乃チ本日、閣議ニ於テ本件ハ他ノ案ニ  
件ト引離シ當方、提案ヲ通決定セラル  
旨唯今内閣ヨリ通知アリテ右不取敢  
御報告申上ゲ。○小官ハ二十二日ニ  
任ス

(主管)

電

送

大正五年五月十九日午後二時三十分發

總督

政務總監

總務局長

秘書官



主任

政務總監

總督

第 三 號

貴院了来小款銀の事、同題、同  
方、此度力ヲ謝ス尚、同題、同  
方、此度力ヲ謝ス尚、同題、同  
方、此度力ヲ謝ス尚、同題、同  
方、此度力ヲ謝ス尚、同題、同  
方、此度力ヲ謝ス尚、同題、同  
方、此度力ヲ謝ス尚、同題、同  
方、此度力ヲ謝ス尚、同題、同  
方、此度力ヲ謝ス尚、同題、同  
方、此度力ヲ謝ス尚、同題、同

取友、謝意中なり

[illegible]



日新之德以立人志千  
不田成既往之為  
高古聖之志永世  
太山元年向城比  
才也四万海内因之  
增美觀年一也  
宋德信老之為宋穀  
之牛通多之其家  
耶後和是之為各  
漢子學明之堆積

既合其心  
忙平

浦江支吾利便

之件为十八部

内院古律

主门过也

店之

存之

年已

之

手曲

又、見、上、あ、や、本、村  
如、  
所、  
上、  
名、  
上、

寺、由、  
史、

吉田首相十九日午後二時接

總督

山縣

暗号

過刻申上ケタル鮮銀銀行券ノ

コトハ本日中ニ内閣ヨリ大藏省へ

通知セラルベキ依リ唯今武富藏

相ニ面會シ右通知次第速ニ

指令相成度旨ヲ要求シ藏相ニ

允テモ之ヲ快諾セリ先ヅ是ニテ

過日來ハ難件ニテ諸君首相

元本目、謝永隆、陳謝、置  
何、  
知、  
相、  
何、  
何、  
何、  
隨、

主管

電

總

政務總監

總務長局

秘書官

主任

受

大正五年七月十四日午後二時

三十分 東京 著

池邊秘書官

荒井

第一號 附号

馬山ニ銀行設立ノ件ニ関シ桑原

保三郎ニ面會シタルハ事實ナルモ

目下馬山ノ經濟狀態ニ於テ新

ニ銀行ヲ設立スル必要ナク現ニ同地

支金庫ハ既ニ鎮海ニ移シ釜山商

業銀行ヲシテ之ヲ取扱能ク居ルヲ以

テ朝鮮銀行、強テ馬山ニ店舗ヲ存置スル  
 必要モナク、每期損失ヲ重タルニ依リ、若シ事  
 情之ヲ許サ、閉鎖シタキ希望モ有ル位ニ  
 テ到底馬山ニ新銀行設立シ、餘地有ラサル  
 ヘシトノ意味ヲ申シ聞セタリ、鮮銀總裁  
 他店ニ於テ希望スルナラハ、同地自行ノ營業  
 ハ之ヲ讓渡スルモ差支ナシトノ旨返答セシ由  
 ナリ、尚同地鮮銀支店ノ閉鎖ニ付テハ、地方ニ重  
 大ノ關係ヲ有シ、輕々断定シ難キヲ以テ、目下  
 何等進行シタル處ナシ。右總督、具申セラレタシ

名称	<del>加藤高明</del> 寺内正毅文書
標題	<del>加藤高明</del> 勅選議員=15724件

分類	
番号	439
号	5-7 30

国立国会図書館

登録番号	
------	--



勅選議自國元件

第七號

(主管)

電

受

總督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

大正五年二月二十九日午前

九時三十分 新橋 主成 發

總督

山縣

第 暗号號 至急

過日首相ニ面會ノ節閣下ヨリ

御命ジノ勅選議員候補ニ付朝鮮

ヨリ一名班用アリタキ旨依頼タル処

目下缺員四名アレトモ何モ既ニ決

定シ居リト申サレシニ付然モ今後缺

員ヲ生シタル所

カチニコ 願タレト迫リ

タルニ首相ハ考ヘ置ケベシト答ヘラレタリ  
今ヤ一名ノ缺員ヲ生ゼントスル模様アルニ依リ  
此際閣下ヨリ特ニ人名ヲ示シ首相ハ御依  
頼ノ電報アラセラル、方好都合ト存ス

(主管)

電

受

大正五年三月一

日午後四時

五四分 新稿

着 發

總 督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

總督

見玉

第 暗号 號

政務總監、命、依り昨日大隈首相、面會勅選議員八件、新缺員ヲ生シタルニ依リ是非朝野總督推選ノ人ヲ任用セラルキ旨申出タルニ首相ハ富田ハ後任ハ宛ラルコトハハ敷カニキモ近々更ニ缺員

才生スルヤ毛測ニスル（田邊輝實）其  
任ナレハ或ハ任用シ得ルヤニ思ハル  
旨曖昧ナル返事アリタリ政務総監考  
ニテハ此際前電ノ通其ハ人ヲ指名シ依  
頼ノ電報ヲ発セシテ急ニ都台ニ送リ  
忤意見ナリ右命依テ申進ム人等自

(主管)

電

送

大正五年三月二日午前十時

分發

總督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

現玉局長

總督

第暗号號

勅選議員、件、国、政務總監及貴官、  
來電了義、右、件、ハ、電信、ハ、充分、意、  
ヲ、尽、ス、ヲ、得、ル、依、リ、書、面、ヲ、大、限、首、相、ハ、  
申、入、ル、コ、ト、ニ、致、ス、ハ、キ、モ、當、不、ス、ハ、永、ク、朝、鮮、  
行政、ニ、功、力、ス、ル、秘、中、ニ、就、キ、在、官、者、  
申、上、リ、採、用、ヲ、望、ム、次、第、ニ、即、チ、才、一、

行

石塚長官次荒井長官、順序ニ推選ス  
コトニ致シ、石塚ハ統監府創立以來在勤シ  
龍中旧韓国警察權委任・談判・任當リ  
荒井ハ統監政治創設前、韓国財政・衛生  
當リヲ續キ、今日ニ及ヘルモノニシテ、其ハ功績  
顯著ナルヲナリ、龍ハ右関シ、貴族院政務總  
監、意見ヲ融合シ、異存ナクハ大隈首相ハ方ノ  
希望ニ不取敢申入置カレタシ、若シ政府急監府ヲ  
別ニ意見ヲ云々其ハ旨迄電セラレタシ

(主管)

電

送

大正五年三月二日午

時

分發

總督

秦  
政務總監

總務局長

秘書官

主任

見玉局長

總督

第 號

勅選議員件同志政務總監及貴官

奉電了業右件之電信之充分事

意之尽之得之依何由書面

方限首相へ申入之積之有方

推選之有之有之有之有之有之

先が旧業案制を以て所素在致



シ之ヲ料理スルニ引張リ合ヒ廷臣等  
其石塚長友次ニ轉書シ以テ引張リ改  
任ス有テ葉井長友ノ順序ニ推遷ス  
ト、改メシ戦ニ右ニ因シ貴友ヲ改務総監  
ノ意見シ集合シ河事要存ナハ大隈  
首相ノ前活者方ノ命力ヲ下ル敢  
申ノ置カレシモ君ニ改務総監ニ於テ割レ由  
考アラハ世ノ旨也電アリタシ

石塚長友  
葉井長友  
河事要存  
大隈首相  
改務総監  
引張リ改  
任ス有テ  
葉井長友  
ノ順序ニ  
推遷ス  
ト、改メ  
シ戦ニ右  
ニ因シ貴  
友ヲ改務  
総監  
ノ意見シ  
集合シ河  
事要存ナ  
ハ大隈  
首相ノ前  
活者方ノ  
命力ヲ下  
ル敢  
申ノ置カ  
レシモ君  
ニ改務総  
監ニ於テ  
割レ由  
考アラハ  
世ノ旨也  
電アリタ  
シ

三三三

初啓陳君新交交  
檢閱之本日劉  
通在支公使  
照了之電報  
右，次牙之  
電報  
會這為  
法部  
中

身一元

身

心居外福本

古内紅輝絕智殿

名 称	寺 内 正 毅 文 書
標 題	大正五 年五月 寺内総智南群三道巡視誌

分 類	
番 号	439
号	31

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

大正五  
年五月

寺内總督南鮮三道巡視誌

# 寺内總督南鮮巡視誌



寺内總督ハ客秋共進會開催以降御即位大禮盛儀  
ニ參列シ歸任後席未タ温カナルニ遑アラスシテ更ニ露國  
太公殿下接伴役ヲ命セラレ東奔西馳匆忙間ニ早ク已ニ九春  
ヲ送り續テ道長官會議、第一部長會議、憲警務  
部長會議等アリテ地方巡視ノ餘暇ナカリシガ初夏ニ入り  
數日ノ閑ヲ得テ先ツ京畿、忠清南北、慶尙北道ノ一部ヲ  
巡視シ始政五年間ノ實績如何ヲ觀察セント欲シ大正五  
年五月十日京城ヲ發シ永登浦、始興、水原、利川、長湖  
院ヲ經テ忠州ニ泊シ十一日延豐、聞慶、尙州、金泉ヲ

經テ大邱ニ到リ十二日汽車ニテ笑江ニ出テ外川陽村ヲ  
 經テ清州ニ入リ十三日鳥致院ヲ經テ公州ニ一泊シ十四日  
 小丹里ヲ經テ歸府セラル行程約二百里、自働車ヲ馳  
 スルモノ二百餘里汽車ニ駕スルモノ二百餘哩、夙起暮泊  
 其ノ間一刻ノ寧處無シ、巡視四日天晴レ風穏カニ車行  
 頗ル輕快ナリシモ第五日ニ到リ空曇リ風涼シク午下小  
 雨アリ然レトモ雨量僅少ニシテ路塵ヲ洗フノ程度ニ過  
 キカリシハ寧ロ僥倖ナリト謂フヘシ、督轅ニ隨行セシハ宇佐  
 義内務部長官、古海警務總長、森海軍武官、大藤  
 副官、藤波通譯官、齋藤憲兵中尉、田中試補、黒

田囑託、高橋属、秋山憲兵軍曹及關野永野ニ從者ニシテ白水軍參謀長ト岡田總督府技師ト、鳥致院清州ヲ經テ忠州ヨリ隨行シ中嶋京城日報記者亦同徑路ヲ經テ來リ會シ村瀨從者ハ一日後レテ大邱ニ先着ス而シテ岡田技師ハ煙草產地忠州大邱ノ專賣課出張所ニ關スル東道主人トシテ隨從セシニ依リ大邱ヨリ一行ニ別レテ歸府セリ

第一日(五月十日晴天)水曜日

午前七時三十分一行南大門驛ヨリ臨時汽車ニテ南下シ同四十五分永登浦ニ下車ス松永道長官隈部警務部長



八京畿道管内巡視中隨行シテ案内ノ勞ミ服ス永登浦  
 ミ下車スレハ始興郡守洪鍾國以下郡衙職負地方有力者公  
 立普通學校並小學校職負生徒在郷軍人等驛前ニ整列  
 シテ敬意ヲ表シ總督ハ一々慰懃ミ挨拶アリテ午前八時十  
 分自動車ニ駕シ三車相前後シテ永登浦ヲ出テ洪郡守ハ郡  
 内通過ノ間隨行ス始興ヲ過キ三聖山ヲ尤ミ視テ安養  
 ミ到レハ驛長以下官民十餘名整列シテ迎ヘ休憩所ヲ設ケテ  
 麥酒ヲ準備ス總督車上ヨリ挨拶アリテ直ニ南行シ軍浦場  
 北方ニテ鐵道線路ヲ横キリ日荆面ミ到レハ面長以下四十餘  
 名耆老整列シテ<sup>恭</sup>迎ス是ヨリ路傍ノ松林翠ヲ積ミ幽景

車カ如ク水原ノ長安門其ノ間ニ隱見ス、應テ長安門外ニ  
進メハ步兵第七十九聯隊ノ一中隊ヲ始メシテ農林學校、公立普  
通學校、小學校、在郷軍人等ノ團隊、勸業模範場、慈  
惠醫院、郡廳、警察署、郵便局等ノ職負、道郡參事其  
ノ他地方官民一千餘名整列シテ禮容恭シ、時ニ午前九時十  
五分ナリ、總督下車シテ列前ヲ徐步シ答禮亦慇懃ナリ、再  
ビ上車シテ城内ヲ通過シ邑山面ヲ過クレハ面長以下面職負  
公立普通學校(龍仁)生徒等路傍ニ整列禮迎ス、水餘面ヲ  
過クレハ東拓會社ノ移民七名路傍ニ迎送ス、總督車ヲ停メ  
テ其ノ狀況ヲ諮問シ獎勵、辭ヲ與ヘラル、金良場ニ至レハ龍

仁郡守朱榮煥、水餘面長以下公吏耆老、法院出張所職負、  
公立普通學校生徒等路傍ニ迎送ス、陽智面ハ旧郡廳ノ所  
在地ニシテ公立普通學校職負生徒百十餘名、簡易農業  
學校生徒二十三名ノ送迎スルアリ、是ヨリ道路山峽ニ入ル峽中  
一字ノ白木家屋アリ宋秉峻ノ別墅ニシテ養蠶蠶場ナリト云フ、  
峽ヲ過キテ溪谷稍開ク所ヲ利川牛里邑トナス、私立進成學  
校、同冠東學校等ノ教負生徒七十餘名路傍ニ整列ス、總  
督車上ヨリ勸奨ノ訓示アリ、午前十一時十五分利川ニ入ル、  
利川邑ハ南、長湖院ヲ經テ忠州ニ到リ東、驪州ヲ經テ原  
州ニ到リ北、廣州ヲ經テ京城ニ達スル四通ノ要地ニシテ人煙

稠密內地人、居住スルモノ九十戸ヲ算スト云フ利川郡守関元  
植驥州憲兵分隊長福田<sup>中</sup>尉一行ヲ導キテ郡廳ニ到ル路  
傍出迎スルモノ多田大尉、歩兵第七十九聯隊第八中隊ヲ始メシテ  
公立普通學校生徒二百十名公立小學校生徒十六名私立特  
新學校生徒三十八名同養育女學校生徒五十名、及在郷  
軍人二十四名、團體、郵便局、法院出張所、金融組合、邑内  
面等、官公吏、兩班儒生其、他在住內地人等、ニシテ鮮人李  
鼎壽<sup>ナム・ソ</sup>、邑民ヲ代表シテ頌德表ヲ呈ス、郡廳ニ於テ、郡  
守以下各職員、郡參事李容淳、驥州憲兵分隊長、守備中  
隊將校、在郷軍人分會長、金融組合理事其、他地方有力者

報告ヲ聴キ

事 無 終 本 月

ヲ引見シテ夫々訓示ヲ與ヘラル、各報告ヲ綜合スレハ其ノ大要  
尤ノ如シ

郡守報告 利川郡ハ戸數約八千人、口五萬ニシテ内地  
人九十戸三百人ヲ算ス、恩賜授産事業ハ主トシテ養蠶  
ヲ獎勵ス

中隊長報告 中隊ハ先月二十九日此地ニ到着シ在營日  
尙淺キヲ以テ別ニ報告スヘキ事件ナキモ内務衛生等一  
般ニ良好ナリ

金融組合理事報告 組合員ハ目下五百十名ニ達シ資  
金ハ一万五千円ヲ算シ逐年好況ニ向ヒ居レリ

總督ハ一々剴切ニ訓示ヲ與ヘラレタルモ中ニ就テ郡廳職負  
ニ與ヘラレタル一例ヲ摘記スレハ尤ノ如シ

予、此地ニ來リシハ之ヲ以テ始メトス各職負ハ道長官ヨリ示  
サレタル方針ニ遵ヒ各自ノ意見ヲ挾マス一意法規ヲ守リ  
事務ノ統一ヲ圖ルヘシ

接見訓示終リテ郡廳ヲ出ツレハ松永長官ハ郡守ノ希望ヲ  
總督ニ稟申シテ邑ノ公園ニ植樹アレムコトヲ請フ總督之ヲ  
容レテ邑南ノ安興堤畔ニ車ヲ駐メ橋ヲ渡リテ嶋中ニ稚櫻  
ヲ植樹セラル、池ハ廣素約一町步中央ニ小嶋アリ風光稍佳ナリ  
ト雖樹木未タ茂ラス公園トシテハ殆ント見ルヘキモノナシ

正午池畔ヲ去リ行々大平洞ヲ過クレハ土地調査局出張所負  
數名路傍ニ迎送ス午後零時四十分一行長湖院ニ到レハ  
忠清北道長官柳赫魯同道警務部長櫻井中佐陰城  
郡守鄭丙鉉等郊外ニ出迎ス蓋シ村端ノ河流以南ハ忠北  
陰城郡ニ屬スルヲ以テナリ清溪面長以下里中ノ重ナル鮮人  
在住内地人公立小學校職負生徒(十二名)陰竹<sup>私立</sup>普通<sup>鮮人</sup>學校  
生徒等路傍ニ整列シテ迎フ一行車ヲ下リテ學校ニ到リ  
午餐ヲ喫ス午下松永長官隈部大佐等ニ一行ヲ送ル  
後自働車ニ駕シ北歸シ柳長官櫻井中佐ハ總督自  
動車ニ驂乘シテ南行ス

旺陽ヲ經テ甘谷面事務所前ヲ過キ龍院ニ至レハ私立通  
明學校ノ職負生徒百二十餘名路傍ニ迎送ス更ニ大召  
院ヲ過キテ龍頭ニ到レハ達川江ノ渡船場アリ一行此處ニ  
下車シテ彼岸ニ達ス彼岸ニハ齋藤第一部長岡田技  
師湊判事、忠州郡守徐晦輔、忠州憲兵分隊長有馬大  
尉等出迎ス各自動車ノ渡船終ルヲ旗テ直ニ邑内ニ入ル  
路傍迎フルモノ歩兵第七十九聯隊第三大隊長大海少佐、  
同第十一中隊長山縣大尉ノ中隊ヲ始メトシテ郡衙、法院支廳、  
郵便局、憲兵分隊、邑内面等各職負在郷軍人々會負  
公立普通學校及簡易農業學校職負生徒（百八十八名）公立



小學校職負生徒(七十一名)專賣課出張所負及兩班儒  
生地方有力者愛國婦人會負等ヨリ總督ハ一々答禮シ  
テ列前ヲ過ギ廳テ郡廳ニ到レ白水軍參謀長モ亦來  
リ會シ慶尙北道ヨリハ鈴木長官服部警務部長出テ  
迎フ午後三時三十分ヨリ約三十分間地方官民ヲ接見セラ  
ル各部主幹者ノ報告及總督ノ訓示ハ大要尤ノ如シ  
軍隊<sup>特校</sup>對スル訓示 當地守備ノ中隊ハ大隊長ノ報  
告ニ據リテ第五師團山口聯隊ヨリ簡派セラレタル由今  
年以降朝鮮ニ二個師團ヲ常設セラレ當隊ハ即チ  
當初ノ衛戍ニ就クモノナレハ總テノ進退動作後世ノ模

範タラサル可ラス能ク注意ヲ加ヘテ教育ヲ施シ軍紀風紀ヲ振肅ニスヘシ

徐郡守ノ報告 當郡ハ戶數一万八千人ロ八萬五千餘内地人モ二百五十戸八百人ヲ算シ一同新政ノ下ニ安堵シテ殖産興業ニ勉メ殊ニ共進會觀覽以降民風一般ニ勤儉力行ニ傾キ復タ游惰徒食ノ弊ナシ近年ハ重石熟熾ニシテ當郡ハ其ノ中心トナリ市況頗ル活氣ヲ加ヘテ貧困者大ニ減少セリ

郡廳職員ニ對スル訓示 各職員ハ能ク道長官指示ノ方針ニ遵ヒ郡守ノ命令ニ服シ上下心ヲ協セテ郡

務、精勵スヘシ前道長官ハ思慮緻密ニシテ萬  
事ニ注意行届キタリ新長官ハ就任日淺ク未タ管  
内ヲ巡廻スルノ餘暇ナシ斯ル際ハ人心緩ミ紀綱廢  
シ易キヲ通弊トス然トモ一道ノ政治ハ人ヲ換フル毎  
變更スルモノ非ス各職負ハ始終渝ルコト無ク前方  
針ニ遵據シテ精勤スヘシ

一般有志ニ對スル訓示 予ノ忠州ニ來リシハ始メテ  
シテ初面會ノ人々モアルヘシ諸子ハ内鮮人ノ區別十  
ク渾然融和シテ共ニ道ノ方針ニ遵ヒ殖産興業ニ  
努力シ聞ク當地ニハ山口縣人多ク別ニ一團ヲナセル

カ如シ然レモ爰ニ來住スルモノハ府縣ノ區別ヲナスノ要ナ  
ク等シク皆同胞ナリ相俱ニ協力同心シ以テ朝鮮人ヲ  
指導スヘシ

漢湖農工銀行支店主任ノ報告 當支店現在ノ貸出ハ十  
四萬餘圓預金七萬八千餘圓ナリ忠州ハ煙草產地ナルカ故  
ニ貸出額ノ大部分ハ是等業主ニ貸出シタルモノナリ其ノ  
金額ハ時ニ消長アルモ五萬圓内外ニシテ多キ時ハ八萬  
圓ニ上ルコトアリ

公立普通學校長ノ報告 忠州邑ノ鮮人ハ約千五百戸  
ニシテ在學學生ハ百八十名ニ達シ女子ハ十名アリテ今年始メテ

入學セリ將來益々勸誘就學セシムル方針ナリ手エトシ  
テ農業ニ重キヲ重キ簡易農業學校ニテハ煙草  
栽培ヲナシ本年ハ乾燥場ヲモ設クル計畫ナリ  
公立小學校長報告 邑内内地人ハ三百二十戸ヲ算シ  
在學生ハ七十名ニ上リ職負ハ三名ナリ

導  
就テ地方有力者ヲ引見シタル後衛成病院、地方法院支廳  
憲兵分隊、面事務所、兵營ヲ巡視シ最後ニ岡田技師ノ  
案内ニテ總督府專賣課出張所ヲ視察シ樅ノ記念植  
樹アリ各方面ノ報告要旨尤ノ如シ

衛成病院軍醫ノ報告 入院患者ハ目下六名アリ多

概不

十二支腸患者ニシテ當地着營前ヨリ病患アリタルモ  
ノ屬ス經過ハ總テ良好ナリ

湊判事ノ報告ハ官ハ併合當時就任シ爾後引  
續キ在住セリナ判事ハ明治大學ノ出身ニシテ能ク我  
法律ニ通シ國語ヲ解シ院務ニ精勵シ居リ當地ニ  
在住セル辯護士ハ朝鮮人一人アルニシテ其他ハ事件  
アル毎ニ他ヨリ出張シ來ルコトアレトモ事務所ヲ常置  
スルモノ無シ民事ハ近頃漸次減少ノ傾アレトモ刑事ハ  
却テ増加スルノ姿アリ是レ警務機關ノ周到ナルニ伴  
フ犯罪事件ノ増加ヲ証スルモノナリ面長ニ對スル刑事

事件ハ今年入りテ一件アリ

法院支廳ニ於テ總督訓示 刑事々件ノ増加ハ警務  
機關ノ端周到ナルニ依レルモ些少ナル犯罪ニ對シテ漫ニ  
檢舉スルハ却テ懲惡ノ效果ヲ減殺シ煩累ヲ増スノ  
虞アリ殊ニ面長ノ微罪過失ヲ檢舉スルコトハ大ニ考  
慮セサル可ラス警務官ニシテ檢事ノ事務ヲ執ルモノハ  
慎重ノ處置ヲ要ス又支廳職負ハ能ク上長ノ指示ニ  
從ヒ一致シテ廳務ニ精勵スヘシ

憲兵分隊長ノ報告 管内總テ靜肅ニシテ別ニ報告  
スヘキ事ナシ委曲ハ報告書ニ就テ清覽スヲ乞フ但シ

近來水鉛重石熱熾ニシテ忠州其ノ燒点トナリ鑛山  
師ノ出入スルモノ多ク旅店料理店等頗ル繁昌シ市況  
活氣ヲ生シ邑民一般ニ生色アリ之ニ關スル犯罪事件  
ハ特ニ報告スヘキ程ノモノ無シ人民ハ概シテ質樸ナリ忠  
州ハ由來兩班儒生多ク（兩班千五百儒生二百）往時ハ  
如何ハシキ舉動アリシモ昨年少官ノ來任（以前ハ江原道  
ニ在任セリ）以降一般ニ穩健トナレリ分隊ハ總負百三十名ニ  
シテ二分遣所ニ派出所五出張所ニ配置ス

面長ノ報告 面民ハ一般ニ新政ニ悅服シ能ク納税ノ義  
務ヲ盡シ期限マテニ完納シ居レリ内地人ニ對シテハ郡



ノ勸告ヲ得テ収税シ居リ造酒ニ對シテハ自家用ニ一  
圓ヲ課シ居リ

其他歩兵中隊營ニ於テハ炊事場巡視ノ際魚類ノ乏シキ  
依リ鶏卵牛肉ヲ常副食物トスル次第ヲ中隊長ヨリ演述シ

之ニ對シ冬季野菜ヲ貯藏スルノ方法ヲ總督ヨリ注意セラル專  
賣出張所巡視ノ後一行ハ自動車ニ駕シテ邑北里餘ノ勝地

彈琴台ニ到ル台ハ南漢江ノ上游楊津江ニ臨ミテ崖岸所

ルカ如ク丘上ニ城墟アリ是レ壬辰ノ役韓將甲砮ノ籠城セシ所

ナリト云フ彈琴台ノ名ハ傳ヘ言フ往古伽倻ノ樂人此台

上ニ琴テヲ調ヘ以テ新羅ノ~~人~~授クル~~事~~起因スト荒唐ノ

説未タ全ク信スルコト能ハサルモ名ハ忠州ヲ距ルコト近ク展  
望自在ニシテ置酒彈琴テ、好個ノ游園名ナリ遙ニ江岸<sub>流</sub>  
ヲ望メハ暮靄深キ所屹トシテ中央塔ノ峙ツアリ近ク崖下  
ヲ俯瞰スレハ楊津江ハ彎環シテ名ヲ繞リ達川江ヲ合セテ  
北注ス白帆風ヲ孕シテ北ヨリ溯リ舟筏流順<sub>テ</sub>東ヨリ下ル  
宛然一幅ノ好画圖ナリ總督以下暫ク名上ヲ徘徊シテ詩  
歌ヲ詠吟シ白暮忠州ニ歸ル此ノ夜總督ハ湊判事ノ  
官舎、古海總長ハ憲兵分隊長ノ官舎、白水參謀長  
ハ大隊長ノ官舎、其他ハ忠北館清光館ニ分宿セリ

第二日(五月十一日本曜日天晴レ温度高シ)

午前七時總督ハ忠州ノ有力者數名（大地主、慈善家、漢學教師）ヲ旅館ニ招キテ大要ヲ意味ノ訓示アリタリ

諸子ハ忠州ニ於ケル學識アリ名望アリ資カアル先覺者ナリ夙朝各位ノ來訪アリタルハ誠ニ欣幸トスル所ナリ予ハ昨日面晤スル考ナリシモ行違ヒテ其ノ好意ニ背ケリ始メテ此地ニ來リ昨日邑内ヲ巡視セシニ人民一般ニ靜穩ナルハ各位ニ負フ所多キヲ知ル將來一層公共ノ為ニ努力シ施政ノ爲ニ援助シ地主トシテハ小作人ヲ愛撫シ農事ヲ奨メ御ノ長者トシテハ鰥寡孤獨ヲ憫ミ在來ノ義風ヲ助長シ勤儉力行徳化ヲ獎勵シ篤學者

トシテ、學校教育ト並馳シテ孔孟ノ道ヲ教ヘ以テ風  
教ヲ維持セムコトヲ希望ス云々

右接見終ルト同時ニ一行ハ五輛ノ自動車ニ駕シテ忠州ヲ出  
發シ、水回場ヲ經テ水安堡ニ至レハ二名ノ内地人路傍ニ迎送  
ス。此地ニ温泉アリ内地人二名ハ俱ニ温泉宿ヲ營グルモノナリ。暫  
ク車ヲ駐メテ下問アリ、村裡ニ上毛面事務所アリテ面長以下亦  
面見セラル。鮮人戸數四十六戸内地人五戸忠州地方ヨリ入湯  
ノ為メ來宿スルモノ一日平均三四名アリト云フ。大安堡ヲ過キテ  
冷泉ニ到レハ谷漸ク深フシテ山気人ヲ襲フ、道路ハ之ヨリ  
岐レテ左スルモノハ所謂鳥嶺越ノ險ナリ、右シテ新道ヲ進ミ

新豊ヲ過キテ延豊ニ到ル之ヲ道界ノ大邑トナス、憲兵分  
 遣所、面事務所、普通學校（生徒六十三名、職員三名）郵  
 便局等アリテ戸數二百三十餘人、口千百餘名ヲ算シ内地  
 人、雜居スルモノ二十八戸八十五人ニ達ス、面長以下路傍ニ整  
 列シテ迎送シ、總督亦下車シテ一々答禮ス、時、午前八時  
 二十分ナリ、道路ハ是ヨリ羊腸トシテ山腹ヲ盤桓ス、工事  
 今方ニ半バミシテ車行處々艱々數回下車シテ徒歩シ漸  
 ク山頂ニ達ス、之ヲ梨花嶺ト稱シ、忠清北道ト慶尙北道  
 トノ道界ハ此分水嶺ヲ以テス、峠ニシトロシヲ設備シテ一  
 行ノ渴ヲ鑿ス、是レ延豊内地人ノ提供スル所ナリト云フ、柳長

官櫻井中佐等ハ山嶺上ニ告別シテ北歸シ一行ハ急阪ヲ下  
リテ午前九時四十五分聞慶ニ到ル道路茲ニ於テ再ビ  
平坦ナリ在郷軍人二十一名普通學校生徒八十七名(内女子  
九名)小學校生徒十一名其他内鮮人官民等路傍ニ迎送  
ス邑内ニ憲兵分遣所、金融組合事務所、郵便局、面事  
務所等アリテ内地人三十九戸百五十人ヲ算ス、尋デ午前  
十時三十五分咸昌ヲ通過ス此地ハ慶北第一ノ養蠶地  
ナシテ路傍處々新舊桑田ヲ望ム元トノ郡廳所在地ニシテ  
普通學校(生徒百三十二名)小學校(生徒十四名)郵便局  
金融組合事務所等アリ、午前十一時十五分尚州邑外ニ達ス

邑外ニ郡衙職負、法院支廳職負、憲兵分隊、歩兵第三十

九聯隊第九中隊普通學校（生徒二百四名）小學校（生徒

十七名）其他郵便局、面事務所、金融組合事務所、在御

軍人分會、農工銀行支店、養蠶機業傳習所、職負兩

班儒生團一般有志者等整列シテ一行ヲ恭迎シ、大邱

ヨリハ覆審法院長<sup>並</sup>檢事長地方法院長<sup>並</sup>檢事正、金山

ヨリハ湊技師等出迎ス、午餐食尚早キヲ以テ尤折シテ直ニ尚

州金山ニ向フ行程約一里半ニシテ正午事務所ニ到リ一行

茲ニ晝食ス、尚州金山ハ事務所ヲ中心トシテ四方ニ鑛

脈アリ之ヲ綜合スレハ其量一億圓ニ達スト云フ、<sup>此鑛區</sup>最

ハ今ヲ去ルコト二十餘年前鮮人其ノ露頭ヲ發見シテ以  
來試掘出願者續出セシモ總督府ハ之ヲ直營探鑛区  
トシ調査ノ結果尙州郡ノ約三分一即チ二十七方里ヲ  
包擁シテ各所ニ試掘ヲナセリ其ノ鑛脈ハ現在ノ調査ニ  
於テ二百條二十九萬八千尺ニ達シ最モ掘鑛ノ進ミタ  
ルハ東山坑ノ二百八十尺トス探鑛所ハ三個所アリテ各小  
規模ノ試精煉所ヲ假設シテ作業ヲ進メツアリ朝  
鮮ニ於ケル金鑛多シト雖斯ノ如キ大鑛脈ハ過去ニ於  
テ未タ發見セサル所ナリ

總督府農商工部鑛務課カ出張所ヲ此地ニ設ケ



ルハ大正三年六月、シテ湊技師ハ其ノ當<sup>初</sup>ヨリ所長タ  
リ湊所長ハ一行ヲ案内シテ清雅ナル事務所ノ一室ニ案  
内ス室内ニハ四壁、<sup>各</sup>鑛区ノ平面圖、断面圖、合金表  
等ヲ貼付シテ一覽ニ便ナラシメ傍ラニハ鑛石ヲ排列  
シテ一々合金量ヲ明記シ特ニ金ノ附着セル部分ニハ  
朱圈ヲ附シ各人ヲシテ隨意ニ凸面鏡ヲ透シテ之ヲ觀  
ハシム、一行概ネ皆斯業ノ門外漢ナルヲ以テ何レモ奇異ノ  
心ヲ以テ之ヲ觀ヒ種々ノ質問ヲ試ミタリ所長ノ説明ス  
ル所ニ據ルハ金鑛区ノ鑛石ハ既ニ調査セルモノニシテモ二百  
萬噸ニ達ス尤モ合金量ニハ異同アルモ中ニ就テ直取良ナ

ルハ金量十万分ノ七ヲ含ムモノアリ少量ナルモノモ亦百万分ノ三

ヲ含有ス金以外更ニ蒼鉛ヲ包含スト稱セラル、歸路東山

坑ヲ巡視シ直ニ郡廳ニ到ル時午後一時三十分ナリ、其レヨリ守

(即衛職負)

備隊將校、公立普通學校、小學校兩校長、在郷軍人父會長

(公報及新聞記者)

郵便局長、鮮人地方有力者七名、内地人有力者三名、金融組合理

事、農工銀行支店主任、養蠶機業及農業林業技手ヲ

接見シ守備隊、憲兵分隊、法院支廳等ヲ巡視セラル各負

ノ報告及總督ノ訓示ハ大約左ノ如シ

郡廳ニ於テ訓示 各職負ハ能ク道長官ノ指示ニ遵ヒ

一致協力シテ治績ヲ擧クヘシ各自ノ意見ニ任セテ放縱

ナル可ラス

千綿中隊長報告 本中隊長ハ總負百五十六名ニシテ  
當地ニ來リ日猶淺ク別ニ報告スヘキノ事件ナシ詳細ハ  
報告書ニ記載セシヲ以テ嚙覽アリタシ

中隊將校ニ對スル訓示 朝鮮ニ師團ヲ常置セシテ第  
一次ノ衛戍ニ任スル次第ナレハ歴史ノ第一頁ヲ飾ルヘキ名  
譽ノ軍隊ナルヲ自覺シ最モ嚴肅ニ軍紀風紀ヲ  
維持シ後世ノ模範タルヘシ

學校長ヘノ訓示 本年一月教員心得ヲ公示セシヲ  
以テ茲ニ之ヲ再說セサルモ能ク教育ノ方針ニ遵ヒ兒

童ヲ教育シテ實用ニ適スル良民ヲ養成スヘシ

郵便局長ノ報告 本局ノ取扱件數ハ一日平均六七百件

ニシテ一年約四十三万餘件ニ達ス、預金ハ二万六千口九万

六千餘円ニシテ其内朝鮮人ニ屬スル分ハ一万二千口一万

四千餘円ニシテ逐年増加シツ、アリ

地方有力者ヘ訓示 從來姑息ノ弊ヲ蛻脱シ世運發

展ニ伴フテ時世ニ後レサル様一般ノ邑民ヲ指導シ勤

儉力行ノ義風ヲ助長シ奢侈遊惰ヲ戒ムヘシ

金融組合理事ノ報告 組合員ハ現在四百八名ニシテ積

立金六千円貸付額一万餘円ヲ算ス貸付ヲ乞フモノ、

裡ニハ牛ヲ買フト称シテ其ノ資ヲ結婚費ニ流用スルモノアリナルカトノ下問ナレトモ當地ニハ此等ノ弊ナシ併シ將來一層注意シテ其ノ用途ノ確實ナルモノニ對シテ貸付クヘシ

農工銀行支店主任ノ報告 支店ノ貸付現在額ハ四萬圓バカリニシテ本年貸倒レハ五百圓位アリト雖一般ニ

貸借關係ハ良好ナリ

郡行政警察及尚州

憲兵分隊長三雲中尉ノ報告 本分隊ハ尚州及聞慶及

軍事

警察事務ヲ取扱フ分隊員ハ百二十四名ニシテ犯罪

ハ逐年増加ノ傾向アリ

以上ノ報告訓示終ルヤ總督一行ハ自動車ニ駕シテ忠  
州衛成ノ中隊兵營ヲ巡視シ内務班、倉庫、炊事場  
酒保、將校宿舍等ヲ視察セラル兵營ハ旧官衙跡ヲ  
假用スルモノニシテ固ヨリ完全ノモノニ非サルモ邑ノ中央ニアリ  
テ前ハ南樓ト相臨ミ後ミ小丘アリテ全邑中ノ勝地ヲ占ム  
此中隊ノ特色トモ言フベキハ千綿中隊長カ毎朝將士ヲ率  
テ此ノ小丘上ニ登リ遙ミ東都ヲ拜シテ尊皇ノ意ヲ表セ  
シル義舉是ナリ

南樓ハ其ノ階上ヲ商品陳列場トナス尚州ノ名産タル紬  
其他數十點ヲ排列ス總督ハ中隊ヲ出デ、憲兵分

隊、法院文廳ヲ巡視セラレ轉シテ南樓ニ上リ四方ヲ  
展望シテ終日ノ暑ヲ洗ヒ再ヒ尚州紬ニ就テ齋鈴木  
長官等ニ注意セラル所アリ樑上一面ノ額アリ李朝  
ノ牧使西坡吳一貫ノ七律ヲ刻ス

### 南樓

碧樹沈々夜色昏

郡城吹角閉重門

金釵舊興年來減

玉塵豪談醉後喧

峰缺快呈新月影

樓高先白一秋痕

紗籠絳燭頻堆跋

促展詩牋寫七言

法院文廳ニ於テ川嶋判事ノ口頭報告ハ尤ノ如シ

川嶋判事ノ報告 支廳取扱ノ事件ハ逐年増加ス

民事ノ増加ハ登記ノ始マリタルカ爲ナリ

武昌及尚州ハ古ヨリ養蠶機織行ハレ尚州紬ノ名夙ニ高シ然  
レトモ實際ハ武昌ノ蠶絲却テ尚州ヲ凌駕ス總督ハ尚州紬  
ノ名譽ヲ存續セシムルニ意アリ特ニ養蠶技手機業技手其ノ  
他農業林業ノ技手地方實業家ヲ招テ質問シ訓誨スル所  
アリタリ一問一答悉ク縷記スルコト能ハサルモ其ノ答申セシ要領  
ハ左ノ如シ

養蠶 本年桑苗ハ三十四萬本ヲ各面ニ分配シ植樹セ  
シタリ(恩賜授産場ニ本年配付セス)繭ハ一石平均二十六円



賣買セラレ三分ノ二ハ内地へ搬出シ三分ノ一ハ自家用トシテ  
 機織セリ蠶繭ノ産額昨年ハ三千石ニ達シ其ノ内ニハ  
 在來桑ヲ以テ飼養セシモノト内地桑種ヲ以テセシモノ  
 ノ二様アリ機業ハ昨年一万疋ヲ機織セリ平均一疋ノ價  
 五圓ナリ機業ノ統一策トシテ梭ヲ一定シテ齊一ヲ圖  
 リ居レリ梭ハ在來ノモノ不良ナルニ依リ内地製ヲ採用シツ  
 リ農業ハ水田一萬一千町歩ニシテ改良種ヲ播種セルモノ  
 本年度ニ於テ四千町歩ニ達スヘキ見込ナリ林業ハ八萬  
 町歩ノ内二萬町歩ハ荒蕪シ成林地ハ一萬町歩ナリ官有地  
 拂下出願ハ昨年四千件ヲ算ス稚苗ハ本年十六万本ヲ

付セリ畜産ハ經驗尚淺キモ繁殖ノ趨勢、在リ牛ノ死亡

ハ<sup>本</sup>昨年三十五頭ヲ算ス綿作ハ昨年四町歩、過キサリシモノ

本年八百二十四町歩ヲ作付セリ云々

午後四時尚州ヲ發シ玉山洞ヲ經テ五時五十分金泉驛、

達ス途中第一第三ノ自動車故障アリテ行走稍遲緩セリ

是ヨリ臨時汽車ニテ大邱ニ向フ若木倭館等學校生徒ノ

停車場ニ整列禮迎セルヲ見ル車上慇懃ニ挨拶アリテ午

後七時大邱ニ安着ス出迎スルモノ文武官内鮮人數千名ヲ

算シ路傍堵ヲ築クモノ數町、總督ハ道長官々舎、

其ノ他ハ唯家族旅館ニ投宿ス

第三日(五月十二日金曜日晴天)

午前七時三十分総督以下道廳、到ル、鈴木長官先ツ  
報告書ヲ提出シ簡短ニ報告スル所アリ、蓋長官更  
迭後日猶淺ク別ニ口演スルノ新事件ナケハナリ、尋テ高  
等官五名ヲ接見シテ、訓示アリタリ

朝鮮ノ施設經營ハ共進會ヲ以テ一段落トシ  
新紀元ニ入ルニ際シ、茲ニ其ノ治績ヲ實査スル爲メ  
南鮮巡視ノ途ニ就ケリ、新ニ長官ノ更迭アリタルモ本  
府ノ方針ハ以前ト異ルコト無シ、各位ハ前方針ニ據  
リ長官ノ命令ニ遵ヒ忠君愛國ノ至誠ヲ以テ事務

精勵シ部下ヲ督勵シテ其ノ治ヲ圖ルヘシ、予ハ四  
年前當地ヲ巡視セシカ草創ノ際百事未タ齊整  
セサリシモ今日來リ視レハ大邱一帶大ニ發展セリ、猶一  
層奮勵シテ統一的ニ事務ヲ處理シ同心協力シテ  
其職ヲ盡クスヘシ

尋テ道廳判任官ヲ接見シ單簡ニ上官ノ指示ニ遵ヒ  
勉勵スヘシトノ訓示アリ、引續キ西後審法院及地方法院ノ  
各高等<sup>官</sup>ヲ接<sup>見</sup>シタノ訓示ヲ與ヘラル

久シ振リミテ各位ニ面晤<sup>スル</sup>事ヲ得タリ、裁判所ノ事  
ハ法規ノ存スル所アリテ今猶<sup>更</sup>歎々スルノ要ナキモ他ノ官

廳ト気脈ヲ通シ相輯睦シテ圓滿ニ事務ヲ運バ

レムコトヲ希望ス

黒川檢事長一同ニ代リテ答辭ヲ陳ベ、更ニ軍隊將校ヲ  
接見セラル、第四十旅團長白井少將ハ軍隊檢閲ノ爲メ南  
鮮地方巡視中ナルニ依リ步兵第八十聯隊長安原大佐ヲ右  
翼トシテ各將校整列ス總督ハ今回朝鮮ニ師團ヲ常置  
セシ諸君ハ第一回ノ衛戍ニ任シ範ヲ不汚ニ示スノ人々ナルハ名  
譽ヲ重シシ責任ヲ自覺シ隊務ニ勉勵スヘシト戒飭シ  
尋テ憲兵將校警視警部慈惠醫院各高等官ヲ  
接見シタル後竹崎大邱府尹以下府廳事有力者等ニ對

シ大要ヲ訓示アリタリ

各位内ニ相識ノ人アリ初見ノ人モアラム予ハ四年前當  
地ヲ巡視シ今亦來邱セシ、百事著シク面目ヲ改メタ  
ル予ノ満足スル所ナリ今回軍隊ノ衛戍地トナリタルニ就テ  
ハ市民熱心ノ運動否寧ロ運動過キタル感アリシカ  
今日ハ既ニ其ノ目的ヲ達シタル譯ナリ勿論軍隊ノ常設  
ハ大邱繁榮ヲ添フルノ一助タルヘシト雖陸軍ニ於テハ  
國防ノ爲メ設置シタル次第ニシテ大邱繁榮策ニ爲  
メ目的ニ非ズ故ニ各位カ多大ノ希望ヲ有シ軍隊ニ依  
リテ利益ヲ得ント欲スルハ望蜀ノ望ミト謂フヘシ市民ノ

先覺者タル各位ハ能ク個中ノ消息ヲ解シテ一般<sup>市民</sup>ヲ  
指導スヘシ、要スルニ大邱ノ發展策ハ全カラ傾注シ  
テ商工業ヲ盛ナラシムルニ在リ、之カ爲ニハ内鮮人渾  
然相融和シテ互ニ利益ヲ保護スルヲ以テ得策トス  
是レ獨リ寺内一人ノ私言ニヤラスシテ先帝ノ詔勅炳  
トシテ日星ノ如ク予ハ其ノ聖旨ヲ遵奉シテ茲ニ各  
位ニ告クル所以ナリ云々

次ニ在御軍人分會長典獄監獄醫各郡守鐵道保線  
長<sup>業</sup>農學校職員孤兒院主等ヲ接見シ午前八時十五分  
ヨリ道廳各室ヲ巡視シテ事務取扱ノ實狀ヲ点檢シ其

レヨリ警務部憲兵隊ヲ巡視セラル、服部大佐ハ先ツ報  
告書ヲ呈シテ單簡ニ道内警務ノ情態ヲ口演シ盜賊  
及豺ノ被害ニ就テハ圖面ヲ披キテ一覽ニ供<sup>ス</sup>行ハ、更ニ慈惠監  
院高等普通學校ヲ巡視セラル大邱高等普通學校  
ハ朝鮮舊官衙ノ建物ヲ利用シ既ニ高橋校長等三名ノ職  
負ヲ擇定シ生徒ヲ募リ略其ノ成立ヲ告グルモ官制上ノ手  
續未タ其ノ運ニ至ラサルヲ以テ職負生徒ハ總督ヲ校庭ニ  
出迎シタルノミニテ授業ヲ開始セス高橋校長ニ對シテ其ノ  
計畫教育方針等ヲ下問シタル後其ノ誤見ヲ指摘シ諄々ト  
シテ訓誨セラル蓋シ同校長ハ<sup>地</sup>普通學校<sup>ハ</sup>教育者トシテ經驗未タ深



カラサレバナリ、尋テ學務委員及朝鮮人土豪ヲ接見シ一  
場ノ訓示ヲ與ヘラレタリ

今回當地ニ高等普通學校ヲ設置スル事トシ官  
制上ノ手續ニ於テ未タ運バサル所<sup>ルガ</sup>爲ニ開校スルニ  
到ラスト雖近ク之ヲ公認スル事トナルヘシ、由來朝鮮ニハ  
孔孟ノ學アリテ四書五經ヲ授ケ德育ニ努メタルモ儒  
學ノ士漸ク其ノ大本ヲ誤リテ校業ニ走り、極端ナル朱  
子學派ハ終ニ空論ヲ事トシテ實行ヲ忘レ以テ國家  
ノ衰頹ヲ招致セリ、現世紀ニ於テハ國民ノ生活上獨リ  
德育ヲ將スルノミナラス智育體育ヲモ併用シ國家ニ

忠良ナル實用ノ國民ヲ養成セサル可ラス是レ公立普  
通學校ヲ各府郡ニ設置シタル所以ナリ然レトモ公立  
普通學校ハ唯簡易ナル普通教育ヲ授ル所ニシテ  
更ニ進ミテ學科ヲ修メトスルモノヲ收容スルカ爲メ漸次  
高等普通學校ヲ各道ニ設置セムトス之ヲ卒業ス  
ル茲ニ始メテ世間ニ立チテ獨立自營ノ能力ヲ有スル國  
民タルヲ得ベシ凡ソ一國ノ富ハ國民ノ富力如何ニ在リ國  
民能ク勤儉力行以テ實業ニ從事セハ國富自カラ  
増進スベシ各位ノ内ニハ實業家モ有ルヘク篤學子者モ  
アルベシ希クハ旧時代ニ於ケル空論ニ衣食セシ積弊ヲ

革ノテ實踐躬行ヲ重ンジ、子弟ノ教育ハ單ニ學校

ノミニ任セズ、學校ト家庭ト相一致シテ子弟ヲ善道ナシ

以テ國民教育ノ好果ヲ期待スヘシ、今春一月施政ノ

方針ニ関スル諭告<sup>告</sup>ヲナシ又教員心得ヲ訓示セリ、此事

ハ獨リ官吏教員ノミナラス一般人民モ亦之ヲ知悉シ以

テ其ノ道途ヲ定メサル可ラス、抑モ教育ノ方針ハ明カニ

教育勅語ニ示サレ各人ノ恣ニ變更スルヲ許サス、世間

往々校規ヲ設ケ宣誓文ヲ定メ生徒ヲシテ其ノ型ニ

據ラシムトスルモノアリ、敕語ヲ攔テ他ニ校規宣誓文ノ

アルベキ筈ナシ、此點ハ誤解ナキ様注意セサル可ラス、各

位ハ一郷ノ先覺者タルカ故ニ諸般ノ事一ニ道長官ノ  
指示ニ遵ヒ率先躬行以テ邑民ヲ指導セラレム  
コトヲ希望ス

于時午前十時ナリ其レヨリ大邱府廳ニ到リテ職負一同ヲ  
接見セタル府廳ハ其ノ構造宏壯ニシテ一市ノ義觀タリ職負  
亦多クシテ裡ニ水道係八名ヲ包含ス大邱ノ水道ハ工事ノ進  
捗六分ニ達シ遠カラズ給水スルヲ得ヘシト云フ各職負ニ對  
シテ能ク道長官ノ指示ニ從ヒ服從シ事務ノ統一ヲ圖リ職  
務ニ勉勵スヘシト訓示セラル次デ兵營呂林業苗圃專  
賣課出張所恩賜授産蠶業傳習所ヲ巡視セラル大邱

ハ朝鮮蠶業ノ中心地ニシテ傳習所職負ハ七名ヲ算シ專  
養ラ蠶法ヲ傳授シ居レリ、右終リテ高等女學校、到リ校  
 長ニ對シテ諄々女子教育ノ方針ヲ訓示シ時風ヲ趨テ  
 奢華ニ流ルノ弊ヲ嚴禁スヘシト諭サル監獄農業  
 學校ヲ巡視シテ法院、到リ覆審地方兩法院、各高等  
 官、接見シ中山法院長黒川檢事長ノ報告ヲ聽キ(刑  
 事ハ秩序的ニ増加シ民事ハ増減一定セズ)尋テ各判任官ヲ  
 接見シ單簡ナル挨拶ト訓示トヲ共ヘラル時既ニ正午ニ及  
 ビシヲ以テ其他ノ視察ヲ宇佐義長官ニ命シ法院各室  
 ヲ點檢シテ茲ニ視察ヲ終リ各高等官大邱有力家ヲ道

廳ニ招キテ午餐ノ宴アリ。總督ノ挨拶、道長官ノ答  
辭アリテ主客四十餘名歡ヲ盡シテ談笑シ時ニ地方有  
力家ニ對シテハ一々談話ヲ交換シ孰レモ満足シテ退廳セ  
リ。午後二時十分道廳ヲ辭シ多數ノ見送人ニ目送セラレテ  
臨時列車ニ搭乗シ大邱ヲ後ロシテ北行ス同衆シテ見送  
ルモノ其ノ多クハ金烏山ニ下車シテ告別シ、鈴木長官服部  
警務部長黒川檢事長ハ道界タル秋風嶺マテ隨行  
ス聞ク此ノ夕黒川檢事長ハ南行列車ニ搭乗中客貨車  
聯結ノ振盪激烈ナリシ爲メ不幸肋部ヲ打テ負傷セリ  
ト云、柙道長官櫻井警務部長ハ秋風嶺ヨリ同行シ

齊藤忠南警務部長ハ大田驛ニ出迎シテ隨行同車  
ス、永同、沃川、伊院、大田等ノ各驛官民及學校生徒  
ノ迎送スルモノ多シ、就中大田ニテハ軍隊及軍人分會員等  
整列シテ禮意ヲ表シタルニ對シ、下車シテ列前ヲ歩シ一  
々慇懃ニ挨拶セラレタリ、午後六時二十五分、英江驛ニ  
到レバ清州郡守申昌休、英江面長、英江小學校職員生  
徒及在住内地人村越某以下有志者驛内ニ出迎ス、英江ハ  
清州ニ到ル道路ニ當リ兼テ錦江ノ碇船場ナルヲ以テ近者  
非常ノ速カラテ發展シテ今ヤ朝鮮人三百餘戸千六百餘  
人、内地人百六戸三百七十七人ヲ算シ、憲兵分遣所郵便所等アリ

川村越某ハ内地人居住ノ草分ミシテ笑江發展ニ貢獻スル  
所多シト云フ一行ハ茲ニ五輛ノ自動車ニ分乗シ外川、尺山  
陽村（南ニ面事務所アリ）華興ヲ經テ無心川ノ橋畔ニ至  
ト清州邑内ノ官民舉テ路傍ニ出迎ス一行徐行シテ  
列前ヲ過キ總督ノ道長官々郎ニ入ルノ後清州館明  
治館ニ分宿ス、曩ニ大正二年五月總督ノ清州ヲ巡視セ  
シ當時ニ於テハ水道ナク電燈ナク茅屋軒ヲ列ネタリシモノ  
今ハ殆ント其ノ面目ヲ一新シテ邑ノ公園タル唐蔑山ノ翠色  
亦大ニ色ヲ増セリ

第四日（五月十三日晴天土曜日）



三十分統督以下道廳、到リ先ツ應接室ニテ

午前七時、清州府外國人共ニ米國宣教

師等三名醫師一名、面晤ス、内二名ハ先年面識アル人々ニシテ、爾後ノ消

息ニ就テ問答セリ、何レモ皆總督政治ニ對シテ異存ナキヲ

語り、道廳ノ指導ヲ懇切ナルヲ感謝ス、次ニ愛國婦人會

員次、兩班儒生ノ重ナルモノ七名ヲ接見シテ、尤ノ訓示ヲ

與ヘレリ

早朝出廳セラレタルハ深ク予ノ欣幸トスル所ナリ、各位ハ一

道一郷ノ先覺者ニシテ常ニ道長官ノ施政ヲ羽翼ケテ一

般人民ヲ指導シ誘掖セラレ其ノ効勞甚シトナサス將來

相変ラス公事ニ盡カシ地方ノ發展ニ資セラムコトヲ

希望ス施政方針ニ就テハ本年一月諭告シ置キタレ  
バ各位ハ既ニ承知セテタルベシ先覺者タル人々ハ努  
メテ其ノ方針ニ遵ヒ一般鮮人ヲ指導誘掖アリタシ児  
童ハ學校ニ於テ行儀作法ヲ習フモ家ニ歸ルベシヲ行  
ハズ學校ト家庭ト其ノ教育ヲ異ニスルハ子弟ヲ善導守  
スル所以ノ道ニアラス宜シク相一致シテ德育ヲ施シ實  
用ノ良民タラシムヘシ由來朝鮮ニ於テ行ハル儒學ハ  
孔孟ノ教ニシテ五常ヲ叙シ忠孝ヲ説クモノナレハ毫モ新  
教育ノ方針ト異ルコト無ク教育勅語ノ旨趣亦人倫  
ヲ序シ道德ヲ獎ムル點ニ於テ全然相合致セリ能

ク個中ノ消息ヲ解シテ地方人民ヲ勸誘シ地方ノ治  
安ヲ図ラレムコトヲ希望ス

尋テ道廳各職負ヲ廊下ニ整列セシメ道ノ職負ハ能ク  
長官ノ意図ヲ遵奉シテ一意職務ニ勉勵シ長官更迭  
スルモ事務ニ渝ル所ナケレハ安シシテ其ノ職ニ勤メ疎漫ノ  
行爲アル可ラスト訓示セラル、其レヨリ道廳各室ヲ巡視シ  
ル後地方官民ノ重ナル人々ヲ會議室ニ集メテ接見シ大  
要ヲ如ク訓示セラレタリ

三年前巡視セシ當時ニ比スレハ百事成績ノ擧カレル  
ヲ認メタリ將來一層勉強シテ官民心ヲ協セ清州ノ

發展ヲ圖ラレタシ又學務委員及學校組合委員ハ  
本年一月教育心得ヲ訓示シタル旨趣、基キ其子弟ヲ  
善導シ學校ト家庭ト相一致シテ風儀ヲ是正シ  
實行ヲ尚ヒ空論ニ越ラシムルコト勿レ

商品陳列場ヲ一巡シテ公孫樹下ニ撮映シ紀念ノ植樹終リ  
テ在郷軍人分會<sup>員</sup>對シ一場ノ訓示アリ、其レヨリ慈惠  
醫院、恩賜授産機業傳習所ヲ巡視シ機織ニ就テ注  
意ヲ與ヘテ轉シテ憲兵隊ヲ巡視セラル櫻井警務部長ノ  
報告ハ大要尤ノ如シ

管内ハ一般ニ平穩ナリ委細ハ報告書、記載セシモ

二三著シキモノヲ舉クレハ重石熱ノ熾甚ナル結果旅  
 舎料理店ハ非常ニ繁昌シ鑛区附近ノ人民亦其ノ  
 餘澤ヲ受ケテ家計裕カシ貧困者尠シ沙金熱  
 モ亦盛ミシテ從テ犯罪件數少シク増加ス併シ殺人強  
 盜犯ハ次第ニ減少シ本年ニ入り殺人犯三件アルミ米  
 作ハ比年良好<sup>昨年</sup>シテ在職七年間稀ニ見ルノ好況ナリ從  
 テ漸次米食者ノ増加スル傾向アリ、官民ノ間ハ次第  
 ニ融和シ外國宣教師等モ官憲ト相親シミ何等意  
 思ノ疎隔セル所ナシ、姑蠲ハ本年四十六萬八千貫ヲ  
 捕獲シテ松害ヲ除キタリ其ノ他道路植樹及衛生上

ニ就テハ常ニ道廳ト協カシテ圓滿ニ保護助長シ居  
レリ云々

尋テ公立小學校、普通學校、面事務所、郡廳、郵便局、  
裁判所等ヲ巡視セラル、而學校ニテハ具サニ授業ヲ視察  
シ々其ノ教授上ニ就テ注意ヲ與ヘラレ、面事務所ニ於テ  
四面併合ノ成績ヲ檢シ帳簿ノ記入方ヲ查シ内鮮職  
員五名ニ對シテ一々其ノ出身如何ヲ下問セラレ、郵便局ニ於  
テハ取扱件數等ノ報告ヲ受ケテ獎勵ノ詞アリ局ハ新築  
家屋ニシテ其ノ規模清州邑ノ他ノ官衙ヨリモ宏壮ナリ地方  
法院支廳ニ於テハ判事ノ報告ヲ聽テ代書人ノ夥多ニ過

クルハ宜シカラス或ル程度マテ制限シテ人民ニ過當ナル代書料ヲ負ハシムル弊ヲ除クヘシト注意セラル、其レヨリ車ヲ飛バシテ唐羨山ノ公園ニ上リ邑内ヲ俯瞰シテ三年前ト今日トノ變遷ヲ語り正午道廳ニ歸リテ午餐良ノ宴アリ主客二十七名ヲ算ス席定マルヤ總督ノ訓示的挨拶及道長官ノ答辭アリテ一同食ニ就キ宴後申郡守ヲ介シテ道參事ニ慇懃ナル訓示的談話アリ又在御軍人々會長ニ對シテハ在御軍人ノ品位ヲ維持シ賤シムヘキ職業ヲ營ムモノヲ訓誨シテ實業ニ就カシムヘシトノ注意ヲ與ヘラル歟話約一時間ニシテ午後二時道廳ヲ發

車シ黒心川ノ橋梁ヲ渡リテ農業學校ヲ巡視シ清州  
官民ノ恭送セル列前ヲ過キテ鳥致院ニ向フ行クト四  
里餘道路砥ノ如ク並樹ノ胡籐既ニ長シテ翠色滴  
ルカ如シ途次弘益殖産園ニ車ヲ駐メテ園ノ成績如何  
ヲ詳聞セラレ頓テ鳥致院ニ達ス時ニ午後四時二十分  
ナリキ、

柳長官櫻井中佐ハ此處ニ告別シテ清州ニ歸リ、小原  
長官齋藤憲兵中佐等ハ一行ヲ迎ヘテ俱ニ燕岐郡廳  
ニ到リ郡衙職負其他地方官民ヲ接見シテ懇<sub>現</sub>情態  
ヲ下問セラレタル後米穀検査標準ノ米穀ヲ點檢シテ檢



手ノ説明ヲ聽キ且化粧米ノ事、就テ注意セラル、所アリ、  
其ヨリ鐵道線路ヲ踏切り鳥致院市街ヲ經テ夕刻  
錦江ノ木橋ヲ渡リ河岸ヨリ徒歩シテ公州官民ノ整列  
セル列前ヲ過ギ再ビ邑端、乘車シ道廳前ヲ經テ長  
官々舎、到リ總督、同官舎、其他ノ一行、常盤旅  
館、宿泊ス

第五日（五月十四日日曜日曇天午下雨）

午前七時公州居住ノ米國北長老派宣教師男一名女三  
名及在住支那人三十三戸、總代孔<sup>憲劉</sup>等官邸、來訪ス内  
老孃一名ハ三年前會見セシモ他ハ初面會ナリ種々問

答アリタル後、總督ハ深ク早朝來訪ノ勞ヲ謝シ、又布教  
及教育ノ事ニ關シテ、隔意ナク道廳當局者ト商議シ  
<sup>相携ヘテ</sup>朝鮮人啓發ニ從事セムコトヲ希望ストノ談アリ、宣教師  
等其意ヲ諒シ欣然トシテ辭シ去ル、七時三十分、總督  
一行道廳ニ到リ、小原長官先ツ報告書ヲ呈シテ、單  
簡ニ屯ノ口頭報告ヲ爲シタリ

官就任以來、管内ノ人心ハ平穩ナリ、本年降雨多ク  
堰堤水滿、千禾穀青々タルニ依リ秋收豐饒ニシテ  
民心益安堵スヘシト想像セラル、本道ハ蝸蝓ノ害最  
モ甚大ナルヲ以テ極力捕殺シ、松樹爲ニ蘇活セリ

云々

其ヨリ順次、●道高等官、憲兵將校、警務官、地方  
法院高等官、慈惠醫院職員、平塚歩兵少佐以下衛戍  
將校、郡守(六名)、典獄、郵便局長、道郡參事(五名)  
普通小學兩校長、在郷軍人分會會長、學校組合評議  
員、金融組合長及理事等ヲ接見シ簡短ナル挨拶アリ  
右終リテ道廳各室ヲ巡視シ、更ニ道廳判任官ヲ一室ニ  
集メテ一場ノ訓示ヲ與ヘテ其ノ要旨ハ概ネ大邱清州ニ  
於ケル道廳判任官ハ訓示ト相似タリ、尋テ附近面長十  
名ヲ接見シテ尤意味、訓示アリタリ

各位内ニ既ニ面會セシモノアリ初見ノ人モ<sup>レトモ</sup>三年前  
巡視セシ頃ニ比スレハ沿道各面共ニ進歩ノ姿アルハ本官  
ノ満足スル所ナリ面ハ行政區域ノ最モ低キモノニシテ直接  
人民ニ接觸スル官衙ナレハ努メテ上下意思ノ疏通ヲ圖  
リ面費ヲ節約シテ一般人民ノ負擔ヲ輕減シ又御間  
ノ先覺者ヲ以テ自ラ任シ勤儉力行ノ義風ヲ助長スヘシ  
施政方針ハ本年一月諭告シ置タレハ其ノ旨趣ニ從ヒ一  
郷ノ幸福ヲ進メ實業ヲ獎勵スヘシ

此ノ時地方有力者百餘名ハ道廳門樓ノ階上ニ集リ居タルニ  
依リ總督ハ之ニ臨ミテ一々接見シ藤波通譯官ヲ介シテ滔

々數千言ヲ訓示セラル其ノ要旨曰尤ノ如シ

予ノ公州ヲ巡視セシハ二回目ニシテ今日ヲ以テ三年前ニ比スレ

ハ百事大ニ發展セリ是レ卿閭ノ先覺者タル各位カ能

ク施政ノ方針ニ遵ヒ指導ヲ誘掖セラレタルノ結果ナリ然レ

トモ物一利アレハ一害之ニ伴フヲ通弊トス近來漸ク奢侈ノ

兆アリ是レ大ニ戒メサル可ラス勤儉カ行以テ産ヲ治メ家

ヲ興シ農工ヲ勵ミテ地方ノ物産ヲ饒カシ輸入品ヲ驅

逐シテ自作自給ノ道ヲ求メサル可ラス又教育ハ其子弟

ノ智徳ヲ涵養スル所以ナレハ獨リ學校ノミニ任セス家庭

ト相一致シテ其ノ善行ヲ獎メ不善ヲ懲シ實用ノ人物

ヲ養成セサル可ラス、而シテ新教育ハ些カモ孔孟儒學ト

相矛盾スルモノニ非スシテ忠孝ヲ基トシテ同シク徳性ヲ培<sub>ツラキ</sub>也

但<sub>レ</sub>回來、空論ヲ避ケテ實業ノ智識ヲ授クルヲ<sub>異</sub>トス各位

個中ノ消息ヲ解シテ實踐躬行以テ他ノ範ヲ示シ一般

臣民ヲ指導誘掖スヘシ云々

次ニ警務部ニ到ル齋藤憲兵中佐ハ恭シク報告書ヲ呈  
出シタル後尤ノ口頭報告ヲナセリ

衛生上ニ就テ言ヘハ傳染病ハ年々減少ノ傾向アリ一昨

年ハ患者百七十五名ナリシカ昨年ハ百九名トナリ本年ハ四

月末マデハ八名アリタリ、管内外國宣教師ハ逐年官憲ト

轉錄新報  
接近ツ、アリテ私立宗教學校、永明學校、如キハ体操  
教師ヲ憲兵ニ囑託スル、至レリ在郷軍人ハ管内ニ  
十四分會アリ、公州分會員二十八名ハ庭前ニ整列セシメ  
アリ幸ニ接見榮ヲ賜ハラムコトヲ願フ云々

各室巡視、後在郷軍人ニ對シ在郷軍人中ニ往々卑シムヘ  
キ職業例ハ高利貸料理店ヲ營ムモノ無キアラス當地  
ニ於テハ斯、如キ人々ナキヲ信ズルモ能ク軍人タルノ品位ヲ損セズ  
實業ニ勉メ困苦ニ耐ヘ一郷ノ模範タルヘシト諭サルヲ尋テ  
地方法院ニ到リ判檢事及各判任官ヲ接見シ司法上ノ事  
ハ自ラ法規アリテ令更ラヌタルノ必要ナキモ事務上ノ事ニ就

テハ往々失體アルヲ耳ニセリ印紙ノ如キ其ノ一例ナリ誠實ニ職ヲ  
掌リ捷簡ニ事ヲ拂ル様注意スヘシトノ訓示ヲ與ヘラル又法  
院長及檢事正ハ大体ノ報告ヲナシタル後重石熱燬ナルノ結  
果所々ニ犯罪事件アリトノ口頭報告アリタリ、其レヨリ實業協  
會ノ經營者ル機織工場ニ到リ各室ヲ巡視セシ後道長  
官以下協會主仕者ニタノ注意アリタリ

協會ノ資金ハ五千圓ナリトノ事ナリ斯ノ如キ小資本ヲ以テ見本  
的ニ種々ノ織物ヲナスハ利益ヲ擧ケ產業ヲ盛ニスルノ道ニ非  
ス一種ノ民間嗜好ニ應スルモノヲ製シテ販路ヲ擴張スルヲ  
佳トス又機織ノ如キハ副業的ニ經營スヘク集合的ニ多



クノエ女ヲ集メテ寄宿セシムルハ不利ナリ協會ハ傳習生ヲ  
養成シ家々ニ於テ製織セシモノ、販路ヲ開キテ斡旋ノ  
勞ヲ執ルノ目的ヲ以テハ地方生産ヲ獎勵スルノ機關  
トシテ相互ノ利益ヲ擧クルヲ得ベシ

次テ監獄ヲ巡視セラル監獄ハ元ト道廳附近ニアリシガ三年前地平  
工事ヲ起シテ今ハ新築獄舎ニ移轉セリ拘留場牢獄浴室作業  
場等皆新タニ寧口義過ルノ觀アリ総督ハ典獄ニ對シテ囚  
徒教育及作業教授ニ就キ懲惡ノ程度以上ニ完美ヲラシムルハ却  
テ害アルヘシト注意セラル夫レヨリ恩賜授産傳習所ニ到リ傳  
習生四十名ニ就キ普通學校卒業者、有無及生徒卒業後

ノ方針等ヲ質問シ父兄ノ業ヲ襲キ實業ニ盡カシ勤儉  
カ行ノ人トスベク糞尿ヲ手ニスルヲ厭ハスシテ勉強スヘシトノ訓誨  
ヲ與ヘラル蓋シ行ヒ汚惡アルモ業ニ貴賤ナキヲ箴言セラレタ  
ルヲ、轉シテ州外西事務所ヲ巡視シ仔細ニ貯蓄米社還米ノ  
事ヲ諮問シ且米穀放賣法ニ就テ注意セラル所アリ其レヨリ  
普通學校、慈惠醫院ヲ巡視シ學校ニテハ學務委員  
ニ向ヒテ生徒ニ製鞋セシムルノ可否ヲ質問セラレ醫院ニテハ患  
者ノ減少スルハ一般衛生上喜フヘキ所ナルモ既ニ醫院ヲ設クル  
以上門前雀羅ヲ張ルノ弊寔多ヲ現スルハ宜シカラス勉メテ患  
者ヲ勞ハリ慈惠ノ本旨ニ違ハサル様汎ク信用ヲ博スルノ心

得ナル可ラスト戒飭セラル、次ニ公州郡廳ヲ巡視シ郡守以  
下二十餘名ヲ接見シ道ノ種牛ヲ檢シ取扱件數ヲ問ヒ單簡  
ナル訓示アリテ更ニ邑端ナル小學校ヲ巡視シ各教室ヲ一巡  
シテ校長ヲ招キ就任日猶淺シトノ事ナレハ未タ自己ノ理想ヲ  
實行スルコト能ハサルベシト雖一校ニ長タルモノハ他ノ職負ヲ掌  
中ニ収メテ其ノ指示ニ遵ハシメ教員各自ヲシテ任意ノ舉動  
ヲテシム可ラス要ハ統一ヲ主トス今生徒ヲ瞥見スルニ一人洋装  
セル女子アリ斯ノ如キハ父母ノ其ノ子ヲ愛スルノ結果ナルヘキモ他ノ子  
女之ヲ羨ミ父兄之ニ摸スルノ俑ヲ作ルモノナレバ學校ニ於テハ切々  
奢侈ノ風ヲ戒メ質素ノ性ヲ養成スヘシト訓示セラル、其レヨリ

農業學校、到リ生徒、向ヒテたノ歳言ヲ與ヘラル

茲、前賢ノ格言ヲ假リテ諸子修學ノ銘トナスヘシ善農  
タラント欲セハ糞尿ヲ手ニスルコトヲ忘ルヘカラス、手足ノ汚レ  
タルハ洗フヘク精神ノ穢シタルハ拭フヘカラス糞尿ヲ手ニスルハ  
毫モ耻ツベキ、非ズ農ハ國本ニシテ富ノ淵源ナリ能ク學  
校ニ於テ學ヒタル所ヲ實地ニ行ヒ以テ父兄ノ業ヲ偉ニス  
ベシ

歸路種苗場ヲ經テ衛戍隊ニ至リ營内ヲ一巡シテ中隊長  
以下將校、師團創設第一回ノ軍隊ナレハ一般ノ勤務其他ニ就  
キ名譽ノ歴史ヲ傳フル心懸ナカル可ラストセ言セラル夫レヨリ

道長官即ニ開カレタル總督主催ノ午餐會ニ臨ミ總督  
ノ訓示的挨拶、小原長官ノ答辭アリテ一同食ニ就キ卓上  
種々、款晤アリテ午後二時公州ヲ發車ス邑内、官民一行  
ヲ錦江左岸ニ祖道スルコト昨日、如シ

午下一天雨意アリ公州ヲ發スルノ頃、及ビ天色益々暗シ  
江ヲ渡リテ正安面事務所ノ前ニ駐車スル前後ニ至レハ  
雨脚絲ノ如シ小井里ニ着スレハ既ニ臨時列車ノ待ツアリハ  
原長官渋谷第一部長齋藤中佐ハ隨行シテ成歡ニ到  
リ松永長官隈部大佐茲ニ出迎シ更代シテ乗車シ夕刻南大  
門ニ安着ス

名称	寺内正毅文書
標題	勝田主計意見書・朝鮮銀行上中書

分類 番号	
	439
	32

国立国会図書館

登録 番号	
----------	--

小職之キヲ朝鮮銀行緩裁ニ享ケタル當時ニ  
 於ケル當行狀態ハ度支部ニ於テ數日ニ亘リテ  
 検査ヲ執行セラレタル結果ノ如クミレテ夙ニ  
 閣下ノ領策セラル、コト、信スルヲ以テ茲ニ詳言  
 スルノ必要ナカル、シ、爾後小職カ眼中ニ映シタル  
 朝鮮銀行ハ大体ニ於テ制度業務共ニ可  
 良ニシテ重役以下行員亦略其所ヲ得ズカ如ク  
 僅々六七年ノ星霜ノ下ニ斯クノ如キ度達ヲ為  
 セハ畢竟  
 閣下御指導其宜シキヲ得タル結果ニ外ナラスト  
 信ス

然レトモ時勢ノ進運ハ今日ノ情態ヲ以テ推  
移スルヲ許サス機ニ度シ変ニ處シ益其改良  
發達ヲ期セサルハカラサルハ言フ俟タス而シテ小職カ  
今日迄得タル知識ヲ以テ思考スル二三ノ臆見  
ヲ貴聞ニ達シ置ク蓋シ無益ノ下ニアラスト信ス  
第一、業務上ニ於ケル改良

(イ) 地方的銀行ヲ一層世界的銀行トスルヲ

朝鮮銀行ハ本来朝鮮中央金融機關ト

シテ設置セラレタルモノナラシテ朝鮮ニ於ケル

金融ノ統一ヲ圖リ以テ其開發ニ資スヘキハ勿

論ナラモ我國力ノ發展ハ駸々トシテ近ニ商

行ク既ニ滿洲ニ數個ノ支店出張所ヲ有シ



露領浦港ニ實力ヲ張リ、同地ト應平シテ  
將ニ哈爾濱支店ノ開店ヲ見ケトスルノ狀況ニ  
シテ是レ趨勢、然ラレム所ナリ

露國經濟組織、幼稚ナル露領若クハ  
北滿洲ニ於ケル經濟力ノ發展ニ最早我邦  
人ノ手ヲ借ルルヲサレハ能ハサルノ境遇ニ立アリ殊ニ  
南滿洲ニ於テ我利權ヲ確保増進セムト欲セハ  
北滿洲ヲ離レテハ其不能ナルト何人モ首肯  
スル所ナリ而シテ此經濟的發展、根本義トシテハ  
金融機關ノ活動ヲ以テ要素トスヘシ小職曩ニ  
官職ニ在リタルトキ橫濱正金銀行ヲシテ強テ  
哈爾濱ニ支店ヲ開設セシメタルカ如キハ此趣旨ニ

情態ヲ以テ推

テ處シ益其改良

ヲ俟タス而シテ小職カ

考スル二三ノ舉見

一益ノ下ニアラスト信ス

的銀行トスルヲ

中央金融機關ト

ハテ朝鮮ニ於ケル

ハ茂ニ獲スヘキハ勿

誤トシテ進ミ當

后出張所ヲ有シ

地ト應中ニテ  
見タスルノ状況ニ

ナリ

タル露領若クハ

展最早我邦

境遇ニ立テ殊ニ

何増進セタム歟セハ

ト何人モ首肯

展、根本義トシテハ

素トスヘク小職曩ニ

金銀行ヲシテ強テ

ルカ如キハ此趣旨ニ

一月 洋 限 行

朝鮮銀行ヲシテ一層世界的銀行タラ  
シメトス夫適當なる方針ナリト雖元來  
朝鮮銀行ハ朝鮮ニ於テ中央金融機  
關トシテ設置セシムルナリ而シテ現時  
朝鮮ニ於テ最ニ必要ナルハ金融機  
關ノ整備活動ナリ然レトモ本來ノ目的  
ヲ離レテ海外ニシテ發展セトスルハ其ノ  
時期ニアラズヘシ



外ナラス

小戦ニ終リ歴史ヲ語ルヲ欲セサルモ事理ヲ以テ

明晰ナラシメカ爲正金銀行カ滿洲ニ發展

セシ所以ヲ略言スヘシ日露戦役ノ結果南

滿洲ノ我勢力固ニ入ルヤ金融機關ノ額

ヲ生シ各種ノ提案アリシモ新設金融機

關ハ其活動期ニ入ルマデニ數年ヲ要スルヲ

以テ直ニ其效果ヲ得ムヲ第一ノ主眼トシ

日本興業銀行ヲ以テ其衝ト當ラシメタトセシモ

同行ニ之ニ應セス而シテ正金銀行ハ當時既に

爲替關係ヲ以テ店鋪ヲ滿洲ニ有シタリシヲ

以テ同行ヲ使用スルヲナリ朝鮮銀行ハ

其以後に於て是達せしモノは之を以て因り問題ト  
 ナル筈ナカリシカ當時當行存在セハ當然滿  
 洲金融機關タルキモノト考へラル正金銀行  
 ヲシテ哈爾濱、支店ヲ設置せしメシカ如キモ亦  
 當行開設、當初之ヲ顧慮スルノ餘地  
 ナカリシト因レリ

而シテ當行刻下、現況ニ於テハ正金銀行ノ最  
 早滿洲露領等々普通銀行業務ヲ営ムノ  
 必要ヲ見サルノミナラス世界<sup>内</sup>經濟界ノ趨勢ハ  
 欧米ハ勿論或ハ南米、或ハ南洋、為替業務ノ  
 擴張ヲ為シ以テ政府又ハ日本銀行ヲ享受  
 シ居ル多大ノ保護、對スル義務ヲ履行せらる

カラサル状態に在り、換言セハ政府ハ正金銀行に  
對スル監督方法に付此際大ニ考慮スヘキノ  
時機に在リテ滿洲に於テ同行ト常行トノ  
地位に對シテモ大ニ革新スヘキモノナルヲ信ス  
常行ニシテ既に釐上ノ如キ使命ヲ有ストモ一定ノ  
計画ヲ立テ猛進セサルハカラサルナリ而シテ既に  
海外銀行トシテ發展セタム欲セハ

甲、為替業務ノ發展

乙、支店出張所ノ設置

に付慎重考慮セサルヲ得ス

翻テ常行ノ現況ヲ見ルニ外國為替ノ如キ一々  
正金銀行又ハ某洋銀行ノ手ヲ借ヒテアサレハ

之ヲ處理スル能ハサルカ如キ狀況ニ在ルヲ以テ隨テ  
 爲替事務ニ通曉スル行員ハ僅々一兩名ヲ過  
 キザ、有様ナリ凡ソ各國ニ於ケル大銀行ニシテ  
 外國爲替ヲ営マサルモノ或意味ニ於テ外  
 國爲替ヲ営マサルモノハ銀行ニアラサルカ如シ  
 依テ銀行ハ爲替業務ニ適當ナル人材ヲ  
 養成スルノ方法ヲ定メ一面ニ爲替ノ實務  
 ヲ進展セシムル手段ヲ講セラトスルモノナリ  
 支店ノ設置ニ關シテハ先ツ哈爾濱ヲ開キ以テ  
 浦港ト聯絡ヲ取リ露領牡丹洲ニ於ケル我  
 經濟的實力ヲ充實セシムルヲ努ムト同時ニ神  
 戸ニ支店ヲ開設シ滿蒙山東省貿易生産

業ノ調節ヲ圖ラウトシ既ニ神戶ニ相當ノ店  
鋪用家庭ヲ貸借シテリ由來滿蒙及山東省  
ニ於ケル貿易關係ノ因リテ起ル原動力ハ  
神戶及大阪ニ在リ大阪ハ既ニ常行支店ヲ有  
スルモ神戶ハ支店ヲ有セサルハ充分ナル活動ヲ  
為シ得サルハ多言ヲ要セサル下、信ス  
次ニ支店設置ノ豫想順序ヲ以テ其場所ヲ  
排列セハ凡ソ左ノ如シ

上海、營口、青島、天津、濟南、  
倫敦、露都、細育、

右、中上海ハ東洋貿易ノ中心地トシテ滿洲支  
那方面ニ於テ為替ハ何レモ同地ニ於テ又ハ



同地ヲ経テ行ハルモノニシテ一日モ關係ナカルハ  
 カラサル所ナリ 小職 在官ノ時 臺灣銀行ヲシテ  
 上海支店ヲ開設セシメ 續テ 倫敦支店ヲ認許  
 シタルカ 同行ノ業務ハ之ニ依リテ 頗ル進ミ一面ニ  
 正金銀行独占ノ情狀ヲ 警覺シ得タル事  
 實アリ 右ノ趣旨ヲ 含ミ 小職ハ 今回理事木村  
 雄次郎 司事佐藤得四郎 吉記 高橋武夫ヲ 滿  
 洲及支那ニ出張セシメタルハ 其調査報告ニ 依  
 具體的行跡ヲ 立テラトス

滿洲ニ於テ 鐵道ノ完成ニ 依リ 商業貿易  
 狀態ノ 異動ヲ 来シタルハ 勿論ナキモ 遼河ニ  
 依リ 貿易ハ 尚依然トシテ 旺盛ニシテ 其河口ヲ

扼セル當口ハ滿洲ニ於テ業務ヲ當ク以上ハ之ヲ  
觀過スル能ハサルモノナリ殊ニ往時露國ノ勢  
力ヲ得タル當時ニ於テ蒙古ヲ縱斷シ當  
口ニ出テ多少貿易ノ聯絡ヲ保テタルヲ以テ現  
今亦當口ニ於テ露債ノ流用ヲ見ル有様  
ナレハ同地モ亦露行紙幣流通ノ圈由ニ入ル  
コトヲ要ス

青島ハ<sup>少戰</sup>在官中正金銀行ヲシテ支店ヲ開設  
セシメタルモノナレバ其後日独戦争ノ結果山東省ハ  
自然我勢力圈由ニ陥チ來リ政府ノ之ニ對スル  
方針ハ尙模稜握捉スル下能ハサルヲ滿洲ト  
關係密接トシテ自ラ露行業務擴張範圍

團々在ルモノトスルヲ妥當トスヘク支店開設、必要アリ

天津ハ支那有數ノ開港地ニシテ從來正金銀行支店アルモ當口青島濟南府等、本行、活動ヲ期スル以上支店開店ヲ必要トスヘク尚同地滞留商人ニシテ當行支店設置、希型ヲ申出テ居ルモノモ已ク状況ナリ

濟南府ハ山東省ノ首都ニシテ津浦山東兩鐵道ノ會スル所尚進ニテ山東鐵道ノ延長線ハ或地点ニ於テ京漢鐵道ト連絡スヘク山東鐵道上任濟の見地ヲ觀過スヘカラサルナリ正金銀行既ニ出張所ヲ設ケ居ルト雖モ未ダ經

濟上投資ニ多ク指ヲ添メサル情况ニ追テ  
 常行支店若クハ出張所開設ノ必要アリ  
 倫敦ハ世界金融ノ中心ニシテ又為解決済ノ  
 集注スル所戰後トモモ此趨勢ハ迄クハ俄カニ  
 衰亡スルモノアラズ若モ外國為替ヲ取柄トシ  
 常行支店ノ開設ヲ必要トスルハ多年ヲ要サル  
 ナリ

露都ハ特ニ常行仕滿、露領ノ業務ト密  
 接ノ關係アリ何等カノ聯絡ヲ必要トスルモ  
 現今露國ハ其法律ニ於テ外國銀行支店ノ  
 開設ヲ認許セサルヲ以テ外交上根本的ノ解決ヲ  
 俟ツ外ナキモ先ニ差當リハ露都ニ於ケル有力

た銀行と联接ヲ保テ将来ノ甚長ノ期セム  
トス

經濟ハ戦争ノ好影響ヲ受ケ一部論者ノ唱ル  
力如ク戦後世界金融ノ中枢トナルカ如キトハ  
容易ト信ヲ置クニ足ラスト云々著シキ金融上  
甚長ヲ爲スハ疑ヲ容レサル所ニシテ我邦ハ一層  
密接ノ關係ヲ生スヘシハ是亦或時期ニ於テ  
支店ヲ開設スルノ必要アリ甚涉銀行ノ既ニ店  
員ヲ同地ニ常置シタルカ如キハ参考トスヘキ所  
ナリ

以上ハ腹案ヲ列举シタルモノニシテ之レカ實行ニ至  
リテハ尚慎重ノ考慮ヲ要スヘク又時運ノ変遷

=

ト常行ノ餘裕トヲ斟酌シテ誤算ナキヲ期セ  
トス而シテ露都、倫敦、細育ノ如キモノ先ツ  
見學生ヲ派遣スルヲ著手セムトス

(四) 業務上ノ統一ヲ必要トスルコト

業務上統一ノ必要ナルヲ言フ候タス從來ト雖モ  
意ラ此点ニ須ヒタルカ如キモ小職就任以來連  
觀スル所ニ依ル業務ニ關スル命令一途ニ出  
テス之ヲ小シテハ各支店ニ付ケル帳簿書式等  
区々ニシテ整頓ヲ欠ク所アルカ如シ機關ノ活動  
日々ニ大ヲ加フル毎ニ益々其統一ノ必要ヲ見ル  
右ハ今回支店長會議ヲ機トシ細大矯正セム  
コトヲ期セリ

(ハ) 中央政府又ハ帝都ニ於ケル首要金融機

関ト密接ノ聯絡ヲ保ツコト

元來朝鮮銀行法ナルモノハ或事項ハ政府之ヲ  
決シ或事項ハ総督之ヲ決シ其輕重大小標準  
ノ明析ナラザルアリ殊ニ政府ト総督府ト間ニ  
特種ノ協定存在スルアリテ羈束ガ所多キヲ  
以テ成ルヘク中央政府ニ接觸シテ緩和ヲ圖ルノ  
必要アリ他ノ特種銀行カ常ニ多大ノ政府援  
助ヲ得格ルニ拘ハラス當行ハ之ニ拘束スル能ハ  
ザルノ憾アリ將來當行カ海外銀行トシテ發  
展セムト欲セハ自力ノ培養ニ努ムヘキハ勿論ナルモ  
亦政府ノ援助ニ俟タサルヘカラスト信ス

二 轉 錄 行

レテ誤算ナキヲ期セム  
細育ノ如キモノハ先ツ  
手セムトス

又トスルコト

口ヲ俟タス從來ト雖モ  
小職就任以來連

内スル命令一途ニ出

ルケル帳簿書式等

ルカ如シ機関ノ活動

ニ統一ノ必要ヲ見ル

機トシ細大矯正セム



に於ては、首要金融機

構

或事項、政府之ヲ

シ其輕重大小標準

に府ト認智府ト向ニ

覇東カ、所多キテ

觸シテ緩和ヲ圖ルノ

力常ニ多大ノ政府援

助ハ之ニ均霑スル能ハ

海外銀行トシテ其

努力ハキハ勿論ナモ

カラスト信ス

二月 洋 限 子

朝鮮銀行ハ朝鮮に在る金融の中核ナ  
國を以て信託シ之カ第一歩ノ基礎ナリ  
故に朝鮮銀行ハ中央政府トノ關係ヲ  
密接ナシテハ可ナリ雖政府ノ援助ヲ  
得ルガ爲め其活動力離シ自ラ進歩  
中央政府ト接觸ナシハ大體に於テ  
誤リト在リヤハ平



又當行設立日尚淺ナリ故ヲ以テ帝都ニ於ケル  
首裏金融機關ト聯絡少キハ勿論帝都邦ニ  
於テハ幸フシテ當行ノ存在ヲ認ムノ程度ナリ  
斯クハ金融ノ漸次世界的トナラトスル此趨  
勢ニ於テ行運ヲ昌隆ナラシムルヲ能ハサルハ多  
言ヲ要セス此意味ニ於テ當行ハ認可ヲ得テ或ハ  
露國大藏省証券ヲ引受ノ仲間入ヲ為シ或ハ四平  
街柳家屯間鐵道布設費債券ノ一部ヲ  
引受テ進テ幸ニ餘裕金アリタルヲ以テ中央  
政府ノ公債ニモ應募シタリ此場合ニ於テ小戦ハ  
釐上債券又ハ公債ノ應募引受ニ関シ大  
体ノ方針ヲ陳述シ置クハ無益ノ業ナラズ

ト信ス

第一支那、滿洲、露國ニ關係ヲ有スル  
債券公債類ノ發行ニシテ政府ニ於テ我  
銀行者ノ引受發行ヲ認可シタル場合ニ  
當行ハ權利トシテ實力ノ許ス限リ引受  
發行ノ組合ニ加入スルコト

右ニ付テハ從來各個ノ協會ニ付經營閣下、  
洋配慮ヲ煩ハシタルカハ職ノ希望トシテハ  
一般的ニ中央政府ニ交渉セラルル銀行ノ地  
歩ヲ安固ニセラレムコト是ナリ

第二内國債ノ引受發行ハ當行ニ於テ法令  
ノ求ムル充分ノ責務ヲ尽シ尚資力、餘裕

アル場合に限ルヲ

以上如クハ一面當行本來ノ責務ヲ果シ一面  
海外銀行トシテ發展スル機能ヲ完フシ得  
ト信ス

前述ノ趣旨ヲ因テ生スル具體的ノ問題ハ  
東京支店ヲ整備スルヲ是ナリ現在ノ東京  
支店ハ尚極メテ微々タルモノニシテ中央政府  
又ハ實業界ト接觸ヲ保ツ上ニ於テ遺憾  
ナル点少シトセス當行カ海外銀行ノ機能ヲ  
發揮セムト欲セハ是非共漸次ニ同支店ノ  
整備ヲ要ス現ニ甚多銀行ノ如キハ重  
役ノ内一名ヲ東京ニ常任セシメ其機關諸

設備皆之、借ルカ如キヲ見ルモ趨勢、一班ヲ  
窺フ、足ルベト信ス

## 第二、組織上、於ケル改良

當行、組織ハ主トシテ日本銀行ノ組織ヲ参考  
セルモノナレト雖モ今日、事リテハ之、改正ヲ加  
フニ必要ナカラスト信ス元來銀行組織ハ世  
界、二大系統アリテ重役、事務ノ分掌  
セシメ重大事項ヲ限リ合議セシムルモノト總支配  
人ノ如キモノヲ置キ銀行業務ハ總テ其支配  
ニ属セシメ参考的ニ重役會議ヲ用クモノト  
アリ歐洲大陸ハ前者、属シ英米ハ後者ニ  
属ス我邦ニ於テモ日本銀行ハ大陸主義ナ

正金銀行ハ英米主義ナリ而若方利害得失アリタ容易ク其高居ヲ断定スヘカラスト云  
當行組織ハ此際多少考慮ヲ要スヘキモノ  
ルヲ信シ目下研究中存別途進言スル所  
アルニシ

組織如何ヲ拘ワス事務ノ内容ヲ改善  
スヘキモノ、二三ヲ舉グルハ

(1) 調査室ヲ擴張シテ局トナスコト

從來當行ニ於テ調査室ナルモノヲ設ケ有益  
ナル調査ヲ為シテアルニ極メ小規模ニシテ當  
行カ朝鮮中央銀行トシテ又ハ海外銀行トシテ  
益々發展セムニハ内外、財政、經濟、貿易、產

業等と異り常に詳細な調査を遂げ業務に  
資する所ナルハカラズ此目的を達するに規模を  
擴張し適當ノ人材を集中せしむカラズ此事務  
ノ舉否ハ一に適材を要スルヲ以テ俄カニ其自  
的を達スル能ハサルモ著々其目的に向テ武歩  
ヲ進メサルハカラサルナリ

#### (四) 検査事務を一層徹底せしむル事

常行ハ既に検査室を設ケ相當ノ検査ヲ爲  
シ居リトモ由來我邦特種銀行ノ検査部  
ナルモノハ二派山下ノ行員ヲ使用シ極メテ皮相的ノ  
検査ヲ爲シ居ルに過キス常行ノ如キ亦不幸ニシテ  
其一例タルヲ免レス特種銀行ハ政府より監理官

ヲ置キ特ニ之ヲ監督セシムトモ、容易ニ内部ノ  
機微ニ觸ルコト能ハス。監督ニ鋭意ヲ盡シ、  
官ハ徒ラ法規ノ束ニ拘泥シテ銀行者ト  
意思ノ流通ヲ缺キ居ラサルモノハ唯形式的ニ  
臨監スルカ甚シキハ唯其名目ヲ保ツニ止ルモノ  
ナリ。是レ畢竟之スルニ政府監督ノ困難ナル  
ヲ表明スルモノナリ。小職等ノ卑見ヲ以テセハ  
特種銀行監理官ナルモノハ大勢ニ通スル大官  
ヲ以テ之ニ任シ政府ノ大体方針ニ付之ヲ監  
督シ銀行首腦者ハ自己ニ完全ナル検査  
機關ヲ有シ業務上ハ勿論人事上ニ關シテモ  
周到ナル検査ヲ為スヲ以テ最も適當ナル方法



ト考フ而シテ銀行首腦者、大概政府任命ニカ、ルモノナレハ若シ政府ノ大体方針或ハ法令ニ違フスルカ如キ行為アリトセハ直ぐ之ヲ黜涉セハ可ナリト信ス

以上説ク所少シク岐路ニ馳セヌカ政府監督方法ノ如何ハ別トシテ當行ニ於テハ内部ノ検査機關ヲ整備シ人材ヲ選拔シ業務上并ニ人事上ニ於テモ其遺憾ナキヲ期セトス  
第三、人事上ニ關スル改良

(イ) 人材集中ヲ一層奨励スルコト

小職ノ實見スル所ニ依ルハ一種ノ歴史ヲ有シ且ツ設立日尚浅キ當行トシテハ行員ノ技倆

年齢・性行等、於テ大体不可ナキカ如シトモ、  
例ニ當行收容ノ多數ノ大学卒業生高等  
商業学校卒業生ノ如キ其成績優等ナルモノ  
稀ニ見ル所ニシテ小職就職當時ハ恰々新  
尤卒業生ヲ約束スル時ニ當リタルヲ以テ東京  
大学生志願者ヲ募集シタル、来集スルモノ約  
百名ニ達シタルモ何レモ二流三流ノ成績ニ属スル  
モノニシテ殊ニ甚シキハ東京高等商業学校  
卒業生ハ志望者僅ニ三名ニシテシカモ成績最  
劣等ノモノナリキ斯ノ如キハ卒業ヨリ大学其他  
重要ナル専門学校ト密接ノ聯絡ヲ保メサ  
ルニ基固スルモノニシテ由地ノ大會社大銀行ハ

何レモ學校ト聯絡ヲ保チ卒業當年位ニ既ニ  
其採用スヘキ人材ヲ定メ居ル力如ク其用意ノ  
周到ナル者行ノ如キハ大ニ之ニ倣フヘキ事ト信ス  
依テ明年ノ卒業生ヨリハ今ヨリ出来得ル  
限リ聯絡ヲ取リ優秀ナル人材ヲ網羅セム  
コトヲ期ス幸ヒシテ歐洲戦争並ニ東亞ノ現  
況等ハ直覺的ニ青年ノ情夢ヲ破リ殖民地  
或ハ海外ノ奮闘セムトスル元氣ヲ鼓吹シタルハ喜  
ブキ現象ノ一ナリト思考ス

#### (四) 人材養成ヲ一層完美スルコト

人材養成ニ付テハ從來其施設頗ル乏シキノ  
憾ヲ有ス依テ本職ハ左ノ方法ニ依リ極力之ヲ展

人材  
而シテ  
朝鮮  
支那  
出ル

ハ体石リナキカ如シト要モ  
數ノ大学卒業生高等  
其成績優等ナルモノ

就職當時ハ恰々新

時ニ當リタルヲ以テ東京

ホニタル、來集スルモノ約

二流三流ノ成績ニ屬スル

東京高等商業學校

三名ニシテシカモ成績最

キハ平素ヨリ大学其他

密接ノ聯絡ヲ保メサ

地ノ大會社大銀行ハ

子卒業最年位に既に  
大居力如く其用ゝ意ノ  
大に之に做フ、キヲト信ス  
リ、今自ヨリ出来得ル  
乃古人材ヲ網羅セム  
以戦争並ニ東亞ノ現  
下情勢ヲ破リ強民地  
スル元氣ヲ鼓吹シタル喜  
ラス

元美スルヲ

其施設頗ル乏ニテ  
方法ニ依リ極力之ヲ展

人材ヲ養成スルニ最モ必要ナリ  
而シテ養成セシムル人物ハ之ヲ  
朝鮮ニ在ルニ各種人全肥梅肉ニ  
分配シ改革ノ衝ニ當リタル方針ニ  
出リンモノヲ希シ望ス



成、努セタトス

(甲) 一般養成法

人材の養成は、學藝、人格、体格、の三方面

に亘ル、キハ言テ候タス

學藝ノ養成ハ、讀書會ヲ設ケ、小職

主事ノ下ニ、會員ヲシテ、内外新刊ノ書籍

雜誌等ヲ讀破セシメ、月二回之ヲ講演セタ

有志者ヲシテ之ヲ聴聞セシム、又講演會ヲ設ケ

主トシテ業務ニ關係スル實際的ノ事ト例ハ

為替業務、倉庫業務ト云フカ、如キモノヲ

講演セシメ、下級行員ノ練習ニ便ナラシメム

トス

尚又競技會ナルヲ設ケ手跡筆算等、  
技藝ヲ競争練磨セシメントス

人格ヲ養成方法ハ最モ困難ナルモ要ハ中央  
幹部又ハ地方幹部タルヲ實踐躬行  
其範ヲ示シ或ハ讀書會或ハ講話會ヲ  
利用シ人格养成ノ空氣ヲ注入シ其他  
娯機ノ方法ヲ採ラントス

体育ニ関シテハ從來運動會ヲ催フニ或ハ  
テニス競技ヲ為ス等多少ノ設備アルモ尚  
一層其範圍ヲ擴張シ擊劍、柔道、  
弓術、其他各嗜好、應シ規則的永續  
的ニ之ヲ實行セラント期ス

(乙) 特別養成方法

本項に關シテハ種々アルレト云モ其當リ實行セラルル露語及支那語ノ練習アリ從來必要上行員三々五々寄合ヒテ講習ヲ為シタルトアルヲ聞クモ今日ハ之ヲ聞カス而シテ常行ノ考案ト昔ニ西國語ノ必要刻々相迫リツアルハ西國語研究ノ為頭腦已行員各數名ヲ選擇シ強制方法ヲ設ケテ其養成ヲ圖ラントス

(ハ) 行員ノ進級、給與及保障に關スル規定ヲ制定スル改善スルヲ

行員ノ進級に關シ一定ノ規則ナキハ行員ヲシテ前



達ノ希望ニ對シ慰安ヲ告フル所以ナリ又現  
行給與内規及保障規定ノ如キハ時運ノ推移  
ト共ニ存ノ必要ナリ認ム右ハ目下委員ニ於テ  
研究中ニ属スルヲ以テ退テ別途開進スルニ

#### 第四、業務上重要具體の問題ニ關スル臆見

##### (一) 普通銀行ト競争セサルヲ

本問題ニ關シテハ優待閣下ヨリ親ク訓示ヲ聞  
ク所ニシテ動モスレハ當行カ世間批評ノ的トナル所  
ノモノニ觸スハ職 就任以來事實ニ付調査スル  
所アリレハ大体ニ於テ閣下ノ訓示ニ背ク所ナキカ  
如シ例ニ預金付テ見ルモ當行ハ常ニ預金公  
定率ヲ公表シ或種ノ銀行ノ如ク公定率ヲ蔑

表シテ、裏面ニハ得る先如何、依其利率ノ上  
下スルカ如キトテ嚴禁シシカモ該利率ノ常ニ  
普通銀行ノ下ナリ又貸出ニ付テ見ルモ以策上  
特種關係ノアルモノ以外ハ現況ニ於テ普通銀行  
ヲ壓迫スルカ如キ事實ナシト信ス

現況叙上ノ如シトモ、當行ハ國家機關トシテ超  
然タル態度ヲ取ルト同時ニ朝鮮開發上漫  
然他銀行ヲ氣兼ねテ袖手傍觀スル能ハサル  
場合アリ斯ノ如クハ國家機關タル半面ノ  
意味ハ全然没却セラルヘケレナリ

然レトモ本項ニ關シテハ尙將來最モ慎重ナル  
注意ヲ拂ハサルヲ方ラサルハ勿論ニシテ此意味ニ

於地方金利及手数料、統一ノ如キハ既調  
査研究ニ着手シ倍レリ

(四) 正債準備ノ由内地利殖ヲ漸次差控ル  
コト

當行設立ノ際紙幣發行ニ關スル正債準備ニ  
關シテ種々ノ議論アリテ學理的ニ云ハ正債準  
備ハ即チ其名ノ表明スルカ如ク正債ヲ以テ蓄積  
セサルハカラス然レトモ當時我日本銀行ハ其正  
債準備ニ關シテスラ困難ナル問題多ク隨テ  
當行準備付ラモ主トシテ日本銀行兌換券ヲ  
以テスル結果トナリタルハ詳説ヲ要セサルニ而  
シテ歐洲戰事ノ結果正債關係ハ頗ル我ニ

有利にして五億三千万円に達してよりト是モ日本銀行ノ内地に保有するモノ一億六七千万円に過ぎず其他ノ巨貨準備ハ何レモ外國に存シテ運用セラルコトアル状態に在レハ當行準備シ巨貨トスルノ大体方針ハ之ヲミツルコトヲ得ルモ其実行ハ尙困難にして之ヲ大成スルハ中央銀行巨貨内地保有高ノ關係ト當行蓄積ノ程度トと鑑ミ極テ徐々ニ武歩ヲ進メサルヲ得サナリ

朝鮮ハ内地ニ對シテハ從來亦巨額ノ巨貨流出ノ關係上當行モ從來頗ル苦心經營スル所アリ陸ヲ準備スル日本銀行兌換券ノ一部ヲ内地ヲ確實ナル方面ニ利殖スルノ點許ヲ

受ケ居ルカ是レ憶テ日本銀行カ其準備ヲ海  
 外ニ利益スルト同一筆法ニシテ嚴格ニ云ハル面  
 カラサル現象ニシテ一日モ之ヲ廢止セサルカ  
 ヲナリ然レトモ事實ハ容易ニ之ヲ実行スル  
 難シ日本銀行海外準備ノ下ハ暫ク拮据  
 行ノ協合ニ付考フルニ當行ハ前諸項ニ述  
 ベル其發展スル方面、事項夥多ニシテ度  
 展ノ初期ハ失業ノ之に伴フ如何ナル事業  
 關シテモ強シト通則トスル所ナリ加之戦争ノ結  
 果最モ不収ノ結果ヲ来セルモノハ銀行業務  
 ニシテ此不収ハ尙尙分持續ノ趨勢ニ在リ尙  
 又根本ヨリ論セバ他ノ特種銀行ト比較シテ尙

行力政府ノ思曲ヲ受ケル下多力ス一方第一銀  
行ニ對スル無利子六百有餘万円ノ貸出ヲ存シ  
其貸出頗ル容易ナラシムル状態ヲ存シテ當行  
正債準備由地利延高ハ半期六万円由外ニシテ  
強ト半期延高ノ一割以上ニ達スル此利益ヲ  
減縮スルトキハ當行ノ如キハ經濟ニ於テハ實ニ  
多大ナル影響ヲ受ケルハ論ヲ俟タス依テ茲ニ  
問題トシテ生スヘキハ大体論トシテ當行ノ發展  
ヲ急務トスルカ正債準備由地利延高止ラ急  
トスルカト云々存シ此裁斷ニ依リテ問題ヲ自ラ  
解決スヘシト信ス小職ノ見ル所ヲ以テセハ商  
行ノ發展ハ国力發展ノ上一日モ緩マズヘカラス

之ノミレテ多少法理的ノ都合ヲ忍フモ大勢ニ乗  
 ツテ進ムヲ得果ト信ス当行ニテ若展ニ正當業  
 務ノ利益増加セムカ準備利益ノ如キ言ハシテ  
 連レ之ヲ廢止スルヲ得ヘシ今日モテ準備利益廢  
 止ニ重キヲ置キ若展ヲ止スルトキハ所謂角ヲ  
 鋸多牛ヲ殺スモノ達識ノ士ハ之ニ些セサルヘキヲ  
 信ス依テ將來方針ノ方針トシテハ極メテ徐々ニ  
 準備由地利拉ヲ制限シ鋭意若展ノ度ヲ追メ  
 業務上ノ利益ヲ舉ゲ以テ全席ノ目的ヲ達シ尙  
 日本銀行更振方ヲ正債トスルコトモ右等ト相  
 伴テ其實跡ヲ舉クニハ努ムトス

## (ハ) 當行由地利拉ノ制限ノコト

當行内地放資に關シテハ從來大藏省ノ方針  
 トシテ内地普通銀行ト競合ヲ避クル爲之レカ  
 取締ヲ嚴重トセリ事涉ハ華僑銀行カ神  
 戶大改ニ支店ヲ置キ數年前大ニ預金ヲ吸  
 収シ放資ヲ爲シタル爲普通銀行ノ反感ヲ  
 買ヒ普通銀行ハ大藏省ニ通ル所アリテ政  
 府ハ華僑銀行ニ向テ戒シタルヲアルニ  
 起因ス當行モ亦内達アリテ内地放資シ嚴  
 密ニ取締ラレタルカ如シ是レ畢ク當行カ  
 朝鮮ニ於ケル特種機關ニシテ資力ヲ内地ニ  
 合ツ石ヲナルトモ亦其理由ノ一古ヘシト信ス是レ  
 大体ニ於テ然ルヘキヲトシテ當行ノ如キモ亦幸ニ



之ヲ通奉ニ居リ然レトモ小職ノ見解ヲ以テセハ  
内地ニ於ケル経済界ノ若慮ハ長足ノ進歩ヲ為シ  
金融機關ハ其後廢ラ進マシ進ムノ状況ニシテ  
某等銀行ノ如キ尚依然トシテ内地ノ預金吸  
収貸付等ヲ盛ニ努メツアルモ今日ハ最早  
同業者ノ反感少ク大抵者モ亦之ヲ親近シ  
アル状況ニシテ斯ノ如キトク累々スル時世ハ最  
早過キ去リタルカ如キ感アリ内地ニ於ケル事情  
既ニ斯ノ如シトセハ各行ニ移ル例ハ今日ノ如ク  
朝鮮満洲等ニ全カク尽シ尚餘額金下リテ  
之カ運用利益ニ苦ムカ如キ場合ニハ内地ニ於テ  
朝鮮關係以外ノモノモモ投資スルモノ乏シナル

支那  
債權  
力下  
差支  
以外  
可

ハ從來大藏省ノ方針  
競合ヲ避クル爲之レカ  
トシハ普通銀行カ神  
每年前大ニ預金ヲ吸  
普通銀行ノ反感ヲ  
州者ニ逼ル所アリテ政  
計戒シタルヲアル  
アリテ内地放資シ嚴  
シ是レ畢ニ之ニ當行カ  
關ニシテ資力ヲ内地ニ  
理由ノ一古ヘシト信ス是レ  
レテ當行ノ如キモ亦事ニ

モ少聯ノ見解ヲ以テセハ  
長足ノ進歩ヲ為シ  
進フテ近々ノ快望ニシテ  
此トシテ内地ノ預金吸  
引アルモ今日ハ最早  
藏者モ亦之ヲ親近ニシ  
トシ置カスル時世ハ最  
アリ内地ニ於ケル事情  
極例ハ今日ノ如ク  
シテ尚餘額金ナリテ  
半坊合ニハ内地ニ於テ  
投資スルモ足支ナカル

二月 半 限 了

支那滿洲露國ノ關係ノ有る  
債權公債ナリ引受リ爲シ又餘  
力ハ坊合ニ内ニ債ノ引受ニ應ズハ  
差支モトスルハ内地ニ於テ朝鮮關係  
以外ノ者ニ投資スル下ニ當リ是レ今ノ事  
可リス



つて信ス勿論常ニ監督ニ注意シテ放漫ニ  
陥ラシメサルニ極力努ムキヤ言フ俟タズ小職ハ  
徒ニ監督官廳ヲ非議スルコトアラス又朝鮮銀  
行ノ立場ヨリシテ云々云々云々云々云々云々云々  
云々所ヲ披瀝シテ閣下ノ一瞥ヲ煩ハスニ過キサル  
ナリ

(二) 滞債整理及欽換補填ノ事

貴行滞債及欽換ト見ルハキチハ最近調査  
スル所ニ依レハ総額六拾七万六千餘圓ト上レリ  
以上ハ固ヨリ全然回収不能ト見ルハキチハ多ク不  
朝鮮ニ於ケル経済上ノ關係変化多キ今日ナ  
レハ或ハ永久ニ更テ回収シ得ハキモノ多ク数ニ

生るトモ断定シ雖シ依テ滞債欽拂ノ因  
別モ今日ニテハ支令ニ立テ雖キヲ以テ凡テ滞  
債ノ名目ノ下ニ回収ノ難易ヲ依テ想シ之ヲ三  
種ニ區別シ漸次整理ノ實ヲ舉ケラトシ既  
ニ成案ヲ得居ルモ尚一層慎重調査ノ上不  
日計算書ヲ具シ貴庠ニ達セラト思考居  
ル

右ハ小職カ短期間ニ於テ感知シ名モノ屬シ尚漸  
次進ム行務整備考慮ヲ期シ以テ國家機關タルノ  
任務ヲ完シ閣下訓示ノ万一誤公トテ欲ス

大正五年五月

朝鮮銀行總裁勝田主計



朝鮮總督伯耆寺内正毅閣下



## 滿洲金融機關之整備ニ関スル意見

滿蒙ハ日清日露兩大戰役ノ結果トシテ帝國ノ勢力  
範圍ニ歸シ之ヲ開發ハ夙ニ帝國ノ使命ニ屬スル所ニシ  
テ同地ニ於ケル邦人ノ經濟的發展モ亦漸ニ進マテ成果ヲ  
見ルニ至レリト雖從來關東州租借地及南滿洲鐵道附  
屬地ニ除キ其他ニ在リテハ我ニ居住旅行ノ權ナク農商  
工其他ノ事業ノ營ムニ對シ幾多ノ障礙ニ存セシ爲メ邦  
人ノ發展速カナルト能ハザリシハ頗ル遺憾トモセシ所ナリ  
今回日支新條約ノ成立スルアリ日支間多年ノ懸案解  
決シ告ゲ從テ滿蒙ニ於ケル上述ノ障礙ハ悉ク一掃セラレ  
タルノミナラス更ニ諸種ノ利權ヲ獲得スルニ至リシヲ以テ今  
後滿蒙ニ於ケル帝國經濟的勢力ノ發展頗ル大ナルモノ  
アルヲ期待シ得ヘシ然カモ滿蒙ニ於ケル産業ノ開發ニ對シ

テハ必スヤ巨額ノ資金ヲ要スヘク從テ之カ資金ノ供給調節  
ノ任ニ當ルヘキ金融機關ノ整備ヲ計ルハ最モ急務トナス  
所ナリ既ニ臨時議會ニ於テ之ニ関スル建議案提出セラレ衆  
議院ニ通過スルニ至ルカ如キ一般ノ趨勢ヲ示スモノニシテ早  
晩其實行ヲ見ル一日アルヲ信ス唯此等金融機關ノ組織如  
何ハ最モ慎重ナル考慮ヲ費ヤサルヘカラサル所ニシテ若シ  
其組織宜シキヲ得サラムカ當ニ滿蒙開發ノ大目的ヲ達スル  
能ハサルハミナラス或ハ為ニ却テ同地邦人ノ經濟的發展ヲ  
阻害スルノ結果ヲ生スルコトナレトモス

滿蒙ノ開發ハ金融機關ノ整備ニ係ル所大ナルコト上  
述ノ如シ而シテ之カ為メ設立セラルヘキ金融機關ノ任務ハ一  
面滿蒙開發即チ農業工業鑛山鐵道等ニ對スル資金ノ供  
給ヲ為スコト、他方滿州ニ於ケル商業資金ニ資スルト共ニ統一



セル通貨ノ供給ニ計ルコト、二大項目ニ分ツトシ得ヘシ此ノ二個  
任務ハ其性質互ニ相異リ從テ前者ハ拓殖銀行ノ任務ニ屬  
シ後者ハ發行銀行ノ任務ニ屬ス茲ニ於テ乎問題ハ一銀行ニ  
シテ此ノ二個ノ業務ニ併セ當マシムヘキヤ又ハ二行ニ併立セシ  
ムヘキカニアリトス均シク金融業務ト稱スルモ拓殖放資業  
務ト商業放資業務トハ其信用ノ基礎ニ於テ相異ナルモノア  
ル以上之ヲ別箇ノ銀行ニ委スルハ論理ノ自然ナルヘシ或ハ一銀  
行ニ此等ニ方面ノ業務ニ兼當セシムルトスルモ截然兩者ノ  
業務ニ區別シ商業資金ニ對シテハ銀行券ノ發行ニヨリ拓  
殖放資ニ對シテハ別ニ債券ノ發行ニヨリ當マシメ彼等混同  
シ許サントコト、十サハ敢テ不可ナシト云フ者アリト雖各國  
殖民地銀行制度ニ通觀スルモ發行銀行ニシテ不動産抵  
當貸付等長期放資ニ無當スルモノ極メテ少ナク會々少數

ノ両者ヲ兼営スルモノアリト雖其、抵當貸付部ハ極メテ不  
振ノ状態ニアルヲ常トスルコト獨亞銀行ノ实例ニ徴スルモ知  
ルヲ得ヘシ又現ニ滿州ニ於テ正金銀行支店、特別貸付カ  
停滯不振ノ域ニ脱セス在滿邦人ニシテ常ニ不満ノ歎ヲ發  
セシメツ、アルカ如キ何人モ知ル所ナリ蓋シ此ノ如キハ商業  
資金ニ主トスルト長期信用ニ主トスルト自カラ業務經營ノ  
方針ニ異ニセサルハカラサルハ勿論銀行ノ經營者ニ非常ノ材  
幹ヲ得ハ格別孰レカ一方ニ偏スルハ免ルハカラサル所ナルト共  
ニ亦他方ニ於テ債券ノ發行ニヨリテ資金ヲ吸収スルハ銀行  
券ノ發行ニヨリテ資金ヲ得ルト其難易同日ノ論ニアラス  
為ニ難キヲ去テ易キニ就クノ傾向ニ生スルハ當ニ個人ノ弱  
点ナルノミニアラス從テ債券ノ發行ニヨリ當マルヘキ長期  
貸付ハ自カラ閑却セラル、ニ至ルハ避ケ難キ現象ナリ然

ルニ拘ハラズ強テ一銀行シテ兩者ヲ兼當セシムルノ可ナル理  
由ニ發見スルニ甚シマサルヲ得ズ是ト告人ノ發行銀行ト拓  
殖銀行トヲ併立セシメ前者シテ銀行券ノ發行ニヨリ專  
ラ短期商業資金ノ放出並ニ通貨ノ調節ニ當ラシメ後  
者シテ債券ノ發行ニヨリ長期拓殖的貸付ニ應セシムルヲ正當  
トナス所以ナリトス

滿蒙ニ帝國ノ經濟的勢力ヲ扶殖シ我商權ヲ擴張セ  
ムト欲セハ必スヤ其前提トシテ滿州ニ於テハ幣制ノ統一ヲ計  
ラサル可カラス幣制ノ統一ヲ計ルニハ我ト同一本位ノ通貨ヲ  
普及セシムルヲ以テ第一トス然リ而シテ斯ノ如キ事業ヲ遂行  
セントセハ必スヤ同一本位ノ銀行券ヲ發行スル發行銀行ヲ要ス  
ルヤ言フ俟タサル所ナリ而シテ此ノ任務ハ滿州ノ拓殖資金  
ノ供給ヲナスヘキ銀行シテ之ニ當ラシムルノ不可ナルト前ニ

述タルカ如シトセハ茲ニ考究スヘキ問題此ノ任務ニ當ル  
ヘキ銀行ヲ如何ニナスヘキヤニアリ之ニ對シ三個ノ方法アリ即  
チ一、新ニ中央銀行ヲ特設スルカ二、橫濱正金銀行ヲシテ之  
ニ當ラシムルカ又三、朝鮮銀行ヲシテ之ニ當ラシムルコト是ナ  
リ

一、新ニ滿州中央銀行ヲ特設スルコトハ一見極メテ合理ナルカ  
如シ即チ臺灣ニ臺灣銀行アリ朝鮮ニ朝鮮銀行アルハ  
上文滿州ニ滿州銀行ヲ必要トスルハ當然ナルカ如シ然レバ如  
ク各殖民地毎ニ別箇ノ中央銀行ヲ創設スルハ單ニ理論ニ偏  
スルハミナラズ徒ラニ銀行ヲ地方的ナラシメ活動ノ範圍ヲ狹  
小ニシテ其職能ヲ充分ニ發揮セシムルコト能ハサラン  
ルニ過ギス臺灣ハ母國及ヒ朝鮮ヲ去ルコト遠ク從フテ  
別箇ノ中央銀行ヲ有スルハ事情已ムヲ得ストスルモ滿鮮ノ如

キ相隣接セル同一地域ニ於テ更ニ別箇ノ中央銀行ヲ設クル  
カ如キハ唯タ同一ノ使命ヲ有スル別箇ノ機關ヲ増設スルニ  
止マリ素ヨリ無用ノ業ノと思フニ帝國ノ大陸經營ハ先ツ滿  
蒙ニ於ケル勢力ノ充實ニ努メ遂ニハ朝鮮ト合体スヘキ經  
濟地域ヲ作ルニアリ従フテ之ヲ經營ノ中心機關タルヘキ中  
央銀行モ又同一共通タルヲ要スルハ必然ノ數、之且ツ試ニ  
列國ノ財界ノ現状ヲ見ヨ金融機關ハ皆相競ッテ資本  
ト勢力トノ集中ニ力ヲ相互ニ從來ノ歴史ヲ抛擲シテ大  
合同ノ實現ニ熱中シツ、アルニ非ラヌヤ滿蒙ノ小天地ニ新ニ  
中央金融機關ヲ分立セシトスルカ如キハ現代ノ趨勢ニ背  
反スル地方的偏見ニ過キス大陸經營ノ大志ヲ抱キモノハ其  
氣宇ニ大ニ宜シク滿蒙ニ包含スル大規模ノ中央銀行ノ  
發現ヲ策ヤサルヘカラスト信ス

(二) 横濱正金銀行ハ從來滿州ニ於テ銀券ヲ發行シ近來更  
ニ金券ヲ發行スルニ至リ又滿州ニ於テ國庫金ノ取扱ヲ為  
ス等中央銀行タルノ職務ニ當リツ、アリ然レモ同行ハ本來  
其ノ性質純然タル為替銀行ナリ換言セハ外國為替ノ賣買  
買ヲ以テ其ノ主タル業務トセリ即チ同行カ平素最モ其ノ精  
力ヲ傾注スル所ハ内外為替ノ調節ニアリ滿州ノ如キ小々地方  
ニ躊躇シテ特種ノ活動ヲ為サントスルカ如キハ固ヨリ其ノ目  
的トスル所ニアラサル也從テ同行カ滿蒙ノ開發及シ同方  
面ニ於テハ邦人ノ勢力ヲ扶植ノ如キ事業ニ對シテ常ニ殖民  
地當然ノ要求ニ適應スルノ處置ヲ採ル能ハサルハ自然ノ數  
ナリ現在ニ於テモ特種貸出ノ制度ヲ設ケテ僅カニ之カ缺  
点ヲ補ヘリト雖モ本來殖民地ノ実情ヲ考慮シ迅速ニ且  
以同情ヲ以テ其取扱ヲ為サルカ為メニ右貸出モ常ニ一般

不平、標的トナリ居レリ思フニ滿州ニ於ケル正金銀行ノ當局  
者ハ其ノ四圍ノ情況ニ鑑ミ漸次ニ殖民地ニ於ケル放資狀  
況ト母國ニ於ケル夫レトハ大ニ其ノ趣<sup>ヲ異ニ</sup>セサルヘカヲサルコトシ  
了解スルニ至ルヘキモ遠ク殖民地ヲ離レ而シテ對外為替  
ノ調節ニ没頭シツ、アル本店當局者カ殖民地銀行ノ幹部  
カ為スカ如ク殖民地ニ於ケル特種業務ヲ熱誠ニ以テ處理  
スルニ至ルヘシトハ思惟スル能ハサルナリ是レ正金銀行ノ本來  
性質上到底免ル能ハサル當然ノ結果ナリ夫レ正金銀行ハ  
前述シタルカ如ク別ニ重大ナル任務ヲ有ス而シテ今同行カ  
果シテ此等ノ任務ヲ完全ニ遂行シ得タリヤト云フニ未タ必  
ズシテ然ラサルモノアリ例ヘハ同行ハ歐洲大陸ニ於テハ僅カニ  
佛國リオンニ一支店ヲ有スルニ過キサレニアラスヤ從フテ同  
行ハ戰後獨乙及シ露國ノ重要市府ニ對シテ出店ヲ要

スルニ至ルヘキハ明瞭ナリトスヘク其他太平洋岸ニ於ケル英  
領加奈陀、巴拿馬運河ノ開通ニ伴ヒ貿易ノ勃興ニ来ス  
ヘキ南米及ヒ近時ノ新現象タル商勢ノ南進ニ伴ヒ南洋  
方面ニ於テ一大活動ヲ為スヲ緊要トスルコト亦贅説ヲ待  
タサル所ナリ夫レ然リ正金銀行ハ近キ将来ニ於テ遂行スヘ  
キ斯ノ如キ多大ノ任務ヲ有ス其ノ端蒙ル如キ一小局部ヨリ  
脱却スルハ恐クハ其望ム所ナラン當局者ハ此点ニ関シテ  
特ニ重要ナル考慮ヲ費サレンコトヲ切望ス

三、新設銀行及正金銀行カ滿州ニ於ケル中央銀行タルニ  
適セサルハ上述ノ如シ果シテ然リトセハ政府ハ宜シク朝鮮  
銀行ニ以テ之レニ當ラシムヘシ抑モ朝鮮銀行ハ朝鮮ニ於テ  
ル中央銀行トシテ特ニ設立セラレタルモノナリト雖其ノ營業  
ノ範圍極メテ廣泛ニシテ一面發行銀行タルト同時ニ一面



亦殖民銀行トシテ國家的任務ヲ盡ス上ニ於テ最モ適當ナル組織ヲ有セリ唯其ノ營業ノ地域カ主トシテ朝鮮内ニア  
ルコトハ創立ノ際ニ於ケル事情上勢ニ然ラサリシヲ得サリシ  
為メニテ其必スモ之ヲ營業地域ニ朝鮮内ニ限定スルノ主意  
ニアラサリシハ創立ノ當時既ニ安東縣ニ於テ支店ヲ有セシ  
ノ一事ニ徴スルモ明カナリ思フニ朝鮮銀行カ朝鮮ト相隣  
接セル我勢力範圍地ニ發展セムトスルハ自カラ創立當初  
ノ目的内ニ包含セラレタル主要事項タラズンハアラサルナリ  
而シテ同銀行ハ此等當初方針ニ基キ大正二年七月以降  
新ニ滿州ニ三支店及一派出所ヲ増設シ以テ其ノ目的ノ  
貫徹ニ努力シ、アリ夫レ本國ト事情ヲ異ニセル新領土  
ニ對シテ特種ノ銀行ヲ設立セシドスルハ歐洲列強カ殖民地  
經營上皆其ノ規ヲ一ニスル所ニシテ而シテ事情ノ許ス限リ

其ノ營業地域ニ廣大ニシ特ニ其隣接セル勢力範圍地域  
ニ對シテハ力ヲテ同一銀行ニシテ之カ經營ノ任ニ當ラシメツ  
ツアルコトハ亦殆ント常例トスル所ナリ是レ本來勢力範  
圍地域ニ對スル行政的見地ヨリ且ツ隣接地相互ノ經濟  
的便益ヨリ打算セラレタル政策ヲラスンハアラサルナリ今滿  
蒙ノ地勢ヲ按スルニ滿東洲ノ如キハ我領土權ノ行ハル地域  
ニ有スルモ其ノ面積僅ニ二百十八方里ニ過キス又滿東洲以外  
ニ於テ我行政權ノミノ行ハル、鐵道附屬地ヲ有スルモ其ノ面  
積漸ク十方里餘ニ過キス其ノ他ノ大部分ハ所謂我勢力  
範圍地タルニ止マリ未ク獨立ノ經濟地域ニ存スルアルニアラサ  
ルナリ從ッテ其隣接地タル朝鮮ニ於ケル中央銀行カ其同  
般經營ノ任ニ當ラムトスルハ素ヨリ當然ノコト、スヘキノミ  
且夫レ試ニ思ヘ旅客一度馬關海峡ヲ過キリテ釜山ニ上陸

セカ母國ト異リタル別箇、朝鮮銀行券アルコ見シテ  
僅カニ鴨綠江ヲ渡シハ更ニ別種ノ銀行券ノ流通スルヲ見シ  
テ、如キハ當ニ不便ナル、ミナラス又帝國ノ大陸政策ト相  
容セサルモノナリ夫レ滿鮮ヲ打テ一國ト爲シ之ヲ同一經濟地  
域トナスコトハ識者ノ均ク唱道スル所而シテ之カ手段トシ  
テ滿鮮通貨ノ統一ヲ必要トスルハ論ヲ俟タサル所ナリ此ノ  
見地ヨリ朝鮮銀行ヲ以テ滿鮮共通ノ中央銀行タラシムル  
ニトハ必須ノ要件ナリト信スルモノナリ更ニ朝鮮銀行ハ當  
テ朝鮮ニ於テ紊亂セル幣制ヲ整理シ亦邦人ノ發展及シ  
利權ノ扶植ニ腐心シ能ク殖民地銀行タルノ任務ヲ全フシ  
タルノ經驗ト信用トヲ有スルヲ以テ之ヲシテ滿蒙ニ於テ  
ル恰モ類似ノ一大任務ニ服セシムルハ最モ其當ヲ得タルモノ  
ナリトス若シ夫レ資本金、如キハ業務ノ發展ト共ニ之ヲニ

倍若クハ三倍トナスハ容易ノ業ナルヲ以テ問題ト爲スニ足  
ラス

以上中央銀行ノ外亦滿州ニ於テ之ノ開發資金ノ供給ヲ  
爲スヘキ一拓殖銀行ノ設立ヲ急務ト爲スコトハ既ニ述ヘタリ  
此拓殖銀行ハ一面ニ於テ農工業鑛山鉄道等ニ對シ長期  
低利貸付ヲ業トスルノコトヲス更ニ進テ滿蒙ニ於テ諸般  
事業ノ調査計畫發起ノ任ニ當リ亦此等事業會社ノ株  
券又ハ債券ノ引受等所謂企業の放資業務ヲモ當マシメサ  
ルヘカヲ入即チ拓殖銀行ノ性質一面母國ニ於テ勸業銀行  
及ヒ朝鮮ニ於テ東洋拓殖會社金融部ノ如ク不動産銀行  
タルト同時ニ一面證券銀行タルヲ要ス此點滿蒙開發目的  
ニ達セシムル上ニ於テ最モ緊急ノ事項トナス所ナリ斯ノ如ク  
其放資ハ主トシテ長期固定の性質ヲ有スヘキ故ニ之ヲ

資金モ亦主トシテ債券、發行等長期ノ信用ニ於テ求ムル  
ヲ要スヘキハ論ヲ俟タス

△新ニ設立セラルヘキ拓殖銀行ノ組織ヲ如何ニスヘキヤハ次  
ニ考慮スヘキ問題ナリ既ニ銀行ノ目的ハ滿蒙ノ開發及  
邦人ノ勢力扶殖、援助ニ存スルヲ以テ政府ハ之ニ對シ充分  
ノ保護ト監督トシ必要トナスハ言ヲ俟タサル所又南滿州鉄  
道會社ハ單ニ一鉄道會社タルニ止マラス其ノ目的廣ク滿蒙  
開發ノ使命ヲ有スルモノタルカ故ニ新設拓殖銀行トハ此ノ  
点ニ於テ又密接ナル關係ヲ保持スルノ必要アリ次ニ朝鮮銀  
行ハ將來滿州ニ於ケル中央銀行タルノ職務ヲ採ラレムルニト  
前述ノ如シトセハ一般金融調節ノ任ニ當ルヘキ同行ハ又拓殖  
銀行ト至大ノ關係ヲ有セサルヘカラス之ヲ以テ新設拓殖銀  
行ノ資本金ハ政府、滿鉄及朝鮮銀行ニ於テ其ノ大部分ニ出

資<sub>ニ</sub>其他<sub>一</sub>部分<sub>ハ</sub>廣ク一般公衆ヨリ募集スルヲ至當トス  
而<sub>ニ</sub>テ政府ハ其<sub>一</sub>持株<sub>ニ</sub>對<sub>シ</sub>若干年配當シ受ケサルカ如  
キ一般株式<sub>ニ</sub>對<sub>シ</sub>一定ノ年限内利子<sub>一</sub>補給シ約スルカ如キ  
此ノ補給期間ハ滿蒙開發ノ前途ノ遠近ナルニ鑑<sub>ミ</sub>成ル<sub>ヘ</sub>  
ク長期ト為スカ如キ問題又考究ノ必要アル<sub>ヘ</sub>シ

上申書

今般支那奉天省有財界救濟協會等之金式  
百萬圓也。當行其保證之度者甲乙有之。候其左  
記條件。以之在金額貸付度。有能履各條件中  
酒稅及契稅。擔保之一條。債務不履行。場合  
之擔保權。每日行客易。之。縱令約束。上優越  
之方法。規定之。其強制力。勢致。御覆助  
。御外並。下被存候。就。右借款。應元。件  
御。系。被。傳。教。不。履。上。場合。於。傳。教。者。  
費用。以。政府。示。可。然。御。處理。被。下。候。樣  
御。聽。客。相。成。度。此。改。奉。願。候。也。

大正五年七月二十七日

朝鮮銀行

朝鮮總督府對華借款閣下

記

一、貸付金額

和貨金壹百萬圓

一、返済期限

一、十年後、於其後壹百萬圓、及返済  
三、十年後、於其後壹百萬圓、及返済

不  
二、十年後

一、使

途

奉天財界、及返済資金、使用、不

一、交付金額

金壹百萬圓、對其拾五圓、割

一、利息及附屬條件

利率、年六分五厘、更、大正

一、申、大正

月及日七年

月、兩度



ニ於テ借款現存金額、百分ノ貳  
半ヲ當行ニ交付スルコト

一 擔保及附帶條件

本行有酒稅及契稅年收大洋銀  
叁百萬元ヲ擔保トシ借款不廢行  
場合ニ借款者ノ費用ヲ以テ當行通  
常ノ銀行方法ニテ且收入中ヨリ元利  
金ヲ度入ルコト

借款契約証書案

大中華民國奉天財政廳長（以下甲と稱す）  
大日本朝鮮銀行（以下乙と稱す）ヨリ日本金  
百萬圓也。借款ヲ爲スニ付左條項ヲ契約ス。  
第一條 甲カ乙ヨリ借入ルヘキ金額ハ日本金  
百萬圓也。本契約締結ヨリ起算シ七箇月以內  
に受渡スルヘキトス。

第二條 本借款ハ甲ハ於テ專ラ奉天支那財  
界救済ノ資金充當シ決シテ其他ノ目的ニ使用セ  
ザルコトヲ言明ス。萬一他ノ目的ニ爲メハ使用シタルキニ期  
限ハ利益ヲ失フモノトス。

第三條 本借款金額ノ交付及返還ノ場所以均  
セテ奉天トス。

第四條 本借款金額、交付毎金壹百萬圓、對  
應金九拾五圓、割合、以計廿五萬圓、金額、之文  
付、以之、完了、シタルモノトス

第五條 本借款、中金額壹百萬圓、期限、一十年  
トシ、大中華民國七年 月 日、即大日本帝國大  
正六年 月 日、以之返済、殘額、壹百萬圓  
トシ、期限、壹十年トシ、大中華民國八年 月  
日、即大日本帝國大正八年 月 日、以之返済  
スヘキモノトス

第六條 大中華民國七年 月 日、即大日本帝國大  
正六年 月 日、及大中華民國七年 月 日  
、即大日本帝國大正七年 月 日、兩度、借  
款、現存金額、以之、交付スヘキモノトス

在各期限内、ア、本借款元金及還付金

は、前記の通りである。

第六條 本借款の利息は、年利六分五厘

即ち金壹百圓に對して、年金六圓五拾錢に

割合する。計、甲、乙、支拂の順序に

第七條 前條の利息は、本契約の調印の日

起算し、毎半年、支拂する。

第八條 本借款の元金と利息とを確保する

甲、乙、對、奉天省の酒税及契稅全部の擔保

として提供する。

第九條 本甲、乙、前條の酒税及契稅の收入状況は、

明細を、毎年、申奉及同元年以降、前年度、至

間、豫算額及に實收額を、乙、支拂の爲め

借款返済済了後、間隙差額及び實收額を乙に通知するものとする。  
第十二條 本借款の擔保申、本契約締結前、何れ他、債權、對しては擔保として提供し得ないこととし、言明し、且、本契約借款の元金及び利息の間に、何れ他、債權、對しては擔保として提供せられず、又

第十三條 本借款の各期限、甲は債務の履行を爲すに必要と認め、酒税及び契稅の與適當と思惟する方法に依り、元金に先當りて得るもの、此の場合、於て甲は如何なる事情あるに依り、處置を對し、切實に、甲は之を爲すを得るものとす。

第十四條 甲は乙が前條の擔保權を行使する爲す、

必要トモ一切ノ費用ヲ負擔スルヲ約ス但シ甲ハ在舊  
用リ支辭スルヲ不便トモ場合ニ乙ヲシテ本借款  
元利金、准シ酒税及契稅ヲ以テ之ニ充當セシムコ  
トヲ承諾ス

第十三條 本借款ノ各期限、於テ甲ハ債務ノ履行  
ハ行フ爲サントキ其期限後ニ於ケル元利金、對シテ利  
亦ハ二年一割、新金ニヨリ甲ヨリ乙ニ支拂フヲトス

第十四條 乙ハ擔保擔、行使ヲ爲ス、當リ酒税及  
契稅、年收額、百萬元、充當セサントキ甲ハ他、歲  
入ヲ以テ補填スルヲ承諾ス

第十五條 本契約ハ日華文各以由リ作成シ甲乙互  
、各一通ヲ所持スルヲトス

大中華民國庚午天財政廳長



大日本朝鮮銀行奉天支店長 ○

大日本大正五年 月 日

大正五年 月 日

在 証 証 証

奉天省長 ○

名称	<del>加藤高明</del> 寺内正徳文書
標題	<del>加藤高明</del> 憲兵隊・軍肉保

分類 番号	
	439
	33

国立国会図書館

登録 番号	
----------	--



憲兵隊軍關係

第六号

陸軍大五

總督

陸軍大五  
總督  
陸軍大五  
總督

新編官兵隊大中佐各一名  
ヲ佐二之變を豫メリト聞  
王目下新編ノ状態ハ尚極急  
ナルヲ以テ編制ヲ改ムルノ時期  
ハ又統治上不利ノ事ト存スル  
以上現在ノ條々據正置カレ  
リ切望ス

# 賞書

千九百十三年四月 予はジャバニメールの特分を金五千円まで買い求  
 めし、<sup>タリル金</sup>予の不在中、及び其の後の十箇月間、於ける同残<sup>タリル金</sup>帳上、  
 損失は其の額九千六百円より、予は其の半額即ち四千  
 八百円を支拂ひたるを以て、千九百十四年二月に於て予は合計  
 九千八百円を支出したる、<sup>二月半</sup>同月購買の選擇權<sup>附シテ同紙、管理權</sup>を行使  
 したるは、三千円を支拂ひ、<sup>取得シタル金</sup>全部の持分を<sup>タリル金</sup>取得せしを以て  
 千九百十四年二月に於て予の支拂總額は一万二千八百円に達  
 したり、然るに千九百十四年二月より千九百十五年二月に至る  
 マールの損失金額は六千円よりしを以て、予は前後を相  
 引いて總計金一万八千八百円を支拂ひたり。

千九百十五年五月ブルンクリー財團の相続人は其の金財

赤字を一万五千円を以て譲り出せしぐ内八千円は五箇年年  
賦するを拂はるる事ありき。

予は其の際に「ジー・アル・ブルナリ」氏に彼が支配人として受  
取るべき金額二千五百円を支拂ひたるを以て（此の金  
額を得る事は彼の期待せざりし所なり）予のメー  
ニ支出せし総金額は二万一千三百円よりなり、其の中  
一万二千三百円は予が親戚共所有者の一人として手持  
として過去二十四箇月間メーニ刊行に対する實際の損失  
として支拂ひたるものなり。

予はメーニの財産と信用とを一万五千円と評價し此の價格  
を以て予は予が専務取締役の地位を以て得たるじやパン  
タイムスは國除通信社より管理せらるる予は國際通  
信者の總支配人なり）これを賣却する事と同意せり

而して賣却代金の支払方法は年賦として、半年賦として、  
又は月賦としてタイムスの欲する所に任せ且つ其の支払時期  
は国際通信社の樟山氏より予ニ通知する事と爲したる。  
然れども全部の支払が終了する迄はメーニルはタイムスの有<sup>ル</sup>白  
せざる事とせり。何れも此の賣却を中ニ看し又  
拂を爲さざるとすはタイムスはメーニルの金財庫を空<sup>ニ</sup>せり  
ケネデーも又却るべき旨の條項も<sup>ラ</sup>あり。  
ケネデーはブルリリー——財團に対して尚ほ八千円<sup>の</sup>債権を  
有す。此の債務は年六分の利息を付して月賦、半年賦  
又は年賦として又拂はるべきものあり。  
夫れ故にメーニルは賒したる損失金は結局一万三千三百円  
あり。

国際通信社ニよりして又拂はるべき七千円は国際通信社の

利益に顧みて現存の所有金（プリングリー財団に拠る？）：  
より一抛棄せらるゝし。

サハと予は上述の如く二万一千円の現金を支拂ひ尚ほ将来  
八千円を支拂はざる可なるを以て國際通信社より支  
拂はるべき總金額（二万五千円）のこゝろではケネデーは其  
の費したる個人の労苦がうるに重なり個人の損失を  
蒙るあり。

サハと茲ニ指摘すべきはケネデーは目下法律上該事業に  
上資金にメールを管理し且つ極東に於ける最長の國際  
的通信社に拠る配入たること也。

よほ注意すべきことは千九百十四年二月より千九百十五年  
五月迄のメールの事業上の損失額は一万五千円以上ありし  
此の金額の中ケネデーは好都合に僅り六千円の債

方を自より思ふ人なり

其の余は之を實際 同人ノ如キ力有ル者ナリ  
ナモ其ノ之ヲ得ル者ナリ

Mr. Kabayama of Kokusai is to let me know when he shall elect to pay.

Until all payments are made, however, The Mail does not belong to The Times because the agreement to sell includes a provision that on failure to pay, The Times shall restore to J. R. Kennedy in its entirety.

J. R. Kennedy is still responsible for the payment to the Brinkley estate of the sum of Yen 8000.00 to be paid in monthly, semi-annual or annual instalments at 6% per annum.

It therefore results that the loss on The Mail venture has been Yen 13,300.00.

The sum of Yen 7000.00 which is to be paid by Kokusai might be waived by the present owners in consideration of an interest in Kokusai.

But I have paid out in cash the amount of 21,000.00 above mentioned and must pay further Yen 3000.00. Hence the total payments to be made by Kokusai cannot be waived without an actual heavy personal loss sustained by J. R. Kennedy in addition to the personal labour and worry already expended.

It should, however, be pointed out that J. R. Kennedy is now actually and legally in full control of The Mail and is the General Manager of the biggest international news agency in the Far East.

It should be noted that the actual losses on the conduct of the Japan Mail between February 1914 and March 1915 was over Yen 15,000.00 and that of this amount J. R. Kennedy by fortunate circumstances became liable for only Yen 3000.00 though he did in fact work for and introduce the balance which, however, is not charged in this statement.



才二十号

同例、郵、電、報、各、局、均、知、照、行、

暗号

大正五年三月二十七日午後六、三、接

總督

石井

在哈爾濱總領事以理ヨリ別電

第二十一號、通電、報、アリ、先、付、執、照、

面、託、載、事、項、其、他、不、明、一、層、三、付、

同、官、電、報、問、合、中、右、御、矢、考、迄、

暗号

別電

大正五年三月二十七日午後九時接

總督

石井

第二十一號

軍、長、  
大、正、五、年、三、月、二、十、七、日、

總

電

外、事、部、長、

水

別電哈爾濱ヨリ五月二十六日第二十三號

本年三月十五日附朝鮮駐劄軍兵

謀長ヨリノ依頼ニ依リ陸地測量部ヨリ

秘密測量ノ為吉林ニ出張シ命セラル

タル中村<sup>セバ</sup>長谷部<sup>ニシ</sup>久保箕輪ノ四名

ニ對シ當館ニ於テ夫ニ執照下附シ

置タル処本月<sup>ニシ</sup>右ノ一人中村<sup>ニシ</sup>

東清鐵道東部線<sup>海林</sup>驛<sup>ニシ</sup>

露國官吏ニ逮捕セラル先方ニ於テ

身體搜索ノ結果鐵道沿線線

路見取圖教葉並、各種測量器

具ヲ査見セラレタル趣ニテ當地露國

總領事ヨリ身柄送致シ来リ憲兵隊

本部ニ報告ノ爲本人取調上其ノ

結果通報ヲ奉交旨申来リ同人

ハ支那人ホーイ一名ヲ伴ヒ居タリホーイ

ハ支那官憲ニ引渡サレタルガ如シ

上述ノ如ク支那人ニ筋シ且敘道ニ線見

取圖ヲ所持シ居タル事情ニ鑑ミ我

陸軍側ノ密偵ニ非ラズヤトノ強弁

困難ナリ 轄ス露國側ニ對シ如何ニ  
安置シ 執リ契ルベキヤ其筋ト打  
合セ、上至急御電訓ヲ請フ

總

督

外事課長

大正五年五月二十日

電信探

暗號

外務大臣

總督

貴電第二十號測量員、派遣ハ當方

ニテ一向兼知シ居ラサルハ取調ハ此處

右ハ中央ノ派遣ニ係リ朝鮮駐劄

軍ニテ之カ作業上ノ便宜ヲ圖リタル

ニシテ總領事ニ對シ執照下附方公

然トヤリ依頼シタル次第ナル由依テ

御通報、趣、早速同駐劄軍へ

為未考通牒し置たり本件  
善後策ニ付テ其筋ト直  
接御快議相成ルコト存スルモ不  
取敢右為念

七  
十  
四  
日

MEMORANDUM.

An interest in The Japan Mail was bought by me in April 1913 in payment of the sum of Yen 5000.00.

During my absence and during the subsequent ten months the total losses in the running of the Mail were Yen 9600.00 of which I paid one half or 4800 i.e. up to February 1914- a total payment of Yen 9800.00. In February I purchased a controlling interest with option of purchase for which I paid the further sum of Yen 3000.00 or a total outpaying up to February 1914 of Yen 12,800.00. The losses on the Mail from February 1914 to February 1915 were Yen 6000.00- a total outpayment of 18,800.00. In March 1915, the entire property was transferred by the heirs of the Brinkley estate for the sum of Yen 15,000.00 of which Yen 8000.00 was to be paid in five years ~~in~~ instalments.

On this occasion I paid to Mr. J. R. Brinkley the sum of Yen 2500.00 being sums of money received by him as Manager and for which he had not accounted: my total cash outlays, therefore on the Mail have been Yen 21,300.00. In the last two years of this amount Yen 13,300.00 has been paid out in the actual losses on the running of the paper in the 24 months of part and whole membership.

The property and Good will I valued at Yen 15,000.00 and for this sum I agreed to sell the property to The Japan Times, of which I am the managing director and which is controlled by Kokusai Tsushinsha of which I am the General Manager and a member of the board. This sale was for Yen 15,000.00 payable annually, semi-annually or monthly as The Times may select and

(主管)

電

送

總督

政務總監

總務局長

秘書官

主任



大正五年三月二日午後八時三十分發

沢田公長

池邊

第千又號

今朝、往有、園、方、隈、首、相、入、書  
面、如、日、書、書、園、下、衣、花、送、也、



(主管)

電

總督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

受

大正五年三月三

日午前

八時四三分

新橋

市城

發

總督

政務總監

第暗号號

勅選議員、件、見玉局長、御電  
 報、趣、持、兼、過、日、大隈首相、  
 會見、於、今、回、貴電、ト、同、一、  
 趣旨、ヲ、以、テ、依、賴、シ、タル、首、相、ハ、第、一、  
 誰、ナル、ヤ、ヲ、兼、知、シ、タ、レ、ト、ノ、フ、ト、シ、付、カ、一、ハ、石、  
 塚、ナル、ニ、目、ヲ、差、入、タル、石、塚、ナ、ク、自、今、モ、

能ク知リ居ル採用スヘシト申サレタリ依テ一昨  
日見玉局長ヲ以テ一名ノ欠員ヲ生シタルニ付石塚  
ヲ願ヒタレト申入レ其ノ結果ハ既ニ局長ヨリ  
申上ケタル次第ナリ其ノ内ハ官ヨリモ更ニ願  
ヒ置クヘシ

暗号

十五年三月六日

新橋  
七三  
市成署

總督

見玉

大隈首相宛御書面ヲ持参シ唯今首相  
面會シテ首相ハ勅選議員ノ候補者  
仲々多ク岡陸相モ病氣退官ニ依リ  
之ヲ勅選スルハ必要アリ矣、石塚  
・荒井ノ兩人ヲ一時ニ候補者トスルハ困  
難ナリモ石塚ハ早稲田大学ニ關係  
アリ且爲朝鮮ハ赴任スル際モ伊東氏以迄  
ヨリ依頼セシ伊藤公ニ自分ヨリ話スル

行哉モアリ自カモ其、性質ヲ能ク兼知  
 セリ貴族院議員トシテ適任者タルヘキニ  
 依リ田邊議員ノ後任ニ充ルコトニ致ス  
 へシ荒井ハ將來中央政界ニ於テモ充分  
 働キ得ル人ニシテ此際直ニ勅選ノ候補  
 者トスルハ見合セタキ希望ナリト申出ラレ  
 ○東拓ニ関シテハ自カモ相當尽力ナル  
 モ成立セズ遺憾ナリ○支那問題ニ  
 関シテハ留目ヲ總督ト相談シ置タルコト  
 アリシモ其後形勢一變、案トナリ

タルが今日が形勢ハ英國モ日本ニ相談  
セスレテ對支政策ヲ実行スルコトニ至リ露  
國トノ關係ニ付テハ目下本野大使ヲシテ夫  
支那中ニ偏シ支那ニ對スル日本ノ位置  
ハ益々確固トナレリ尙此後支那ニ對シ  
如何ナル態度ニ出ヅ(キヤ)國論ヲ纏ミタル  
コト最モ緊要ナリト考ヘ居ルニ付其内  
總督ハ内報スルコト有ル(シ)此旨豫メ  
御令置カサシト申出エタリ終ニ總督ハ  
宜敷傳言セラレタシト申添ヘラタリ

(主管)

電 送

總 督了

政務總監

總務局長

秘書官

主任

大正五年三月七日午前十時一五分發

児玉局長

總督

第 號

昨日貴電諒承勅選議員件ハ  
大隈首相ノ意見通ニ異存  
ナキニ付席ヲ以テ貴ノ旨首相ハ申入  
置カレタシ

10 11 12

謹啓陳ハ本年四月警務部長會議、

際高示ニ基キ憲兵警察官ヲ各其ノ

性能ニ從ヒ有利ニ使用スルノ見地

ヨリ現在配置ヲ變更スルノ必要ア

リヤ否ヤニ付各道部長ノ意見ヲ徵

シ尚充分研究ヲ重ネ候處平安北道

朔州警察署ハ國境地方ニ於テ憲兵

ノ配置間ニ介在致居右ハ憲兵ト入  
替ユルヲ有利ト認メ同署ヲ鐵山(合併  
後漸次發達シ來リ警察署ノ設置ヲ要スルニ至レリ)ニ移設シ其ノ跡  
ニ憲兵ヲ配置スルコトニ計畫致候

本變更ハ單ニ國境警備上有利ナル  
ノミナラス朔州、昌城兩郡ニ於ケル  
警察區劃ハ彼是錯綜シ郡ノ行政區



域ト一致ヲ缺キ居リ候處此ノ變更  
ニ依リ便益ヲ得ル次第ニ御座候尚  
各道ヲ通シ警察區劃ト郡ノ行政區  
劃ト一致セサル地方ハ多々有之可  
相成ハ兩者ヲ一致セシメ度ト存シ  
候ヘ共經費ノ關係上遽ニ實施シ難  
ク差向キ高陽郡ノミヲ整理致ス計

畫ニ御座候其ノ他憲兵分隊ト同分  
遣所トノ相互轉設並分遣所二箇所  
ノ撤廢ヲ計畫致候處之等ハ單ニ地  
方ノ情勢ニ順應セントスル配置ノ  
變更ニ外ナラス詳細ハ別途府令案  
ニ記述致置候先ハ今回配置變更ノ  
概要右ニ依リ御諒承相願度府令發

布前ニ面申ノ機會無之哉ト思料候  
ニ付特ニ書面ヲ以テ申述候

近來内地各府縣ニ於テ虎列拉病漸  
次蔓延ノ狀勢ヲ呈シ候ニ付テハ本  
月十四日以來朝鮮ニ於テモ著々防  
疫ノ處置ヲ執リ來リ其ノ狀況ハ隨  
時ノ報告ニ依リ既ニ御諒承ノコト

ト存候本月二十一日蔚山警察署管  
内方魚津（一漁村）ニ於テ内地婦女一  
虎列拉ノ疑アリタルヲ以テ充分消  
毒豫防ニ努メ一面檢鏡中ニ有之候  
處今日ニ至リ虎列拉ニアラサリシ  
コト判明致候尚其ノ附近一帯ニ互  
リ精密ニ調査致サセ候ヘ共今日迄

ノ處幸ニ疑ハシキ患者ヲ發見致サ  
ス候申ス迄モ無ク朝鮮各港ハ常ニ  
内地ト密接ノ連絡アルノミナラス  
數百里ニ亙ル海岸漁村ニハ絶エス  
内地ヨリ漁船ノ來往等有之現況ニ  
付萬一ノ缺陷ナキ様又過クルトモ  
不及ノ悔ナカラシコトヲ期シ充分

注意警戒ヲ加ヘシメ居ル次第ニ御  
座候先ハ防疫ノ近況御報申上度如  
斯ニ御座候 敬具

大正五年八月二十四日

古海總長

寺内總督閣下

侍曹

大正五年一月二十九日 神戶

警務部長

總督

持復昨本月二十四日附貴簡、以、  
警察官配置變更件、御申越、趣  
致査悉候、右、適者、措置、上、認、  
對、別、水、界、存、生、之、候、係、也、了、方、  
將、又、同、信、防、疫、之、關、心、処、置、  
患、者、之、檢、鏡、之、結、果、上、  
確、定、致、候、由、安、心、致、候、防、疫、  
之、報、告、係、之、兼、知、致、候、  
道、彼、来、各、方、向、

於種御配慮、改誠。却苦勞、下、寮  
入候内地、要疲益、猶軟リ極、折板今  
後共充分注意、上、整、戒上、遺、補  
期、上、候、様、致、方、以、此、回、答、申、進、候、也



廢案

極秘

標

年月日

總督

古海軍兵隊司令官

近來對岸支那領ニ於テ馬賊瀕リニ出沒シ

屢々境ヲ超ヘテ朝鮮側ニ襲來シ我人等

ニ損害ヲ與ケルコト甚ナカラス  
今專ラ之ヲ支

郡官憲、処置、放任之時、賊徒、跳

梁、益甚、我沿岸地方、靜謐、害也

云、ト云之、從、瀕、繁、花、牛、虐、有、之、候、也

朝鮮側、於、之、對、之、相當、措置、

孰、自、衛、上、當、然、儀、有、之、候、得、共

其ノ實行ノ方法如何ニ依リテモ  
徒ラモ支那官

憲トノ紛議ヲ滋生シ接境彼我官憲間

ニ永ク面白カナル状態ヲ惹起セラルコトナシ

トモズ依テ向後對岸地方ニ於テ馬賊出

現ノ場合ニ在リテハ其ノ都度當該憲兵隊ニ

於<sub>テ</sub>當該支那官憲ト快議、上<sub>ニ</sub>憲兵

ヲ派遣シ支那官憲ト助力シテ馬賊討伐

ノ<sub>ト</sub>當ルヘク若シ<sub>ニ</sub>力一憲兵ノ力ヲ以テ<sub>ニ</sub>到

底<sub>ニ</sub>不十分ナルヘキ時ハ最寄守備隊ニ應援

ヲ求メ兵士、出勤<sub>ヲ</sub>得テ速ニ賊徒ヲ抑

持<sub>テ</sub>防<sub>グ</sub>

壓スルヲ以テ朝鮮沿岸、靜謐ヲ維持スル

上ニ差當リ執ルヲ得（キ）最モ適當、措置

ト認メ候固ヨリ右ノ如ク憲兵及兵士、出

動リ要スルハ其ノ目的單ニ支那官憲ニ

援助ヲ與フニ止ル儀ニ付事件ニ重大且

緊急ニシテ一瞬時、猶豫ヲ容ルササル場合ハ

格別其ノ出動ニ當リテハ前以テ必ズ當

該支那官憲ト同意ナキ熟議ヲ遂ケ

其ノ策謀ヲ得<sup>ル</sup>事ト若クハ彼ヨリ進ムデ我

援助ヲ受ケ度希望ヲ申出タル場合ニ限リ

我<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>適<sup>ニ</sup>當<sup>ナル</sup>應<sup>ニ</sup>援<sup>ヲ</sup>ナ<sup>ス</sup>ヘ<sup>ク</sup>又<sup>モ</sup>其<sup>ノ</sup>

出<sup>ル</sup>勤<sup>ム</sup>後<sup>ニ</sup>存<sup>リ</sup>テ<sup>モ</sup>本<sup>ニ</sup>来<sup>ノ</sup>目<sup>的</sup>ト<sup>ス</sup>後<sup>ニ</sup>助<sup>カ</sup>範<sup>ス</sup>

圍<sup>ヲ</sup>超<sup>シ</sup>越<sup>シ</sup>テ行<sup>ハ</sup>動<sup>スル</sup>ト<sup>ナ</sup>キ様<sup>ニ</sup>敵<sup>ニ</sup>注<sup>ス</sup>意<sup>ス</sup>

ス<sup>キ</sup>ハ勿<sup>レ</sup>論<sup>ニ</sup>任<sup>務</sup>終<sup>了</sup>ヲ告<sup>グ</sup>レ<sup>バ</sup>迅<sup>ニ</sup>速<sup>ニ</sup>撤<sup>ス</sup>

退<sup>ス</sup>ルヲ要<sup>スル</sup>ハ申<sup>ス</sup>迄<sup>モ</sup>無<sup>ク</sup>之<sup>ヲ</sup>將<sup>ス</sup>又<sup>モ</sup>

右等、場合ニ害兵の及ぶ士ノ<sup>行</sup>動ニ要ス

ル經費ハ總テ我方ニ於テ之ヲ負擔シ決

シテ支那側ニ之カ支出又ハ補償ヲ求ムルコトナク

以テ支那官憲ヲシテ我方ノ行動<sup>が</sup>朝鮮

側ノ靜謐ヲ維持スル爲ニ必要ナルト同時ニ



28

コトヲ売合

會得

セシクルハ

緊要

儀

二月之

候  
乾

之

前題

趣旨

救

軍

御

打金也相成

今復

必要

十人場合

掛

適當、措置ノ執ニ様

其

心得方寸

關係重要部隊、訓達相成度此段  
申進候也

追テ本段、措置ヲ執ル場合ニ豫メ認可

シ受テ事急ナル節ハ可成速ニ詳細、

願末ヲ具シ事後、認可受テ儀トモ集

知ルル也

未  
九月二日

樞密院

九月二十日執行



總督

政務總監

近來對岸友邦領新馬賊、出沒頗頻

繁<sup>ニシテ</sup>朝鮮沿岸地方、靜謐ノ擾亂<sup>セラルト</sup>

亦甚<sup>ナカラン</sup>狀況、有之之、對我方<sup>ニ於テモ</sup>

適當ノ方法ヲ執ル、必要有之候処對岸友

邦官民及鮮人<sup>ニテ</sup>從未自賊ノ來襲ヲ受ケル

時其ノ保護又ハ救援ヲ屢々我官憲ニ請

願シ來ニ事實モ有之候ニ付旁々今後同

様ノ場合ニ警察官憲及憲兵ヲ隊シテ

支那官憲より援助ヲ希望し来たる時、固ヨリ

狀況ニ依リテハ支那官憲ト熟議ヲ遂ケ其

美諾<sup>ヲ</sup>得<sup>テ</sup>警察官及憲兵ヲ派遣し若し

必要アルハ最善守備隊ニ應接ヲ請ヒ兵士

ノ出勤ヲ得<sup>テ</sup>賊徒ヲ掃蕩スルコト、致候ハド

独り朝野側、静謐ヲ維持シ得ルハ夫ノ友邦官民ノ

貞、我好意、在所ヲ諒解セシメ、接境地方ニ於テ彼

我相互、關係上極マテ良好ナル結果ヲ得ルコトハ

在在在在在在

思料致候依ラ、前題ノ趣旨ニ拠リ、軍ト協議

上關係部ト、相當訓達方古海警官

務端長、御傳達、此段申  
進候也

十月三日

大正五年十月三日

高橋大佐宛

池邊初書名

拝復陳者軍・國之書類、件付左、通  
依命申進候敬具

左記（別紙上）

一 兵力集結、件付守備勤務規定改訂  
件、大抵、所ノ異存ナシ、大抵左記事項ニ更ニ  
考慮ヲ加ヘテ、上確定ト為ス

一 兵力集結、件、國、大、小、ニ集結スル部隊  
項中、晋州、道廳所在地、コトモ、ア、ハ、通、当、



部隊ヲ存置スルヲ適当トモカヤ再考アリクシ

一守備勤務規定ノ件ニ付字句ヲ研究シ今テ少シク  
練リテ備當タルヲ用ヒモタリテ却テ主名項ノ規定隊  
國境守備ニ關スル項ノ内容ハ何レモ周到ナルモ其意  
ヲ表ス他ニ恰好ナル字句ナキアラハルモ名項トハ  
印付ケアリ矣照アラモ

一守備隊ノ勤務ニ關シテ守備隊ト憲兵及警  
察官ト聯係シテ層層緊密ニセラリテ報告如  
中モ不斷交換セハ職務執行上便利多カニリ且地方  
官憲ト聯係モ亦密リ殊ニ道長官ハ警務

權ヲ有セザルニ道内ノ事項ヲ豫定スル命令ニ  
得ルヲ以テ守備隊ト道長及百、緊密ナル聯絡  
存在スルニ必要ナシト依テ是等ノ事項ニ相  
規定ヲ設クルニ必要アリト思料ス

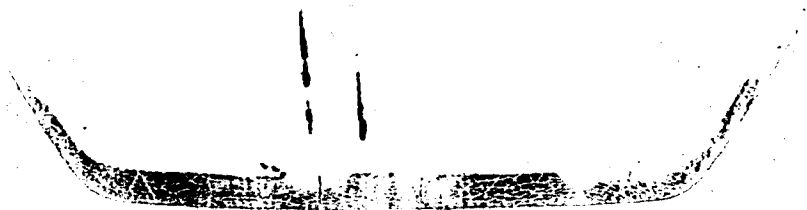
一以上ノ事項ニ付テハ貴方所ニ古海警務長  
長及白水兵備長、百次ノ箇ニ根據ヲ遂  
ケラレタリ

以已為名  
美之  
三  
子  
也

大德化也  
新東

上  
五  
年  
二  
月  
二  
日

書  
方  
多  
教  
廷



(朝鮮總督府封筒第二號)

有所

春寒料峭

清健

年光似水

改新

以友

在方

溪谷

朝解

统

之予情之故精  
通之老考以攻  
列之老之朝錄  
施之老之稱之  
至大之老之考  
柱之老之政之  
便之老之考之  
思之老之政之  
議之老之考之

其後日朝鮮

統兵上印續章

顯其志費為之部

長安乃城東來控

後立印志五道府

順德府學城守

之府都道都武

指甘肅校有案

持以中規  
矩為

好依新  
古

至  
時  
集  
有  
面

以  
集  
有  
面

至

至  
本  
中  
以  
教

一  
張  
以  
年  
國



名 称	寺 内 正 毅 文 書
標 題	秋 田 閣 會 報 書

分 類 番 号	
	439
	34

登 録 番 号	
------------------	--

# 朝鮮ニ於ケル事業經營ノ概況

下関市東南部町

合資 秋田商會

弊商會が朝鮮ニ於テ現ニ經營シ及將來ニ經營セシトスル事業ハ(一)海運業(二)貿易業

(三)鑛山業ノ三種トス其概況左ノ如シ  
(一)海運業

1、所有汽船六隻ヲ以テ下関、門司、博多、  
及釜山、對馬ノ各港ヲ經テ釜山間ニ  
定期及不定期ノ航海ヲ爲シ内地朝

鮮間ノ交通及貿易ヲ營ミツ、アリ

2、該航路ニ往航ニ石炭及前記各港  
ヨリ朝鮮向貨物ヲ輸送シ復航ニ朝  
鮮特產物ノ外鮮魚ヲ内地ニ輸送  
シツ、アリ

3、朝鮮沿岸ハ既ニ交通機關ノ設  
備アルモ未ダ完全ナリト謂フヘカラス依  
テ或ル時機ニ於テ北緯沿岸ノ航運ヲ

モ開始セント企圖シテ居レリ

4、右ノ外弊商會が多年希望シツ、ア

リシ由、鮮人間ニ於ケル共同事業經營  
ノ端緒ヲ得目下交渉中ニ係ルモノアリ  
即今朝鮮貴族及紳士連十一名ヨリ  
威ル協同郵船合資会社ト弊商會  
海運部トノ合同談是ナリ惟フニ朝  
鮮ニ於テ事業ヲ經營セシトスルニ第  
一ニ總督府、施政方針ヲ耶膺シテ統  
治上ニ貢獻スル所ナカルベカラザルハ勿論  
一面由、鮮人間ノ意思ヲ疏通シ且  
ニ扶掖提携シテ共同ノ福利ヲ増



進セサルヘカラスルヲ確信シ常ニ其機会  
ノ到來セシコトヲ希望シツアリシニ幸  
ニ前記ノ合同談起リタルハ弊商會  
案ニ歡迎措カサル所ナリ本件ニシテ  
幸ニ成立セシ誠心誠意ヲ以テ最善  
ノ方法ヲ講ジ全責任ヲ以テ事ニ當  
リ模範的ノ共同事業タラシメシコトヲ  
期シ是レリ同會社ノ現状及其他ノ件ハ  
別紙ニ之ヲ掲グ

## (二) 貿易業

1、沿岸海產物中主トシテ支那及臺灣向  
ノ物品ヲ取扱且一部ノ當業者ニ資金、供給ヲ  
モ爲シ居レリ

2、白米ヲ主トシ併セテ雜穀類ヲ臺北、對  
馬及九品ノ一部（若杉、小倉及門司方面）下関へ  
向テ直輸出ヲ爲シ居リ

3、鴨綠江材木ヲ大連、旅順、青島及天津  
へ向テ輸出シ居リ而シテ前記ノ各港ニ  
支店ヲ設置シ居レリ

4、輸入品トシテ、九品ヨリ石炭、関門地方ヨリ

日用品及其他ノ雜貨類、又本岐對馬  
ヨリハ各其特產物ヲ輸入シ居リ

(三) 鑛山業 鑛山種類ハ金、銀、鐵、亜  
鉛、黑鉛、タングステン等ニシテ目下採掘、着手セ  
ルモノハ黑鉛、一種ニシテ其他、着手準備中又  
ハ出願中ニ係リ其由重モナルモノ左ノ如シ

### 1、鐵 鑛

忠清南道半島、一角ニ在リ去月中許  
可ヲ得目下中央試驗所、釜鐵所及  
福岡鑛務署ニ於テ鑛石分析中ナリ

鑛質ハ磁鐵ナルモ鑛量豊富且運搬ノ  
便他ニ比類ナキヲ以テ分析ノ結果好良ナリ  
ハ全カク奉ゲテ之ヲ經營スル決心ナリ今回  
幸ニ本鑛ト旧質ナル本溪湖ヲ主視察シ  
大ニ得ル所アリタリ今ヤ分析ノ結果ヲ待  
チツキアリ

## 2、亞鉛鑛

本鑛ハ漢江上流ナル忠清北道槐山郡  
延番面、在リ目下出鉱中ニ係リ鑛量豊  
富且漢江ヲ利用スルコトヲ得ベキヲ以テ鑛石運

搬上便宜甚カクザレシ尤モ旧江ノ處々ニ急  
湍奇岩アルヲ以テ舟楫ヲ通スルニ若干ノ資金ヲ  
投シ開鑿又ハ浚深ヲ要スルモ其沿岸ハ住  
民多ク物産亦鮮少ナラザレバ鑛石ノ運搬ヲ開  
始スルト同時ニ一般荷客ノ取扱ヲモ開始シ地方人  
民ノ便益ヲ圖ラントヲ企劃シ居レリ

## 3、タングステン鑛

忠清北道其他ニ於テ有望鑛ハ出鉱中ナリ  
本鑛ハ目下歐洲戰事ノ爲メ需用甚ハ多ク價  
格亦高直ナリ詳クテ得次第直ニ採掘ニ着手

セントシ既ニ準備ヲ整ヘ許可ヲ待チツ、アリ

協同郵船合資會社之事項

一所土地 釜山市草梁

一資本金 拾五萬圓

一現在資產 拾六萬餘圓

一營業項目 船舶借貸及海運業

一社員氏名

仁川府內面內洞 丁致國

全 杜岷 李泳均

京城府南部大坪坊 李允用

全 西部龍山坊 閔丙奭

京城府西部盤石坊 李夏榮

水原郡南昌洞 姜錫鎬

京城府南部大坪坊 安永基

全 北部良善坊 黃鼎性

全 典洞 閔範植

全 南部大坪坊 嚴柱益

全 會賢坊 李鳳來

# 合同談ノ内容

一協同郵船合資會社ヲ一應鮮教シ更ニ五十萬圓ノ株式組織ト爲スコト

一曰會社ノ現在資本壹拾六萬餘圓、由拾壹萬餘圓ヲ拂戻シ更メテ朝鮮人側ヨリ五萬圓(四千株)ヲ出資スルコト

一前項ノ外ハ秋田商會ニ於テ引受クルコト

一舊會社ノ社債ハ第二項ノ五萬圓ノ範圍内ニ於テ全部新會社ノ株式主トナルコト



名 称	寺 内 正 毅 文 書
標 題	警察司紙肉係綴

分 類 番 号	
	439
	5-11 35

国立国会図書館

登 録 番 号	
------------------	--

敬告秦

司法

第十七号

秘

大正五年七月十三日

山縣政務總監  
寺內總督殿



不敬罪事件ノ檢舉ニ関スル件

昨十二日不取敢電報ヲ以テ概要ヲ御  
報告セシ不敬罪犯人ノ檢舉ニ付テハ  
即時京城地方法院檢事ニ於テ犯人  
ヲ逮捕シテ一應ノ取調ヲ終リ一面又其

ノ家宅ヲ搜索シテ誑摑物件ヲ押收  
セリ其ノ結果ハ大畧左記ノ如クニシテ  
犯人ハ鍾路拘置監ノ獨居房ニ留置  
シ嚴重視察警戒中ニ有之候條此  
段御報告申候也

追テ兒玉總務局長ニ宛郵送セル書  
面ハ別ニ添付セル寫ノ如クニシテ甚々  
矯激不遜ノ文辭ヲ陳示居候

一原籍氏名年齢現住所及職業

富山縣射水郡能町村大字角村九百三

十六番地在籍京城府舟橋町百五十一番地居住

古物商

基峰專清

明治廿二年十一月廿二日生

# 一、學歴

十九歳迄富山縣立高岡中學校ニ通學  
ニ四學年ニ至リシモ成績不良ノ為メ中  
途退學ス

明治四十年上京シ明治大學商科ニ  
入學シ同四十四年七月卒業セリ

一、家庭ノ状況

生家ハ寶性寺ト稱スル真宗ノ寺院ナリ幼時父母ヲ喪ヒ祖母ニ養育セラル

兄利生(三十二年)家ヲ継キ原籍地ニ住居ス

妻子ナク單身ニテ生活セリ

一、渡鮮後ノ状況

明治四十四年十二月中渡鮮シ直ニ京城ニ居テ構フ

或ハ賣藥行商ヲ営ミ或ハ新聞配  
達夫トナリ又商店ニ奉公ニタルモ孰  
レモ永續セス

辯護士高橋章之助ノ事務員トナ  
リ約一ヶ年半ヲ過シ其後同人方ヲ  
立去リ謄寫請負ヲ業トシ各辯護  
士ノ依頼ヲ受ケ訴訟書類ノ謄寫  
ニ従事シ生計ヲ立ツ一方又古物商、  
免許ヲ受ケ競賣事件等ニ關係  
シ一ヶ月ノ收入約四五十円アリ別ニ

衣食ニ窮スルコトナシ

一、交友其ノ他四圍ノ状況

當地ニ別ニ親密ナル友人モナク基督教會ニモ出入セズ又内地ノ社會主義者等トモ何等關係ヲ有セズ本件ノ犯罪ハ全ク其ノ一存ヲ以テ決行セシモノニシテ目下ノ處共犯者ハ無之見入ナリ

一、思想

共和主義ヲ唱フルコトハ明治大學卒



業以來ノコトナリ年少時ヨリ哲學  
的ノ思想ニ富ミタルカ爾來宗教及  
哲學ニ関スル書籍雜誌ヲ耽讀シ  
テ思想ヲ養成セリ

觸體ノ寢言ヲ起草セルハ約一ヶ月  
以來ノコトニシテ京城圖書館ニ至リ  
歴史書諸雜誌等ヲ借覽シ參  
考ニ供シタリ

本人ハ衷心ヨリ共和的思想ヲ有ス  
ルモノノ如ク最モ平等ヲ愛シ其ノ真

理ナルコトヲ信スト稱シ檢事ノ取調ニ  
對シテモ平然トシテ人類ノ生存ニ何  
故君臣ノ如キ不平等ナル關係ヲ必  
要トスルヤ理解ニ苦ム、君主政体ハ惡  
ノ最甚ナリ忠君ハ無意義ナリト  
妄言シ自分ノ行為ヲ法律ニ觸ルル  
ヤ否之ヲ知ラス、彼令之ニ觸ルルモ  
主意ノ為メナレハ敢テ顧ミル處ニア  
ラスト稱セリ

一、今後ニ於ケル措置

最モ敏速ニ取調ヲ終リ吾人ノ耳目  
ニ觸レサル様祕密ニ審理判決ヲナサ  
シムル見込ナリ

以上

(主管)

電

受

總督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

大正五年八月

四日午後五時

五分

東京

着 發

總督

山縣總監

第五

號

暗号

基峰專精不敬罪事件本日  
公判ヲ開廷セルニ被告ハ其ノ  
懷キタル思想ノ誤ナリシコトヲ  
覺リタルヲ以テ將來ハ忠良ノ  
臣民トシテ奉公スヘキ旨ヲ申  
立タリ。○檢事ハ懲役三年ノ處

刑ヲ求メ判決ハ來ル七日ニ言渡スコト  
トナレリ

主管

電

總

政務總監

總務局長

祕書官

主任

受

大正五年八月五日午後

二時三十分

東京

着 發

總督

山縣總監

第七

號

暗号

基峰專精不敬罪事件ニ付  
被告ハ本年四、五月頃明治大  
學幹事田島義方ニ宛（觸腰  
之寢言）ト畧内容同シキ書面  
ヲ發送シタル新事實ヲ發  
見シ其ノ取調ハ為來ル七日ノ

判決言渡ヲ延期セリ

折

吉五年八月二十日抄

改務終監先

終督

元巴里駐劄韓國公使李等、或ハ花院ハ園  
作ハ但職ハ件ハ別紙外、務ハ臣報告等進上  
付査閱、亦亦交、韓ハ朝鮮ハ此ハ右園所  
氣脈ハ通ハ其ハ所動ハ補助ハ是者ハ此ヤ毛  
難料候、亦亦警務佐監部、及名直警務部ハ此  
右園ハ藤重ハ取調ハ是ハ種者ハ如何  
若、其ハ行動ハ監視ハ亦適當ハ措置ハ執ラレ  
候様可矣、此取計ハ亦亦、將又其ハ取調



億果之計分一水回報古來交以水何也  
申進候也

不逞者ニ関スル事件ノ概要

一、留置取調進行中ノ者ノ氏名

京畿道坡州郡坡平面訥老里杏村

成 樂 馨

三十四年

全 道 竜仁郡遠三面文村里

金 東 萬

四十四年

全 道 京城府花洞二十八番地

辺 錫 鵬

六十四年

全 道京城府齊同九番地

金 勝 鉉

六十五年

全 道京城府寬惠旧五十六番地

鄭 駟 永

四十三年

忠情北道陰城郡蘇仁面金古里

沈 仁 澤

五十七年

全 道清州郡南次乃面石坂里

朴 鳳 耒

四十四年

二、發見ノ端緒

七月二十三日頃北京ヨリ不逞鮮人成友善ナル者  
来リテ京城ニ潜伏シ國權回復ノ口實ヲ以テ同  
志ヲ集メ一面李太王ニ密書ヲ送り又一面李炯公  
トモ連絡ヲ採リツツアリトノ情報ヲ耳ニシ其ノ實否  
調査ノ歩ム進メタルニ成友善トハ成樂齋ノ表  
名ニシテ奉天ヨリ金東萬ナル者ヲ同伴シ京城花  
洞百三十番地金昇元ナル者方ニ潜伏セルヲ發見  
シ又李太王ニハ辺錫鵬ヲ經テ書面ヲ送リタル事實  
ヲ諜知セルカ来テ調査進メ央亮ニ成等ハ早クモ

官憲在密々行動調查ニ着手セルヲ察知シ當ニ  
 支那方面ニ逃亡セリトスルノ情アリ而テ調査ノ經過ヲ  
 綜合スルニ事實存在スルモノト認メラセ今ハ一刻ニ猶  
 豫シ能ハサルモアリタルヲ以テ斷然邊錫鵬方ヲ搜  
 査セルニ李太王ニ送りテ書面ノ按文送テ覺書及累  
 年男爵ヲ降シタル劉永達ニ成ヨリ送ルヘキ書面並  
 上海在留不逞鮮人劉公烈ト李太王ト間ニ立テ從來  
 諸種ノ通信ヲ爲シアリト思ハラル書面及以迄四十年李  
 太王讓位ニヨリ起リタル累代等トモ往復ヲ爲シタル  
 書面ヲ發見セタルヲ以テ辺ハ豫ヲ知ル不逞ノ徒ト認  
 メ七月二十八日午前二時成樂齋金東萬辺錫鵬

ヲ留置シ訊問ヲ開始セリ

### 三 訊問調査ノ結果

咸陽警署ハ明治四十四年秋西間島ニ移リ更ニ北間島・浦塩等ヲ旅行シテ北京ニ出タリ時、明治四十四年五月頃ニシテ袁世凱大總統ニ就任セルヲ以テ同人が曾テ朝鮮ニ駐在セル缘故ヲ便リ朝鮮ノ滅亡ヲ憤慨シ来リタル旨ノ書面ヲ送リタルニ袁總統ハ秘書ヲテ訪問セシメ時ノ内務部長趙秉均ニ紹介シ趙ニ保護セラレツアル際段芝貴・張勳等トモ知会ト为リシカ明治四十五年六月北京ニ於テ曹成煥等逮捕セラレタルヲ聞クニ及ンテ趙ノ勸メヲ依リ上海ニ遷リ同年

市再と曰北京ニ還リシカ大正三年第二支那革命起  
リタル以テ江西省ニ赴キ張勳ニモ面會シ尔来各  
所ニ徘徊シテ上海ニ出テ英租界大馬路支那上海旅  
館ニ投宿シ豫ラ知ル所ノ朴殷植(大韓毎日申報ノ記  
者トシテ排日思想ヲ鼓吹シ併シ後憤慨シテ支那ニ至リタル者)  
申晟(申圭植ノ子トシテ同人之太稀哲人等ノ有力者ニシテ排日者ナリ  
支那第一革命ノ際家産ヲ賣リテ上海ニ至リ南京ニ孫逸仙  
ヲ訪ヒ宋教仁ニ面會シテ朝鮮ノ不幸ヲ訴ヘタル者ナリ)劉公烈  
(京城人ニシテ早ク上海ニ移リテ錫鵬等ト交通シ押水ノ書面ニ依リテ  
宋大王ニ通シテヤリタルカ由レ今人々本年六月死セリト)等ト會  
見  
金セリ

申、朴ノ兩名ハ上海英租界寶馬路ニ共同シテ學  
塾ヲ設ケ常ニ鮮人青年三四十名ヲ寄宿セシメテ  
在米本土及布哇ノ不逞者ト通シテ不平青年密に  
米ノ斡旋ヲ爲レツワアルカ成ハ昨年十二月上海到  
着後本年三月頃迄上海旅館或ハ朴申等ノ住所  
及英租界ノ三馬路同安里劉公烈方、屢々會ヒテ  
國權回復ノ謀議ヲ爲シ結局独逸ハ世人ノ豫想ニ反  
シテ歐洲戰ニ大勝利ヲ收メ戰爭終局後ハ余威  
ヲ東洋ニ振フヘシ日本ハ英國ノ手先ト爲リテ独逸  
ニ抗戰セルヲ以テ独逸ハ將來支那ト結ビ日本ヲ攻  
撃スヘシ此ノ秋ハ日本衰勢ニ陥ル時ニシテ其ノ期遠カ



ナサルヘシ鮮人モ今ヨリ支那ト結ビ親密支那ニ隨伴  
 シテ國權ヲ回復スル準備ナカルヘカラス然レトモ此ノ運  
 動ニハ多大ノ金圓ヲ要ス現ニ支那革命黨ノ力キ  
 モ海ニハ海賊ヲホシ陸ニハ強盜ヲホシテ資金ヲ募集  
 シソソアリ故ニ我同志モ手段ヲ擇ミ先ツ資金ヲ籌  
 集スルノ策ヲ採ラサルヘカストノコトニ決シ成樂聲ヲ解  
 ニ歸リ其ノ任務ヲ担當スルコトナリ又劉公烈ハ成  
 以錫鵬ニ懇今スルコトヲ勸レ而レテ成ハ先ツ北京ニ出  
 テ同志尹炳隆（併今陽白雲）夫妻と君富善ノ子不平法  
 果素世凱ヲ傳リテ北京ニ到リ一昨今李惘分テ素ニ現今  
 李太王ハ三千萬圓ヲ素ニ送リテ親親ヲ結フヘトノ運動ヲ為

ニ李炯公モ其、義部ニ自決シタル件ヲ奔逸人（一人）金  
孝明（恆智存醫院卒業生不平者ニシテ北京ニ至リ支那  
軍隊ノ軍隊及奉天中ノ者）ニ出會シテ協議ス（ギ  
コト）本年四月頃上海ヲ出發シテ北京ニ出ル方同志  
ニ會スル能ハサリシヨリ奉天ニ來リ奉天西門裏支那  
旅館孫錫三方ニ宿泊セル、同所ニモ不平鮮人多  
數滞在セルニ會シ金東萬トモ知己ト告レリ而シテ  
談不平鮮人ヨリ平安北道鉄山郡扶西面安平里鄭  
恒俊ハ國士ニシテ姑ニ運動ニ盡カスヘキ、談アリタルヲ以  
テ金東萬ヲ伴フテ鉄山ニ鄭恒俊ヲ訪問シテ計畫ヲ  
告ケ賛同ヲ得更ニ鄭モ同伴シテ平壤ニ至リ村シテ

去に七月十二日、京城に着し、前頭金昇元の方を授け、  
し迎ふ、訪肉や。

先之、迎へ、劉公烈人通知し、後、成、来訪し、中、エト、兼  
知セル、以、成、登、通、し、計、画、願、事、聽、而、共、に  
運動ス、(キ、エト、約、レ、同志、ト、シ、テ、沈、仁、澤、ヲ、勸、メ、タリ  
沈、仁、亦、成、等、ノ、計、画、ヲ、賛、同、し、三、名、協、議、ヲ、結、果、斯、ル  
運動、ニ、ハ、頭、首、十、カ、ル、ハ、カ、ス、吾、人、ハ、李、朝、ノ、兩、班、ナ、ル、以、テ  
李、王、家、ヲ、頭、首、ト、ス、ヘ、シ、然、レ、モ、李、王、ハ、白、痴、云、フ、一、足、ス、五  
世子、ハ、倭、奴、ト、化、シ、而、ン、ハ、カ、ス、現、今、不、平、ノ、中、ニ、アル、李、恂  
公、ニ、シ、テ、李、太、王、ハ、往、来、李、恂、公、ニ、位、ヲ、讓、ラ、ム、ト、シ、テ、却、テ  
其、人、意、ヲ、非、サ、シ、李、王、ニ、讓、リ、タ、ル、モ、モ、先、シ、李、太、王、ニ、書

面ヲ送ルヘシト爲シ七月二十二日頃辺方ニ於テ起案  
シ(押収ノ書覺書ト題スル書面ナリ)辺ニ示レ辺ニ沈仁澤ニ示  
レ沈仁同志鄭駒永ニ示レ沈仁同志鄭兩名ニテ金勝鉉  
方ニ持参シテ示シ李太王ニ取次ニストテ以テセルニ金  
元亦之ニ同シタルヲ以テ二十五日辺方ニ於テ金東萬情書  
ニ表紙ヲ英佛秘露カ日本ニ聯攻スルノ大勢力ト題  
シ二十六日沈鄭ノ兩名金勝鉉方ニ於テ今人ニ後ニ同  
人ニ人ヲシテ李太王ニ致サレメタリ

是ニ於テ七月二十九日沈仁澤ヲ引致テ調フルニ辺ノ紹  
介ニ依リ成ト會合シテ其ノ拳ニ賛シ同志トテ前題  
金勝鉉鄭駒永及金思浩朴鳳來ヲ劾シ李

太王、奉ルノ書ハ鄭ト共ニ金勝銘、後レ又金思愷  
 シレテ李炯公ヲ盟主ト爲スヘトテ男爵金思淸ニ依  
 リテ李炯公ニ成ノ運動ヲ告ケレメタルニ李炯公ハ开  
 ハ好計畫ナリ一層成ト會證スヘキモ余ノ身辺ニハ  
 倭奴迭々アルヲ以テ屢々遇ハハ危険ナリ金男爵ハ  
 外父ニシテ信スヘキ者ナレハ萬事金阿父ニ證ントノ返答  
 アリタリト云スヲ以テ成ニ之ヲ告ケタルニ成ハ「中韓道  
 邦条約」ト題スル十四ヶ條ヨリ成ル書面ヲ思フナリ其  
 ノ内容ハ將來独逸支那ト共同シテ日本ヲ攻メハク其  
 ノ際朝鮮モ力ヲ戮セテ國權回復ヲ企圖スヘク之ヲ  
 爲ニハ今ヨリ支那ト密通シ置クノ要アリ而シテ咸樂

聲言ヲ李太王ノ代表トシテ袁世凱ト交渉セラルコトトシ  
李太王ノ委任状タル密勅ヲ賜ハレシ萬一能ハルハ  
李太王兼知<sup>李</sup>炯公ヨリ李太王ノ旨ヲ奉シタル書面ヲ賜  
ハリタルト云フアリテ此ノ書面作装ノ翌日即二十六日  
金男爵ヨリ面会スヘキ通知アリタルヲ以テ沈、金（思哲）  
成ノ三名相携フヘテ金男爵邸ヲ訪問シ内外房（中坐）  
オト習フヘキ親シキ者ヲハレタリ（坐ナリ）ニ於テ金男爵ニ面会  
シ談書面ヲ出シテ成ヨリ運動ノ方法ヲ説明セルニ金  
男爵ハ書面ヲ見テ首肯ノ方法ナリ今夜李炯公殿  
下ニ此ノ書面ヲ渡シスニ李炯公ニ必ズ喜ビ満足ス  
ヘシ然レタ今日ノ情況ハ李炯公ト雖隨時李太王

二面會スル能ハサルヲ以テ機ヲ見テ父王ニ密語スルモノ  
ナハ密勅ヲ得ルハ数日ノ後ナルヘシ答フルヲ以テ三名ハ  
其ノ意ヲ了レ引取リタリ

又朴鳳來ハ同志ヲ他ニ募ル任務ヲ相當ニ警覺  
書ヲ騰寫シ吳正根(兩班ニシテ参判ト謂フ資産家)及尹  
用求ヲ訪問シテ成ノ運動ヲ告グルニ兩名其ノ舉ヲ壯  
トシ是非下發會合スヘキヲ以テ成ヲ連リセヨトノ談  
アリタリト

是ニ於テ七月三十日鄭駟永金勝鉉ヲ引致不調ナル  
ニ成込金(軍需)使陳述ト毫モ遠ハス只金勝鉉ハ  
其ノ輩ニ賛同シテ李太王ニ取次クコトヲ承諾シ談書

甲寅九月  
庚子年  
九月

面ヲ受取リタルモ退ラ考フルニ本件ハ重大事件ニシテ  
一朝發覺セハ累ヲ李太王ニ及ホスモナルヲ以テ考察  
中込等カ官憲ニ引致セラレタルヲ聞知レタルヲ以テ之ヲ  
燒燬セリト主張シ又朴鳳來ハ吳尹ノ兩名ニ示レタ  
ルハ事毎貝ナルモ今人等ハ賛否ヲ答ヘサレト答フルノ  
コナリ(朴ノ贖金ハ押収セリ)

金思洪ハ本件發覺スルヤ所在ヲ晦シ不調ヲ爲スヲ  
得ス蓋シ金男爵等カ隱匿シタル者ニアリヤト思ヘル  
四詢書ノ結果ニ對スル補遺

金思洪ハ所在ヲ晦シ調査シ得サルヲ以テ七月三十日  
男爵金思儒ヲ証人トシテ呼出シ訊問スルニ本件ハ自



之進レテ為レシルニアラス。曰ハ遺忘セルモ四寸(経糸)金  
 思惟来訪シテ成友善た者國事ヲ直覺ト常ニ國權  
 ノ恢復ヲ期シ今回諸ニ支那ヨリ来リ運動中ナラ大監  
 下役面會シテハ如何ト告ルヲ以テ自分ハ之ニ雜輩ノ  
 所業ナルニ思フト考ヘ返答セサリシニ其翌日沈仁澤  
 来リテ同様ノコトヲ云フヲ以テ金々雜輩ノ所業トシテ  
 相手ニセサリシニ其翌日金(思惟)沈成ノ三名同伴  
 シテ自分ノ居ル内外房ニ来リ成ハ自分ニ對シ國權回  
 復運動ニ心カク盡レワシアストヲ告クンヲ以テ雜輩  
 何事ヲ為ルカト心中ニ繰リ返し返答セサリシニ中務預  
 和采約ト題スル書面ヲ差出シタルヲ以テ自分ハ之ニ

手ヲ觸ニス怒リタル態ヲ以テ物ヲモ云ハス外房ニ去リ  
タリ暫時ニテ三名ハ退去せんヲ以テ復タ内外房ニ  
入りタルニ該書面ヲ遺留シテアリタルヲ以テ不都合  
ノ奴モリト心中ニ憤リシモ事重大ノ事故他ニ示シ  
或ハ語ハレ却テ禍ト爲ルニト思料シ且其ノ望ハ成  
等逮捕セラルト聞キ金思惜ハ自分ノ親族ナルヲ  
以テ官ニ告グルモ如何カト思ヒ自ラ炊ノ場ニ持テ行  
キ下人等ノ居ラサル隙ニ乘リ燒棄セリ其後李嫗  
公ニ面會シ成等ハ斯ル不都合ノ奴ナリト願末ヲ語  
リタルニ公ハ惜シキコトナリ異狀壽ニ告ラレハ可ナリト  
云ハレ自分モ成ニ程困カセハ可ナリシコトト思ヒシモ尔

後ノ事ニテ有ル何トモカシク其ノ事ヲ受クニ  
至リ不賞ノ事ヲセリト悔ムノ事ナリト答辯シ  
絶対ニ否認  
スルコトアリ書面ハ其意ヲ及シテ受ケリタル  
云々  
又云陳述ノ如ク初メヨリ李堀公ト通シテ受  
ケリ書面ハ  
李堀公ニ送セルモノト思ヘラル

金勝銘ハ最初李太王ニ致サス燒棄セリト主張ス  
ルモ沈鄭ノ陳述ニ依リハ本書ハ豈ニ送ラレ  
ルヤ今夜半ニ其ノ手  
許ニ送付シ墨カサニ（カ）ト語リ兩名ノ面  
前ニ於テ妻  
ノ弟ニ命ジテ豈ニ送ラレ得タルヲ以  
テ更ニ金勝銘ヲ取調ムルニ李太王ニ關係  
アリタル如キハ

重大事ナルヲ以テ否思セルモ他ヲ陳述スルニ至ラテハ  
止ムナレトテ陳述シテ曰ハテ該書面ハ監廷廉勝信ナ  
ル者ニ命シテ李太王ニ授セリ廉ハ七月二十七日當番ナ  
ルヲ以テ二十六日夜ニ同人ニ授レ且ツ李太王ノ受ケリタル  
証拠ヲ持參セヨト命セシニ廉ハ二十八日來リ確ニ李太  
王ニ授セルニ同王ハ受ケリタル証拠トシテ「溫如玉」ノ印  
ヲ白紙ニ捺レ之ハ昔年正宗太王ノ使用セシ印ナリ之ヲ  
金勝鉉ニ示セリ同人ハ會得スヘルトノコトナレ故持參  
セリト云フヲ以テ之ヲ見ルニ金々李太王ノ印ナリ然レニ  
此ノ時成等ノ逮捕セリタル時ナルヲ以テ廉ハ其ノ事  
實ヲ告ケ李太王ニ返還セシメタリ

李太王、李堀公ニ関スル分ハ事重大ナルヲ以テ李堀公  
ニ関スル事實ハ釜男爵ヲ取調ハルノニ止メ  
李太王ニ関スル分ハ棄テ取調スルキ程度ニ達セテ  
若シ五、公ノ関係事實ハ明ニセントセハ勢ヒ釜男爵  
ヲ被告トシ家宅捜査ヲ執リシ棄ト共ニ取調フルヲ  
順布トスルニ事重大ナルヲ以テ差止メ命ヲ待ツト  
トセリ

五、経緯

イ、成業聲ニ坡州ノ名門ニテ家ニハ多クノ財産アリ  
祖先ニ多ク顯要ノ地位、昇リ九代ノ祖ハ議政府大  
臣トナリ祖父ハ禮曹判書ニ任ヤリ李家ノ優遇ヲ

受ケツソアク併合ニ不平ヲ抱キ趙鍾緒ヨリ四千五  
百圓ヲ預リタル金圓ヲ以テ明治四十二年九月支那  
ニ送リタル者ナリ

口辺錫鵬ハ相當ノ兩班ニシテ往年大院君ノ使寵ヲ  
受ケ官ハ陸軍參尉、過キサリシモ大院君執政ノ時ハ  
權勢ヲ弄シタル者ナリ

ハ沈仁澤ハ兩班ニシテ名譽宮内府主事タリシトア  
リ一昨午歸里ヨリ京城ニ來リ徘徊シツソア不平  
者ナリ

ニ鄭駟永 雜輩ニシテ政論ヲ好ミ之カガメ宮内府  
電務課技師ニ任用セラレタル者ナリ(電務課技師李

太王ノ信用ヲ得ルニ 社輩ヲ要ス所ニシテナリ

ホ 金勝鉉別ニ官途ニ就カサルモ名譽參奉トシテトアリ

安東金氏ノ名門ニシテ其ノ女ハ閔妃祖孫後妃ニ付テラ

ルニ命アリ 婚約確定セシモ其ノ後政變ニ次キ肅妃

勢ヲ得ルヨリ遂ニ安東ノナク 昨モ一旦妃トナルトニ

定リタル者ナリ故他家ニ嫁スルコトモ有ラズ (今日ハ差支

ナキ義ト重シキ者ナリ) 三十六歳ノ今日迄家ニ在リ所迄

四十五年間越重シキ之ヲ憫ミ周旋シテ李王家ヨリ

金參千圓ヲ贈リ慰メタルコトアリ

ハ 金思愷 男爵金思愷ハ一族是亦名門ノ一員ニシテ

維新國事犯ニ登リ流刑ニ処セラルコトアリ 併今ノ

際有志トシテ金壹千圓ヲ下賜セラルヘキ地位ニ  
アリシモ排白行動アリシノ故ヲ以テ除外セラルコト  
アル不平等ナリ

ト朴鳳來兩班ニシテ永ク京城ニ居住シ名譽主事  
タリシコトアルノ雜輩ナリ

### 六如置

前頭留置セル七名ハ保安怯遠及被告人トシテ留置  
取調進シ中ニテ本件ハ其ノ行動容易ナリナル以テ  
若シ金錢不得ヲ目的トスル雜輩行動ナリトスルモ  
赦ス可クサル者ナレハ不調結了ヲ待テ裁判所ニ移ス  
見込ニテ書類等ヲ作製セリ又成梁馨ハ係也



押領罪として処分に得べし

七附言

イ、本件ハ米ヲ石調進シ中ニテ事實要員米ヲ確定セザル  
ルモノアルヲ以テ進シ之件ト前題記載ノ経過事實  
及ハ附等ニ關シテハ今後多少ノ相違或ハ変更ノ在リ  
ハハシ然レモ事實ハ真相ニ毫モ変更ナク確信  
ス

ロ、本件ハ不逞者ノ運動ニ由リテ起テ發覺シ以テ逃亡ノ憂アリ  
シヲ以テ迅速ニ檢査セシメ關係者等ナク不逞者ノ真  
心裏(金銭雜輩等)動ナク或ハ因テ思慮ヲ出スルヲナク  
テ解剖スルニ不足ノ点アルヲ遺憾トス

(主管)

電

受

總督

政務總監

總務局長

秘書官



主任

三十三日

五

大正五年二月十五日午

一時三十分 東京局 發

總督

大隈内閣總理大臣

第 暗号 號 多 多 親 展

今回露国政府、依頼：應じ南滿  
鉄道：依り露国陸軍部隊ヲ大  
運：輸送し同地ヨリ佛国郵船及露  
国義勇艦隊所屬船舶ニ依り其  
地兵ニ輸送スルコト、ナリタルニ付テハ  
事軍機上、秘密ニ属スル事項ナ

ヲ以テ右ニ関シテハ一切新聞通信等ニ  
掲載セラル様然ルヘク御手配相願ヒタシ  
○尚至ル所敵國ノ間諜出没スルニ付特ニ  
御用意相成タシ

總督  
閣了

大正五年二月廿四日  
各省長官及府縣長官  
三十分施行

大隈總理大臣宛

總督

暗号電信親展

貴電了  
来  
早速必要

取  
締方訓達  
置タリ

大正五年二月十六日

朝鮮總督府警務總長立元小一郎



朝鮮總督府時寺內正毅殿

新聞通信掲載禁止事項命令件  
報告

二月十五日各該警務部長ニ對シテ  
通リ命令候條及報告告候也

進テ本件通信局長官 司法部長官ニハ  
通報濟ニ有之候

左 記

當分ノ内歐洲以外ニ於ケル露國ノ軍  
事ニ関スル事項ハ一切新聞及通信ニ  
掲載スルコトヲ禁スル旨當事者ニ命ス  
可シ尚此命令モ亦軍事上ノ秘密トス

名 称	<del>加藤高明</del> 寺内正毅文書
標 題	<del>加藤高明</del> 東洋拓殖会任内稿

分 類	
番 号	439
号	36

国立国会図書館

登録番号	
------	--

東洋拓殖會社關係

第八号



たのきやうとてきふ年前十時四十五分  
執行

略。今所東杯委

多属状況報告

承知荒井君の

今中書の方を名酒

事の上はご存じの如

事。昨の夜に送

しきゑゑゑゑゑ

ひきゑゑゑゑゑ

ひきゑゑゑゑゑ

アリンアリン

ひきゑゑゑゑゑ

ひきゑゑゑゑゑ

ひきゑゑゑゑゑ

廣信暗号紙尾

大正三年二月十九日午後三時三十分執行

現玉局長

監督

昨夜接手セル阿部ノ廣信ニ授ル東振

重役更迭ノ事頻リ唱ヘラル如キモ元

来改正法案通過ニ付重役ヲ續職

セシムル言貨ヲ禁ルニ極テ不穩當也

固ヨリ本案通過後ニ在リテハ自カラ其ノ

趣旨ヲ換リ會社内部ノ整理ヲ實行

スルニ當テ事柄ニ關シ其ノ結果或ハ現

重役ノ更迭ヲ必要トスル場合起ラスト

ス限ラズ唯今日ノ放テ豫メ之ヲ言明シ

法案通過り圖に終結ノ立場トシテ

最モ切實ニミカニサレ事ナリ依テ依令改

府<sup>ニ</sup>於テ自カニ進ミテ以ノ莫ニ付何業

言質リ特ニ如キ場合アリトモモ本

府側<sup>ニ</sup>テ以テ際飽ミ迄モ重役更迭

關言質ヲ~~特~~取ラレザル様注意

肝心ナリ右令置カレタリ

在ル人々ト上<sup>ニ</sup>於テモ此ノ旨ニ

付<sup>テ</sup>進ミタリ

和

廣信親長

乙巳五月十九日

在田一親橋 又元

總督

政務總監

昨日同志會政務調查會ニ於テ荒

井長官ヨリ東拓法ニ関スル種々ノ質

問ニ答弁シ秋山参事官ヨリ移民ノ

必要ナル所以ヲ詳説シ散會セリ本日ノ

委員會ノ狀況ハ別電ノ通ニテ殆ンド

役員ノ行爲ヲロシ極メテ批難スルニ止マリ

本案ノ趣旨ニ付テハ大体了解シタルモノ、

如ク案セラル依テ将来ノ方針改善ノ

必要等ニ関シ意見ヲ交換スルコトハ  
有効ナルト考ヘ居リ貴族院ノ日友  
滿州銀行委員會ニ於テハ大藏大臣ヨリ  
大體ノ説明ヲナシ二三ノ簡單ナル質  
問ニ答ヘテ考書ノ提出ヲ希望シタル  
俟散會後次會ハ何日開キヤ未定  
ナリ

(別電未着)

上五等月有者  
右四〇〇 新橋乃尾  
右六五三 市成乃尾

總督

政務總監

暗号

東拓案：関シ阿部ヨリ閣下宛差

出カレキ意見ヲ申上ケタル趣ナレドモ

小官等ハ最初ヨリ總裁等ノ進退

ヲ以テズ何處迄モ法律ノ改正ノ必要ヲ

説キ且政府ニ於テモ既ニ政府安否トシテ

提出シタル以上ハ其ノ通過ヲ圖ルハ尙

早ナク是非通過セシムル様首相内相

ニ於テ尽力セズ様兩相ニ面會ノ上

兩三度（日）其井見と秋山ノ三人

同志會、連中説破ニ勸メ本會議

ニ上ル様目下尽力中ナリ政府側ニテハ

大勢既ニ否（否）ト察シ或ハ握潰シニ

シタキ意ヲ（漏）同志會ノ内々其ノ傾

向アルヤ、推測セラル、ニ依リ幸俱樂部

ニ重立タル者へ東拓ハ滿蒙ニ關係ア

ハ政府提出ノ銀行案ヲ貴族院ニ東

拓案ノ廻付ヲ待（議）テ様依頼シタルコ

此夫ケハ大ニ成功致タレ目下、処ハ銀行



案モ大分問題トナリ居テ御衆知ノ  
通滿州日支兩銀行案ハ政府熱心ニ  
其ノ通過ヲ圖リ居ル此ノ奇策ニハ多分  
閉口ナルキカ政府ニ對スル此カニ事柄ハ面白  
カラガモ今日ノ場合如何モ致方ナシトモ  
政府側ニハ此ノ策略ハ一人モ知ル者ナシ  
其ノ邊ハ御安心ヲ凄ク

第 号

嘉慶五年二月廿日午後五時施行

政務總監

總 叙 目

貴書并誦御心上卷八樓樣遂一乘知  
之以上共御尺力ヲ希望ス

暗号

二二二二二

土百五十五百二十日 前十時五十分生し第廿六元  
右二時五十分生し第廿六元

終智

見玉

御手紙、趣拝誦政務總監、御指揮ヲ

受ケ荒井秋山兩官ト共ニ東拓法ニ付尽

力ニ居レリ 貴族院ニテハ日友滿州銀行ハ

是非東拓ト同時ニ審議スル必要アリトノ

意向確實トナルニ連シ同志會ニテハ東拓ヲ

握潰アレニセバ日友法案ヲ進捗ヲ妨クル

虞アルニヨリ頗ル當惑ノ体ナリ此際終智

ヨリ總理ニ對シ一層御配慮ヲ請フ旨

電報アルハ保障業者、有力ナル反對アリ

タル簡易保險法サヘ賛成シタル同志会

公友俱樂部ナシテハ必ず屈服スルナラント察ス

セラル政友會ハ滿州銀行ノ設立ハ必要ナ

ルモ東拓法ノ改正ハ時機ニ適ストノ理由

ニ賛成ノコトニ内定シタル模様ナリ改務總

監ハ度ハ首相内相ト懇談セラルモ昨

日ハ首相ニ對シ特ニ配慮ヲ請フヒ日

申出シタリ總理總督ヨリ電報セラルハ

重複ノ嫌アルモ今日ノ場合之が一番有効

ナル一シト信ズルニ依リセ官ノ箇ノ考トシテ  
内々御矢考迄ニ申進ム若シ御同意  
ナレ閣下ノ御意トシテ御取計アラシ  
コトヲ諸ノ尚電報ハ暗号ヨリハ平文  
ニテ直接發送ノ方宜シカレト存ズ

50

一、

2

電報平反親展至急

大隈内閣総理大臣 寺内総督

七、書首二古字，於九時三古施行。

東拓改正法案、目下衆議院委員會

三  
討議中、趣  
ナルが右改正案が満

蒙開發之至大、關係ヲ有スルハ萬分

御話置通、次力三付該案が首

尾能ク兩院ヲ通過スル様此際一設

御尽力ヲ希増員煩小重

月羊恩哥

七

二

部

成

石

、  
又

晴窗玉兔

壬午五月二十三日施行

佩玉兮長

池邊

貴電依申新ノ次才モアルニ付大要左ノ意  
味ニ今朝総督ヲ首相ヘ電報セリト右  
政務総監ニ上申セリ○日東拓殖事業  
手員会ニ討議申シ支右ハ滿蒙開發ニ至大ノ  
關係ナルヲ以テ兩院ヲ通過スル様以除キ  
鯨ノ捕獲力ヲ却ニ希望ニ傳フ云



暗号

政務總監

總督

大正五年正月二十日午後一時執行

東拓法ニ関スル一昨朝、電信ニ對シ大隈  
首相ヲ来々河等臣等ナキモ貴友  
新テ乍御苦留首相ヲ訪問シ總督  
多電信ニ御依頼スルニ通此際一  
層、御尽カラ希望ニ堪ハサルニ  
申ハラルル、素致スル有キ在  
都合リ具計ラレ

三月二十三日  
吉野山有二十三日  
新橋宛  
大正三年三月二十三日

總督

山縣

暗号電信

貴電拝誦し官昨日末病氣引

籠り為別電一通荒井長官ヲ

シテ今朝病氣引籠り中ノ大隈首

相ヲ訪問セシメ事情ヲ述べ一層ノ

尽力方ヲ請ヒタルニ首相ハ其旨ヲ

諒セラレ同志會總理府ハ對シ明日更ニ

懇談セラル、若其ノ模様ハ追テ

電報申上ゲ

二月二十日

土曜二月廿三日 六五〇 新橋 九五三 安藤

總督

荒井

暗号電信

東拓法ニ関シ昨日内務大臣ヨリ

同志會總務ニ懇談シタルニ總務ハ

先ヅ東拓内部ノ改善ヲ實行シタ

ル上改メテ提案セラレタバ格別今日ノ

場合法案ニ通過ノ上ハ大ニ刷新スベシ

位ノコトニテハ到底通過ノ見込ナク又若シ

修正スルトセバ殆ンド新規ノ條項全部

ヲ削除シ勸業資金ノ供給ノコトヲ  
 認ムル位ナルベシ斯クテハ却ツテ政府ニ迷  
 惑ヲ掛ケルコトナルヘキニ依リ結局握潰  
 スヨリ外ナルベシトノ意向ナリシ由依テ  
 今朝ハ官病氣引籠中ノ大隈首相  
 ヲ訪問シ事情ヲ述べ御配慮ヲ仰  
 グベキ旨ヲ申出タルニ首相ハ総督目ト約  
 束ノ上提案シタルモ斯ク迄面倒トナルベシ  
 トハ想像セガリキ加藤総理ニモ懇談  
 シタルモ明確志回答ヲ得ズ自分ハ本案

ニ関シ深ク責任ヲ感ズル次第ナルが故  
此上若ク通過方心配スベシ明日ハ議會  
ニ行リ積モリナド自分ヨリ總務ニ對シ更  
ニ懇談スベシトノ事ナリ○昨夜ハ中正  
會本日ハ同志會所屬東拓委員ト懇  
談シ事情ヲ大ニ疏通シタリト案ホセラル  
日午前十公友俱樂部部員ト懇談スル  
筈○藤澤矢政官富田東拓委員  
長ノ意見ニ概ニ幹部ノ態度決  
定セザレバ如何トモ取計ラヒ難シ依テ

是非幹部ノ意向・決定ヲ促カサレ  
トコトナリ一般ノ形勢ハ多少緩和サレ  
傾向アルモ同志會幹部ノ意見ハ前  
速ノ道ナルガ故此上ハ首相ヨリ幹部ヲ  
説キ同意セシムルヨリ外ニ途ナキ状態也  
○政務總監昨日末イルフルエシガ  
泰熱引籠中今日ノ容態御心  
配ニ及バズ

卷二十四

荒井長吉

終督

貴電了来段々、御配慮ヲ以て上  
ノ位力ヲ希望ス尚、首相終務会談  
ノ様式如何、平報ス

二月二十二日

大正五年二月二十四日

大正五年二月二十四日  
大正五年二月二十四日

終督

荒井

暗号

首相ハ本日モ病氣ノ爲出席出来サレニ  
依リ内相ハ今夜同老會總務ニ會見首  
相ノ意向ヲ傳ヘ東拓法案ノ通過ニ関  
シ懇談ヲ爲ス也



暗号

乙巳年十二月十四日  
右五、三六、新橋系  
右九、七、東橋系

総督

見玉

大藏省新ニ滿州銀行ノ成立ヲ希望スル  
余リ東拓法ノ質問ニ関シ免角不誠実  
不利益ヲ説明ヲ賜フニ願ヒ遺憾トスル所  
ナリ御参考ノ爲申進ム○貴族院新ニ  
日支銀行法特別委員會ニ於テ東郷男爵  
ヨリ東拓ハ朝鮮ヲ本拠トシテ滿蒙方面ニ  
發展スル地理上得策ナリト考フ當局ノ  
所見如何ト問ヘルニ對シ加藤矢政官ハ

東拓ノ未來ハ免テ角短來ハ余ヲ傷  
 方十分スズ故ニ今直ニ朝鮮ヲ差措  
 キテ滿州銀行ニ以テラシムルヲ得ニヤ否ヤハ  
 頗ル疑問也尙東拓ノ余カヲ以テ自  
 下ノ急務トスル滿州ニ及ボサシムルコトハ望  
 ム難シト答弁セリ因テ子爵ヨリ滿州銀  
 行案ト東拓改正案トノ關係如何ヲ質問  
 ンタルニ對シ武富藏相ハ東拓改正案ニハ朝  
 鮮以外ノ區域ニモ業務ヲ營ミ得ルコトヲ認  
 ムルモ右ハ朝鮮人ノ多シ移住セル例ハハ間島ニ

支店ヲ置クガ如キコトハ之ヲ認ムルモ滿州  
ニ於テ債券ヲ發行スルガ如キハ政府ニ於テ  
之ヲ認可セサル考ヘナレバ二者衝突ノ恐  
ナシト答ヘ子爵ハ笑テ東拓ガ例ハ滿  
州ニ於テ業福上ヨリ土地關係ヲ持ツ  
至極場合之ヲ認メサルヤトノ問ニ對シ本林大  
藏省政府委員ハ此カニ細目ニ直リテハ  
未ダ考ヘナキモ政府ハ認可ヲ許スル際不適  
當ノ方法ヲ講シ衝突セシメサルヲ期スト答  
ヘナリ

明治三十五年三月二十四日

新橋花  
平城署

総督

山縣

暗号電信

特別委員、一部に東拓法案中政府、

補助金に關する條項は此際之ヲ削除し置

き今後會社に於て充分整理刷新、實

ヲ行ふガルトトヲ認むル上、次期議會に於て

更に豫算ヲ以テ補助金ヲ要求せしむル

趣旨ヲ以テ同案ニ修正ヲ施し通過せしむ

トスルノ意見ヲ有る者アリ、本意見ノ如ク

スルトキハ次期議會ヲ追加豫算ヲ以テ  
補助金ヲ要求シ且一定ノ年限内豫算

外國庫ノ負擔トナル契約ヲ結ブ件ノ

懷賛ヲ得ルトシ要スベシ能ラハ極力原案

ノ通過ヲ圖ルベク尙貴族院ニ於テ日支

及滿州銀行審査ノ關係上東拓案ノ

貴族院廻付ヲ必要トシ思ノ外容易ニ衆

議院通過ノコトナシトモ測ラレザルモノ一原案

ノ通過到底困難ナル場合ニ於テ右ノ如キ條

ニ意見ノ提議セラレタルトキハ之ニ同意シ案ノ

通過ヲ計ルベキヤ又ハ此ノ際通過ヲ断念  
シ握潰ブリコトニ取計スルムベキヤ會期  
切迫ニ付豫メ御指揮ヲ仰ガ  
右ハ荒井兎玉秋山ニモ懷議濟也

庚辰

三二九  
電報案

政務總監

總督

暗号

東拓法案に關する貴電了来原案、  
供通過、見込する場合に會社、整理  
刷新、實に等クルヲ條件とし、次期議會に  
於テ補給金に關する追加豫算及豫算外  
國庫負担ナル契約締結、按賛ヲ  
禁ル旨ヲ以テ修正スルモ、尤モ言明スル  
族ヲ補助ニ關スル條項ヲ削除スルコトニ同

意に通過ヲ計ル得策ト思料ス旨ノ  
 貴見ハ御同意ヲ表ス唯特ニ注意スハ  
 キハ会社ノ整理ハ特別委員ニ今後会  
 社ニ於テ充分ノ整理刷新ノ実ヲ示スル  
 コトヲ條件トスルモ斯カク整理ハ之ヲ見ル人  
 ニ依リ其ノ程度ヲ異ニスルハ勢ノ免レサル所  
 ニシテ之ヲ嚴格ニ云フ時ハ難キヲ以テ会社  
 ニ強ヒルコトナリ結局如何ニ整理刷新  
 モ充分且完全ト云ヒ得ルノ時期ナキニ至ラレ  
 トス依テ右整理刷新ニ付テハ余ノ過度



ノ要求ヲナスコトナク之ヲ適當ノ程度ノ見  
解ニ止メ置クハ極ナキ必要ノコト、思料ス若  
シ此矣ニ付能ク相互ノ意思ヲ疏通シ得ル  
内滿ニ進行シ得ヘシトモ思ヒ又先般來  
貴族院ニ於テ東拓法ノ爲厚意ヲ有スル  
向モアルヤニ察スセシハヲ以テ其ノ邊御考  
慮ノ上萬事可矣御措置相成タレ○  
尚昨夕貴電到着前奏送ノ書面中  
ニ東拓法ニ付昇見申述置タリ

二月二日午後六時

土山五年二月二十五日  
右一四四 新橋 松橋 松橋 松橋

總督

其川井

暗号 至急

東拓問題ニ関シ昨夜永内相ト同志会  
片岡總務トノ会見ノ模様左ノ通報告  
アリ。片岡ノ意見ニ概ル会期切迫ノ際  
改正法案ニ関シ諸種ノ意見ヲ取纏ムル  
ハ到底困難ナルヲ今一ケ年百ハ百ノ状維持  
ニ止メ後ヲ補助金ヲ一ケ年間繼續スルヲ  
トシ其他ノ改正ハ次期議會ニ於テ會社

整理刷新ヲ詔ナル上詮義スルコト、  
 ナレバ此際ハ之ヲ見合ハスルノ趣旨ヲ以テ法  
 案ヲ修正通過ヲ計ル外ナク若シ政府ニ  
 於テ御同意ナスバ此ノ趣旨ヲ以テ他ノ総務  
 ト打合ハセ幹部ノ意見ヲ纏見込ムルツコトナリ  
 トノコトニテ自分ニ於テモ他ニ適當ノ解決方法  
 ナレト認ルニ依リ之ニ對スル相當ノ意見  
 至急問合ハサレタレ○右ハ殆ンド法案ノ否  
 決ニ等シク到底同意ニ難シト信ズルモ至  
 急何分ノ御指揮ヲ仰グ尚貴族院ハ

目支及滿洲銀行ノ審査ヲ東拓案廻付  
ル迄延期スル様子合<sup>アル</sup>ニ依リ政府ハ東拓案  
ノ解決ヲ急ガノ模様アリ御金迄申進ス  
○本電ハ各官ト打合セ済<sup>ス</sup>

(主管)

電

送

總

督

了

政務總監

總務部長官

長

祕書官

主任

明治三十五年

二月

二月

五

日午後

五時

一〇

分發

東京

現玉總務局長

總督

第 暗号 號

昨夜山縣君、電報ニ接シ熟考

ノ未將ニ谷電ヲ發セムトスル際荒

井長官、暗号電報ヲ收領セリ

内相ト片岡ト會談、模様ニ考

フニ到底政府並ニ暗黨ハ本按ノ

通過ニ力ムル、誠意ナキカ如シ果シテ

然らば此上小刀細工ハ却テ所来ニ累ヲ残  
スノ嫌モアルコトユエ一切ノ妥協的態度ヲ止メ  
單純ニ政府當局ニ向テ本按通過ヲ要請ス  
レ止ムヲ得サレハ然レテ止ミ其責任ヲ政府  
負ハシメ置クヨリ他ニ手段ナクハレシ尚貴族院  
側我提按同情<sup>者</sup>ハ必要アル其意ヲ洩  
シ置クモ可ナラム從來各位ノ不容易御尽  
力ヲ謝ス。右政務總監及荒井秋山兩  
官ハモ御禮アリテ

主管

電

受

總

督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

大正五年二月二十六日午後三時

五分

針橋

發

總督

荒井

第 暗号 號

昨夜皇王局長宛御電命、趣依り

片岡總務提議案ハ不同意、旨答置

キ今朝議院內ニ於テ首相並ニ内相

ニ面會シタルニ兩相ヨリ同志會總務

ハ(一)朝鮮以外ノ營業區域ヲ開

島ニ限リ之ヲ法外ニ明記スルコト(三)割増金

ノ起債權ハ朝鮮以外ニ於テハ行使セザルコトヲ議合ニ

於テ明言スルコト(三)次期議會ニ於テ詮議ノ意味

ヲ以テ補助金ニ關スル條項ヲ削除スルコト以上ノ

修正ヲ以テ黨議ヲ纏メ法案ノ通過ヲ計セント

スル意見ヲ有スルカ之ニ對スル總督府ノ意見見如

何トノ事ナリニ依リ兎玉秋山兩官ト協議ノ上

本意見ハ改正案ノ骨子ニ依リテ施スモノニ之アリ

且御電命ノ次ヲモツルニテ到底同意シ難キモノト認

其旨首相及内相ニ復答ニ尚此上共一切政府ニ

御任セラル付是非原案ノ通過ニ御見カアラシコトヲ依

頼ニ置キテ



(主管)

電

送

大正五年二月二十六日午後七時

分發

總督

荒井長官

總督

政務總監

第 二 次 號

總務局長

貴電諒承御報告件、至極適  
當、措置上思料、

秘書官

主任

主管

電 受

總 督了

政務總監 不在

農商部

總務局

庶務

官 官

秘書官

主任

大正五年七月二十七日午

午後一時一分

新橋 發

總督

荒井

第 手文 號 親展

同志會代議士會ニ於テハ唯今東拓

法、關シ幹部ヲ從事政府トシテ支

海ノ成行ヲ説明シ結局東拓改革

ノ實績ヲ認メタル上、次、議會ニ

於テ審議スルモ遲カラズト云フ意

味ヲ握續ブレシ決シ尚總督ニ對シ

月 羊 總 督 手

何等ノ感情ヲ挾ムガルト及政友會員

タル重役アルが故ニ之ニ反對スルモノニ非サル

コトヲ  
公表スルコトニ決シタリト云フ

主管

電

受

總督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

大正五年二月二十七日午後二時三十分 井橋 發

總督 現玉

第 暗号號

政府ハ東拓案ニ對シ不熱心ナリレニ引  
換ハ日友滿洲銀行ニハ最善ノ好  
力ヲ尽クシ大隈首相ハ委員中ノ及對  
者ヲ自定ニ招キ又滿洲地方ヨリ委員  
ニ對シ設立必要ノ電報ヲ發セシメ  
或ハ漢澤中野ノ實業家ニシテ運

勦セシメタルノミナラズ本日本委員會ニハ首相始  
メ外務大藏内務ノ各大臣出席シ首相外  
相ヨリ種々ノ懇談アリタルニモ係ラズハ對  
五ニテ否決セラレタリ

明治二十二年正月二十七日午後五時三十分

頃玉南長

總督



貴電了業東北東京ニヨリ改稱總監  
始々各官、一オウカ<sup>也</sup>尾カヲ煩ハタニシ  
ラス供ニ機目的ヲ貫徹スルヲ得サリシハ遺憾  
ナリト雖モ今回ノ努力カハ將來ニシテ何事ノ  
効果ナキニシト云フヲ得サレシト雖モ確信ス  
茲ニ各官、對シ附意ヲ表ス

(主管)

電

受

總督

政務總監

總務局長

祕書官

主任

不承二下

大正五年二月二七日 午後七時五分 新橋 發

總督 兎玉

第 千 號 親展

東振案、閣下議會に於て主として小  
官説明、任に當り通過方寸尽  
力致すも政府長時、黨、同情ヲ  
得ルに至らず、不成立に終り之れ小官  
不徳不敏、致ス所ナリ謹シテ御詫  
申上グ

改寫主任

發信局

裝笑圖

發信人

大隈伯爵大佐

東松会社法改正案ハ既ニ御賢案ノ旨ノ屬ニ懇談  
ヲ試ミ又衆議院ニ於テモ修正ノ會議アリタルヲ改修シ  
要ハ政府ノ意ニ充タズル迄ニ議ラニ難キ至ラズ直ニ貴  
院ニ堪工不致致ルヲ報知スルノ方儀仰知ス。



(主管)

電

總督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

送

大正五年二月二十九日午前九時四十分發

大隈總理大臣 總督

第五十八號 環辰

御前重た貴電拝<sup>謝ス</sup>東拓改

正法案ニ付テハ不一方御尽力ヲ

煩ハシタルモ終ニ議會ノ容ル所ト

ナリガリシハ眞ニ遺憾ニ堪ヘス不

取敢右御禮申上ク

(主管)

電

送

大正五年二月二十九日午前十時

分發

總督

政務總監

總務局長

秘書官

主任

見玉局長

池邊

第 三 號

昨夜大隈首相より東郷閣下へ御座る様

に、又東郷閣下より東郷閣下へ御座る様

に、東郷閣下より東郷閣下へ御座る様

に、東郷閣下より東郷閣下へ御座る様

に、東郷閣下より東郷閣下へ御座る様

に、東郷閣下より東郷閣下へ御座る様

是云  
運石七丁一丁五石占

三十一 加九〇

大正五年二月二十九日午後一時在府内

荒井長官

總督

児玉局長

貴電了承

今期、議會に於て本府関係事項ハ  
大体ニ於テ極多良好、成績ヲ呈  
クルヲ得タルハ、全ク各位連日ノ御  
力、依ルモノニテ茲ニ謝意ヲ表ス  
尚社中内外ハ兩省ニモ在任博下ナシ

總

督

大正五年五月二十二日

吉原總裁

野田副總裁殿

拝啟茲御清康奉賀候陳者株主總會モ本日電報ヲ以テ此  
通報申上矣通原按可決無事終了致シ御同慶ニ奉存候着  
京以來東京側ノ様子ヲ探ラシメ居矣得共格別ノ模様モ相見  
ヘス稍々中心タルヘキ神田鐺藏ハ病氣ノ爲葉山ニ轉地致居  
松本恒之助モ郷里三重縣ニ帰省致居矣様ノ次第ニテ總  
會ゴロノ來訪新聞社員ノ探訪的往復アリシ止リ新聞ニハ  
何事カアルカ如ク掲載スルモ其實株主ノ動搖ヲ誘起スルノ効  
果ヲ生スルニ至リ不申候東京新聞ニ見ヘタル會社持越粉ノ  
評價ノ不當ヲ喧傳セルカ如キハ東京側ヨリ出タルモノアラス  
シテ大阪東拓會委員中ノ一人ヨリ誤リヲ傳ヘラレタルモノ

ト信セラレ候東拓會委員昨日着京ニ付東京側トノ往復  
アリタル模様ナルモ東拓會ハ委任状ヲ集メタル關係ヨリ殊更  
ニ強固ノ意見ヲ仮装シ居リ不信任決議ヲ提出スヘシト申  
居リタル武ニテ東京側ニテハ寧ロ意外トスルモノアリタル位、聞込  
メリ東拓會委員ハ前年ノ如ク多数ニ東上セス僅ニ中谷  
庄兵衛、安宅祐吉、吉田常吉ノ三氏ニ止リ其他大阪側ヨリ  
出タル人ハアリタルモ全ク独立ノ意見ヲ抱持セル人若クハ總會荒  
ラシ等ナリキ東拓會ニテハ目的ナク委任状ヲ集メタルモノトテ  
少シ持テ餘シノ氣味ニ觀察セラレタリ委任状ヲ集メカテ何  
等公然標榜スル慶ナクシテハ委任者ノ手前ニモ顔立タスサレバ  
トテ無法ナル問題ヲ出シテモ物笑ヒトナリテハ内輪揉メラ生スヘク  
決算ハ眞實異論ナキ慶ナルニ加ヘテ補給金ナキ場合ニ於ケル會  
社将来ノ計画ニ付テモ全然賛成致居テ事ナレハ最早具體

的ニ云フヘキコトナシ毎度ナカラ繰返シテ株主議決權ノ權利數問  
題ヲ云爲スルト補給金ノ中断シタルコトヲ憤慨スルニ止リ其昨夜  
井上理事會見シタルトキノ模様ハ前日ニ外ナラス昨年一昨年ニ於  
ケル模様トハ同日ノ論ニ無之始末ニ因レルカ如キ狀態モ有之候現  
ニ東拓會ノ最モ強固論者タル竹原、徳田ノニ氏ノ上京セサル如  
キ右ノ事實ヲ証明致居候從テ井上ニ向ツテハ是非靜穩  
ニ總會ヲ通過セシムルヲ會社ノ爲ナリト語り他ノ株主ニ向ツテハ  
大ニ強固ノ態度ヲ採ルヘシト云フカ如キ其實況ヲ推測スルニ  
足ル東拓會モ全ク事ヲ好ムモノニアラスシテ兎ニ角資産家  
并ニ相當有力ナルモノカ中心トナリ居ルヲ以テ唯無暴ノ事ヲ爲  
スカ如キコトハ無之全ク昨年一昨年委任狀ヲ集メタル關係アリ  
今年モ何等カ計画アル如キ態度ニ出テサレ本年々ノ委任者ニ対  
シテ立替場ノ都合悪シキニ出テタルコト主タル動機ナルモノナラン昨

夜社員ハ夜ヲ徹シテ東拓会ノ委任状ヲ相調査処五万五千余ノ權利數ヲ集メ居リタリ本日總會開會前ニ總テ手順ハ行届キ故障ナク開會セリ 劈頭ニ於テ小生ハ會社ノ營業報告ヲ爲シ續テ議會ニ於ケル法律案ノ經過ヲ報告シ其通過セサリシニ鑑ミ責任ノ重キヲ感シ退般辭任ヲ申立タル旨ヲ陳述シ更ニ補給金無キ場合ニ於ケル會社前途ノ計畫方針ヲ具シ後任者ノ參考ト爲サントスル旨ヲ演說セリ其際東拓会委員ハ權利數問題ト補給金ノ繼續ヲ會社重役監查役并監督官ニ向ツテ特ニ盡力ヲ仰ク旨ヲ要求セリ尚ホ辭職ニ對スル同情ト過去ノ勞ヲ謝スル旨ヲ陳述シタルカ此際大阪ノ總會荒ラシ箕口臣也ハ辭職ヲ申出テラレタル重役ハ總員ナルヤ又ハ何々重役等何人ナルヤトノ質問ヲ爲セルニ付好マサリシ所ナリシモ事實ノ通答并セリ尚ホ箕口ハ



經費節約ノ不充分ナルト繰越金喰込ノ不可ナルト并重役  
賞典減少説ナドヲ主張セシモ一人ノ賛成者ナク反テ多数ノ反論  
ヲ受ケタリ本人ハ總會ノ紛擾ニ乗シテ會社ノ御用ヲ勉メ  
何ニカ得ル所アラントスルモノ、如クナリシモ別ニ紛擾モナク從テ  
何等物ニナラサルヲ以テ反省シタルモノ、如シ東京側總會荒  
ラシ山本岩夫ハ身自ラ同志會派ナルモ會社カ同志會  
等政黨ノ容喙スルトコユナクテハ不可ナリナド彼は主張スル所  
アリシモ昨年ノ如ク咆哮セス昨年ハ重役賞典問題ニ對シテ  
大ニ激論シタル人物ナリシカ本年ハ大勢ノ定マレルヲ見テ反對  
ノ口吻少ナク大阪總會荒シニ對抗ノ態度ヲ採リタルモノ、如  
シ忒モ之レハ通信社長ニシテ何ニカ依頼ノ爲ニ反對セサリシモ  
ノニ外ナラス要スルニ賛否トモ到底有識者ノ耳ヲ傾クル所  
ニアラス唯喧囂ヲ事トスル機械ノ如キモノト見ルヘキナリ尚ホ

東拓會ハ經費ノ過大ナルコト土地税ノ多大ナルコト開墾、水利  
ニ對スル投資ノ巨額ナルコト當座預金ノ比較的乏キコト等  
ヲ論議スル所アリシモ孰レモ適切ナル非難トハナラス總會ノ  
大勢ハ全ク原案ニ異議ナカリシモノ如シ監事ノ選挙ニ  
付テハ議長ヨリ三名ノ選挙委員ヲ指名スルコトナリ松本恒  
之助、入江海平、中庄庄兵衛ノ三氏ヲ指名シ其結果福  
本元之助氏ヲ選スルコトナレリ會議ハ一時四十分ニ始リ三  
時十分ニ終リセリ右總會荒シノ春蠶動アリシモ昨年一  
昨年ノ總會ニ比スレハ殆エト比スヘクモアラス近來エナキ靜  
穩ナル總會ニ有之候不取敢右由通報申上候

早々敬具

名 称	寺 内 正 毅 文 書
標 題	寺内伯朝鮮施政及寺内首相寺内内閣= 対ル外国新聞雑誌論評.

分 類 番 号	
	439
	37

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

寺内伯朝鮮施政  
及寺内首相寺内閣

對<sup>スル</sup>外國新聞雜誌

論  
評

前總持寺内伯及施政ニ關スル外評

目次

一、韓国併合

「クリフイス」氏所論  
「北米評論」一九一〇年刊

二、朝鮮總督ノ陞爵

「ジャパニゾー」紙社説中ノ一節  
一九一一年四月

三、伯爵寺内總督

宣教師「ゲール」博士所論  
紐育「インデペンデント」雜誌一九一三年二月

四、東洋ノ日本

寺内伯爵ノ施設

「ラウド」博士ノ所論  
米國「人権進步」雜誌  
一九一五年一月號

五、朝鮮ニ於ケル新生涯

東亞「ロイド」誌所説  
支那上海號刊

六、寺内伯暗殺ノ計畫

倫敦タイムズ紙隔日版掲載  
一九二二年三月九日号

七、朝鮮ノ於テハ基督教ノ待遇

「デー」博士ノ所論  
「ロヤバ」アドバタイサー紙

八、朝鮮ト其ノ政治

「ロヤバ」タイムズ紙  
一九二二年五月十号号

九、朝鮮ノ於テハ日本人

日本国大役領「ハスウ」氏所説  
組合「トロポリス」雜誌一九二五年三月

一〇、朝鮮ヲ模範的殖民地ニ改造スル日本

「クラーク」氏所論  
組合「サ」紙一九二五年六月十号

一、東洋ノ文化

安部「エーワーク・イウニング・エー」評論  
一九二六年三月廿九日号より

二、米國大統領「フーバー」氏ノ書翰

三、朝鮮

倫敦「スタースト」所説  
一九二六年一月廿九日号より

四、朝鮮ニ於ケル日本ノ施政

倫敦「エドモンド・エクスプレス」誌

五、朝鮮

倫敦「スタースト」誌  
一九二七年五月十一日号より



# 1. 韓国併合

一八九四年十一月A刊

「北洋評論」載「グリッフィス」氏所論

「<sup>ハートランド</sup>帝<sup>キム</sup>」及「<sup>ハートランド</sup>隠<sup>キム</sup>豚<sup>キム</sup>國」ノ著者トシテ又米國ニ在ル極

東問題ノ精通者トシテ著名ナル「ウヰリヤム・エリオット・グリッフィス」

氏ハ之ヲ前掲表題ノ下ニ在ル如クテ韓國ヲ主

權國トシテ在界ニ紹介シ多年世ノ民衆ニ努力シ結

局保護政体ヲ併合ノ止メナキニ至ル事ヲ敘述

シ得藤公カ韓國救済ノ事ヲ以テ畢生ノ事業ト

為シ公義正道ヲ以テ始終一貫シ母國ニ在テハ武斷

派ノ如人望ヲ買ヒ韓子ニ在テハ貪婪廢食ノナキ

自國人、反對ヲ受ケタヘ拘ラズ望ミ不拔克シ細  
大ノ政務ヲ處断シ施設改善ノ施設ヲ肇始  
シタルコトヲ孰シ次ニ在ノ如ク記ス

今ヤ寺内子既設ノ基礎ノ上ニ上部構築ヲ施シ

トス日本ノ歴史ニ於テハ薩摩ノ戦士ヲ生ミ長州

ハ政変家ヲ出スト云フ寺内子ハ睦相ニシテ參謀次長

(原文ノ儘)ナレトモ歐洲ニ於テ教育ヲ受ケ一八八五年

長州ニ生マレ沈毅豁達同情ニ富ム人ナリ

(千九百十一年四月「ジャーナル」紙社説中ノ一節)

寺内伯爵ハ昨年第一代朝鮮總督ノ任ニ就ク迄ハ比類ナキ武人の經歷ノ人ナリシナリ伯爵ハ明治三十七八年中日本カ北方ノ大強國ト國運ヲ賭スルノ戰役ニ從事セシ際終始陸軍大臣トシテ其ノ國務ニ執掌シ當時世ニ最得難シトスル聲譽即チ一回タリトモ未タ曾テ過誤ヲ爲セシコトナシト云フノ名聲ヲ博シタリキ是故ニ世人ハ日本政府カ瑣小ノ錯誤タモ尙一大禍亂ヲ惹起スルノ虞アルノ危機ニ際シ伯爵ヲ韓京ニ派遣シテ難局解決ノ任ニ膺ラシメタルヲ見テ其ノ選任ノ極メテ機宜ニ適セルヲ感シタリキ此ノ選任ノ結果トシテ朝鮮ニ於ケル事局ノ事毎ニ間然スル所ナキ圓滑ト時計器ノ如キ精確トヲ以テ進行セシハ世界列國ノ識認セル所ナリ

要スルニ朝鮮總督ハ獨特ノ統制ト先見トヲ以テ克ク其ノ難局ニ處シ朝鮮併合ノ

歴史ヲシテ徹頭徹尾最微ノ事變又ハ違算ノ痕跡タモ之ヲ印スルコトナカラシメ  
タリシナリ惟フニ人力ヲ以テ遂成シ得ヘキ最大最偉ノ事功モ往往ニシテ消極的  
ナルヲ免レサルコトアリ而シテ寺内伯爵ノ朝鮮ニ於ケル勲業ノ如キ亦其ノ例ニ  
漏レサルモノナリトス

### 3 五三 伯爵寺内總督

(千九百十二年三月刊行)  
シヤン、メー、ル所掲

去二月、伯爵寺内總督「イデヤデント」ニ在朝鮮皇教師「ゲール」氏ノ寄稿を以テ  
總務、性行ヲ略叙シタルモノアリ。如ク、伯爵寺内總督ノ序述ニ次  
ヲ左ノ如ク記述ス。

「ゲール」氏ハ寺内總督ニ就テ記シテ曰ク總督ノ面貌ハ一見シテ忘ルヘカラサルモ  
ノナリ稗史「ウイルロー」バターン「ニ弓狀ノ劔ヲ横タヘタジマハール」廟ニ集群スル  
蒙古人ヲ睥睨スル東方人「サラザン」ノ面影ヲ偲ハシムルモノアリ體格頑強ニシテ  
身ノコナシ稍重ケニ見受ケラレ右腕用ヲナサス是レ西郷亂ニ銃傷ヲ受ケタルニ  
由ルモノニシテ此ノ故ヲ以テ御前ニ出ルモ左手ヲ以テ敬禮ヲ行フコトヲ許サル  
蓋シ此ノ如キハ伯一人ノミ本年五十九歳人トナリ寡黙ニシテ殆ト接近ス可ラサ  
ル觀アルモ衷心溫厚ニシテ眼前ニ群リ來ルノ事務ヲ處理スルニ於テモ亦綽然ト  
シテ餘裕アルニ近シ日本カ既往四十年各方面ニ於テ不思議ノ變革ヲ遂行シ以テ

今日ニ至リタルノ間寺内伯ハ重要ナル任務ニ服シタルナリ伯ハ朝鮮ト相近キ長州ニ生レ朝鮮人モ太古ニハ己等ノ祖先ト伯ノ祖先トカ對馬ノ波濤荒キ海ヲ距テテ兄弟タリシナラント推想シテ悦フナリ伯ハ日本新紀元前西日本ニ在テ強藩タリシ藩ノ士族ニ生レ齡三十ニシテ佛國ニ留學シ後年艱難ノ局面ニ立ツノ素養ヲ造成シタリ茲ニ今管管シク其官歴若クハ其ノ佩用スル勳章ヲ舉クルハ無用ナリ伯ハ金鷄勳章旭日大綬章ヲ拜領シ英國「エドワード」皇帝ヨリモ「バース」大十字勳章ヲ贈與セラルルノ名譽ヲ有シタリ然レトモ此等ノ勳章モ伯ノ活履歴ノ前ニ在テハ光輝ナシ露國トノ大戰爭中ニハ伯ハ陸軍大臣タリキ當時戰爭遂行ノ重荷ハ懸テ伯ノ肩頭ニ在リシナリ其ノ肉附頑丈ニシテ稍弓曲セル肩頭ニ懸リ在リシナリ陸軍大臣タル伯ノ職ハ人ヲ選任シ方法ヲ發見スルノ大技倆ヲ有スルニ存シ又戰役ノ成功モ此レアリテ始メテ之ヲ豫期スルコトヲ得今ニシテ之ヲ思ヘハ千九百四年二月八日ハ日本カ此ノ死生の戰爭ニ於テ興敗存亡ノ相岐ルルノ始メナリシナリ之ニ勝テハ日本ハ東洋ヲ指導スルノ地位ヲ得ヘク若シ之ニ敗ルレハ日本ハ或ハ亡ヒテ過去一場ノ夢物語ト消エ去リシナラン

日本皇帝陛下ハ天縱君主ノ素質ヲ具ヘ給フ中ニ大人物ヲ選擇スルノ美質ヲ具ヘ給フ寺内伯ハ多年來陛下寵眷中ノ一人ナリ日本最艱難ノ時特ニ拔キテ帝國ノ運命ヲ委任セラレシハ伯ナリキ此戰爭ニ於テ總テノ名譽ハ東郷大將ニ歸シタリ此レモ當然ナリ東郷大將ハ戰勝ヲ博シタル艦隊ヲ統率シタル人ナレハナリ乃木大將亦然リ乃木大將ハ自ラ將トシテ不可攻ト稱セラレシ旅順ヲ陷レタレハナリ此等ノ大戰士ノ效績ハ「ロイテル」電報及ヒ新聞電報ニ由テ世界ニ紹介セラレシモ何人カ一人曾テ寺内伯ノ上ニ就テ特ニ聞知セル所アリヤ伯ハ陸軍大臣タリ約一百万人ノ生命ニ關シ又戰勝ヲ可能ナラシムル所ノ謀計畫策ハ皆其主宰スル陸軍省ヨリ出テタルナリ伯ハ戰場ノ人ニ見ル赫赫耳目ヲ聳動スルノ聲名ナクシテ自ラ總テノ負擔ニ任シタルナリ余「ゲール氏」ハ今茲ニ黃海海上一年中寒威最モ嚴ナル二月ノ一夜ヲ回想ス寒風凜烈トシテ夜暗ク幾條ノ棧橋橋上ニハ薪材ヲ積ミ時時「バケツ」ノ石油ヲ取テ之ニ潑ケハ火勢猛然トシテ高く中天ニ閃キ互リ港内ノ全景忽然トシテ眼眸中ニ入ル人馬船橋砲煩輻重材料等ノ物今方ニ揚陸セラレツツアリテ人ハ皆己レノ任務ト職分トヲ解セルカ如ク何等懈怠ノ色ナク肅然トシテ秩

序ヲ案サス快速ニ其受命ノ職事ニ盡瘁シ戰爭ノ遂行ニ遺憾ナカラシム其ノ斯ノ如キハ即チ此戰爭學ニ精通スル人士(寺内伯)アリテ陸軍省ヲ主宰シ指揮設計一絲不紊レサルノ結果ニ非スヤ練熟ヲ示スモノナリ練熟ハ即チ成功ナリ而シテ練熟ハ軍隊運動ノ各方面ニ互リテ現ハレタリ然レトモ一萬五千噸ノ大戰艦初瀬カ乗員七百餘人ト當時最モ戰爭ニ必要トセシ十二吋砲トヲ搭載シタル儘旅順沖ニ沈沒セシトノ報告ノ陸軍省ニ到達セシ時寺内伯ノ心中如何ナリシソ更ニ此ノ沈沒ヨリモ悲キハ護衛艦ナクシテ發送セラレタル運送船力敵艦ノ爲ニ擊沈セラレタリトノ報告ノ電信ニ因テ傳ヘラレシ時ナリ當時海上ニ敵ノ隻影アルヲ思ハシメス且運送船ノ發送ハ極秘ニ附セラレタリ然カモ露國巡洋艦數隻ハ忽然前頭ニ顯ハレ來リテ日本(原文ノ儘)ハ降服ヲ肯ンセスシテ擊沈セラレタルナリ既ニシテ此ノ事ハ何處ヨリカ敵ニ内報セルモノ有ルニ由ルコト知レ或人ハ既ニ其ノ間諜ト目指サレ而シテ此ノ間諜ヲ發見スルノ任務ハ寺内伯ニ託セラレタリ朝晴レタル一日鎌倉ノ大佛ニ近キ逗子海岸ニ於テ兵士ノ一小團ハ佛國一將校ノ家ヲ包圍シタリ此ノ將校ハ陸軍大臣ノ命令ニ因テ逮捕セラレ審問ノ上禁錮十五年ヲ宣告セ

ラレシカ後赦サレテ歸國シタリ此ノ事ハ苦シキ任務中ノ一部ヲナスモノニシテ  
且重砲ハ運送船ト共ニ沈没シタルアリ更ニ旅順要塞前ニ於テ數千ノ兵士カ何等  
見ルヘキ效果ヲ收メスシテ戰死又戰死シタリトノ報告到達セル時ヲ想ヘ又軍事  
費ハ盡キ鉅額ノ公債ハ募集セサルヲ得サリシ時ヲ想ヘ今日此等ノ事ハ皆忘レラ  
レテ一人寺内伯ノ苦心ヲ思フモノ無キモ伯ニ於テ毫モ之ヲ怨ムノ色アルヲ見ス  
寺内伯ハ好朋友ニ對シテハ極メテ懇切ヲ盡シ佛國人モ露國人モ眼中ニ區別セス  
其ノ人ヲ待遇スル狀ハ近代式官吏トシテ間然スル所ナク中ニ舊日本ノ好慣習ヲ  
交フ朝鮮ハ伯ニ因テ殷富ニ向ヒ庶政改良ヲ見タリ又伯ノ客ヲ待ツニ快活芥蒂ナ  
キハ内外人ニモ悅ハル伯ハ武人ノ故ヲ以テ其ノ總督トシテ朝鮮ニ來任スルヤ人  
ハ多ク伯ヲ畏憚シ當時風說アリ謂ヘラク伯ハ武將ナリ其事ヲ處スル必ス冷刻無  
情ナラント是レ然ラサリキ伯ハ赴任以來朝鮮ノ最好友人トナリ又恩人トナリ朝  
鮮ニ安心ト靜謐トヲ齎ラシタリ伯ハ怒ルコトヲ知ル然レトモ平日人ニ對スルハ  
丁寧親切ナリ今日ノ時節ニ在テハ伯ノ如キハ實ニ理想的總督ナリ其ノ部下ノ各  
地方長官ハ宜ク鑑ミ則ル所アルヘキナリ極東ノ此ノ最モ關係アル地方ノ靜平ヲ



願フモノハ總テ伯カ陸軍大臣ヲ罷ムルノ後尙留リテ朝鮮總督タルニ感謝セリ朝鮮ニ居住スル我輩西洋人ハ總督ニ伯ノ如キ賢明ニシテ大經驗アリ又何人ニモ懇切ナル人ヲ載クコトヲ得ルハ皆幸ヒトスル所ナリ我輩ハ皆伯ノ長ク其ノ任ニ在ラシコトヲ願ヘリ

# 4. 東洋、日本

## 第一篇 朝鮮

エール大學名譽教授、博士、米國發行、チャールズ  
ルオヴレース、デウエル、ロフメン、ト、一千九百十五年十月号ニ於テ  
尤記ノ題ニテ日本、朝鮮ニ於ケル統治シ歴史の評論  
最初ニ伊藤公、施政ヲ論シ更ニ寺内伯、施政ニ  
關シテ尤、如ク評論ヲ試ミタリ

## 寺内伯、施政

一千九百十年八月ニ此、一刀兩断的政策實行ニ當リ、  
現ニ統監タリ、寺内伯ニテ伯ハ伊藤公ト異リ、一軍人タリ、尤

レハ治安維持及暴徒鎮壓ノ爲ノ必要ト認ムル當リテ  
斷乎トシテ兵力ヲモ用ユル概アリキ而モ其ノ統治ハ殘忍  
ナルモノアラスレテ一般鮮人ノ永久的幸福及臣民トシテ日本  
帝國ニ忠順ナラレムルニ必要ナル教育ノ普及、道德ノ修養  
ヲ圖リ他ノ一方ニ於テハ行政財政ノ改革ヲ策シ其ノ結果  
大体ヲ通シテ功績ノ著シキモノアリ在レハ予ハ寺内伯次ノ  
讃辭ヲ呈セムト欲ス曰ク

伯ノ善政ニヨリ由來人民ノ幸福ト繁榮トニ對スル諸種  
ノ障礙速カニ除カレ平和ト秩序ノ回復ヲ見ルヲ得タ  
リ在レハ今日内地ニ於テ見ル所ノ進歩的文明ノ成果ハ

不日此ノ新領土ニ於テモ實現セラルルニ至ルヘシ

寺内伯ノ施政中ニハ伊藤公時代ノ其レト等シク併合後ノ朝鮮ニ對スル日本政府ノ智見、誠實及正義ニ付痛ク外人ノ非難ヲ蒙リタルニ時代アリキ其ハ言フ迄モナク一千九百十二年乃至三年ノ陰謀事件裁判ニ關スル事ニレテ恐ラクハ他ノ事ト異リ此ノ種事件ニ關係シタルモノハ其ノ煽動者ト被煽動者トニ拘ハラス多少後悔的耻辱ヲ感セサルモノナカルヘシ然ルニ又々數名ノ我米國人カ明ニ本件ニ關係アリレ一事ハ真ニ米國ヲ愛スルモノ遺憾トスル所ナリト述ヘ一千九百十二年（一千九百十三年）及フノ英文施政年報中ノ陰謀事件ニ關スル記事ヲ抄出シ

且ツ之ヲ對スル非難ノ主要ナル二点ハ（第一）最終ノ判決ニ於テ  
 僅ニ數名ノ有罪者ヲ出シタルニ比シテ多數ノ嫌疑者ヲ捕縛シタ  
 ル事（第二）豫審ノ復雜、遷延及立証ノ強制ニアリシモ事  
 件ノ闡明トナルニ從テ非難モ漸次薄ラクニ至レリ云云次テ  
 博士ハ陰謀ノ中心タリシ新民會ノ起源ト伊藤公、スチーヴ  
 ン氏及數名ノ韓國高官カ全會員ノ害手ニ掛リタル外親  
 日派一進會ニ屬スル約一千名ノ生命ヲモ奪ヒタル等内外人  
 生命上ノ危險甚シキモノアリキ若シ同一ノ狀態ヲ非律賓、  
 群島又ハ紐育市ニ於テ之ヲ見ムカ其ノ危險ヲ除ク爲メニハ  
 軍隊又ハ警官ヲ派シテ幾タノ嫌疑者ヲ捕縛スルニ至ルノ

當然ナルコトヲ論シ尚進ニテ豫審ノ結果有罪者ノ少數ナリ  
ニハ朝鮮ニ於ケル日本裁判ノ不名譽ニアラスレテ名譽ナリト  
シ以下裁判ノ經過ヲ略説シ又審問ノ方法ニ関シ

寺内伯ト英國大使マクドナルド氏

ノ京都ニ於ケル非公式ノ對話ノ模様ナリトテ一千九百十二年十月  
ニテ七日ヲセウルプレスノ記事ヲ引証シ且曰ク總督府ニ對スル非  
難ハ被告側味方ノモヨリ盛ニ起リ朝鮮統治ノ威信ヲ損ス  
ルモノ尠カラズ米國ノ一宗教新聞ハ六千人ノ朝鮮基督教信  
者縛ニ就キ拷問ヲ受ケツツアリトノ誤報ヲ傳ヘ又「エヂンハラ」  
宗教大會ハ常置委員ニ宛テ數名ノ在鮮宣教師ハ無署

名ヲ以テ日本政府ハ朝鮮ノ基督教ヲ撲滅スルノ決心ナリト投  
書レ尚此種無根ノ報道ハ翌年ニ至ルモ米國宗教新聞  
雜誌ニ表ハレ紐育ノ週刊宗教新聞ノ如キハ朝鮮ニ於ケル  
宗教ノ虐待ハ中世紀ノ異教徒審判廳ノ酷烈ニモ形方髣  
タルモアリ云々ノ記事ヲ掲ケタルモ是等ノ記事ハ何レモ根據  
ナキモノト辯シレ

朝鮮ノ基督教信者ノ中ニ斯ル犯罪ヲ敢テスルモノアリテ事ノ例証  
ドレヲコロトウイリアム・ガスコニー・セレル博士カ韓國慢遊ノ  
後、倫敦「タイムズ」ニ寄セタル書中ノ一節即チ信者ニテ幼女  
ヲ殺シ或ハ老母ヲ殺シタルモノアリ牧師ニシテ邪淫ヲ行ヒタル事

ヲ懺悔シタルモノアルノ事實ヲ舉キテ記者自ラモ同様ノ懺悔ヲ  
聞キレコトアリ現ニ藤公、フステーブンス、其ノ他數名ノ横死者モ  
其ノ下手人ハ等シク基督信者タリレコト先ニ其ノ信者タル名義  
及教會及團隊ノ美名ノ下ニ擾乱又ハ兇行ヲ企テタルハ明白  
ナル事實ナルコトヲ唱破シ日本政府カ其ノ一領土ニ於テ直正ナ  
ル宗教ノ必要ヲ認ムルニ拘ラス之ヲ撲滅セムトスル如キ事ハ容易  
ナラヌコトニシテ在ル事ノ皆無ナルノミナラス同政府ハ日本及朝  
鮮ニ於テ基督教事業ノ國民ニ先立スルモノアル事ヲ認メ之ニ少  
カラサル補助金ヲ與ヘツフアリレコト朝鮮ニ於テ外國人ノ建設  
シタル宗教團體ニ對スル藤公ノ態度ハ一矣ノ曇リナク亦寺



内伯方針元同様ナリ

# 朝鮮ニ於ケル新生涯

(東亞「ロイド」誌所載)

日本人ハ朝鮮ニ於テ寺内總督ニ據リテ行ハレツアル所謂鐵拳ニ絹手袋ヲ穿メタル底ノ政治ヲ見テ其ノ必スヤ良好ナル效果ヲ齎スヘキヲ信セリ即チ日本ハ朝鮮ニ於ケル平和ト秩序維持ニ對シテ極メテ周到ナル注意ヲ用テ朝鮮人ニ向テハ日本人ノ優越的地位ヲ示スト同時ニ朝鮮人ノ精神上竝ニ物質上ノ利益カ前韓國政府統治ノ時代ヨリモ日本人ニ依リテ愈増進サルヘキコトノ觀念ヲ彼等ニ與ヘムコトヲ努メ居レリ由來東洋ノ民族ハ自己ノ精神上竝ニ物

質上ノ利益カ適當ナル爲政者ノ手ニ據リテ保持セラルルコ  
 トヲ以テ無上ノ満足ト思惟スルノ觀アルハ人ノ知ル所ノ如シ朝  
 鮮ニ関スル諸種ノ報道ヲ綜合レテ考フルニ現在ノ朝鮮ハ  
 全ク新空氣ヲ以テ満タサレタルナリ朝鮮ニ在ル日本官憲  
 ハ人民ノ生命財産ノ保護交通ノ安全及ヒ輕便商工業  
 ノ發展ニ銳意努力スル所アルカ故ニ朝鮮ノ人民モ人テヤ  
 日本ノ真意ヲ了解シ當ニ日本ノ經營ニ對シテ此ノ反對ヲ  
 試ミサルノミナラス之レ等官憲ノ事業ヲ成功セシムヘク盡力  
 レ居レリ

最近二年前迄朝鮮ノ各道ニハ暴徒屢蜂起シ其ノ毎ニ

憲兵若クハ軍隊ヲ派遣シテ之レヲ鎮壓スルノ已ムヲ得サ  
リレカ今ヤ全羅南道咸鏡南道黃海道忠清道ノ如キ  
暴徒ノ巢窟ト目指サレタル地方ニ於テモ一人ノ謀反ヲ企ツ  
ル者無キニ至レリト言フ忠清南道ヨリノ報告ニ據ルハ同地  
方ニハ尚ホ強盜ノ集團有ルモ彼等ノ仲間ヲ逮捕シテ吟味ス  
ル時ハ何レモ嘗テ盜賊トシテ所刑ヲ受ケタル者ニシテ其ノ放釋  
後社界ヨリ指彈セラルルカ爲メ已ムヲ得ス再ヒ強盜ノ群ニ入  
ル至レル者ノミナルヲ以テ同地方ノ官憲ハ一ノ組合ヲ組織シ  
是等出獄人ニ對シテ一定ノ職業ヲ授クルノ途ヲ講セリ其ノ  
結果頗ル良好ニシテ他道ニ於テモ之レヲ模倣シ爲メニ多クノ

前科者モ社界指彈ノ災厄ヲ免レ衷心ヨリ官憲ノ所置ニ  
 對シテ感謝シ居ルト言フ又日本ノ官憲ハ鴨綠江沿岸ナル  
 平安北道ノ人民カ支那暴動ニ際シテ時機ヲ利用セムコトヲ  
 嚴重ニ防遏シタリ之レ從來鴨綠江北岸ノ支那暴動  
 カ動モスレハ朝鮮側ニ傳播セシニ依リタルモノナルモ人テ曰ハ最早  
 全ク斯カル形跡ナレ安東縣ニハ革命ノ旗幟翻々トシテ飛  
 ヘリ支那人民カ喧々囂々タル最中江ノ他岸新義州ハ  
 極ノテ平穩ニシテ恰モ對岸ノ火災ヲ望見スルノ概アリテ住  
 民ハ日本ノ統治ニ屬シテ以末決シテ支那人ノ彼等ヲ襲フ  
 コト無キヲ確信シ其ノ平和ヲ樂ミ居レリ又鴨綠江沿岸ノ

地方ノ經濟モ從前ニアリテハ食料品ノ如キ殆ント他ヨリ供  
給セラレ居タルニ反シ今ヤ他ノ助ヲ藉ルノ要ナキニ至リ又即チ  
住民ハ私ノ組合ヲ組織シテ金融ノ圓満ヲ計リ碧潼及ヒ他  
小市ニ於テハ舊曆大晦日ニ市ヲ立テテ近在ノ百姓等ハ家  
畜魚類並ニ他ノ食料品ヲ携ヘ來リ之ヲ賣拂ワテ必要品ヲ  
購入ス其ノ景況又頗ル良ク北邊ノ各小都モ爲ニ賑ハム善ク  
其ノ住民カ新空氣ヲ吸入スルヲ至レルカヲ窺フニ足ルモノアリ  
而シテ此ノ養成セラレタル活潑ノ精神コソ今日迄荒廢ニ  
歸シ居タル海岸地方ノ村落ヲレテ漁業ニ農業ニ發展  
ヲ來タサレムル次第ニレテ東洋拓殖會社モ之レカ爲メ大ニ盡

カスル所アリ同會社ハ今春ニ於テ農夫及少數ノ日本漁夫  
ヲ移住セシメタリ斯カル有様ナルカ故ニ從前極ノテ低廉ナル  
賃銀ヲ支給セラレシ漁業竝ニ他ノ職業モ漸次好景氣  
ヲ生シ其ノ結果交通ノ便不便ヲ適切ニ感スルニ至リ山縣政  
務總監ハ群山ニ至ルノ鐵道ヲ湖南鐵道ヨリ分岐セシムルコト  
トシタリ此ノ他日本ノ私立電氣會社ハ多大ノ資本ヲ投シテ  
電燈、電動力等ノ供給ニ忙ハレク國有鐵道モ車内ニ電  
燈ヲ用キ今夏ハ電氣扇ヲ備付クヘイト言フ

又道路ノ改築モ大ニ之ヲ急キツツアルヲ以テ本年十月末  
迄ニ平安ヨリ元山ニ至ルノ道路工事モ完了スヘシ其ノ長サ

二百基米ニシテ既ニ其ノ百五十基米ハ工事ヲ了レリ而シテ殘  
リ五十基米ハ山間ヲ通スルモノナレハ其ノ工事モ亦困難ナル  
ヘレ電線モ益縱横ニ其ノ數ヲ増加シ無線電信モ木浦附  
近ニ授受局アリテ候セテ支那ト佐世保間ノ無線電信ノ  
聯絡ヲ取リツツアリ

尚ホ日本官憲ハ熱心植林事業ヲ獎勵シ又日本カ將來  
朝鮮ヲ以テ木綿ノ供給地タラシムルノ計畫アルヲ以テ總督  
府ハ千九百十一年ニ於テ六萬圓ヲ之レカ爲メニ支出シ千九  
百十二年ニハ更ニ倍額ヲ支給シテ全羅南道方面ニ棉花  
栽植法ニ関スル知識ヲ擴メントス而シテ木浦ニ之レカ模範農



園ノ設ケアリ

朝鮮ニ於ケル米穀ノ耕作ハ渠溝其ノ他灌漑的設備カ  
數百年來等閑ニ附セラレタリシ結果今ヤ全ク荒廢シ  
テ其ノ用ヲ為ササルカ故ニ其ノ收穫益減少スル傾向アル  
ヲ以テ總督府ハ千九百十一年度ニ二十萬圓ヲ投シテ廢レ  
タル渠溝ヲ改築シタリ之レ等ハ百姓ニ好印象ヲ與ヘ或ハ財ヲ  
投シ或ハカヲ供シテ大ニ其ノ事業ヲ助クヘキ希望ヲ有シ  
現ニ慶山地方ノ富豪ハ三萬圓ヲ醵出シテ晋州附近ニ  
九基米ノ渠溝ヲ設クル計畫ヲ立テ既ニ官憲ノ許可  
ト保護トヲ得テ其ノ開鑿ニ從事シ始メタリト云フ

其ノ他政府ハ養蚕ヲ獎勵シ之レカ爲メニモ多大ノ經費ヲ  
支出シ其ノ發展ハ炳トシテ明カナルカ如シ若シ夫レ日本物  
産ニ至リテハ山間ノ僻村ニ至ルマテ下駄、帽子、手拭、時計  
等ノ需用多ク又朝鮮人ニシテ日本語ヲ使用スル者日ニ多キ  
ヲ加ヘ咸鏡北道ノ如キ人テヤ日常ノ談話ニ日本語ヲ用ケル  
者二千五百人以上ニ達シ居ルヲ以テ近キ将来ニ於テハ日本  
語ハ終ニ朝鮮語ヲ壓倒シ朝鮮語ハ方言トシテ殘ルニ至  
ランカ

# 6 寺内伯暗殺ノ計畫

## 朝鮮人基督教徒ノ逮捕

(大正二年三月十日倫敦タイムズ紙日版掲載)

總督寺内伯爵ノ生命ニ危害ヲ加ヘムトスル大規模ノ陰謀北韓ニ於テ發見セラル且ツ多數ノ土人基督教徒之ニ關係セリトノ報突如トシテ至リ日本ニ於ケル目下ノ一問題トナレリ既ニ逮捕セラレタル者ノ數ハ百名ニ上リ其ノ半ハ之ニ刑罰ヲ科スヘキ顯著ナル證據あり居レリ

聞ケル所ニ依レハ其ノ五十人中三名ヲ除ク外皆土人基

督教徒ニシテ六名ヲ除ク外ハ皆フプレスビテリアン教会ニ  
屬スル者ナリト云フ尚フプレスビテリアン派ノ管轄ニ屬  
シ且陰謀發生ノ源泉地ト稱セラレハ在宣川學校長  
ナル宣教師「ジョージ・エス・マクキューン」氏ハ去日曜日引致  
セラレタリ新聞紙ノ報スル所ニ據レハ他ハ外國宣教師  
等モ亦同運命ニ遭遇スヘキ模様アリト云フ  
此ノ宣教師等ノ証言

此ノ事件ニ關係セル米國宣教師中ノ或者ヨリ打電  
セラレタルモノト認メラルル紐育新聞紙ハノ幾通ノ通信ノ  
為執烈ナル國際的論爭惹起セラレカ此等ノ通信

ニ於テハ此ノ事件ヲ以テ無法ナル宗教迫害ナリト云フ日強  
ヒテ被逮捕者ヨリ證言ヲ擧ケケルカ爲メ拷問ヲ行ヘリ  
トセリ該通信ハ早クモ東京ニ返電セラレ新聞紙上ニ  
轉載セラレタルヲ以テ之ニ對シ御用新聞ハセウレハ  
長文ヲ掲ケテ被告ヲ長日月ニ亘リ留置セムハ斯ル  
入り組ミタル難件ニ關シテハ周到綿密ナル審査ヲ  
要スルニ因ルコト政府ハ毫モ宗教迫害ノ意志ナキコ  
ト適法ノ手段ノミヲ執レルコト等ヲ辯明セリ  
在京城外國宣教師等ハ總督ニ會見シテ前記米國  
新聞ノ記事ト同様ナル正式ノ抗議ヲ提出シタルカ之

ニ對シ寺内伯爵ハフセウルプレスニ記載セルト同様ニ斷平  
トシテ否認セリ此ノ否認該代表者ヲ動カシ得ルモ  
ノ如ク彼等ハ總督ノ誠意ヲ諒トシ且總督カ絶對  
ニ公正ナル態度ニ出テムトスルモノナルコトヲ満足シテ  
モ取リ合ルモノ如シ米國ソシエスト教會ハリス監督  
カ當局者ハ正義ニシテ且至當ナル方針ヲ守ル意旨ヲ  
有スルコトヲ確信スト言明セルハ兎ニ角注目スヘキ價  
値アリト謂フヘシ

總督府ト基督教徒

事實ノ上ニ於テ朝鮮總督カ苟モ基督教ニ對シ迫害

ヲ加ヘムトノ意向ヲ懷ケリトハ思慮シ得ヘキニ非ス

從來宣教師等カ当該官憲ヨリ非常ナル好遇ヲ受

ケ居ヒルコトハ其ノ大部分ノ者ハ自承認セル所ナリ且

一千磅カノ寄附金カ年々基督教ノ有事業獎勵ノ

為在京城國庫ヨリ支出セラルハ事實アリ現ニ佛教徒

ハ之ヲ以テ基督教ハ尙半島ニ於テ不當ノ庇護ヲ受ケ

居リトシテ總督府ニ對シ不平ヲ訴ヘタリト云フ尚總

督ハ修養アリ事物ニ通曉セル人物トシテ普ク外國人ヨ

リ尊敬ヲ受ケ居リ又總督ハ多年海外ニ於ケル經

験ヲ有セルが故ニ假令欧米人ヲ敵トセムトノ心アリトスル

之今ニ當リ斯ハ措置ヲ執ルハ最モ不適当ナル時期ナルコトハ必ズヤ納得セルニ相違ナシ

併合及治外法權廢止以來朝鮮政府ノ行動ハ最モ世界ノ注目ヲ惹ケルモノナルヲ以テ苟モ批難ノ原因ウルハキ行動ハ國家ノ名譽上必ズ之ヲ避ケルハカラス況ヤ世人ノ怨恨抗議ヲ喚起スルカ如キ行動ヲヤ

当地(東京)ニ於ケル官憲側ノ取調ニ據レハ迫害ノ批難ハ無根ナルコト遠カラズ明瞭トナルヘク又外國人宣教師中ノ或者カ彼等ノ排日思想ニ疑フニ韓國ニ對シニ熱烈ナ同情ヲ有スルノ餘リ無分別ニ危險ナル計



畫ニ關聯スルニ至リタルコトアリ得ヘキコトモ自判明スル

コトアラム

# 朝鮮ニ於ケル基督教徒ノ待遇

（甲致吳等陰謀事件ニ関シテ世論囂々タル時  
宣教師「ザ・ミッド」博士ハ東京發行ノ「ザ・ヤパン・アド  
バタイザ」ニ左ノ公開文ヲ寄セテ寺内伯ノ基督教  
教徒ニ對スル態度ヲ公ニセリ）

竊年秋甚堪<sup>ニ</sup>ルハ未性質ノ陰謀ニ關係セリトノ嫌疑  
ニテ逮捕セラルタル朝鮮人アリ一見不可思議モ且不  
幸ニ其ノ中ニ多クノ基督教徒アリ即チ北朝鮮  
ト宣<sup>ス</sup>長老<sup>ノ</sup>所屬學校ノ學生數十人及同地方

教會主道者、宣川教會ノ牧師梁旬伯氏並數人  
ノ指導者及牧師<sup>教</sup>アリ有名タル李壞ノ特師<sup>牧</sup>吉善寅  
氏ノ息吉鍾亨氏モ亦此ノ中ニ在リ

爾後數月間續々逮捕セラレ誰モ彼モト云フ有様ナ  
リシカ中ニハ既ニ放免セラレシ者モアリ其ノ末在開城美  
以滋關係學校ノ主宰者タル男爵尹致昊氏ノ逮捕  
セラルルナリ朋友知人ノ間ニ在リテハ大ニ懸念スル所  
アリ審問ノ結果梁尹<sup>吉</sup>諸氏ノ如キ舊知ノ人ナリ  
晴天白日ノ身トナラムコトヲ切望セリ

該事件ハ審問ハ今方ニ進行中ニ在リ予ハ彼等ニ

對シ必スヤ公正ナル審判アルヘキコトヲ確信シテ疑ハス  
近日紐育ニラルト新聞ニ當地ノ政府カ教會ヲ迫害  
スト批難シタル電報掲載セラレタルカ是レ東西洋  
ノ間ニ屢行ハルル所ノ無稽有害ノ通信ノ一例ニシテ既  
ニ相當ノ害毒ヲ流シタル今日其ノ事實無根ナルコトヲ  
説明スルモ、セサルモ、サシタル效果ナカルヘシ

### 伊藤公ノ態度

在朝鮮基督敎會及宣教師社會ハ幸ニモ韓國カ日  
本ノ保護國トナリシ当初ヨリ、當該政府ノ親和ナル待遇  
ヲ享ケタリ、伊藤公ハ其ノ統治ノ間ヲ通シテ朝鮮人ノ

生活ヲ幸福ナラシメ其ノ世界ニ於ケル地位ヲ進ムル所ノ  
 基督教會ノ事業ニハ如何ナル種類ノモノタルヲ問ハス苟  
 モ機會アレハ之ヲ獎勵シ之ヲ補助シ之ニ對シテ賛辭ヲ  
 呈シ好意ヲ表スル努メ好ムテ宣教師ノ會合ヲ催シ  
 之ヲ招キテ共ニ會食シ快談盡クル所ナシ屢曰ク吾等  
 ハ此ニ鮮人ノ幸福ヲ以テ目的トス諸君ハ彼等ノ精神  
 的ノ向上ヲ圖リ予ハ物質的ニ又國家的ニ其ノ改善ヲ  
 圖ラムトス、サレハ互ニ相信シテ各其ノ範圍内ニ於テ活  
 動セザルモ亦好カラスヤ、ト

公ハ能ク自己ノ任務カラ遂ゲテ當國ヲ去リタリ其ノ最後

ノ或公會ノ席上ニ於テ述ヘテ曰ク此ノ不幸ナル人民ヲ助  
ムカ爲ニ爲シ得ヘキユトアラハ予ハ全カヲ盡シテ之ニ  
當ラムトスト公ハ朝鮮人カ久シカラスシテ公ノ彼等ニ與  
ヘタル助カハ真相ヲ了解シ彼等ヲ導キテ從來ヨ  
リモ善良ニシテ世ツ有望ナル地位ニ進マシメタルニ對  
シ終生感謝スルナラムト期待シ居タルコト疑ナク又  
無理カラヌトナリ然ルニ公ノ得タル應報ハ何ソ曰ク暗  
殺ノミ公ハ所謂愛國者所謂基督教徒タル一朝鮮  
人カ爲ニ射殺サレタルナリ其ノ當時ニ於テ一部ノ人々ハ  
將來基督教ニ對シ政府側ヨリ假初ニモ親切ナル待

遇ヲ受ケムコトハ望ミ得ヘカラスト感シタリ其ノ後ラスケ  
 トヴンス氏又所謂基督教徒ニ被害セラレ前總理大臣  
 亦所謂基督教徒ニ斬付ケラレ彼ヲ護ラムトセシ人  
 カ車夫ハ之カ爲メ殺サレタリ

# ○寺内伯

如斯事實アル以上在鮮基督教會ニ對スル政府側ノ  
 態度ニ著シキ變化ヲ生スベキコトヲ予想スルモ誰カ  
 其ノ理ナシトセムヤ是ヲ以テ寺内伯ノ如キ嚴格ナル軍  
 人カ總監ニ任命セラレタリトノ報アルヤ吾人ハ將來  
 ノ行動ニ對シ極メテ低度ノ信認ヲ享受スル外ナカレ

ヘト心得タルニ事實ハ全ク予想ト反シ何等ノ制限ヲ  
加ヘラレサリシハ吾人カ望外ノ喜ヒトスル所ナリ伯ハ其ノ  
前任者ト同シク總テノ教會關係者ニ對シ依然懇切  
且穏和ナル態度ヲ持シ常ニ意ヲ宣教師ノ事業  
ニ注ギ只其ノ相當ノ範圍ヲ守リ政治上ニ關係セサル  
様希望セルノミ伯カ今日迄終始如斯態度ヲ執レルニ拘  
ハラス伯又ハ伯ノ政府カ基督教會ヲ迫害セムトスト去フカ  
如キ電報ハ是レ總督ノ一般教會及外國宣教師ニ對  
スル穏和懇切ナル態度ヲ目撃セル吾人基督教事  
業關係者一同ニ對シ恥辱ヲ與フル重大ナル詭謗ナ



リト謂ハサルヘカラス

然レ共從來基督教徒ハ全ク自由ヲ享有シ且ツ一  
點ノ疑惑ヲ蒙ラザリシニ反シ今日多數ノ入監者ヲ  
見ルコト及警察官カ是迄ニナキ熱心ヲ以テ鋭ク  
其ノ行動ヲ監視セルコトハ明カナル事實ナリ

基督教ト云ヘハ即チ暗殺奸謀ヲ聯想スルカ如キ事  
實アリタルコト殊ニ將來ニ對スル新計畫カ其ノ庇護  
下ニ於テ計畫セラルツニアリタリトノ報アリトセハ其ノ由  
ヲ來ル所ヲ解スルニ充分ナルヘシ如斯今日官憲ハ執  
ル態度ハ決シテ迫害ト名ツクヘキモノニ非スシテ單ニ

正當ナル警告戒ト云フヘキモノナリ

又官憲側ニ於テ宣教師團ノ一部分、縱令少數ニモセヨ  
或一部ニ於テ政府反對ノ思想ヲ懷ケリト云ト又之ヲ  
發表シタルコトアリトノコト竝ニ基督教徒ノ政府ニ反  
抗スル態度ニ對シ宣教師ハ之ヲ戒飭セストノコトヲ  
聞知シタリトセハ警察側ニ於テ一層注意ヲ加フルヲ  
至リタル所以モ容易ニ了解シ得ラルヘシ又基督教  
徒カ縱令例外ノ場合ニモセヨ苟モ政府ノ権力ヲ無  
視シ適法ノ手段ニ依リテ得難キモノヲ暴力ヲ以テ得  
ルスル意向ヲ有セルコトヲ認メタリトセハ亦其ノ理由ヲ

知ルニ苦シマサルヘシ

宣教師ニ在リテハ如斯弊害ニ断シテ存在セスト思フ  
 又無理カラヌコトナレトモ以上述ハタルカ如キ事實ニ関  
 スル明白ナル報告到達シタリトセハ其ノ結果トシテ直  
 ニ明石將軍及ヒ其ノ部下ノ注意ヲ喚起スルコトハ有  
 リ得ヘキコトナルヘシ

其ノ責、果シテ何人ニアルカ

教会が全體トシテ嫌疑ノ中ニ在リトノコトハ吾人其ノ  
 事實ナラサルコトヲ確信ス教徒ハ一般ニ僻遠ノ  
 地方ニ於テスラ静謐安穩ノ生活ヲ保テ實直ナル

労働者ハ各其ノ生業ヲ得全國ニ互リテ有望ノ時代  
ニ入ルヲ得タルハ……種々批評スル者アリトモ<sup>兎</sup>兎ニ角  
從來未ダ嘗テ之ナカリシ有望ノ時代ニ入ルヲ得タル  
ハ……偏ニ現政府ノ統治ニ基クコトヲ認メ寺内伯政  
治ノ公平親切ナルコトヲ漸次感知スルニ至レリ知レト  
モ東洋青年ノ常トシテ其ハ時々ノ風潮ニ駆ラレ前  
後ノ思慮ニ乏シキ輩ハ侯爵朴泳孝氏ノ如キ至誠  
國ヲ愛スル人士スラ新政府ニ對シ充分ノ信認ヲ置ケリ  
トコトノミニテハ満足セス縱令彼等自、又彼等ヨリ以上  
十代ノ祖先ニ至ル迄嘗テ一官職ニスラ有リ付キタルコト

ナキニモ拘ハラス彼等ハ必スフジヨージ・ワシントン又ハ其ノ他  
 英雄タダムコトヲ庶幾ニ何等他ノ束縛ヲ受ケスニテ  
 五ロカ所信ヲ貫カムドス彼等自顧ミレハ自己ニ是レ周囲  
 ヲ圍繞セル百有餘人中ノ俊傑ナリ又ヨリモ師ヨリモ誰  
 レヨリモ勝リタル知識ヲ有セリト信シ自ラ期待スル所  
 ナ得スハ死シテ後己ムヘシトノ念ヲ懷ケリ是レ印  
 度ニ於テモ、支那ニ於テモ、露西亞ニ於テモ皆然リ予ノ  
 知友ナル日本人ニシテ世間ノ消息ニ通セル人ノ言ニ依レ  
 ハ日本ノ過度時代ニ於テモ亦然リシナリ  
 故ニ今日朝鮮ニ於ケル問題ハ事教会ニ關スルモノニ非ス

ニテ教育ニ加入シ居ルコト有リ得キ如上ノ誤レル思想ヲ  
懷ケル青年ニ關スル問題ナリ吾人ハ審問ノ進ムニ從  
ヒ官憲側ニ於テモ教会全體トシテハ天皇ノ忠良ナル  
臣民遵法ノ國民タルコトヲ明白ニ認ムルニ至ルヘシト信ス  
指導者却テ過テ指導セラル

然ラハ梁尹吉其ノ他ノ教会指導者ノ如キ人人ノ  
入監セルハ如何ナル理由ニ依ルカト云フニ彼等ニ對スル  
訴訟ハ今方ニ進行中ニ屬スルヲ以テ之ニ關シ意見  
ヲ述フルハ妥當ナラサルモ吾人ハ今日ニ於テモ尚ホ此等  
ノ人人ハ結局無罪ナルコトヲ證明セラルヘシト信シ居リ然

ラハ何故ニ斯ル事件ニ關聯シテ逮捕セラレタリヤト云フ  
 ニ吾人自ラ満足スルニ足ル充分ナル説明ヲ有ス蓋シ既  
 ニ述ヘタルカ如キ現代主義ノ青年輩ハ一國ニ自己ノ所  
 信ヲ貫カムトシ老成ノ輩ハ鮮人ハ常トシテ其ノ壓迫  
 ニ抵抗シ彼等ノ請求ニ對シテ否ト斷言スルコト能ハス  
 從テ種々彼等ノ細工ニ使ハシ且惡用セラレ進イテ其ノ  
 結果ヲ我身ニ負フコトナリタルコト或ハ之ナキヲ保セス  
 兎ニ角是等ノ人人カ刑事上ノ犯罪ニ關係アリトノ證  
 跡判明スルコトアラハ是吾人カ鮮人ノ性行ニ對スル觀  
 念ニ回復スヘカラサル大打撃ヲ與フルモノナリ

以上述フルカ如ク吾人ハ今日迄善良ナル政府、公正ナル  
政府、宣教師及教会ニ對シ著シキ禮遇ヲ與ヘタル  
政府、賢明ニシテ遠眼ヲ有スル政府、コチブスコベストノ  
流行ニ對シ此ノ土ヲ保護スルノミナラス亦能ク不法無  
賴ノ輩……若シ教会内ニ斯ル輩アリトセハ唯其ノ破  
滅ヲ招クノ外利益ナキ輩……ヲモ此ノ土ヨリ驅除セ  
ムトスル決心ヲ有スル政府ニ對シ感心謝ノ意ヲ表シツ  
アルナリ



## 朝鮮ト其ノ政治

(千九百十一年五月十六日發行)  
『ジヤパンタイムズ』社説

朝鮮總督トシテノ寺内伯爵ヲ誹謗セムトスル者ニ對シテハ吾人ハ如何ナル痛撃ヲ之ニ加フルモ其ノ度ニ過クルコトナレバジヤパンタイムズ社ハ日本諸新聞ノ總督攻撃ニ絶對的ニ同意スル能ハサル者ナリ彼等ノ言論ハ新聞紙面ヲ惡用スルモノナリ吾人ハ一層穩健ナル思想ノ彼等ノ間ニ普遍セムコトヲ希望ス朝鮮總督ノ政策ハ稍峻嚴ナルモノアリレヤモ知ルヘカラス然レトモ從來ノ形勢ニ於テハ朝鮮人民ノ周圍ニ如何ニ高ク且強固ナル障壁ヲ繞ラスモ尚足ラサルヲ覺ユ

ノ事情アリ何トナレハ一朝擾乱、醜醜素各地方ニ瀰蔓  
セハ再ニ三年前ノ事態ヲ現出スルノ虞アリタレハナリ

當時騒乱ノ傳播ハ京城發行ノ新聞紙ノ首唱煽揚セル  
所ニレテ其ノ結果所謂革命的叛乱ノ状況朝鮮ノ端  
ニ瀰蔓セリ然ルニ當時此ノ形勢ニ處スルノ手段ハ頗ル温和

寛大ニ過キタリト吾人ハ思フ而シテ之カ爲實際其ノ害  
毒ヲ被リタルハ朝鮮人自身ナリキ所謂革命的叛乱ナル

美名ハ自ラ革命黨ト称スルモ其ノ實草賊野盜ノ類  
タルニ過キササル不逞ノ徒シレテ群ヲ成シテ蜂起スルノ機  
會ヲ得セシメタリ此等ノ暴徒ハ内地人ニモ朝鮮人ニモ均

シテ襲撃、劫掠、殺害ヲ加ヘ、其ノ間毫モ擇フ所ナカリキ  
内地及朝鮮在留ノ通信者等ニ由リ重大ナル革命的  
叛乱ノ從來朝鮮ニ存在セシモノ、如クニ世界ニ報道セラレ  
シ、其ノ實暴動ニ對スル警察上ノ取締ノ不充分不完  
全ト一ノ有害新聞ニ與ヘタル寛容トニ起因セル無法狀  
態ニ過キサリレコトハ既ニ申分ナキ成功ヲ以テ證明セラレ  
タル所ナリ

吾人ハ總督ノ方針ノ正當ナルヲ信ス、總督ニ冷嘲ヲ加ヘテ内地  
人及朝鮮人ノ不逞分子ニ獎勵刺戟ヲ與フル新聞紙雜  
誌繪入冊子、其他ノ刊行物ノ如キハ當ニ朝鮮海港到達ノ

時ニ於テノミナラス又其ノ出版元ニ於テ印刷ノ完成ニ先キ  
 テ之ヲ沒收セサルヘカラス

此等新聞紙ノ記事ハ不穩ニレテ最高新聞倫理ニ適  
 合セサルモノナリ叛乱ノ煽動ハ新聞ノ本分ニ非サレハナリ不幸  
 ニレテ内地新聞中ノ最善ニレテ世評ノ高キモノ亦斯ル暴  
 舉ニカハルモノアリ其ノ結果彼等ノ所説ハ外國新聞通信  
 者ノ先ヲ爭フテ引用スル所トナリ日本人ノ最良分子及  
 最善思想ヲ代表セルモノトレテ世間ニ傳ヘラル吾人ハ之ニ  
 對シ抗議ヲ提起シ且日本國民ノ大多數ハ朝鮮人ノ大  
 多數ニ最大ノ善益ヲ與フル現時ノ施政ニ忠順ナル者ナ

ルコトヲ外國新聞代表者等ニ證言セクト欲ス

寺内伯爵ハ總督タリシ以來ニ朝鮮ニ於テハ所謂「サベヒ  
政治ナルモノ毫モ之レ有ル無ク其ノ施政ハ高尚慈仁ニシテ  
思慮深ク朝鮮人自身ノ利害ニ對シ特ニ意ヲ用ケタルモノ  
ナリ内地人ニシテ法律施行ノ困難ナル地方ニ於テ朝鮮人ノ  
權利ヲ蹂躪シ國法ニ違反スルカ如キ不法行爲ヲ敢テセシ  
時代ニ當リテハ假令刀劔ヲ擺脱スルカ如キ處置ニ出テタリ  
トスルモ吾人ハ必シモ之ヲ非難セサルナリ朝鮮依合後未タ  
一年ナラス然レトモ其ノ間朝鮮ニ於ケル行政上ノ施設ハ總  
督カ極メテ善ク日本國民ノ最善思想ト最良分子トシ

代表タル爲内容頗ル偉大豊富ナルモノナリキ吾人ハ朝鮮總  
督ヲ朝鮮人民ノ爲ニ其最善ヲ盡シ又極テ善ク日本國民ノ  
最善思想及最良分子ヲ代表ス限リハ朝鮮總督ノ施設  
經營ヲ翼賛スルヲ以テ吾人ノ義務ト信スルノミナラス又吾人ノ  
同業者ノ義務タルコトヲ勸説スル者ナリ

緒

論

# 9 朝鮮、於ケル日本人（英文施政年報批評）

一千九百十五年三月刊行紐育「メトロポリタン」雜誌所載

前北米合衆國大統領「ジョージ・アールズウェルト」氏所說

此記事「ルーズベルト」氏自著「神ヲ畏レ自ラヲ擁護セヨ」ト題スル書中、  
再ヒ掲載セリ

日本ハ實ニ驚クヘキ邦國ナリ過去五十年間、於ケル  
日本ノ興隆ハ歷史上其ノ比ヲ見サル所ニシテ日本ノ  
進歩ハ戰爭、於テモ、産業、於テモ、國家ノ經綸、  
於テモ將又科學、於テモ著レク注目、値ヒスルモノ  
アリ日本ノ陸海軍將校、政治家及行政家等ノ遂  
成セル事功ハ極メテ偉大ニシテ彼等ト時期及地位

ヲ同フスル政羅巴及南北亞米利加、於ケル傑出セル人  
物ノ最大事切ヲ以テスルニ非サレハ到底之、比肩ニ得  
ルモノナキナリ而シテ一島國タル日本、是等偉人ト角  
逐シテ大体優劣ナキヲ得セシムルニ政未、於ケル一箇  
國以上ノ人物ヲ以テセサルヲ得サルナリ殊、寺内伯爵ハ  
高為ナル日本行政家ノ一人ニシテ朝鮮、於ケル日本ノ  
治績ハ日本ノ数多キ重要ナル事切ノ一ナリ寺内伯  
爵、朝鮮ノ總督ニシテ今ヤ「朝鮮」於ケル改善進  
歩ト題スル一千九百十二年及一千九百十三年、連亘セル朝  
鮮施政ノ英文報告書ヲ京城、於テ発刊セリ近時



寺内總督ノ  
施政經營

發行ノ同種報告書ニテ政治家及各種ノ社會改良事  
業、興味ヲ有スル學者ノ研究ニ値トスルコト本年報ノ  
右、出ツルモノハアツルナリ加之殖民地經營ノ難事業、  
於テ日本ノ称嘆スヘキ偉功ニ関スル知識ヲ我米國民ニ  
紹介スルノ重要ナルヲ認ムル人士ノ見地ヨリスルモ本年  
通讀、極メテ緊要ナリ

寺内伯爵ノ下ニ朝鮮、於テ遂成セラレタル事業ハ其ノ  
要点、於テ米英佛獨ノ主要ナル殖民地行政家カ  
同様ノ事情ノ下、遂成シタル所ト相似タリ舊韓  
國ハ獨立國民トシテハ内國家ノ秩序ヲ保持スルコト能

報

ハ以外敵國ノ侵襲ヲ自カラ掃蕩スルノ力無ク畏義ニ  
露國ノ管制スル所トナリ後事情ノ變遷ト共、日本ニ  
併合セラルルノ已ムヲ得サルニ至リ日本ハ朝鮮、於テ  
秩序公安ヲ恢復保持シ道路鐵道ヲ建設シ諸  
般ノ大工事ヲ施行シ近代の衛生法及教育制度  
ヲ移入シ貿易額及農產額ヲ倍加セシメ其ノ效果ハ  
實質ニ於テ欧米ノ最ニ進歩セル國民カ同一事情ノ  
下ニ遂成セシ所ニ比シ毫モ遜色アリヲ見ス是等事  
項、全部及其ノ外多數ノ事項——例セハ司法行政  
農工銀行ノ創立、勸業模範場ノ設置、財政、紅

參專賣鹽業官營、慈惠機關等ノ如キ一ハ予  
入手セル談年報、於テ詳細ニ記述セラレ且本文ノ  
記事、加フルニ許多ノ優良志ヲ寫真画ヲ以テセリ

(譯文)

米國「コンネチカット」州「ハリストル」市「フロスベクト」街十九番地

「ポウル、カアン、ワゲネル」

京城

朝鮮總督寺内伯爵閣下

拝啓陳者當国ノ名士「ロースウエル」大佐(旧大統)近著「神ヲ畏

ヒテ己カ務ヲ盡セ」ト題スル書冊閱讀致居候處右書中閣下ノ

報告ニ係ル英文施政年報ニ因スル記述有之就テハ甚恐縮ノ

至ナカラ何卒右年報一部御送付被降向敷或代金並ニ  
送送費ハ即通報次第早速郵便為替ヲ以テ差出可申候

實ニ此ノ書面ニ為替封入致度ト心得候ハトモ此ノ書面カ果レテ

御手許ニ到着致スヘキヤ否ヤモ確ト存セス且代金ノ額モ存知不申

候為メ茲ニ封入致不申次第ニ候 右ハ外人トシテ甚唐突失

礼ノ義ニ候ハトモ人類活動ノ各方面ニ於テ為セン各國民ノ活動ヲ

永知致度存候ニ付此ノ點ニ於テ定メテ面白キ書冊ト存候ニ付

御依頼致候モ、王有之候、乍末筆謹ニテ、閣下並貴國ノ為  
天幸ノ益々大ナランコトヲ祈ル候、敬具

波澤男爵曰大  
統領ルニズエルト  
氏ヲ寺内總務  
施政評ヲ聞ク

# 前大統領ルニズエルト氏ノ朝鮮統治評

大隈首相ハ先般米國ヨリ歸朝シタル波澤男爵ヲ主賓トシ  
朝野ノ名士ヲ此ノ程官邸ニ招キ同男ノ演説ヲ求メタルガ男ノ  
演説中「予ガ滯米中前大統領ルニズエルト氏ニ會見シタル際、  
同氏ハ予ハ今朝鮮總督府最近ノ報告書ヲ誦ミタルガ其ノ  
統治ノ宜シキヲ得タルニ驚嘆セリ、予ハ元來日本ノ殖民政策  
ニハ幾分ノ杞憂ヲ抱キタルガ今ヤ全ク其ノ杞憂ヲ去レリト曰フ極

メテ其ノ成功ヲ賞讃セリ  
也



比島ヲ日本ニ委ネヨ

（方正三年四月二十日  
組省電報）

米國上院議員ノ提議

米國議會ニ比律賓獨立法案ヲ提出シタル上院民主黨議員ク

ラス氏ハ二十七日同問題ニ關スル討議ニ際シ得末日本ニ比島ヲ

統御セシムル事ヲ希望スル旨確言レタリ而レテ氏ハ更ニ日本が朝

（寺内總督ノ下ニ）

解ニ於テ舉ゲタル治績ヲ指摘シ日比兩民族ハ同一人種ニ屬スルヲ

以テ日本ハ比律賓ニ對シ從來米國ノ舉ゲ得タルヨリモ更ニ多大

ノ効果ヲ舉ゲ得ベシト論ジ日本が西半球ニ地歩ヲ占ムルハ米國

ノ好マサル所ニシテ亞細亞民族ノ入国ヲ防止スルハ米國ノ喜ハ所  
ナルハシト思惟スト述ベ日本ガ如何ニシテ比律賓ヲ領有スルニ至ルベキ  
カハ比律賓ニ獨立ヲ與ヘタル後ニ於テ決定スルモ遲カラズト結論セリ

比律賓獨立問題ハ目下米國上院ニ於テ討議中ナルガアルカンサス州

選出民主黨議員クラーク氏ハ日本ヲレテ比律賓島ヲ統治セシメヨ日本

ハ朝鮮ノ統治ニモ成功セリ比島ハ日本ト人種相似タルハ日本ノ比島統治ハ

甚々容易ナリト論セリ。

10 朝鮮模範的殖民地、改造之日本

日，一組織的、新領土民，數世紀間，睡眠了，覺醒。

セ  
シ  
ナ  
フ  
フ  
ア  
リ

千萬萬萬一生靈島帝國民據一三如何確定

人  
格  
改  
造  
セ  
ル  
事

東山先生文集卷之十一

五有之来 鲜 像 寺内 巡游 一 接見 7 受 ケル

「クノ」氏「紐商社」紙大正四年一月十日

日曜部之寄稿之文 評端要飲

同氏對島海峽通過之感想ヲ述ヘ朝鮮半島一地  
 勢ヲ認識シ朝鮮ノ古代文化ヲ紹介シ且、現代及  
 近代ノ在ル朝鮮ノ意味ヲ事實ニ哀感シ之ヲ示ス

トシテ數世紀間荒蕪度類、要スル貧弱國力ノ  
 ヲ組織的、有秩序國ニ改造セシ且、從來遲鈍ニ  
 シ無氣力ナル人民ヲ抱負シ有ス國民ヲ指導  
 セシトシ日本ノ殖民建設者トシテ甚大ナル功績ヲ表  
 示セリ

朝鮮人上流社會ノ一般ノ商業ヲ嫌忌シ能ク阻ミ進  
 情ヲ好ミ風アリト同半ニシ事實ニ遺憾ナク實現セシ  
 シヲ看山ノ在リト人々此地ニ今ヲ以テ本土ノ一部

ト同ク其弊ミヲ能ク整頓スル及ビ鮮ク其治紀ハ  
鄙陋不潔、塵埃多ク、凹凸甚ク、中街路ノ兩側ハ  
小商店、舗不規則、列ビ商店ハ店ノ前、敷キタル  
ニ陳入リタル、而シテ人民ハ一般ニ希望セテ計畫モナク  
如何ニ緩慢ニ思フヲ能ク是レハ其所以、數年前  
比較スル一般情態進歩スルト雖猶一層改メ  
要ムハ其時代ナリ

寺島忠芳閣下、招待ニ應ズ

一夕寢至リ退去セタルニ係、忠芳閣下ヨリ翌日、  
招待状ヲ受ケテ、諸君邸ニヨリ在、公使、官邸ナリ  
ニトテ、忠芳閣下ヨリ差向ケテ、馬車ヲ市街  
通リ官邸ニ赴キタル、其ノ深ク是レ余ハ之ニ  
官邸ニ此迄、久シク内閣建築ニシテ、内部ハ稍宏ク能ク

良邸宅に於て是受く地身たる趣構を宮内  
の飾り装飾品より那倭美たる彫刻品より  
不吉重たる支那朝鮮の陶器の排列せしむるは  
懸る案の器迄すかし色に軍服姿たる朝鮮の  
寺の僧侶同様に接せり同様に猶此年より  
的共他此快たる校に無き人々最に懇心  
見せしむる慈接をなす我々最に忠事  
スフカトミウ氏に面会する所は其同様に  
在る著田氏に流暢たる通訳に於て英語を  
読みしあり

寺の僧侶に其の体躯長大にして好個の外交を凡そ  
ありたる事事的政治家たる其の頭腦は大且つ情用  
形に於て顔面及頸に似て初めは此類に著る

仙舟、其ノ實、二十歳ヨリ、若ク見ヘ邦家ノ微務、  
鞭掌スルト、實ニ四十二年同サト云フ、然、早ニ仙舟  
ニ此年ヲ托ス、軍事ヲ有ク、卓越ニ驍々、年々、  
戦争ノ微戦時代前後、八年、同、陸軍大臣ノ  
官職ヲ任ズ、之ヲ知シ、ハ彼ノ早稲戦争ノ大規模ノ  
計畫ヲ測知シ、得テ、陰謀ヲ有ス、何人ト雖、寺  
内仙舟ノ驍々ハ、頭腦ト望ミ、又、抜、能力ヲ討ミ、  
海軍ヲ拂フヘシ、敵軍、之ヲ、鄭重ニ、意志ヲ表シ、  
仙舟ノ顔面ヲ、亦モ、自然的ニ、又、克己心ヲ以テ、充テ、  
寛容ニ、態度ヲ、亦、表現セシ、ワ、テ、退、若、同  
下ノ朝鮮ヲ、於ケ、ハ、四年、同、施、政、ハ、コ、リ、ア、テ、朝鮮  
ノ、改、称、ニ、其、ノ、名、ノ、如ク、鮮カ、テ、朝ノ、國ヲ、行、テ、何、事、  
玆、際、ナキ、ノ、ミ、ナ、ス、他、戦、及、リ、故、同、ニ、仙舟ノ、驍々ハ、









自由、法治を以て寧ろ不吉なりと承けざる  
朝鮮の施政は固より自由の地を農民の農業  
改良、富力を以て以て其の時代は進展し固より又  
新しき計畫ありあるを以ては遂に割を以て而して何等  
理由を以て保証するに地租或は地料を増加せしむるに  
之を商賈の利に農民の負担を以て其の要る所を農民に改革  
前に於ては情状に思ふに所あり然るに新施政の下に  
農業の改良を以て其の地租を半減し收穫の三割一増  
加し是を以てする

植林、固より其の利は甚大なり然るに其の利は樹木  
の生長に依りてなり毎十年雨の爲に荒廢するところ  
朝鮮の南端より北端に至る迄悉く樹木は皆伐るに  
山林は野に成るに依りて其の計畫はすべしト更に鐵道も固より

「是年殊外先朝人職也」云々改頭スルニ世ノ職也  
ノ目的ヲ保証スルヲ郵便貯金又ハ政府ノ事務ニ  
ハ銀行ノ貯金スルヲ銀行ノ固有ノ規模ナシ  
製造品ノ買入又ハ一カノ材料ノ工業ノ付加価値  
ノ工業ノ教育ヲ施シ以テ競争優勢ナシテ市場  
生息ノ回復シ更ニ進歩セシムル方針ナリト云  
得テ格テ同ノ方針ニ是レ考メテ政府ノ指導ニ進  
展ニ待タサシムルヲ以テ改善ノ成功ノ足込  
ノ時困難ナシハ懶惰劣等ノ處置ニシテ彼等ノ力  
働キ賤シムコト世ノ凡ノ長キテ誇リルモノ也明  
ナヘテ糧食ノ備へる意ヲ今ヤサカレシヒシ他ノ  
労働ノ仕事ノスルノ必要ナシトモ甚ヒク怠慢  
暫時ノ足踏ミニ至ルヘキ此ノ改善ノ意ニ  
遂ニ却テ

乃かゝる鬼を南人民より是より導くを絶へるは  
要に云々ト

# 東洋文化

一九二五年三月廿九日発行

東京三ツノク、イガシマ、ニエース、沼津

幸也、惜哉、夢列、倭人、最近、被出、り、之、に、朝鮮、改、名、  
上、之、一、般、一、途、歩、り、お、し、ま、こ、ト、疑、り、突、し、ス、即、ち、此、  
事、々、に、お、お、り、多、く、疑、者、た、ん、事、實、に、依、り、て、証、明、せ、ん  
と、也、一、朝、鮮、領、有、り、半、島、改、名、之、に、之、に、今、保  
護、制、度、を、施、す、合、ト、數、百、年、に、之、に、十、年、前、に、行、こ、ん  
け、一、堡、壘、國、に、其、其、教、育、力、能、因、に、之、を、礎、と、し、果、て、ん  
備、少、一、地、方、に、保、り、外、に、日、日、衰、微、勉、度、に、強、ト、改、名、  
一、此、十、カ、一、と、此、に、堡、壘、の、り、也、一、同、子、政、治、上、西、朝、權、を







一般人民の野合、握合、共衛生施設を急ぐ。這  
 故、新事業より創始より而して、時勢改変より生じた所  
 の思慮、法を、朝創人ト曰ふ人ト、別た持事強  
 ト、公心なき、存在をサレ、時、周上、行々、介、や、到、心  
 也、公正、構、思、見、る、と、云、ふ

日本、經濟、行政、一、部、の、設計、上、因、人、數、の、犯罪、  
 減少、（編者曰、之、記事、と、相、違、う、事、も、多、く、誤、認、す、  
 べし）治安、維持、通、路、新、設、朝、朝、人、の、最、も、便、り、易、  
 々、犯罪、一、旦、逮捕、取、締、法、の、實施、依、り、明、禁、す、  
 又、税、制、の、改、正、と、近、代、的、税、制、と、大、く、財、政、法、政、  
 情、状、態、の、改、善、と、又、政府、の、操、行、場、所、に、對、し、及、害、の、  
 虫、其、他、の、病、害、の、驅、除、と、方、法、の、教、へ、農、業、生、産、の、產、  
 額、の、増、進、の、増、加、と、耕、作、土、地、の、改良、と、云、々、

朝鮮總督府

今に成務の足世ノ年未有方ノ高五ノ文化と  
也ムト上ノ格ノ官階上ノ道安ノおもコトヲ  
スニ至ルシハ誠ニ故ナシキ

一千九百五十年十二月廿七日  
在倫敦時報時報抄載

12

獨立財政 / 石室主

寺の臨時、報告より一九四四年三月十四日とある  
年報の例年、如く所載十二記事、決算表及  
昭和二十一年の概況を述べた。一九四四年  
(大正三十二年)十一月に商業貿易の細目と同一一九  
四四年四月迄の掲載の有、計年交との最近、  
即ち昭和二十四年(大正三十二年)五月迄の内容は此  
寺の臨時、後年報の備考に於て一九二三年の報



朝鮮總督府





米國前副大統領フエアバックス氏ヨリ

寺内總督宛來信（譯 文）

一千九百十三年十月一日「インヂアナ州」「インヂヤナポリス」ニテ

チャールス・カブルニー、フエアバックス

### 朝鮮京城

朝鮮總督寺内伯爵殿

敬啓陳者、朝鮮總督府英文施政年報難有受領致

候、閣下並貴社カ朝鮮ノ行政上顯著ナル成績ヲ舉ケ

ラレタル、殷慶賀ノ至ニ存候

拙者ハ一千九百九年朝鮮

曾遊以來朝鮮ニ於ケル日本ノ施政ニ對シテハ頗ル注意致居  
候處 其ノ撓レナキ進步ノ跡歴然タルヲ見ルハ大ニ満足スル  
所ニ有之候敬具

在間島佛國宣教師ヨリ寺内總省ニ宛テタル書簡

敬啓陳者朝鮮總省府御編纂ニ係ル朝鮮總省府

施政年報御惠贈ノ名譽言ヲ有スルハ今回ニテ拾カモ三回

ニ有之候 拙者儀毎春京城ニ出向ヲ例ト致居候處

其ノ都度農工業上ノ事ハ申スニ及ハス朝鮮裝飾ヲ

旨趣トスル諸般ノ業即チ鉄道ノ如キ道路ノ如キ若クハ

殖林ノ如キカ著々其ノ歩ヲ進メテ此ノ地ノ面目ヲ一新レツ

、アルヲ目撃シ更之ヲ前日ノ寒多状ニ比シ轉タ今昔ノ  
嘆ニ堪ヘサル次第ニ有之候

茲ニ閣下ニ滿腔ノ謝意ヲ捧ケ朝鮮及日本ノ將來益

々繁栄ナラムコトヲ奉祈上先ニ不取敢御禮詞申上度如

斯ニ御座候 敬具

一九百十二年十月二十一日

在間島佛國宣教師

レオン、ギスルイエーレ

寺内總督閣下

# 朝鮮

13  
~~13~~  
一千九百十六年一月二十日發行  
在倫敦統計評論所說

一千九百十五年より十四年へ至る朝鮮施政年報、非常之有  
益ニテ且教訓的ナル好個ノ報告書トシ同書ハ朝鮮事情  
ヲ更ニ明瞭ナラシメ而シテ日本政府力其ノ統合セル王國ノ富源開発  
ニ甚大ナル力ヲ竭シタルノミナラス思慮アリ而モ其ノ為政ノ態度  
ニ於テ吾人ニ最モ利益アル消息ヲ齎ラセリ而シテ日本ハ亦各

種ノ朝鮮國有ノ遺物ノ保存並ニ復興ノ途ヲ講シ朝鮮人民  
ノ感情ヲ満足セシムルヘリ也カトシ朝鮮ノ日露戰爭後直ニ  
日本ノ保護政治ノ下ニ置カレ而モ該保護政治ハ満足ナル効果ヲ  
舉ゲサレシコト及朝鮮王國ハ數年前全ク日本ニ併合セラレタルコ  
トヲ讀者諸氏ハ固想セラルヘシ朝鮮ニ於ケル政府治状態ハ從來  
國內秩序維持ノ爲ニ既ニ各所ニ散在セシ軍隊ノ數多ノ駐屯

所ヲ撤退シ各所ノ原部隊ニ集中スル迄ニ改善セラレ而シテ

今ヤ警備事務ノ如キモ正規ノ警察官ニ依リ充分治安ヲ保

持シ得ルモノトセラレタリ、且又日本政府ハ當初其ノ補助金ヲ似テ

朝鮮ノ歳入ヲ補足スルニ非カレハ其ノ國ヤ恢復ヲ不振ニ陥リシ

ハルモノナルコトヲ豫知セシヲ窺知シ得ヘシ然レトモ政府ハ今ヤ朝

鮮ノ程ナク財政ヲ獨立セシメ得ん所信ヲ有セリ蓋ニ財政方針

ヲ慎重確立セシムルノミナラス數多ノ施設ハ併合國ノ富源ヲ開拓

スル爲ニ實施サレ既ニ租税ノ增收ヲ生スルノ實績ヲ舉ゲタリ。

日本ニ朝鮮ニ施行スヘヤ政策ニシテ日本自ラ正當ト認メセ

界モ亦正當ト認ムルモノヲ採テ以テ其ノ國ノ隆昌ヲ圖ラサル

ヘカラサルコトヲ充分ニ諒知シ而モ日本ヲ進レテ國ノ富強ヲ完

成スル爲ニ著々熱心ニ努力セリ日本政府ハ結果<sub>局</sub>朝鮮ノ國

力發展上ニ其ノ國民ノ感情カ影響スル所多ク大ナルヘヤ



ヲ承認スルナルヘシ故ニ從來等閑視セラル而テ保存スヘキ

價值アル舊慣ヲ調査スル方針ヲ取リ而シテ朝鮮ノ文

明ニ西歷紀元前一千百年即チ今ヨリ三千年前ヨリ今日

ニ至ルモノナリト傳ヘラレタルコトヲ研究スルハ多大ノ價值アル

モノナルヘシ朝鮮ノ往古ハ現代ヨリ非常ニ隆盛ヲ極メタル

モノニシテ實ニ該報志書ヲ見テハ從來輕視サレタル種々ノ

石碑ヤ殊ニ著クハ佛寺ノ等閑視サレタルモノハ今ヤ非

常、重要視サルニ至リ隨テ如上ノ石碑、及佛寺其ノ  
他腐朽セシムルヘカラサル價值アル總テ古蹟、遺物ノ保  
存ニ多大ノ注意ヲ拂フニ至リ

英文施政年報外評 其ノ一

14

朝鮮ニ於ケル日本ノ施政

ロンドン・エディンバラ・タイタニクス・プレスニ掲載

朝鮮ハルビンカ隱ハルビン脛國ト称セラレタルハ既ニ久シキ前ノコト

ナルカ如キモ朝鮮人ハ今ヤ其ノ昔ニ復歸スルヲ希フ

者殆ト之ヲカルヘシ同國カ日本ノ保護ヲ受ケサル

以前ハ長年月ノ間謂ハ隣強同ノ遣羽子ト

異ラス而シテ其ノ間朝鮮ノ利益ハ殆ト顧ラレサリシ

ナリ然ルニ日本ハ併合セラント同時ニ全然斯ノ状

態より脱シ從來ノ國內騷擾、困窮及不活動ハ  
變シテ平和、繁盛及進歩ト化シタリ固ヨリ此ノ  
變化ニ伴ヒ土着人民ニ取リテハ多少ノ痛苦ナキ  
ニ非サリシモ假令日本施政ノ初期、於テ如何ナル  
過失アリタリトスルモ最近數年間、卓越セル行  
政ハ裕ニ之ヲ償ヒ得タリト謂フヘシ而シテ此ノ方面、  
實際ノ施設ヲ明細ニ記述セルハ朝鮮總督府ノ  
編纂ニ係ル大正四年<sup>三</sup>年度英文施政年報ナリトス  
該年報ハ頗ル浩瀚ナシトモ甚趣味ニ富メル又書

ニテ此ノ種ノ官公出版物ト類ヲ異シ多數ノ挿繪  
外一葉ノ地圖及朝鮮ノ實業・貿易並財政・  
關スル主要ノ統計ヲ一見明瞭ナラシムル爲色刷  
統計圖數葉ヲ挿入シテ其ノ内容及外觀同然  
ル所ナシ今該年報ヲ精読スル何人モ日本政府  
力衷心朝鮮人民ノ真ノ利益ヲ顧念セルトヲ  
確信スルニ至ルヘシ日本人統治者ハ單ニ朝鮮人  
ノ有形の幸福ヲ圖ルノミナラス亦無形の即チ  
道德の福音ニモ意ヲ注キ總テノ點ニ於テ朝鮮  
ノ爲ニ將來一大繁榮期ノ到來ヲ確保スル所

堅固之基礎ヲ築キツアリ既、遂ケ得タル  
所ノ物質的進歩ノ一例ヲ舉グル本年報所  
述ノ會計年度内、於ケル該半島ノ生産物  
關スル統計ハ總テ併合當年ノ統計ニ倍加セ

ルトナリトス又從來朝鮮ノ外國貿易ハ巨額ノ  
輸入超過ヲ其ノ一大特徴トシ此ノ趨勢ハ最近  
多年間継続シ殊ニ一九一三年ノ如キハ四千六百  
萬圓ヲ超エタル一九一五年、於テハ一千万圓以  
下ニ下リタリ此ノ好傾向ハ或範圍迄ハ歐洲大戰

影響ナリト雖主トシテ農工業ノ發達、起因  
スルモノニシテ或種ノ内國生産品中ニハ能ク外  
國生産品ニ代ハリ且其ノ餘剩ヲ外國ニ輸出  
セルモノアリ尚談年報ノ記述スル所ニ據ル後  
未窮乏ノ域、陷リタル朝鮮人、對シテハ其ノ  
物質上ノ幸福ヲ進ムルヲ以テ緊急ノ要務ナ  
リトスルカ故、政府ハ銳意農工業ヲ獎勵シ模  
範場、試驗場及苗圃ヲ設立シ補助金ヲ支  
給シ且各地方ニ専門技術者ヲ配置セリ其ノ  
結果此等産業成績ハ年々改善ニ談率島

、主要農産物タル米ハ、係合當年（一九一〇年）  
約八百万石ナリシニ、一千九百十五年ハ一千二百十五  
万九千石、増加シ、麦ハ三百五十万石ヨリ六百万石  
ニ、棉花ハ一千一百万斤ヨリ三千六百万斤、繭ハ一  
万三千石ヨリ四万六千石、鉱産物ハ六百万七千  
九百五十二円ヨリ八百四十万二千六百四十九円、水産  
物ハ七百八十七万一千九百十円ヨリ一千二百六万四千六百  
八十五円、製造品ハ一千九百万円ヨリ三千二百七十  
万円、増加セリ

以上ノ事實ハ、明カニ物質上著大ノ進歩ヲ爲ス



ヲ示スモノナシカ他ノ方面、於テモ朝鮮人民ノ福祉  
ヲ期スヘキ多ク、有利ニ改革アリ例ハ周到ニ  
衛生方法採用ノ結果トシテ従前毎年流行シ  
殆ト風土病トモ称スヘカリシ疾疫ハ事實上該  
半島ヨリ駆除セラレタリ又近代式ノ普通學  
校ハ併合當年一百校ニ充タサリシニ過ル五箇  
年間、四百餘校ニ増加シ、交通運輸機關ノ改  
良擴張ハ間接ニ諸般ノ事業、助力ヲ與ヘタ  
リ教育、於テ政府ノ目的トスル所ニ朝鮮人、  
青年者ヲシテ日本帝國ノ忠良ナル臣民タラシム

ト同時、彼等ヲシテ時勢ノ必要ニ應ジ漸次  
其ノ生活程度ヲ上進セシムルニ是レハキ道徳上ノ  
訓練ト普通ノ智識トヲ與フルニ在リ新教育制  
度實施以來未タ數年ニ過キサルモ既ニ好傾向  
ヲ生シ兩班ノ如キ其ノ多數ハ自然ノ情トシテ從  
來慣籍ノ研究ノミヲ爲セシ舊式ノ教育ニ  
執着スル者スラ今ハ存シテ其ノ子弟ヲ新設  
公立普通學校ニ通學セシメ居リ終ニ臨ニ注  
目スヘキハ朝鮮財政獨立ノ計畫ハ漸次進行中  
ニ在ルコト是レナリ要スルニ朝鮮ノ現状ハ最満足

スハキモノノ如ク吾人ハ京成總督府ニ對シ其譽  
ヲ得タル好成績ニ對シ賛辭ヲ呈スルハトスル  
モ能ハサルナリ

其ノ二

# 朝鮮

15

(大正六年五月十二日発行  
倫敦「スタヂスト」誌掲載)

吾人ハ大正四年度朝鮮總督府英文施政  
年報ヲ寄贈セラレタルコトヲ謝ス該年報ハ一  
大冊子ニシテ其ノ内容豊富ナリ抑モ朝鮮ハ  
往年日支兩國及日露兩國間ノ爭地タリシ  
カ日露戰爭ノ後日本ノ保護國タルコト約四  
年後終ニ僥合セルモノニシテ大正四年度ハ即

チ併合後第五年度ニ相當スルナリ該年報  
ハ單ニ現状ノミナラス其ノ間ノ進步ニ就キテモ  
記述スル所アリ大ニ讀者ヲ益スル點多シ併  
合ノ當初朝鮮ハ自ラ其ノ所要ノ經費全部  
ヲ支辨スル能ハサル狀態ニ在リシヲ以テ日本帝  
國政府ハ其ノ一部ヲ補助スルノ必要アリタルモ爾  
未同政府ハ朝鮮ノ財政獨立ニ努メワザアリ又獨  
リ行政ノ改善ヲ期スルノミナラス亦人民ノ福祉ヲ  
増進スルニ努メ且保存ノ價值アルモノハ總テ之ヲ  
保護維持スルヲ目的トシ之ト同時ニ真ノ善政

ニ依リテ人民ヲ利セムコトヲ期セリ近年ニ至リ漸  
次歳入ノ増加ヲ来シ今後五年ノ間中央政府  
ヨリノ補助金ヲ通減シ五年後ハ全然之ヲ  
廢止スル豫定ナリ

凡ソ一國ノ状態ヲ通覽スル最良ノ標準ハ其  
ノ財政状態ニ在リ今該年報ニ據リ朝鮮ハ  
大正四年度財政状態ヲ見ルニ經常歳入ハ  
三百九十七万七千六百七十三磅ニシテ前年度ニ比シ  
二十万五千二百七十磅ヲ増シ臨時歳入ハ百八十  
七万八千三百七十八磅ニシテ二十九万五百十六磅ヲ増

シ歲入總額ハ一千八百五十八萬五千五百八十五  
十一磅ニシテ前年ニ比シ總計八萬五千二百四十六  
磅ヲ増加セリ而シテ同年度ノ經常歲出ハ三百  
六十七萬五千七百七十一磅ニシテ十一萬五千百五磅ヲ  
増シ臨時歲出ハ二百十八萬二千七百七十九磅ニシテ二十  
萬三千五百五十一磅ヲ減シ歲出總額五百八十五萬六  
千五十磅ニシテ差引前年ニ比シ八萬五千二百四  
十六磅ヲ減少セリ該年報ニ據ルニ在支那獨  
逸租借地ニ於ケル日本ノ軍事行動ハ速ニ滿  
洲ニ終結ヲ告ケ從テ同國ノ領土ハ實際ノ戰

場より遠カリタルモ大戦継続ノ為朝鮮ノ經濟界ハ多少ノ影響ヲ被リ外國貿易殊ニ輸入貿易並鐵道運輸ノ上ニ鬼影響ヲ及ボシ税関及鐵道收入ノ減少ヲ来セリ然レトモ他面ニ於テ戦争ノ為内國産業ノ発達及輸出ノ増加ヲ来ニタリ又該年報ハ朝鮮ノ状態改善ノ努力セル結果トシテ輸出入ノ比率ニ著大ノ變動ヲ呈セルコトヲ記述セリ併合前朝鮮ハ常ニ多大ノ輸入超過ヲ見シカ近年漸次輸入ノ減少、~~増~~輸出ノ増加ヲ来シ大正四年ニ於テ



ハ輸入超過額九十七万七千三百三十三  
リ尤モ之ニ多少戦争ノ影響モアリトモ主トシ  
テ農工業ノ發展及交通ノ便利ヲ増セシメ起

因ルモノトス

# 朝鮮の今昔

馬淵廣島著

フレデリック コルマン原著

早朝予の乗れる列車はコレアのサウル即ち現在日本人の所謂朝鮮京城に着きぬ。

停車場には予の相識ふる米國人に――てさる國際的意義を有する大研究所の委託に由り亞細亞に於ける衛生並に病院の施設状況を調査――居れる一醫師と邂逅せり。氏と予とは嘗て中央支那の揚子江を川茲瀨カに乗りて共に上りたることあり。氏の極東に於ける事業は多年に亘り居れり。亞米利加政府は比律賓に於て久志く氏を用ゐて益する事多大なり――か彼のブライアンの誤

れる頑愚ふる政策を用ゆるに及びて、此等有能の士を比律賓の島務より驅逐するに至れり。

然れども同氏及同氏<sup>等</sup>典型を同うする人々か比律賓種族の爲に盡きたる業績は同氏等の勤勞の結果を破棄するか如き傾向を示したる民主々義的政治の事業の爲に其の影を没することふかるへい。詳言せば同氏が助力して建てたる建造物は未だ自然的頽廢と終局的減却とを防止するに足るべき工程の進捗を見ざるの時ハリソン知事は故國に於ける政治的事務を去りてマニラに來り、良政治家の常としてワシントン政府より來る政治上の命令を

從順に遵奉するに及びて比律賓は於ける多くの人道的施設は故造的に開却せられたる儘、焉に該記録は長く存在するなるべし。然り同氏及其の同僚の業績に關する記録は長に存続せしむ。而も其は吾人の子孫の讀むか如き吾人時代の歴史上に存在するにあらざるを、何所に於てか又何等かの方法に由り、人間の眼界を超越せる何者かに由りて保存せらるゝ、載籍の中に存在せしむ。かゝる記録は必ず現實に存在せむ。然らすむは何の益か之れあらむ。

かゝる事績情あれば予は此の醫師と邂逅せる時帽子を取りて挨拶せり。同氏は實に從來

多くの事業を爲し來り去る人にして、今も猶  
極めて地味なれども而も非常に良く事業  
を爲し居れる人なり。

予は同氏に向ひ『此の古りたる京城の地には倉  
遑として過り行く観光客に取りて多く感興  
を牽くものありや』と問へるに同氏は無限の友  
情を表し、縱令故國を遠く距つるも猶同一血  
統の人類たる契合を思はしむるか如き笑を  
漏して應へて曰く『さして多からず。蓋し世界  
遊歴者流の考を以て一顧に價すべきものを求  
めは只一少時の遊覧は値たへきものは之れあ  
らむ。然りと雖も若し人ありて、日本人の爲に居

る事業に興味を有せむか、京城には其の人を  
いて長く感興を抱<sup>か</sup>く<sup>も</sup>足るへき幾多の事  
物あり」と。

『日本人は朝鮮を利用しつゝ、有りや、日本人の渡  
來は朝鮮に對し果して幸福を齎せしや、か  
かる問題に關し同氏は實に謹聴するに足る  
意見を有する人なりと信す。同氏は皮相の  
觀察者にあらざりて、事物の真相を洞察せ  
ずむは止まざる底の人にて、且從來朝鮮の  
各地を隈なく旅行せり。

東洋に於ける人々の中には、日本統治の高壓  
手段の下に、朝鮮人の呻吟せるに對し多大の

同情を表せる者あり。此の人々は往々朝鮮を摘示して日本の政治及統御の下に立つに至る時は他の諸國及諸地方も亦かゝる運命に陥るへいと稱して、恰も朝鮮を不幸の實物教授なりとせり。予は特に予の研究に資する方法として此く云へり。

同氏を乗せたる列車が未だ発せざる間、極めて少時間朝鮮の首都の停車場に於て、同氏は母國か其の健全幸福及發達の爲に行はむと試みたる事柄を、外國に於て實行せし者の一人として、朝鮮に於ける日本の事業に関する感想を予に語れる。其の

言に曰く、

『先づ第一に日本は將來長年月を經るも此の國より到底回收すへくもあらざる多額の金錢を朝鮮に投せり。朝鮮はかゝる多額の支出に由りて益せるや必せり。朝鮮に來り今日の朝鮮と日本に對抗せる當時のコレアとを比較考慮する者は何人と雖も右の事實を否認する者あらざるへい。朝鮮鐵道、其の種々なる活動、港灣に於ける船渠、鐵道事業、京城に於ける大ホテル、は其の第一歩なり。』

朝鮮はコレア時代に在りても決して活氣



を帶ひたる國と稱するを得。其の政府は國家の福利を増進せしむるに足るものにはあらざりて、寧ろ支那政治の方多少之に優り居たり。

日本人は朝鮮産業に関し多くの道を開拓し居れる。採鑛農業及工業上の諸施設は從來全く閑却せられたり。

貨幣制度の改正及朝鮮銀行の設立は鮮民に取りては決して不幸事にはあらざりしあり。京城には日本の金銭を以て建設せられたる壯麗なる数個の建築物あり。而し其の中にて最も壯麗なるは朝

鮮銀行に如くあり。且朝鮮鐵道ホテルは頗る壯大なる建築物にして、世界の此の方面に於て斯る建築物あるを見る者は定めて一驚を喫するなり。又街路には石を鋪かれ、道路は築造せられ、その他一般交通機關は驚くべき改良を施されたり。

朝鮮人の教育は其の目的とする、普通に並に實業の諸學校とも等しく日本人の手に依りて朝鮮に開設せられ病院も亦建設せられたり。かゝる種類の事物は普通の實業上の用

語の意味に於ける投資と稱するを得  
ざる費用を伴へり。若し此等の事業  
を鮮人に放任しおかは到底此等一切を  
自ら遂行不能はなりなりなるへく、又仮令  
能力ありとも決して之を遂行せざり  
去あらむ而も日本は實に鮮人の爲め  
に之を遂行しをり。

鮮人は常に貧困にいて且つ日傭稼階  
級以上の者は決して勤勞を爲すことな  
し。朝鮮は現に富有の土地にあらず。鮮  
人には百萬長者なく、又朝鮮全體を  
探求するも歐洲諸國の標準より判断し

て相當ふる富豪を認むべき者は五指を屈するに足らず。然れども大體より見て現在の朝鮮人は日本人渡來前に比して其の生活は事實上大に改良せられ居れり。朝鮮人の過半数は農夫にして、又彼等自身の耕作方法に於ては極めて善良なる農夫なり。而して鐵道の開設と其の延長とは朝鮮に於ける農業をして益々有利ならしめたり。

斯く概括する時は予は朝鮮は日本の治下に移り去以來其の已前に比して退化したりとは認むる能はず。否朝鮮の現

在を觀る者は、日本か何れの國にても同一の境遇にあらば爲ゝたらむか如き方法を以て朝鮮に進發去來リゝこと、並に朝鮮は其の之を欲ゝたると否とに拘はらず、之によりて裨益せられたる事は之を認識せざるを得すと信す。

日本の朝鮮に於ける行政は其の多くの点に於て峻嚴に過くるものありゝやも圖られず。現に斯る噂を耳にすれども日本か朝鮮に對し物質的幸福を致せしむことは明白に表て、朝鮮は當然之か獲得者たらむはあらず。旧朝鮮を知れり。

仔細に新朝鮮を研究したる士が朝鮮人の生活状態の改善せられたること、及生計を得る好機會の漸次擴大せられたることを認め得ざる理由に至りては吾人の解する能はざる所なり。

以上は予の問に對する彼の醫師の答なり。予は彼の醫師の話題に上り去鐵道ホテルに入り、而して予の紹介狀を検するの中に大隈内閣の外務大臣たり去石井子爵より朝鮮總督寺内伯爵に宛てられたるものあり。此の紹介狀は予が中央支那に滞在し、其の後續ひて滿洲に於てオフンドアを

探索中なり。去間に於て、寺内伯爵は元老の推薦に由り大隈侯の後継者と、内閣總理大臣となり、東京にありて其の新地位に忙殺せられ居り。去際なり。を以て遂に之を用ゐるに由あかりき。

予か朝鮮に着せ去時日本新聞紙の一包は既に到着。去居ぬ。予は之によりて寺内伯爵の總理大臣に任命せられたること、は伯の朝鮮に關する政治に就き論評を下さむるの機會を作り。ものあることを知れり。日本六大新聞の一たる東京萬朝報は寺内伯を痛烈に攻撃せり。其の社説

に於て

『人に来て經濟問題に通曉するなくむは以て大政治家たるの資格なり。而して伯寺内は何等經濟問題に関し知る所なり。伯寺内の經濟事情に疎きことは、既往朝鮮に於ける彼の政治に於て證明せられたり』と論者更に又他の號の社説に於て次の評論を載せたり。

『伯寺内は非立憲の士として廣く知らる。伯は多年朝鮮にありて其の軍刀を振り廻せり』。

日本のマンチエスターたる大坂より送り來れる新



聞紙中には、極東に於ける最も有力の新  
聞たる大坂朝日新聞紙あり。同紙の社主  
は日本のデیلیーメイルと往々稱せらる、東京  
日々新聞をも所有せり。此の新首相に関  
て朝日紙の社説に左の記事あり。

『吾人は伯寺内を以て内閣の組織者たるには  
不適當なりと信す。朝鮮に於て伯寺内は  
出版自由の途を開せり。』

彼は氣慨ある新聞記者を壓迫し、懦弱な  
る記者を買収せ、かくて朝鮮は表面平和  
たりとなり。』

日本新聞紙に於ける此等及類似の記事

より考ふるに、コレアを日本の属邦として併合するに就ては、伯寺内の盡力に負ふ所多かりと雖、伯の五年間の朝鮮總督たりと結果は賞讃の價值なきものなりとの意見を有する者、日本の新聞記者中に存すること明かり。

予は努めて此の不入望の原因を探らむとせり。か、センチリーマガジンの論說中、チャイナプレス紙の主筆トーマスエフミラード氏の寄書によりて一の暗示を得たり。其の文に曰く『コレア及滿州は日本の過剩なる人口に對し適當なる場所を備ふるものなりと

云ふ思想は謬見として排斥せられつ、  
ある所にいて、最早今日に於ては廣  
く日本に於て考へられ居る所にあらず。  
而して仮令嘗ては然り者ならむと最  
早今日に於ては虚構的外交政策と云  
ては兎に角、苟も眞正の對外政策に  
於ては何等重要なる地位を占むるも  
のにならず。』

日本人にいて旧コレアより出て去新朝  
鮮に失望したる者多く又日本人中  
或は自己の希望の破れたるを以て寺  
内伯を批難するに至れる者もあり。

寺内伯は在鮮六年間熱心に活動せられたり。日本が果えて利する所ありきや否や、又日本の新聞記者が満足せたりしや否やは、予に取りては朝鮮及朝鮮人の利益を得たるや否やの問題と比すれば頗る輕易の問題なりとす。是れ予が京城及其他の朝鮮都市の三四に於て調査せし事實あり。予を援助せる人士中、朝鮮銀行の理事の一人程朝鮮問題に関心をもち見識を予に與へたる者あり。恰も當時は寺内伯が併合以降五ヶ年間に於

ける朝鮮の進歩發達の跡を開示するの目的を以て、工業博覽會を京城に於て開催されてより滿一ヶ年を経過せざる時として、朝鮮銀行の星野氏は其の時の事に関して、斯かる進歩を適確に証明せしむべき多数の統計表を提示せり。且同氏研究の結果を予に教ゆる爲に親切に少からざる時間と精助<sup>カ</sup>とを費されたり。

予か朝鮮に於て親しく見たる事實は、星野氏及朝鮮總督府中央試験所長豊永博士の二人か予に語りたる所と



るも尚ほ一大開發の餘地あること明なり。  
日本本土に於て一九一三年一エーカーの米の  
收穫高は三四ブッシェルなるに對し、朝鮮に  
於ては一エーカーに就き二ブッシェルにすぎず。  
又小麦ライ麦大麦の一エーカーの收穫高は  
朝鮮に於ては日本に於ける一エーカーの收  
穫高と比較するに其の三分の二に充た  
す。然れども朝鮮人は善良なる農夫に  
して、耕作に關する近代的方法を指示  
する時は、謹みて之を採用するを以て、一  
エーカーの收穫高に關する報告書の数  
字を比較するも、一九一六年は一九一〇年に

比して著しき進歩を示せり』と

農業が朝鮮人の命綱たることの證據は、  
朝鮮の凡ての方面に於て見る所よりて、  
予は宮殿より平民の住家たる低き藁  
葺の小屋に行き、更に所謂朝鮮の貴  
族たる官吏並に西班牙の家を訪れたる  
も、都市と村落とを問はず、農業以外  
に朝鮮人の産業に對する傾向を探ら  
むとせむ其の努力は畢竟無効に終  
るなり。

一九一〇年即ち併合の年に於て、朝鮮の  
耕作地の面積は六、四〇、〇〇〇エーカーなり



まゝの、朝鮮の日本の属邦となりし已  
來四ヶ年間に於ける年々の平均耕作  
地面積の増加は、約三〇、三〇〇、エーカー  
あり。されは一九一七年末に至る迄其の  
増加率に異常ありとせば、約八〇〇〇、  
〇〇エーカーは耕作地となるふらん。  
星野氏曰く、

『朝鮮に於ける農産物の産額の増加は  
從來確實より、一九一〇年には米の生  
産高三九、〇〇〇、〇〇〇ブッシェルありしもの、一九  
一四年には六〇、〇〇〇、〇〇〇ブッシェルとあれり。  
又小麦の生産高は一九一〇年には一三、

〇〇〇、〇〇〇 ブッシェル ぶりーもの、一九一四年には  
二三、〇〇〇、〇〇〇 ブッシェル となり。大豆は一九一  
年九、〇〇〇、〇〇〇 ブッシェル に、りて一九一四年  
には一二、〇〇〇、〇〇〇 ブッシェル の生産<sup>高</sup>を見、小麦  
は一九一〇年三、〇〇〇、〇〇〇 ブッシェル なりーもの、  
其の後四年にりて六、〇〇〇、〇〇〇 ブッシェル に増  
加、燕麥 は一九一〇年七五〇、〇〇〇 ブッシェル な  
り、米 の、一九一四年は一躍二二五〇、〇〇  
〇ブッシェル とふれり。

綿 の生産高も著りき進歩を示、一九  
一〇年に於ける生産高は七、〇〇〇 噸 に足  
らざりーもの、一九一四年には二一、〇〇〇 噸

以上に及へり。又支那人が常に卸價にて  
少くも一磅に付一志六片を支拂ふこと  
を辭せざる朝鮮人參は、一九一〇年に  
於ては僅に四、八〇〇磅に、一七、極めて少  
額なり。其の生産事業の總督府  
の專業とあり。去以來著しく増加して  
一九一四年には一〇、八〇〇磅に及へり。煙  
草は一九一〇年の生産高八、〇〇〇噸あり  
ゝもの、一九一四年には一六、〇〇〇噸に増  
加せり。

養蠶は朝鮮の産業中最も有望ある  
ものの一にして、一九一〇年より於ける繭の

生産高は六九、〇〇〇ブッシェルふりまの、一九一四年には二二九、〇〇〇ブッシェルとふれり。牧畜も亦注意を惹くに至り、一九一〇年に於て朝鮮に於ける家畜の總数は約七〇、〇〇〇頭なり。その一九一四年には約一四、〇〇〇頭に増加せり。土地の生産力の増加並に其の土地の上に働く住民の能率の増加を助長するか爲、あらゆる手段は講せられ、模範農田、農業専門學校、實生床（苗圃）、蠶業講習所其他農事に関する類似の助成機關は尠からざる費用を投じて建設せられ、種子並に種苗の無償配布と繼續して行はれつゝあり。

予は此等の施設の二三を視察せるに、孰れも適當に處理せられ居るものと思へり。鐵道のみならず、道路に依る一般交通機關の増加は、農業地たる朝鮮に取りて極めて重要なるものたるを以て、寺内伯は一〇〇〇、〇〇〇磅の費用を投じて全長一四〇〇哩に亘る府道（ステートロード）二十三を築造せむとする計劃を立て一九一一年其の事業を開始し、一九一六年之を完了すべき豫定なり。に、財政上節約の爲其の計劃の遂行は不可能となり、一九一八年に結了を見るべき豫定に変更せられたり。然れど、

一九一三年の末頃寺内伯は此の配當金額たる百萬磅の半以上を費して約七二五哩の新設府道を完成せり。

總督府に於ける道路築造事業の外に、朝鮮の各地方道廳は併合以來地方道路の築造のみならず、府道の築造にも関與すへきことを要求せられたり。

一九一〇年九月より一九一四年三月迄に一等道路（廣サ三〇呎）四七三哩、二等道路（廣サ二二呎二分一）二五九六哩、三等道路（廣サ一五呎）三、七〇八哩、及其の他の道路（農業用馬車を用ゐ得る）四、六三八哩は或は新に築造せ

られ或は旧來のものを修築せり。此等の道路を總計する時は實より一、四一五哩に達す。

此の増築せられたる道路は皆農事に直接利益あるものなり。日本は此等並に其の他類似の出費に對し幾千かを支拂はざるを得ざりしものにて、一九一一年日本々土よりの補助額は約一、二三〇、〇〇〇磅に達し、一九一二年の補助額も亦同額ありに、其の後三箇年間は著々其の額を減少し、遂に一九一五年には八〇〇、〇〇〇磅を算するに至れり。

寺内伯の計劃は年々國庫の補助額を  
遞減し、同時に朝鮮自體よりの收入を  
増加せしめて一九一九年には朝鮮を以て  
財政上完全ある獨立を爲さしむるにあり  
たり。是を以て新税を興し、旧税の増額を  
圖り、軍事、行政其他官廳の費用は出  
來得る限り之を削減し、一九一〇年に於  
ては二、五〇、〇、〇、〇。磅に達せる經費は一九  
一五年に至りては遂に一、六四〇、〇、〇。磅に  
低下せり。

寺内政府の初年頃の地租税率は一九〇  
年旧朝鮮政府に於て定めたる所あり



に、寺内伯は貿易の發達と總督府の興へたる産業奨励とは農産物の生産高を増加し土地の價額を増加するに至れりとの見地より、一九一四年地租の税率を四。パーセント増加し、市街宅地の新なる測量を遂げて之に新税制を適用したり。更に煙草税を改正し、從來耕作及販賣に賦課せし制を更に其の製造並に消費に擴張せり。前述改正中地租の改正は最も重大なる箇條ありとす。蓋し地租より生ずる收入は此の四。パーセントの増率以前にありては尚ほ經

常收入總額の殆んど二五パーセントの割合を示し居り、を以てあり。

朝鮮農産物の生産額の増加に由りて何人か最も大なる利益を収むるやを知らむとせば、其の人口分布の割合を見ざるべからず。朝鮮は其の面積八四、一二九平方哩あるを以て、八七、四二七平方哩の地積を有する本州と畧々相同し、英、蘭、蘇格蘭、ウエールズの合計と畧々同大なり。

一九一四年に於ける朝鮮の人口は一五、九二九、九六二人にして、内日本人は二九、二一七人を占む、朝鮮人並に日本人共に朝鮮

にありて逐年其の数を増加しつゝあり。  
日本に於ける人口の密度は一平方哩に就  
き三七一人あるに、朝鮮にありては一九〇人  
あり。前述せる如く、朝鮮今日の人口約一  
六、〇〇〇、〇〇〇人中其の約八四パーセントは農  
業者よりて、二パーセント弱は製造及鑛業  
に従事し、七パーセント弱は商業及貿易に  
従事せり。されは鮮人中凡そ一三、〇〇〇、  
〇〇〇人は、農業者なり。現在三十萬を超ゆ  
ること多からざる朝鮮在住日本人の全  
員中、農業に従事する者は僅に三六、〇  
〇人に過ぎずして、残餘約八五、〇〇〇人は

商業及貿易に依り其の生計を營み、約三五〇〇人は製造業に従事せり。朝鮮に渡來せし日本人は都市に住居し、旧朝鮮の末世にありては其の古き都市の繁榮は既に過ぎ去り、其の中僅に三者のみ都市と稱し得るのみにて、其の他の都市は寔に果て、單に村落の集合と稱すべきものに過ぎざりき。前時代の立派ある道路は僅に其の跡を残すのみにて全く修築せらるゝことなく、都市間相互の交通機関の缺乏は嘗て朝鮮に有るなり。都市団体の頽廢の原因とあれり。

日本の併合及日本人の移住は直に新都市を興ふ旧都市の再生を來せり。一九一四年頃京城は殆くと三〇〇、〇〇〇人の住民を有ふ。平壤は四五〇〇〇人。釜山五五〇〇〇人。開城は殆くと四二、〇〇〇人の人口を有し、他の五市は各三五〇〇〇、二六〇〇〇、二三〇〇〇、二〇、〇〇〇、一三、〇〇〇人の人口を有せり。尚ほ他の五市街は平均六、〇〇〇人の人口を有し、其の中最小あるものも尚ほ四、〇〇〇の人口を有せり。日本人の最も多く入り來りしは此等の都市あり。前記十四中の六都市に於ては其の人口の

五〇パーセント以上は日本人に、りて尚ほ四〇パーセントを含める都市ニ、三〇パーセントを含むるのニありて、残餘三都市中ニは總人口の二〇パーセント以上の日本人住所居す。

予か朝鮮に於て遭遇せし數人の日本人は、日本の勞働者及農業者は鮮人と競争して優勝すること能はざる旨を語れり。其の理由は、彼等の言に據るに、朝鮮の勞働賃銀は日本に於ける夫と比較して其の二分の一強に過きざるを以てなりと謂ふ。日本に於て一日一志九片を受くる勞働者の勤勞は朝鮮

にありては一日一志にて之を得へく。又日本の鍛冶工は一日二志四片を儲くる也。朝鮮の鍛冶工は一日一志一片を以て立派なる一日の勞賃と考へ居れり。

予は以上述べたる所を綜合して

『朝鮮在住の日本人は將來朝鮮の土地を以て年々少くとせ七〇〇、〇〇〇人の割合を以て増加しつゝ、ある日本人の爲めに捌口を供すへき時を豫期し居らざる事、及朝鮮農民の物質的幸福は、増税行はれしに拘はらず、寺内政府の下に増進せられたるものなり』との

結論を得たり。

朝鮮人の國家としての幸福に關して謂はは、彼等は最早一國家を形成せる者にありす。若し然らすとするは彼等が國家を形成せざるに至るの時は遠きにありざるべし。

日本の現在の計劃は朝鮮人を日本人と作るにあり。即ち日本は所謂同化の方針を採りつゝあり。予は朝鮮に至り、日本人が此の方針を着々進めつゝありと考へ居る事實を看取せり。日本の國語は隨處に凡百の方法を盡して、朝鮮人



に強制せられつゝあり。曰鮮兩國語の間には類似の點ありて、鮮人は容易に日本語を習得し得るか如く思はる。

朝鮮の農民は仮令彼等の力によりて可能なりとするに、彼等の民族が漸次日本民族中に吸込され行きて遂に滅失し去らむとあるに際し、仮令能力を有するにせよ敢て之は對抗するの意思なきに似たり。農民既に然り、他の少數の鮮人に就きては考慮するに足らず。

朝鮮人は單純なる勞働者を除くの外

一般に決いて勤勉おらす。上流階級は仕事  
を賤む風習あり。是れ前時代よ  
りの遺習ありとす。昔時兩班は官歴以  
外如何なる職業に従事する。事を  
禁せられ居り。違ふ者は位階を削られ  
特權を奪はれたり。

されは兩班は其の戸主又は家族か某  
官職に任命せらるゝに賴りて生計を  
營み来りゝなり。今日朝鮮に現存  
する兩班の戸数は五〇〇〇〇以上に上  
るに拘らる。寺内政府の下に於て朝  
鮮人に供へき官職上の椅子は

察せるに猶萌芽的研究所たるに過ぎざるべきは、將來大いに有望なりと思はれたり。予は鮮人の教育に當れる日本人教師か、日本の學生と比較して鮮人の子弟は概して痴鈍なりとの意見を有すと聞けり。而も鮮人には一度習得したる所は固く之を抱持する特徴の存あることと亦一致して認むる所あり。鮮人中才器煥發の士に至りては極めて稀なり。其の大多數は其の鈍き行程を撓むことなく徐々に歩み行くか如き性質を有す。

鮮人の着けたる白き衣服は彼等の清潔  
を想像せしめたるを以て、予は日本の一  
紳士に對し、朝鮮人は其の性質清潔な  
る民族ふりやと問ひたるに、其の紳士は然  
らすと答へ、尚ほ語を續けて曰く

『東洋諸民族か身體の清潔と云ふ問  
題に關する思考の頗る相異なるものある  
を見るは甚だ奇異ありとす。民族として  
の日本人は身體並に衣服の清潔に等  
しく重き措くは、朝鮮人は衣服の清潔は  
之を重するは、身體の清潔に就ては殆んど  
注意を拂ふことなり。』

清國人は衣服並に身體共に非常に汚れ  
居れり』と予は其の紳士の言葉に全然  
同意を表するを得ず。啻に予のみあらず、  
苟も完全に發達せる臭覺を有する  
人にして、日本内地を廣く旅行したる  
人は何人と雖も、此の紳士の言に全然同  
意を表するを躊躇するならむ。

予は又他の日本紳士に對し、『日本が朝鮮  
人を遇するの態度苛酷なり』との言は教  
之を局外者より耳にする所なるか、貴下  
は朝鮮渡來以來かゝる種類の事を見  
たることありや』と問へるに紳士は直に

尤の如く答へたり。

『日本人中大多数の者は往々多少激する  
ことあり。鮮人の極端ある受働性と極  
端ある柔和とは暴慢家の感觸を害す  
ることあり。等しく日本人といふは朝鮮に  
來る日本人には善きも惡きもあり。あら  
ゆる種類のもの來るを以て或る地方の如  
きは惡人の跋扈せりと思はる所あり。中  
には愚鈍ある無害の土人を酷使するが如  
きことあるは勿論あるも此等は發見す  
れば直に之を所罰すること、せり。予等  
大多數の者は鮮人の境遇に同情するこ

と頗る大なるを以て、彼等を遇するにも  
只管親切ならむことを期するの外他意  
あらざるなり。鮮人の生來温順なることは  
恐らく貴下等の想像するを得ざる所  
ならむ。彼等は全然頼とする所あり、絶  
對的に従順あるを以て、性残忍ある人を  
除くの外、何人と雖彼等の感情を害す  
るに忍びさらむ。若し人あり、彼等の弱點  
を利用するかと伺はむか、此は眞の惡漢たる  
へし。予<sup>自身</sup>は鮮人を好む。彼等は懶惰あ  
り。彼等は彼等の郷國に就てし其の家  
に就てし何等誇ることあり、然れとて予

にとりては鮮人は品位あり立派に、  
且つ愛うべき者あり。予は親愛する犬を  
蹴り得ると同じく鮮人を鞭うつに忍  
びざるなり』と

其の後数週間にして予は東京に於て予  
の旧知に會へり該人は日本にありて大  
なる事業を經營し居りて其の名聲  
は日本の隅々迄知られたる人あり。

予は其の人に對して『何事か耳新しき  
事ありや』と會釋しつゝ問へるに對し  
『何等珍しきことなり。昨今纔に東京  
に歸り來りしのみよて、朝鮮及滿州を



漫遊ゝ來れるに満州及朝鮮に於ける鐵道會社は予に多くの事物を示し、爲に多くの時間を消費したるも、予の注意を惹きたるものは鮮ありき』と答へぬ。予は『朝鮮に就て如何ある感想ありや』と問へるに極めて曖昧に『多少良き處なり』と答へたり。

予は旧知の該日本人は特に知名の士として日本人中度量宏く見解廣き人なりと考へたるを以て、朝鮮か如何ある印象を彼に與へたるか最も強き印象即ち彼の朝鮮に関する最も新しき

記憶として、先づ第一に表示せらるゝもの、何たるやを知らむと焦れり。

彼は直に口を開き、深き思に耽り乍ら煙草を取り出さ答を爲すに先ち彼の言葉を注意して按ずるもの、如く徐に黙火せり。予は彼に談話の誘因を與ふる爲に

『朝鮮及滿州に於ける都市に於て、日本の企業が建設したる彼の壯麗なる建築物に就て如何なる感ありや』と問へるに對えて曰く『貴下は正しく的たり。是れ予の忘れむとして忘るゝ能は

さる事實なり。必要以上に大なる鐵道  
停車場、大ホテル（中には將來長く其の必  
要なき程<sup>程</sup>大なるものあり）、京城に於ける  
朝鮮銀行の如き大建築物<sup>等</sup>凡て非常  
に大にして且つ著しく人目を惹くもの  
なり。何故にかゝる大なる建物を設  
けしか、朝鮮人並に滿州人をいて印象  
を深めらるゝむる爲か然らば箇を何の  
必要ありて然るか、日本か如何ある道を  
經て大いに進歩したるやを示さむか爲  
ありや、換言すれば泰西の國民か日本に  
先ち既に幾年の昔進みし道を示さ

むか爲なるか、朝鮮並に滿州に於ける  
日本人の最も重大視せる此の方面に  
於ては西歐諸國は尚ほ將來長く日本  
よりは先進者たるへし。

予は予の親愛する該日本人が熱心な  
る愛國者にして、日本の事物に関し  
ては殆んど狂熱的愛慕の念を有する  
ことは善く之を知る。然れども予は又  
彼が事業に就て頗る機敏ある人たる  
ことと知り居れども、而も遂に彼の談  
話の趣旨を捉ふるを得ざりき

予は『物質的發達は進歩を意味せ

すや』と問へるに、彼對えて曰く

『然り進歩なり。然らは何故に今一層熱心に進歩の爲に努力せざるや。日本かあらゆる他の思想を排除して、模倣……永久の模倣に熱注して、あることを世界に公言するの何故に不可なるや。日本には日本人の作れるものにして優良のものなきや。予は頗る立派なる体格を有し、丈高く且つ直立して京城の街路を歩行し、つゝある一人の朝鮮人を見たり。彼の歩調は除々にして、彼の頭は高く擡けられ、彼の衣服は純白にして長く

且つ平滑なり。然れども彼は旅行者に  
取りて一見奇異の感を起さむれども  
而も猶朝鮮の景物中最も重要な部  
分は属する黒色の小丸帽を戴ひたま  
へ、普通の布製の白き厭ふべきクリム  
及黒色の旅行帽を着け居たり。心中  
何等美術心又は哲理を包藏せざる  
人には單に狷狷<sup>習</sup>と謂ふに過ぎざるべし  
と雖も若し此の立派ある朝鮮人は縦  
令勞働を厭ひ自治に適せざるべし  
何等かの稱賛は値ふべき所ありと  
認め去人は華麗と見えりたるべし。

予は其の時對談を爲し居りし教育  
にあり品位し高き朝鮮一老紳士に  
對し『旅行帽を戴ける人は何故に  
斯く迄滑稽化せしむや』と問へるに  
該老紳士は笑を浮へて、『旅行帽を  
戴きたる者は最新の生産物よりて、  
其の思想は之を日本人より得たるな  
り。請ふ予の周圍に於ける日本人を見  
よ。日本人は自己の思想と習慣とを除  
くの外凡百の事物を模倣す。日本特  
有の事物より遠ざかるに従ひ自己の偉  
大を感ずるもの、如く、大なる建築物

不必要なる富の表示は鮮人の目を  
逃るゝことなく、鮮人は之を見て手を  
袖にゝて笑ひ、日本人を模倣者と呼  
べり。蓋し日本人は、歐州人より此優れた  
りと自ら誇るに拘はらす歐州人の模  
倣を爲せるを以てなり。予は又満州に  
於て之と形式は異れども同一の事實  
を見聞したり。同地在住者中の上流  
人々亦我等日本人を嘲笑せるに至  
りては、我か日本の進歩は斯かる印  
象を鮮人及満人に與へ居るものと  
謂ふの他あり。されは日本人か隆昌



に赴けるの状を示すか爲に計劃せられたる莫大の費用は全く浪費に終り、一面より云はは我等は日本に於ける物質主義の大崇拜者と爲りつゝあり。然らば我等は獨逸の踵を追ふへきか、何か故に古き我か日本特有の事物を發揚せざる手、古き日本には善良眞實よりて且つ尊重せしむるの多く又我等の忘るゝを得ざるもの多きにあらずや。是れ予か朝鮮及滿州に於ける進歩の道程に於て他に卒先して注入せられたる物質的

進歩を觀察して得たる一條の思想  
あり』と。

期の如く觀察点は相異れり而し不  
可思議よし米國醫師及日本の友人  
の言論中に於ける相異なる兩見解は  
俱に多くの眞理を含めり。去れと曰  
本人は自國を善く知り、其の見解を  
實現するに足るべき準備を腦理に画  
きて朝鮮に來れるなり。東京にて其  
の朝予と友人との間に交換せる談  
話を聞きて後活眼を開きて數箇  
月を日本の地に費し、者は何人と

雖も其論議の健實たるのみならず今日に於ける日本國民性の重要な特質を正當に批判せるものなることと覺らざる者はなかるべし。『然らば吾人は獨逸の踵を追ふべきか』とは、晩近多数の日本人が懷きつゝある疑問として、予は日本の爲に宜しく其の然らざることを望むや切なり。

朝鮮

送

大正六年七月十日 朝鮮仁川ニ於テ「セームス」エス、

樹外秘書長

「ゲール」氏ト「マククリエアー」氏ト會見談要領

より文

マククリエアー氏手記

本篇ハ「マ」氏（質問者）ト「ゲ」氏（應答者）トノ間ニ於ケル

問答筆記ナリ左記要領ハ大体「ゲ」氏ノ答弁ナリ「マ」

氏ノ所説ニハ特ニ其旨ヲ附記シテ之ヲ明ニシ置ケリ

朝鮮ニ於ケル警察制度ノ改革ハ實ニ驚嘆スヘク而カ

モ其警察官ノ大部分ハ朝鮮人ニシテ少數ノ日本官憲

之ヲ統制セルノミ

寺内伯ハ朝鮮人ト日本人トヲ平等視シ其間私スル所

ナシ現ニ官吏ノ任用ノ如キニ在リテモ朝鮮人ニシテ道長官

其他ノ地位ヲ占ムルモノ多シ

全体ヨリ之ヲ云ヘハ朝鮮ノ民衆ハ政治ニハ無頓着ナリ

日本へ一併合ニ就キ別ニ是非賛否ノ感想ナシ併合前ニ於ケル統治者階級ノ者等ハ大概日本ニ左袒セリ唯學生階級ニ至リテハ強ク反感ヲ懷ケリト雖而カモ其一度日本人ニ接近シテ實狀ヲ究ムルニ於テ其反感ヲ釋ケテ常トス埃及ニ於ケル國民運動者ノ如キ輩ハ朝鮮本土ニ存在セス但桑港浦港等ノ地ニハ斯ル輩アリ

伊藤公ト寺内伯トノ朝鮮治政ヲ比較スルニ伊公ハ鮮人ニ政論ヲ許シ唯之ヲ穩健ナル範圍内ニ止メシメントセリ其結果ハ即チ公ノ暗殺ナリ寺伯ハ鮮人ニ告グルニ各自日常ノ業務ニ勉勵スヘク此點ニ於テ伯ハ鮮人ノ援助・勉ムヘク併シ政治騒ハ断シテ許サストノ言ヲ以テシ政談演説ナト云ヘル惑亂分子ヲ除去セリ蓋シ寺伯ニ在リテハ各自日常ノ生計ヲ當ルコトヲ以テ急務トナシ夫レサヘ出来サル者ガ空

論ヲ爲スカ如キハ半文ノ價值ナシト思惟セルナリ而シテ朝鮮人ハ先ノ伊公ヨリモ實ハ却テ此寺伯ヲ好メリ同伯ハ嚴格ナル軍人ニシテ亦手腕ノ人ナリ總督トシテ實ニ公平無私ナリシナリ伊公ハ人間ノ性情ヲ解スルニ於テ到底寺伯ニ及ハサルノ憾アリシナリ

朝鮮人ノ開苑ハ日本國自体ノ休戚ヨリ之ヲ觀ルモ實ニ須要事ナリトス

寺伯ハ親切公平ナレトモ而カモ事業遂行ノ一段ニ臨ミテハ實ニ鉄石ノ心腸ヲ有ス伯ハ畏怖サレタリ併シナカラ其峻嚴ナル外皮(外觀)ノ下ニハ溫情アルヒト朝鮮人扶掖ノ大願トヲ包メリ伯ハ方法手段ノ選擇ニ賢ニシテ又能ク朝鮮人ノ病根ヲ知リテ之カ治療ニ任セリ即チ產業ヲ獎勵セリ由來朝鮮人ハ勞働ヲ蔑視スルノ弊アルカ伯ハ之ヲ匡正

セト勉メタリ有テ朝鮮施政ノ背後ニハ寺伯アリ此寺伯ハ  
其表白スル所ニ中心ナリヤ其言ハ信スヘキヤ總ニテノ問題ハ  
畢竟此一箇ニ懸シリ然リ而シテ寺伯ハ誠意ノ人ナリ  
予ハ一ノ邪推ヲ懷キテ日本ニ來遊セリ即チ日本ハ米國ニ  
對シテ或ハ戰爭スルニ至ランモ計ルヘカラストノ疑念是ナリ  
オナード、ワード、將軍（米國軍界ノ要一人ナリ）其他世界事  
情ニ明ルキ米人中ニモ此疑念アリ予ハ日本ニ來遊シテ初メ  
テ寺伯ノ人物力量ノ實ニ凡ナラサルヲ知レリ日本ノ內閣ハ予  
ノ歐洲巡歴中親シク接シタル独逸兩國ノ內閣員等以上  
ノ人物ヲ以テ組織セラレ世界向テ一邦ノ爲政者等ニモ讓ル  
所ナレト信ス（本項ハ質問者「マレ氏」ノ説ナリ）

（問答中尚寺伯ノ意思強固ナル事獻身歿我的ナル  
事等ニ就キ稱讚ヲ極ム此種ノ讚評ハ以下之ヲ省略ス）

「マツゲニゲー」ハルバートノ徒ノ日本人政變ハ當時其根據  
ナカリシト云フヘカラサルモ寺内伯一度朝鮮總督トナリテ以來  
鮮人虐待ノ如キ其跡ヲ絶チタルノミナラス朝鮮ニ於ケル各  
般ノ制度其面目ヲ一新シ治績大ニ著シ鮮人ノ扶掖開  
發ニ餘カヲ剩サイルノ狀況ナリ

予ノ感想ニ依レハ日本ノ政治家ハ實ニ高遠ナル見地ニ  
立チ特ニ世界輿論ノ支持ヲ得ヘキ様用意周到ノ行動ス  
議會ト新聞紙トハ共ニ政府者ヨリ大ニ劣レルノ觀アリ若シ  
議會ニシテ遂ニ政治ノ實權ヲ把握スルニ至ラハ果シテ如何ナ  
ル事態ヲ現出スヘキ乎（本項ハ質問者「氏ノ感想及質  
問ナリ」）

非常ノ變化來シテ政治ハ下落スヘシ抑モ今日迄ノ日本  
為政家等ハ普通人以上ノ人物ナリ日本今日ノ為政家等如



キ人物ノ輩出ハ之ヲ米國史上ニ見ルニ「ブレンティン」「リッカー」ニ大統領  
時代ニ<sup>遡</sup>サレハ其匹儔ヲ求ムルコト難シ若シ夫レ方今之ヲ  
求ムルハ南阿ニ於テ始メテ其類ヲ見ルヘシ（本項ハ「ゲ」氏及「マ  
氏」ノ回答ヲ綜合セルモノナリ）

外國宣教師中京城方面ニ在リテ多ク首腦部ノ日本  
官憲ニ接スル者ハ日本ノ施政ヲ贊シ内地ニ散在シテ多ク下級  
官吏（日本ノ下級官吏ハ時ニ隨分下劣ナル態度ヲ取ルナリ）ニ  
接スル者ハ之ニ反對スル氣味アリサレド全体ヨリシテ之ヲ云ハハ宣  
教師ハ概シテ日本ノ施政ニ贊成スト云フヲ得ヘシ

宗教教育ヲ學校課程ヨリ除外スル件ニ關シテハ在韓  
外國宣教師等ハ何レモ感服セス然カレ日本人側ヲシテ言ハ  
シムルハ假リ學校ニテ宗教教育ヲ施スヘキモノナリトノ主義ヲ  
是認セハ寧ロ佛教ヲ擇フヘシト主張スルナラン日本人トシテハ

一理ナキアラス何レニシロ基督敎宣敎ニ取リテハ實ニ由々敷  
大問題ナリ兎モ爾吾人ハ一九二五年マデ現状ノ儘ニテ推  
移ナル事ニ決定セリ

新任長谷川總督ハ多ク外部ノ人ニ接セス山縣總監  
政務ノ實權ヲ握リ寺内伯ノ方針ニ則リ施政ニ任シ居シ  
ルカ如シ日本官憲ニシテ非常ナル失政ヲナサバ限リ將來ト  
雖朝鮮ハ安穩ナルヘシ。

目賀田委員長ト舊大統領ル氏トノ會見談

目賀田委員長ハ豫メ寺内首相ヨリノ紹介狀ヲ封入シタル書翰ヲ以テ目今  
メトルポリタン雜誌ニ執筆セルル氏ニ面會期日ノ指定ヲ求メタル二十二  
月十二日午後五時半同氏令妹ドクラス、ロビンソン邸ノ茶訃會ニ於テ面  
談セン事ヲ通知シ來リタルヲ以テ定刻ニ於テ委員長ハ伊藤男爵委員、菱  
田委員及松方乙彦氏ヲ伴ヘテ令妹邸ヲ訪問セリル氏ハ同窓生タル日本特  
派財政委員長ト會見スルハ愉快ニ堪ヘスト述ヘ埃摺交換後  
ル氏曰ク

貴國ノ善良ナル朝鮮施政ニ於テ外國聖敎師ハ今尙依然トシテ苦情ヲ唱  
ヘ居ルヤ

委員長答ヘテ曰ク

彼等ハ元來堂々タル紳士タルヲ以テ朝鮮ノ施政ニ對シテハ日本ノ誠意  
ニ關シ良ク其ノ須知ヲ計レハ彼等ノ誤解ハ容易ニ氷解スルナラン

ル氏

須知ノ事ニ關シテハ朝鮮總督府ハ毎年英文ノ施政年報ヲ發行シ居リ余ハ多大ノ興味ヲ以テ愛讀シ又最近朝鮮古跡晉圖ヲ前寺內總督ヨリ寄贈ニ預リタリ朝鮮ニ於テ外國聖教師ニ關シ失禮ナカラ臆面ナク云ヘハ最初日英同盟條約ハ事實獨立不能ノ朝鮮ニ對シテ獨立保障ヲ明記シタルコトカ同國ニ於ケル外國聖教師ノ苦情ヲ惹起セル本源ナリト思考ス蓋シ余ノ執政中米國聖教師ハ日本カ朝鮮ニ於テ日英同盟條約ノ朝鮮獨立ノ保障ニ悖リ教育其ノ他ノ施政ニ干涉的行動多シト往々訴ヘ來レリ然レトモ寺內前總督ノ朝鮮施政ニ於テ行政、財政、治安、産業、衛生、教育殊ニ殖林經營ニ關シテハ稱讚スヘキモノ多々アルヲ知ル

委員長

予自ラモ伊藤統監就任前後三年間最モ渾沌ヲ極メタル財政及幣制整理ノ衝ニ當リ殊ニ白銅整理ノ困難ナリシコト想像ニ餘アリ（此點ハ委員長具體的ニ説明セリ）

ル氏

支那ト朝鮮トハ國情ヲ異ニスルヲ以テ全然朝鮮ト同一ノ施政改善ノ方法ヲ採リ難キモ日本ハ既ニ朝鮮ニ於テ好成績ヲ擧ケタルハ支那ノ獨立及其ノ領土保全ヲ害セサル範圍内ニ於テ支那ニ於ケル施政改善ヲ援助シテハ如何殊ニ支那ノ山野ハ荒廢ヲ極メ洪水干魃天然ノ支配ニ委スルノ情況タルヲ以テ日本ハ支那ノ改善ヲ計ルニ經驗アル殖林方法ヲ紹介シテハ如何或ハ又他ニ先ツ以テ施設スヘキ事項アリヤ御意見如何  
委員長

支那ノ施政改善ヲ要スルノ急ナルハ御高見ノ通り何人モ異論ナシト信ス然レトモ其ノ最初ニ着手スヘキ問題ハ幣制改革ナリト思考ス何トナレハ幣制ノ基礎確立スルニ非サレハ他ノ施政ハ容易ニ改善シ難ケレハナリ

ル氏

支那患者ハ日本醫ノ力ニ俟ツニアラサレハ到底治療シ難シト思フ殊ニ支那今日ノ渾沌タル情態ヨリ見レハ恰モ北米カ南米諸國ノ指導者タル

ヤク日本カ東洋ノ指導者タル

ヲ要ス日本ハ殊ニ東洋ノ治ヲ持スル爲ニ東洋ニ於テハ支那人ノ獨立ヲ阻害セサル限リ東洋ニ於テハ一種ノ警察(Policing)力ヲ行フヲ要ス

委員長

其ノ施行法ニ就テ御高見ヲ承リ度シ  
ル氏

三委員ヲ設置シ一名ハ日本人ヨリ一名ハ支那人ヨリ他ノ一名ハ歐米人ヨリ之ヲ任命シ日本委員ハ施政事項ヲ立案施行スル前ニ支那人及歐米人委員ノ承認ヲ得ル手續トスレハ圓滿ニシテ且ツ効力アル施政改善ノ實踐ヲ舉グル事ヲ得ヘシト信ス

十月六日

時事新報

閣僚ノ顔能事ニ就テ、寺内伯ノ胸裏ニ盡

カシ居ルナラシモ、未タ何人ニモ内閣ノ交渉開始セラレサ

ル疑ナク、伯ノ免ツ貴衆兩院ノ有力者ヲ網羅セル

所謂聖國一致内閣ノ實現ニ努力シ居ル此計畫ノ

成ラサルニ於テ、初メ不偏不黨ヲ標榜セル所謂超然

内閣ヲ組織スルノ段、取ルカ成ッ最早聖國一致

内閣ノ實現不可能ナリトシテ、直ニ超然内閣ノ組織

着手スルカニ未定ナリ

犬養毅尙評

寺内伯ノ出現ナル以上、陸長カ握

手シテ官僚政治ノ復活ト志すト是ト共ニ軍閥ハ  
蓋々根據ヲ固カルコトト志シ確テ憲政ノ逆轉ナリ然  
レニ伯力毀譽獲貶シ度外ニ若政ヲ施シ分ニテ之  
政治ヲ刷新スルナリ由閣ノ人氣取りニ飽キタル人心ハ  
却テ又リ歡迎スヘキナリ

東京朝日

尾崎首相ノ談 幸内伯ハ憲國一致由閣ヲ標榜ス  
ル由ナレバ抑由閣成立ハ結果ニシテ主義ノ確立ハ其  
提テラサルヘカラリ憲國一致由閣ノ實現ヲ見ルニシテ  
國一致ノ主義政見ヲ安ス(キ)ニ我政界ノ現状ニ對内



對外政策其見解異之甚矣、對獨宣戰、目  
的ヲ如何ニ証スモノゾ、斯ルニテ、吾國一致、內閣ヲ唱フル  
ハ畢竟世人ヲ胡魔化サントスルニ過キズ

米紙寺內內閣評

寺內伯大命拜受ノ報、導米國

ニ導ルヤ、夕刊新聞ニ之ヲ以テ、日本ノ軍國主義的傾向  
ヲ説クモノトシ、自然對支對米共ニ頑強ニ政策ヲ  
取ルニ至ルヘシト爲サル（紐育時報）

東京日日

寺內內閣ハ大ニ故障ナリ、限リ六日中ニ顔

面ヲ決定スヘシ關係ノ銓衡ニ就テ、家士郎黨ニ偏  
スト、幾ヤ辭シシカ爲ニ成ルリ、廣ク人材ヲ網羅スル

方針ナレモ意ハ行ハサルナクハト生死ヲ共ニセン底ノ  
人物ノ一選定スヘシ

同志會最モ幹部ノ申合 幸由伯ニ内閣組織ノ

大命下レルモ新内閣ハ未タ成立セズ従テ同志會トシテ

ハ今日何等態度ヲ決定スヘキノ時アラサルヲ以テ冷

靜ナル態度ヲ執リ難容ノ動セズ姑ク形勢ノ推移

ヲ傍觀スルニ止ル

外人ノ尋由内閣親 日本ハ最早官僚内閣ノ出現

ヲ許ササル程度ニ是達セルヲ想像シ居るニ幸由内閣

ハ成立スルハ憲政ノ逆轉ニシテ日本ノ外交交渉ハ伯ノ

出馬の依りて益々困難トナラン

國民新聞

我國民新聞、独自一己ノ本領ヲ有ル何人カ

政府ニ至リテ何者カ政權ヲ握ルモ此本領ニ向テ、何事

ノ拘束ヲ加フル能ハス是レ吾人カ立身スルノ明言ニ在リ

モナシ但シ餘リニ世論ノ乱脈ナルカ爲ニ吾人ノ本領ヲ言明

ニ其惑心ヲ解ク

世界新聞

世間或ハ元來カ掣内仰リ奉仕薄シタルヲ以テ

憲政ノ常軌ヲ逸シタルモノトナシテアラント雖モ今日ニ於

テ如否アリ必ズシテ後對多數黨ノ首領ニアラス者ハ上乗人

中亦チカ後對多數黨ノ首領タルモノトナラズ

練達地純ノ士ニシテ世ノ重望ヲ負ハルトせん過キサレハ元老  
カ他ノ適者ナリトモ練達地純ノ士ヲ著ルルニ於テ何カ  
アラシヤ

讀書新聞

今度ノ政變ノ際ニシテ其大政黨ノ意思  
カ漸ク重シクシテ大命ニ之ノ干係ナキハ降リ真ノ  
立憲政治ノ上ヲ見テ正ニ變調ナリトウヘシカ憲政  
ノ常道ニ及ラント吾輩モ亦認識スル所ナリ然レハ一般  
冷然之ヲ迎ヘ与黨ノ内部ニ於テ其真ニ政治良心ニ所  
憤激スルノサレハ蓋シ政黨共ニカ國民的權力ヲ失  
ヒ去ルニ由ンチ

東島毎夕

同先會に於て、今や軟諦一党の風靡に演説

會の企畫サへ今の地止トナラン形勢ナリ大松園の集會  
也一依の世上大ニ硬諦ヲ主張シ結束シテ孝由伯反  
對ノ態度ニ出ソリ快談セシカレリ傳ハルルニ事實ハ  
全然之と反シ全ク軟諦ト一致シタルナリト云フ

也来と

實業家ノ後継内閣に對せん希望あるニ有力

尤内閣ノ出現ニシテ其官僚多政黨多ナル意ハ介

也尤モノハ如何ニテ孝由内閣に對シテモ其成立ヲ見サレ

今則チキチ先批評ハ何レモ之ヲ過ケツツナリ

洪澤男

孝由内閣ノ樹立ヲ見テ財界ノ前途ヲ

云わん者いどねい伯力武人えし所以しるる一様一杞  
愛し過中せんへし

東京毎日

首相ノ辞表捧出ト同時ニ強ト時ノ國ヲこし大

命ヲ拜受ナリ斯レ其ノ前例ニ因リ新ナ急連ノ變化ニ

シ此間ニ周旋る元老ノ態度ニ就テ疑リ扶マザラント

るニ能ハス元老ハ何故ニ各其責ヲ盡シテ命ヲ

一人ノ國ニシテ相先孝由伯リ其責ニシテや立憲ノ大

道ヲ奉リ國民大多數ノ意思ヲ無視シテト批

評ヲ免ヘカラス

中央

若シ大隈侯ヨリ孝由伯ニ対スル臣民力無カリヤ

此召集之本ツケル伯奏請に因る元老へ交渉無かりや  
ハ超然内閣成立の責任を或い之に元老に帰るべし得ん  
元已に此召集より交渉の望み其責任を盡く大隈侯  
ノ負擔に歸せしむへカラス

萬朝報 幸由内閣、悪影響 (一)伯は首を執るに内閣、経済

政策、影響を施し伯は極端にヨリテ既成ナリ之に幸由内  
閣カ其民之を影響し及ぶ中 (二)伯は今後如何ニ盡  
力ヲ揮ヒテ其民ノ自由ヲ束縛セントスル其心像を、難カ  
うん之に其中心 (三)伯は親然主ノ新ノ道ヲ示し議案ノ解  
散ハ断々ヘカラス政界の大惑乱ヲ生ゼン之に其中心 (四)伯は内閣

成之ハ日來ニ於テ武新主我ノ勝ヲリト解セリ國際上  
通商上大ニ損害ヲ被ルニ至ラシ是ハ其由ナリ

報知

首相ノ辭表稱皇ニ何分ノ費セカ知ラサレト元元  
御臣ノ自損多ク財帛ヲ金セテ俸ニ至リナリト何人

モ勢カカテ得ルニ陸下ハ何ナル時多ク皆我ノ伏奏

ヲ既味シ元元ハ其内ノ事ヲ整新セシムルニ是レ我

人カ帝侍輔弼ノ責ニ大由大由ニ因リテ故ニ此ナリ

中外商業

秋元豐長氏談

幸由内閣ヨリノ憲政上當然

ハ帰結トイヘズ吾國一政内閣ト近頃一程ノ流行ニ如

キニ日本ノ學國志モ直接戦争ヲ多クシテ其大極急



追ノ因状ニ就キハ外ニ真似シテ客要一致ヲ叫ブ必要  
ナラズ

都

吾等ノ相手ハ孝内ニ在リ山縣ヲ折テ西園寺  
ヲ即チ所歸ニ充テ其元老カ今日ノ大風雨ヲ喚起シ  
タシ吾等元老ヲ相手トシテ我ハ其ヘカウリ

大阪毎日

二年半ノ外ノ米價ヲ預ル事ハ大隈侯何

厚款ト金自ラ耻ケルハ何モシテ況ヤ元老ハ日本政  
界ノ特異物ニシテ此ノ毒ヲ預キテ之ヲ御好シニ  
ハ候モハ何モシテ此ノ毒ヲ預キテ之ヲ御好シニ  
況ヤ元老ハ日本政

大阪 氣 日

具 体 論 ト 人 ノ 民 一 多 数 ト 共 ニ 事 内 内

同 一 出 現 ヲ 意 義 ニ シ ト 有 電 ト 認 ん ト 言 フ 迄 止

殊 一 伯 主 國 一 政 内 閣 ハ 同 志 會 等 ト 限 派 一 能 如

何 ニ シ ヲ 出 現 不 可 能 ト 在 ハ 然 ム ト 亦 伯 主 會 成 立

前 一 種 云 内 閣 改 在 會 及 中 等 一 如 教 養 ト 操 長 一

政 向 ヲ 經 野 也 然 ハ 同 志 會 是 シ 憲 政 逆 轉 其 止 ヲ 示 示

十月七日

時事

寺内伯ノ所謂盟國一致ノ實ヲ期スル趣旨ニ  
依テ行ハルキ衆議院各派ニ對シテ交渉ハ今七  
日ヨリ開始セラルル其交渉ノ結果ヲ俟テ竟  
中ノ關係候補ニ對シ直ニ正式ノ交渉ヲ遂ケ其  
結果如何大命ニ奉答スル順序ヲ取ルルヲ親  
任式奉行ハ遂クモ九日ヲ越セルコトナカルヘシ  
同老會代議士中ノ有志ハ六日本部ニ於テ反對運  
動實行方法ニ關シ協議ヲ爲シ安達若槻西尾  
諸公出席ヲ求メ各自快意ヲ示シテ幹部ニ迫

リタルニ兩院制ハ党トシテ排閩運動ヲ開始スルハ  
考慮ヲ要スルニ諸君有志トシテ為スニ此等諸君  
ノ自由ニ任スノ外セントシテ急ニ俄ニ免ユル有知ハ十  
日先覺式あり於テ演説其他ノ方法ヲ以テ排閩運  
動ニ着手スルニ

上海民権日報

加藤子ハ餘リニ日英同盟ニ重

キヲ置クヲ以テ彼レ由南ニ組織セハ露國ニ對シ不  
都合アリ幸由伯ハ日露同盟ニ力アリシ人ナリ日  
露同盟ハ支那ノ滿蒙問題ヲ解決スル可  
以ニアラスヤ

東京朝日

寺内伯ト加藤子ト比較ニ於テ或ハ

寺内伯ノ方カ総理大臣ニ適ルヲ云フ又過去

二年相事ニ於ケル大隈由閣ノ米政ノ影響ノレハ或

ハ甚シキモアラサレド今日問題ハ是等ノ可成

非ラシク一國ノ政治カ國民ノ希望ニヨリ行ハルヤ

否ヤノ問題ナリ國民ノ參政權カ実行セラルヤ否

ヤノ問題ナリ即チ憲法ノ精神カ活用セラルヤ否ヤ

ノ純然タル憲法問題ニ外ナラズ

米紙ノ寺内伯觀 華盛頓紀實ノ一部論者ハ

寺内伯ヲ以テ空威張横乃至領土擴張派ナリト

シ自然其外交政策殊ニ對支政策ハ一層頑  
強ナルニ至ルヘントシ 地方ノ端緒ハ伯力軍人出身  
ナリトテ必スシモ頑迷ナル政策ヲ行フヘントモ限ラズ  
伯力却々用心深キ政治家ナリト一評モアレル無暗  
ニ日本ノ外交政策ヲ一變スカユトヤカルヘシ  
（音特海員表）  
（紐

國民 合同經濟者ハ永ク大隈由國ヲ支持シテ独  
リ其利權ヲ專ラセント欲シ其歴史ノ相違ニ主シ義  
方針ノ異同ヲモ問ハスシテ強テ三條合同ヲ行フント  
シタルモノ如クナレバ今ヤ大隈由國從辭職カ後子

ハ後述由圖組織者ヲラズ新由圖ニ幸由由ニ依リ  
テ組織セラレトナリテハ折角ノ経費モ今ハ無意  
味ニ歸セザルハカラス而シテ假令一旦百九十名由外  
糾合シ得んモ困トシテ利権獲得ヲ目的トスル鳥  
合ナリ利権ヲ得ラズモ然レザルトモ白ナル及ツ其  
道ニ土崩瓦解スルト安忍ント遊クハカラス

表規紙筋讀

大臣ノ顔面政綱政策等ヲ觀

見上ナラハ賛否決定シ難シ第一由圖組織ノ

矛盾ニ付行動スルニシテモ曉トシテハおちシ手續ヲ

儼リセザルベカラス若シ予個人ノ意見トシテハ大畏候

一、新信ト同ニシテ立憲政治ヲ多クハ國民多數ノ之  
見テ尊重スルモ其代表者ハ衆議院ニ於テ  
多數黨ニ於テ由閣組織ヲ為ス可カ当然ナリ

東 京 日 日

紐 育 タイムズ

米 國 人 ハ 幸 而 日 國 人 出 現

ニ依リ米國ニ於テハ支那ノ面商其他ノ利益カ危  
クセラルヘキ事ヲ信スト其ニ日支關係ノ未決定ナル  
ハ猶カニ日米間ニ不安定ノ時機存続シ此懸念  
ト此不安定トノ存スル時機ニ於テ日本力此荆棘  
多ク問題ヲ引提ケテ華盛頓政府ニ臨ムヘシト  
ハ想像シ得ラズ日本ハ必スヤ其期ヲ延ビ



乃今幸由内閣方針而之出アサレシ

山縣公及幸由伯一煩々綿密細心ナル用意ヲ拂ヒ  
乃メテ世間非難ノ的ト志ヲテ遊ヒント苦心シ居レハ  
豫定ノ如クモ迅速ニ由閣組織ヲ進行セシムルヲ得サ  
レハ新黨徒黨式ハ如日モ却迫シツツアル<sup>矢</sup>トレハ一歩  
中ニ執任式奏請ノ運ニ至ルヘシ

世界

今ノ時代ト人物トヲ知ラズ學ニ政黨トサヘ云ヘバ

其實修力穢多組ニモセヨ官僚ノ走狗ニモセヨ大ニテ  
對事足ルカ如クテハ連レ憲政ノ分前ニ與リ得ルモノト  
シテ臆面モナク憲政擁護論ヲ振リ回スニ云ナリテハ笑止

ト謂フシヨウ實ニ噴飯ノ至ニ勝ヘズ新政黨カ組織  
 セサル今日ニ於テ而モ加藤子カ後討勿數黨ノ首領々  
 ラサル今日如何ニ政黨ヲ基礎トス新内閣ヲ組織  
 セントスモ其基礎乏ヘキ政黨ナケレハ已ムヲ得スニテ起  
 然内閣ヲ形作ラサルヘカラス

小川平吉氏談 國家ヲ亂レテ實ニ政ヲアリアス  
 國家ノ利益ヲ度外ニセテ政黨ヲ作リ馬鹿カヲ得ルモノハ  
 政黨ナリト誣ヒラルモ其解ノ碎ナルニ政黨ハ大  
 隈侯ノ失政内閣カ倒潰セルニ對シテハ馬鹿ノお受當  
 ルトナレド後継内閣ニ對シテハ此際親望の態度

リ格ノ政策、如何ニテ是レニ飽迄ニ為ル中、主的

立場ニ立テ、長らく政治ヲ孝由國ニ望ミ外ナシ

萬能報 孝由國ニ即テ後、夏男等急進派ノ説ヲ聽キ、内

閣組織ノ易々タルハ、ナリ也。平田子、天山縣公ノ急進

ヲ聽クニ至テ、漸ク男ノ獻策甚ク和緩ナルヲ感知シ、五

日以來、由閣組織ニ固ニス。其ハ男ヨリ子ニ移レル形跡

アリ而シテ、男カ政友會臭味ニ傾カントスニ對シテ、子ハ寧リ以

同志會トノ提携ヲ利トスルカ如シ

孝由國ノ出現、外人ヲシテ、我國民ノ自信、能力ナキヲ

不曉ス。夫レニ對シテ、男、衆議院ノ多數黨カトシテ、有

名無實ノ議會之於貴族院ノ改選ハ到底之ヲ  
望ムヘカラス貴族院ノ改選ハ必要ノ自覺セシムル國  
民ノ決意ヲ示スル要ス國民ノ果シテ貴族院ヲ改選ス  
ル決心アリヤ

貴族院組織ノ同じクハ山縣公ノ指揮ヲ受ケツツリ  
即チ貴族院ハ山縣公ノ代表役ニ過サス元來由閣ト  
稱スルモ不可ヤ既ニ元來由閣ナリ閣員ハ必ずモ後援  
者ヲ中心トシテ老リ大臣ノ古物リハナク新ニ民利ヲ  
犧牲トス骨董並由閣タラズヘカラス

中央

我輩向ハ日露協約ノ附帶條約トシテ東情

鉄道一部譲渡ノ事、松花江航路ノ事、等々ノ約束ヲ  
ト移スルモ、今之ヲ發表セザルニテ、露人ノ之カ爲メ  
痛シ感情ヲ害シ所ナト云フ又支那ニ對シテ嚴重ニ  
微頭微尾矛盾撞着ノミナシ今日孰ト世間公知ノ事  
實ニ此等跡始末ニ因テハ後述由國組織者ニ於テ  
畏テ深シ遺憾ヲ蒙ル所ナリ

東京毎日 幸内閣ノ云フ迄ニ至リ官僚網族ノ非立  
憲的朋友ナリ、今日ニ憲政ノ常道ヲ確立シ政府ノ  
安定ヲ維持シテ以テ経緯リ世界ニ施シカメテ吾國ニ  
憲政固執シテ新政府ハ奮テ之カ興主ニシテ國

民党之末は即ち拘泥を去り新党を起し投入して政友会中  
布<sup>識</sup>者より宜しき事と共ならしむ即ち三党合同の趣旨より  
明白に披瀝して元来排斥、國族亦破、政黨由國制確立  
一を一致挽回の爲に出して然りやい、幸由合同の如きい戦いはし  
て貴へし、

東京毎夕 寺内伯の今所白中、敵子ヲ訪問する、此等自見こ  
松子伯の、新内閣方針より確然と善く新政幹部の、  
臣等して懐疑する、其結果い、好意中、元ト、幸由に  
國に屈服する、ト、師統る、ト、ト、推新、甘ん

幸知 官中、仕組、元光、陰謀、由、國、組織、大

命ヲ幸由ルニ陛下セシムル成功ナリ 陛下ハ大教者ニ与  
リ誠ニ成功スヘキモ天下ノ廣大ニ於テ断シテ不可能ナリ見  
ユ同是ノ旨ハ如何ニ巧言令色ニ示スルモ明悟スヘキハ一國  
民愛慕同然ナリ今日ニ於テ我々諸君ニ接近スルニ位  
置ニ居ルハ一政府ナルニ止ルモ之トシテ國民ノ感情ニ  
逆行シテ政界ノ隔太人々彼等ト握手スル意ヲ深キ先  
ハシ張高右儀由國ハ吾等ハ臣友對由國ニ留ルナルニ  
首相辭表拂呈當時ノ状況ニ付テ考フルニ 辭表其物カ  
果シテ陛下ノ御目ニ留マリシヤ否ヤ抑タ之ニ對シテ正式ニ  
御下問アリシヤ否ヤサハ疑ハシキ事ニ元來ハ遠ニ見奉由

伯ノ推立を以て元花カ有ル、推立爲セシ加藤子ノ問題  
 にも、此ニ然ニ爲民ト何ゾノ交際ナヤ孝伯伯ノ推  
 立せんい亦之民意ヲ酌マセ給フ體意ニ成リ君民一  
 致ノ善風ヲ破壊スモト云ひせんハナラズ

今後ノ時向カ孝伯内閣ノ成立ニヨリ混亂ノ政界ニ  
 暗雲但集シテ政治ノ中心ハ數度カ動搖シ能ク至  
 尊ヲシテ社稷ヲ憂ヒシハナカヤナアラハ其責任ハ尙  
 然四元花ノ負荷スル所ニシテ國民ノ牢記志心ハナラ  
 サルヲトス所ス

也米と  
 孝伯伯ノ善風一致田園ヲ組織セシト云ハ抱負



ヲ實現スリ各派之交渉ヲ開始ス（中）同志國民、兩  
派、後、互、對、應、後、リ、既、ニ、（中）此、時、點、ニ、於、テ、統、一、新  
内閣、薩、長、政、一、三、角、回、望、ニ、依、リ、態、度、固、定、ス、（中）隨、テ、  
伯、及、周、國、ノ、幕、僚、ハ、今、ヤ、對、薩、政、國、際、ニ、ソ、キ、對、全  
一、策、ヲ、講、シ、ソ、ツ、キ、リ、

都

大石正己談

幸、由、々、國、ノ、出、現、ハ、我、憲、政、ノ、逆、轉、ニ

シ、テ、和、衆、ノ、前途、轉、々、塞、心、ニ、堪、ス、彼、等、ハ、以、テ、幕、臣、  
政、一、内、閣、ヲ、組織、ス、ト、云、フ、モ、民、意、ヲ、代、表、ス、ル、ヲ、衆、議、院、  
ニ、基、礎、ナ、リ、即、モ、民、ト、漫、交、渉、ニ、シ、テ、果、シ、テ、其、實、ヲ、遂、  
ゲ、得、ル、コ、ト、為、ル、カ、其、大、膽、無、謀、ト、知、ラ、レ、サ、ル、得、ス、

讀 賣

大隈侯及岸虎ト之カ反計者トノ主張共ニ罷リ

ト云ヒ強テ主張シ戦ヒトシテ之カ勝ニ敗者ヲモ厭ハサシ

ト云ヒ果テ大隈ノ下ラサル前ニ松ノスレシ物モ米ノ度大牟

降下セシカ双方ノ御役中出セシカハカノ此兵ハ我國

体ニ照シ臣子ノ分ニ鑑ミ一兵ノ輕リ重シモ知リ

大阪毎日

大隈由國ハ親政有出シタリ之カ交通ヲ期ス

ハ事ハ当然ナカシカ然レモ其ハ家ノ力憲政ニ進ミ

経路ト人物トヲ得ルハカウサシト拘ラヌ幸由ニ聞ハ出

現ト見ルニカシニハ實ニ憲政ノ急進轉ト云フサルハカウス

大阪毎日

昨ハ暗中ニヒ有テ振テ大隈由國ヲ刺シ

今其下々免者我候補者ヲ振キテ下中人ノ片  
割免者内泊リ助リヘシト都公天下豊城ノ如キ厚  
顔魚耻ノ事カシヤ山侯ノ眼中以党ナク党人ナク  
将又民衆ノ如ク如キ黨モ考慮ノ中ニアラカク知  
ルヘシ如クシテ伯ノ下ニ但候サルヘキ内閣ノ起然内閣  
多又其討議會ノ第一山縣公直傳ノ操紙ヲ試ムヘ  
キノ強ント豫定ノ勅書トモイフヘキが知政者ニ此際  
クハキ憲政逆轉ニ討シ果シテ如クハ尤免候者ニヤ

十月八日

時事

華南圖政策ハ六日夜マテニ略決定を模  
様ナシ各政黨ニ對スル交渉ニ本日中ニ行ハルヲ而シテ  
各派ノ領袖ヲ羅致シテ聯立由圖ヲ組織スルハ今  
ヤ實際ニ望ムヘカナルニ望リタリキ 華内伯自ヲ加緊、集  
犬養ヲ三首領ヲ訪問シテ由圖政策綱抱負ヲ提示  
シ國家ノ為ニ援助ヲ与ヘシトヲ希望スル位ノ程度ニ止  
ムハ去レハ八日中ニ由圖組織ニ關スル一切準備ヲ  
完了シ九日ニ親任式ヲ見ルノ儀ニ至ルヘシ

上海ノースチャイナ・テリリー・エクスプレス

大隈府力加緊

子ヲ推薦セルニ關セテ元老力奉内伯ヲ推薦シ内カ  
大命ヲ拜シタル事。日本ニ於ケル憲政ハ一時的ニ  
其眞個ノ性質ヲ停止セシメタルモノト云ハルニ  
カラス

中正公ハ七日事務所ニ於テ代議士等ノ間ニ尾  
崎大竹、甲川其他十數名出テ一層其ノ名義  
ヲ以テテ決議ヲ發表スルコトニ決セリ

吾人、國民ノ無視シ立憲ノ大義ヲ蹂躪シテ  
元老今回ノ行動ヲ不承認シ全力ヲ傾注シテ之ヲ  
掃蕩セシメテ如ク

政友會院外國總組第七日展張所抄本稿、於  
閣下之希尾、加蓋印、譯、八本其他十餘本出  
席、中令也、

不臣暴虐、大隈由國、倒壞、暴國、廢、  
吾人、今後、時局、之、變、二、國家、憲政、之、前途  
= 鑑、之、平靜、持重、之、改革、運動、之、戒、大、公、亮  
而、自、其、輝、也、

東京朝日 米國之航、自由、國、出現、及、御、者、ト、  
朝鮮、休、會、者、免、幸、也、  
義、的、活、躍、之、兆、象、ト、  
友、邦、之、在、之、  
如、我、國、之、對、友

策上帝國主義ヲ行フヲ爲スルニテ孰シモ危懼  
不安ヲ念リ増シツツリト雖モ抑モ幸由由國今日ノ  
出現ニ學ニ元老ノ手製ニ成リテ國民ノ之ニ反對ス元  
老テフ常務頭首ニ扶權セウレテ出現ニ新由國ノ變  
則ニシテ一時的ニ現象ヲ以テ我ニ滿ノ趨帰ナリ如  
ク急斯速ニ信スモ老人ニ未支兩國民ノ爲ニ其ノ短見  
ヲ悲マズンハアラズ

紐育サン紙評

幸由由ニ總統陸軍ト行動ヲ

保ニ且氣解ニ於テ恬淡ニ政務ヲ行ヒンヤ以テ支  
那ニ對シテモ大ニ侵略的態勢ニ出ツヘント豫想

スル者ハ其真率支那分割ノ爲メカレナトナルハ  
カネシノ統治及其若干ノ演説談話等ニ於テ國際  
問題ニ関シテ帝ノ最慎重ナル用心ヲ後々サリシヨ  
ウタリシメ米國ニ對シテ其コソ大隈侯ノ政策ト見  
カレナ事ナカルヘシ

東京日日

隱謀國ハ政戰ノ夜討朝馳ニ懸ケテ豪  
ノ者ナリ加之幸由ヲ推スル松ノ山嶽上致シ松方ト相通シ  
吾ハ其元兇ニ據テ宣達ニ一縷ノ通路ヲ有シ且其  
典例ニ通リ而モ政界多年ノ惡戦ハ彼等ヨリテ政界  
人情偽ヲ知悉セヌ何時ニテモ風雲ヲ捲キ起ス



力量アリ加算ノ限ニ至ラズ然ラズ与党三派ノ数量は後  
 ラニ大ニ加算ノ爲ニ一身ヲ与シトスル指ハる根拠は  
 ノニ人ナラン二人は政ニ関シお前ノ理解ヲ有シ財政家  
 トシテ優ニ當代ヲ擢ルハ誠量ト手腕ト有  
 ンハキ政權爭奪ノ戦場ニ出テい金クノ才坊チヤン  
 ナリ此方細ノ軟トスヘ唯一ノ要望見ニシ

国民

ナ内治ノ内閣組織計畫ハ一面リ纏リ付キタルモ  
 交渉ヲ受ケル關係中未タ決着リ腐ラサセ  
 者アリ加算ニ政黨交渉ヲ眼ホニ控ヘタル際其顔  
 面分割等一切ハ胸中ニ秘メラレツツ見ルガ

流リニ局外ノ者像ヲ許サレモ其顔触豫定以外  
ニ大ニ番狂イセタク交場極メ田舎ニ進ミソソアリ  
ト信セラルルヲ以テ所費者欲トノ會見終ラリ候ガ  
九日午ノミ親任式ヲ行フセムヘシ

石里男爵談

大隈侯カ辞表ハ辞表トシテ

奉呈シ意中ノ人ヲ推薦スハ口上ヨル由奏スルカ又ハ  
別表ニテ奏上スルカ云々ナリ格別自京辭表ノ天中  
ニテハ揚ケ殆ト要奏スルカ如キ態度ニ出スヘシ何タル  
不敬ノ甚シキヤ加之此ノ如キ上奏スル文ヲ奉呈スルト何時  
ニテハ新嘉坡上ニ揚グルト云々何ニ尊敬ノ冒犯スル

甚く聰明に 陛下の幸之より承給はれ之より聞  
 之旨給ふる時、此の叡慮あらせ給ふる力  
 研察に奉ルト涙滂沱たらせり得せり云々

世界

三年か隈侯より岡田、殿ノ大布より稱しえ時

之り歓迎して此主室の行動よりトセス衆議院に於て  
 後討多数党の政を成し、隈侯より助セント云  
 今、百名の商賣者、教ナリト拘う元花ノ推挙より後  
 トおし三ヶ月、今日急に憲法を思ふに及れ、同  
 し元花の同意味に於て、推挙せん者、内約し目し、民ノ  
 意思より代表せん、國族よりトシ、憲法問題より推挙

出さるゝ何ソヤ論者いふ事ニ聖新ノ以テ誤マレトナシ  
大挫ノ行使ムヲ違害ナリト爲ス乎

三浦子ハ近ク再ヒ三書有、會合ハ催ハ折リ有レ取リ免  
位ニシテ其ハ何人カ内閣ノ組織ナルモ外交軍備問題ハ政  
黨政府ノ外ニ是力サハカラストノ持論ナシ幸由伯カ後進  
内閣ノ組織スニ當リテ此問題ノ解決スノ必要ナシ  
見ヨ一六日史ニ由リテ、子ヲ訪問セシメ今由内閣ハ從  
政ニ當リテ其ニ至ルニ事情ノ様々セシカク其カルキモ本問題  
ハ既ニ電火ニハ其ハ何カノ形式ニ由リテ交渉ノ開始  
ヲ見ルニ至ルナシ

草政魯淡

孝伯の同族をト、安懐の衷心欲や尤邪

ナラレモ、直之安懐説ヲ跳ネ付クル中、却テ山縣亮公周

田者ト同族をト結合スル、孩子免ヲ慮シ、微長の族

柄ヲナシ、族長カ今ヤ安懐説の關係ノ論衡点也、たぬセント

スル、たぬヤ、亦レニ討シ、伯、果ニテ如何、大徳心、成ニ出テ

ントスルヤ、同族をト、限、族ノ安、改メ、亦レニ、タシテ、孝伯

ノ、意、何、を、命、ト、安、懐、セ、カ、是、レ、這、般、ノ、改、変、ノ、無、意

ノ、義、ナ、ラ、ズ、孝伯ニ、對、ス、ル、世、上、ノ、期、待、ヲ、慨、却、ス、ル、以、テ、云、ク

第

朝 薩長藩閥ノ元兇ニ、對、シ、改、推、ヲ、望、ミ、上、リ、聖、明、ヲ、蔽

ヒ、事、リ、下、ニ、國、民、ヲ、欺、罔、ス、其、罪、真、ニ、滔、天、ト、謂、フ、尤、リ、得、ス、有



寺内伯、果敢由國、組織之行、腦々素々、國民ト  
休戚相同セ先滿洲相抗ヘ何人ヲ以テモ國民ト相  
適フヘキカリ知ラズ唯如何モ常少クシテ羽翼ヲ張  
ルニ都合ヨキカニ能ハシ恰モ飢鳥力腐肉ヲ分テ食  
フカ如クニ立騷リ是ノ如クシテ政道ハ滿洲相抗カ私  
有物トテ國民ハ彼等ノ權勢ヲ張レカ為ニ其豪胆  
ヲ擯エ國民<sup>民</sup>此ニ自覺セハ一刻モ彼等ノシテ鼻  
能タラシムヘカラン

中央 天下國政一人一家ニ私スヘカラン 輔弼ノ責任ヲ  
一子相傳的ニ自分ノ息子ヘ譲ラントスルカ如ク何事ニ

主權のりや見を株と排斥せしむる力为之憲政擁  
護の片腰布の國民の彼等、才先構とす、其  
私利を晴らす造易の使ひに程、才人好ニラス

東京毎日

善政を致さるる美しきレド國民の最早

空名を迷ひたり、幸由々同、政綱を以て就て決せ  
んと云ふかれ、才の畢竟無主、我無定見、洞々峰  
流ト云ひ、才へかゝる天下の公論既ニ定ル、憲政確立  
ノ爲ニ猛然突進、排開戦争ヲ試ムル所ニ遲疑ス  
ルニ及ス、是れ和服の女ヲ強テ慎重ノ態度ヲ持セントス  
吾人の之ヲ踏ミ倒シテ邁進スルヲ期セス



東京毎日

高橋是清男談

大隈内閣の國財

政經濟の對シ金と無方針ナリシモ今若シ年内々内閣  
ニシテ多少ノ政策ヲ樹フルニ於テハ先シ大體ハ見解ナ  
リ予ハ後繼内閣ニ對シテハ財政上根本政策ヲ確立  
シテ國政ヲ安穩センコトヲ望マサルヲ得ス即チ大隈  
大臣ノ人選ノ如キモ由國ノ事情ニ適シ數字ヲ知ント  
云フ丈ノ人ニテハ滿足ス能ハス所ナリ世界ノ事情ニ適シ  
ズ人ニ對セハ不可ナリト信ス

報知

微服以テ大隈内閣ノ辭職ニ關シ松浦子ヲ始メ

吾々ノ宗親等ニ至リテ因テ多クハ由國組織ニ清浦子カ

後、男ヲ中心トシ改見ノ一致シテ、國志ヲ綱是ニ配  
マテ、衆民院ト決然ノ覚悟ヲ有ス、然ルニ平田子ハ頗  
ル穩和ノ意見ヲ持シ、大隈由岡ヲ倒スニ何等功勞  
ナク、拘ラス、幸内伯ノ大策ヲ拜ス、彼ノ敗ハ積金ヲ出  
テ、中相ニ橋子ニ於テ本尊氣ヲ露シ、振付ケレト、故  
シテ、中相トセハ、加藤子ト提攜シ、策ヲ立ルヘリ、這  
ハ元荒カ伯ヲ奏薦シ、ん、知事ニ反スト云フニ、又平  
田收メテハ、幸由岡ニ對シ、一敗ヲ強期サシ、其ノ  
欠ニ覺目凡人物ノ配量ニ由岡ノ基礎ヲ現華國ニ立ト  
共ニ天下ノ耳目ヲ一新ス、然リ、若シ後、後男ヲ中心

ト仲少、目明田男等、同好トセ、或ハ謀反組ノ出  
 候ト目セシ國民ノ反抗ヲ買スル故ニ貴族院ニ信  
 望見平田子リ、而モ地位ニ置キテ薩長等ヲ有  
 爲ノ人物リ、爾セリナハ衆議院ト對衡ス上ニモ多大  
 ノ權威見ヘシト、高見ナカレサレニヤ、平田子ト後、及  
 男トハ一高見ナ、高見ノお連ヲ激論ヲ為サト傳  
 へル

讀賣

今四ノ九、政變ニ根據ヲ有セテ、衆議院ニ大  
 命ノ降下ヲ見、心ハ一般世人ハ不思議トモ思ハレ、到  
 レハ、政變ノ不信用ヲ表シ、其ノ爲メ、此ノ時

ら於て政黨ノ發達ヲ謀ラントスルモノハ、  
中ラテ、姓學、首動ノ決シテ、憲政ノ進歩ニ何等ノ效  
ナキヤ、元々ハ、此際ニ於テ、政黨ノ發達ヲ計リ  
憲政ノ進歩ヲ計ラントスルハ、只、退ト自ラ、政黨  
ノ内、實ヲ整ヘ、フルニ、  
都

首動ノ政黨、排當ニ先テ、早クモ、元老ノ瓦集アリ  
元老等ハ、首動ノ政黨、排當ヲ、待テ、有様ニ  
他ノ大臣ハ、未タ、辭教ヲモ、排當ニ、  
事、内、白ヲ、進、退、者ニ、排當、  
以、  
以、  
以、

起り或は多野宰相ノ辞職ヲ見ルニヤニ知レズ  
トノ説ヲ

大阪朝日

寺内内相トシテ多野一内閣トシテハ既ニ消滅

ニ成リ多野一内閣トシテ一國カ如クバ厄難ニ際シ國

民ノ翕然トシテ一致融合スル状態ヲ指シテ云フ英國

ニ於テハ多野一内閣ノ替ヘ實ニ在野黨ノ首領ニヨリテ其

中一勢力發セリキ即チ國民ノ好ムニシテ斯デコソ多

野一内閣ノ價值ハ已ニ寺内内閣及ビテ圍繞スル而チカ押

リシツク凡ルチモカ果シテ多野一内閣一致力カ其窮ニテ同

志合ニ意圖ヲ試ミ故チ多野一内閣ヲフケントス即チ

山崎一居士何より及江ノアラスヤ

各政黨、宣言及政綱

目次

- 一 立憲同志會宣言政綱  
大正二年二月結黨當時
- 二 立憲政友會宣言政綱  
明治三十三年八月
- 三 進步黨宣言政綱  
二十九年三月
- 四 同志會宣言及政策  
對三十七議會
- 五 政友會宣言  
〃
- 六 國民黨宣言  
〃
- 七 山本內閣財政政策要項
- 八 大隈內閣財政政策要項



立憲同志會宣言書

維新中興ノ初五條ノ御誓文ヲ宣示セリシヨリ四十有六  
年次ノ憲法ヲ發布セリシヨリ二十有四年百揆面目ヲ革メ  
國民ノ智見亦大ニ進カリ云々是レ世運一轉憲政漸美  
ノ果ヲ收ムヘキ時會ニ屬ス

此時ニ際シテ吾人報效ノ道唯廣ク天下同志ノ士ト共リ  
公党ヲ樹立シテ帝國ノ有力ニ要素ヲ網羅シ國民ノ  
光明ヲ輿論ヲ代表シ盛ニ經綸ヲ行ヒ大ニ皇基ヲ張リ  
以テ帝國憲政ノ完美ヲ遂クルニアリ是則立憲同志會  
創設ノ已ム可ラサル所以ナリ若夫政策ノ節目ニ至リニハ  
他日發起者諸氏ノ審議ヲ待テ議定スヘシト雖モ此ニ  
吾人所見ノ大綱ヲ擧ゲン曰ク我建國ノ本源ハ漸リ皇  
室ヲ中心トシテ忠愛ノ大義ヲ顯昭スルニアリ維新ノ鴻

國ヲ紹述シテ開國進取ノ皇謨ヲ翼賛スルニアリ憲法ノ  
 條章ヲ恪守シテ天皇ノ大權ヲ尊重シ國務大臣ノ責  
 任ヲ嚴明ニシテ臣民ノ權義ヲ保全スルニアリ教育ヲ  
 普及シテ國民ノ公德ヲ進メ立憲的智能ヲ培養スル  
 ニアリ民族同胞ノ情義ヲ推廣シテ社會共濟ノ道  
 ヲ盡スルニアリ民力ヲ内ニ充實シテ國光ヲ外ニ發揚シ威  
 儀ヲ中外ニ貫徹シテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ如上  
 ノ大綱ヲ実行スルニ至リテハ之ヲ中外ノ形勢ニ照シ之ヲ  
 周圍ノ事態ニ鑑ミ民情ヲ酌シ公論ニ徵シ能ク其  
 機宜ニ適セシメントス吾人ノ本領ハ經世ノ実績ヲ擧  
 ゲテ済民ノ政績ヲ行フニ在リ是レ尙今ノ急務ニシ  
 テ百年ノ大計ナリ惟クハ明誠忠謹ノ志士ノ一致戮力  
 協ニ因ラズンハ莫クシ此ノ目的ヲ達スルヲ得ンヤ此ニ

主党ノ本旨ヲ宣言シ以テ天下ノ同志ニ諭シ

大正二年二月

主黨同志會創立委員長公野 桂太郎

# 綱領

(大正二年二月二十日山本内閣成立後發表)

綱領トシテ吾黨ノ永久ニ遵守スル十大方針ニシテ既ニ本  
會創立宣言書中ニ之ヲ聲明セリ今之ヲ別表  
スルニ左ノ如シ

- 一 皇室ヲ中心トシテ忠愛ノ大義ヲ顕彰スルニ
- 一 維新ノ鴻圖ヲ賛成シ開國進取ノ皇業ヲ扶  
翼スルニ

一 憲法一條ニ尊リ恪守シ天皇ノ大權ヲ尊重シ國務大臣ノ責任ヲ敬明ニシ臣民ノ權義ヲ保全スヘシ

一 教育ヲ普及シ國民ノ公德ヲ進メテ以テ立憲的智能ヲ培養スヘシ

一 民族同胞ノ情義ヲ推擴シテ社會改良及經濟ノ道ヲ盡スヘシ

一 農商工業ノ發達ヲ圖リ以テ民力ヲ充實スヘシ  
一 殖民地ノ統理ヲ完シテ國基ヲ鞏固スヘシ  
一 威信ヲ申外ニ貴族ニテ世界ノ平和ニ貢獻スヘシ

一 庶政ヲ更張シテ地方自治ノ肅清ヲ期スヘシ

# 主憲政友人の宣言

西曆三十三年八月二十五日發表

帝國憲法ノ施行既二十年ヲ経テ其效果見ルヘキ  
アリト雖憲法ヲ指導シテ長ク國政ノ進行ニ貢獻セシ  
ムル所以ニ至リテ其道未タ全ク備ハラズモ即チ  
各政黨ノ言動或ハ憲法ノ既ニ定メタル則ト相扞格  
スルノ病ニ陥リ或ハ國體ヲ以テ黨派ノ私ニ拘ルルノ弊ヲ  
致シ或ハ宇内ノ大勢ニ對シテ維新ノ宏願ト相違レサ  
シ陋ヲ形シテ帝國ノ光輝ヲ揚ケ内政民ノ倚信ヲ蒙  
リテ於テ多ク遺憾ニシ免レサル博愛ノ久シク以テ愛  
トシテ所ナリ今ヤ同志ヲ集ムル其遵行スル一途  
者ヲ以テ世ニ俟スル方リ孰カ黨派ノ行動ニ對シテ予カ希  
望ヲ披陳スル

抑國臣ノ任免ハ憲法上ノ大權ニ屬シ其簡拔擇用或  
ハ政黨員ヨリシ或ハ黨外ノ士ヨリ以テス皆元首ノ自由意思  
ニ依ル而シテ其ノ已ニ舉テラレテ輔弼ノ職ニ就キ  
獻替ノ事ヲ行フ政黨政友ト經決シテ外ヲ之ニ委  
託スルヲ許サス苟モ此ノ本義ヲ明ニセザラシキ或ハ政機  
ノ運用ヲ誤リ或ハ權力ノ爭奪ニ流レ其實云フヘカラ  
サレモアラントス事ハ同志ヲ集ムルニ於テ金リ此ノ弊風ノ  
外ニ起立セシコトヲ期ス凡ソ政黨ノ國家ニ對スヤ其ノ全  
力ヲ盡シテ一息公ニ奉ルヲ以テ任トセサルヘカラス凡ソ行政  
ヲ刷新シテ以テ政運ノ隆興ニ付シタルトモ一党ノ習俗  
ヲ設ケ黨ノ由外ヲ拘フコトナク博ク適当ノ家談經綏  
ヲ備フル人オヲ收メサルヘカラス黨員タルノ故ヲ以テ地位ヲ  
與フルニ能カリ論セサルカ如キハ新ニシテ戒メサルヘカラス地方

若し出利実問題ニ至りては、  
為し緩急ヲ按シテ之ヲ施設ヲ決セザルハ、  
情實ニ泥リ或ハ商業ノ被托ヲ受ケ与フルニ覺悟ヲ  
以テカカルハ、  
陋套ヲ一洗セントスルヲ

政黨ニシテ國民ノ指導ヲラント欲セハ、  
紀律ヲ明シシテ秩序ヲ整ヘ、  
ハサルハ、  
ヤ設ク以テ黨派ノ宿弊ヲ革ムコトヲ企テ、  
心ヲ帝國政體ノ將來ニ裨補シテ、  
セントスルニ外ナラズ、  
下同感ノ士ニ同フ

明治三十三年八月二十五日

伊藤博文

政綱

余等同志、茲、於此、五憲、政友會、ヲ設ケ、忠誠、以テ皇  
室ニ奉シ、國家ニ對スル臣民ノ分、我リ盡サント欲ス其  
一、趣旨トスル所ノ要領左ノ如シ

一、余等同志ハ憲法ヲ恪守シ、其條々ニ自由シテ統治  
權ノ施用ヲ完カラシメ、以テ國家ノ要務ヲ掌ス、以テ右  
箇ノ權利自由ヲ保全セムコトヲ期ス

二、余等同志ハ維新甲兵ノ完備ヲ速メ、之ヲ相與、賛シ  
テ以テ國運ヲ進メ、天賦ノ扶植スルコトヲ勉ム

三、余等同志ハ行政ノ機能ヲ完全ニシ、其ノ公正ヲ保シ、  
コトヲ望ミ、善叙ヲ精ニ、其弊ヲ相リ、責守ヲ明ニシ  
紀律ヲ正シ、廢弊ヲ斂、慨ニシテ時運ノ進歩ト共、保  
ハシカムコトヲ期ス



四、余等同志は外交ヲ重シテ友邦ノ禮ヲ厚クシ又昨一  
改メテ遠人ヲ侮ハセシテ諸國ノ名實ヲ全カシ  
ムコトヲ期ス

五、余等同志は中外ノ形勢ニ鑑ミテ國防ヲ完實スル  
必要トシ常ニ國力ノ發達トモ併行シテ國權國利ノ  
防護ヲ充全スルニムコトヲ望ム

六、余等同志は教育ヲ振作シ國民ノ能性ヲ陶冶シ公  
私各事ニ對スル責任ヲ分クニ耐フルノ懿徳良能  
ヲ養成セシメ以テ國礎ヲ牢クセムコトヲ期ス

七、余等同志は農工商業ヲ發メ航海貿易ヲ盛ニシ交  
通ノ利便ヲ増シ各事ニシテ經濟上生活ノ基礎ヲ鞏  
カシメムコトヲ期ス

八、余等同志は地方ノ自強ヲシテ隣邦ニ對シテ實アリシカ甚

一 社界上及経済上ノ協同ヲ完全ナラシムルヲ以テ  
ハシ

九、 余等同志ハ馬場ニ在リテ  
蓋シテ目的トシテ行動シテ  
テ 龍根ノヲトナサリ  
助ケハシ

# 進歩党宣言書

明治二十九年三月一日結党當時

國家内外ノ形勢力、吾人ヨシテ一大政黨ヲ樹立セシム今茲ニ結党式ヲ爲スルニ方リ其因ヲ起ル所以ヲ宣言シ以テ吾國同愛ノ志士ニ告リ  
我黨ニ進歩主義ヲ執リ茲ニ責任内閣ヲ設立シ其外政ヲ刷新シテ主權ヲ擴張シ茲ニ財政ヲ整頓シテ民業ノ發達ヲ誘致シ以テ立憲政治ノ實ヲ著シテ維新無國ノ丕基ヲ完成シ以テ皇室ノ尊榮ヲ宣揚シ民人ノ權利幸福ヲ増進シ以テ宇宙ノ文化ヲ大成セシムトテ敢テ維新中興ノ初ニ當リ大ニ盟漢ヲ宣ハ玉ヘ  
ニ因リ廣リ會議ヲ起シ第幾公論ニ決スヘシト爾來三十年憲法既ニ制定セシ天皇ノ神聖大臣ノ責任人民ノ

權利分界の確據を疑ふ者あるは然るに國臣有司高  
 才陋習の慢マズ或は言御集會の豫制に公論の發動  
 の阻碍の或は流りの帝國派の解散の或は屬の外交の  
 措置の誤りて威信の中外の失つ凡て此れ如キモノ臣民  
 豈一日之黙過るを忍ビヤ

吾黨の行政機關の革新の稅法の改メ冗費の除キ以て之  
 の國家の有用の費用に充て新機軸を實に主として創業  
 進取の精神を作興し以て綱紀の振張セントす其  
 願ふに維新中興の至道を完成し萬里の波濤を拓開ス  
 ル一暨漠の翼賛をセント欲せし主として外政の刷新に  
 國權の擴張をサレハカラス然るに從來の外政は多ク國家  
 の威信光榮の毀損の特に征者、統局の於て特ニ對韓  
 一政策の於て不為の威信光榮の失墜を之より甚しキ

ハナシ今や東洋ノ形勢ハ非ニテ隣邦ノ危急旦夕  
ヲ計ラサルニ至リ此時ニ當リ國民ヨリテ狂瀾ヲ既倒ニ  
回ス大氣力ヲ發動セムニアラヌニ金匱無缺ノ玉  
帛ヲ如何セシモ黨ノ外政擴張ノ策ヲ把持シ之ヲ貫徹セ  
ントスルニ決シテ偶ニ道ニアラヌ

今や帝國ノ實情ト黨宇ノ大機トハ黨ノ外主ヲ宣ハス  
者ニ在リ吾黨派ヲ解散シ以テ進歩黨ヲ樹立シ其政  
綱ヲ欲シテ宣言シ其ニ強進シテ以テ第一維新ノ大業  
ヲ成就セント欲ス法ヲ善國同慶ノ士来リテ以テ存リ  
續ルセヨ

### 政綱

我黨ハ進歩黨ヲ執リ皇室ノ尊榮ヲ宣揚シ人民  
ノ福利幸福ヲ増進セシメたるニ政綱ヲ定ム

- 一 政部 改革 責任內閣 完 期 不
- 一 外政 刷新 易 推 松 張 期 不
- 一 財政 救 困 民 業 發 達 期 不

# 同志會宣言及政策

對第三十七議會

大正四年十一月廿七日

## 宣言

茲ニ亦三十七回帝國議會ニ臨ムニ當リ、我黨ノ態度ヲ明カシ以テ天下ニ宣言ス

本年五月開會セシメタル特別議會ハ、總選挙ノ後、承ケ議會解散ノ意ヲ我々徹底セシムヘキ機會タリシヲ以テ我黨ハ友黨ト提携シテ政府ヲ援助シ国防財政其他各種ノ重要問題ヲ解決シタリ

即國増設問題ハ国防上重大ノ案件ニシテ又實ニ議會解散ノ主因タリ我黨ハ率先之ヲ解決スル努力ヲ以テ国防ノ欠陥ヲ補ヒ併セテ政界多年ノ懸案ヲ解決シタリ  
公債政策ハ財政經濟ノ樞軸ニシテ政府及我黨ノ最モ

重キヲ置ケルモノ一有、我黨、友黨ト協力シテ本問題ヲ  
解決シ、茲ニ始メテ財政、經濟ニ関スル整理ノ事業地ヲ  
造ルコトヲ得、歐戰、戰亂ノ勃發ニ由リ外債ノ募集  
困難ナル至リシモ、財政ノ運用ニ支障ナキヲ得、所以モ  
ノ實ニ現由閣下、我黨ノ主張ニ基キ、公債政策ヲ變更  
シ、銳意之ヲ実行シ、以テ職由セシムハアラス

我黨、従来ノ主張ニ、財務官ヲ設置シ、以テ憲政ノ運用  
ヲ円滑ニシ、治水、墾拓ヲ確定シ、以テ治水事業ノ遂行  
ヲ確實ナラシメ、補助航路ヲ整理シ、以テ國庫ノ負擔ヲ  
輕減シ、無盡並、据置貯金ノ取締括ヲ制定シ、以テ下層  
金融、極度ノ改善ニ、特ニ會計ヲ整理シ、以テ豫算、計  
編成ヲ簡明ナラシメ、凡ソ、我黨政策ノ重要ナル  
モノハ、概シテ特別議會ニ於テ之ヲ解決シ、先ケル



國民負擔ノ輕減ハ尙、爲メ歳入削減ニ盡力スルカ実  
行ヲ見ル能ハサルヲ遺憾トス他日財政ニ金被リ生ス  
ルに至ラスハ之カ遂行ヲ望ムヘカラス若夫レ玉庫収支  
ノ出公改竄ニ至リテハ剩余金ヲ利用スル能ハサルニ至リ  
タルカ爲メ當初ノ計畫ヲ実行スル能ハサリト雖も玉庫  
金ノ整理ニ依リテ略ホ其目的ヲ達スルコトヲ得ル

對支交渉ハ政府當局ノ折衝其實ニサリ得テ南國ノ意  
思合致シ其結果本年五月条約ノ締結ヲ見ル  
是レ當レ日露戦役以來一歴代ノ内閣カ企テ及ビサリシ  
懸案ヲ解決シタルノミナラス又以テ南國ノ親善ヲ増  
進シ東洋永遠ノ平和ヲ確立シタルモノト謂フニ而シテ帝  
國ノ獲得シタル利權ヲ活用シ条約ノ成果ヲ著スルハ政  
府及國民ノ責務ニ屬ス我黨ハ政府ヲ智勵シ國民ヲ

指導す。更ニ大ニ献指を所アリントス

大隈内閣成立以來、我党カ之ヲ援助せん所以ノモノ、其政  
綱政策ノ我党ノ主張ト一致スリ以テ、本年八月閣僚ニ  
更迭アリ、ト雖モ其政綱政策、之ヲおミ、毫モ変更  
セザル。而シテ大隈有ル、一聲明セリタル所ナリ。是ニ於  
テカ、我党ハ曩ニ臨時大會ヲ開キ、依然内閣ヲ援助ス。又  
ノ議ヲ決シ、之ヲ天下ニ宣明シ、我党ハ此宣明ニ基キ、現  
内閣ヲ援助督勵シ、以テ我党ノ主張ヲ實行セシム。ト  
ス。期ス

今ヤ玆ニ大戦乱ニ蓋其範圍ヲ擴大シ、錯雜紛糾ト  
底止ス。所リ知ラズ、幸ニ東洋ノ天地ニ平靜ニ帰シ、ト雖  
モ、中國ノ地位、尚交戦ノ渦中ニ在リ。是ニ實ニ吾國一致  
奮公ノ誠ヲ效ス。トキ、秋ニシテ區々ノ威情ヲ拭ミ、後ニ改

争事トナレバ時ニテラズ且ツ夫レ戦後ニ於ケル列國ノ  
外交並ニ經濟ノ干渉亦大ニ變更リ免レサントス須ク上下  
協力盛ニ經綸リ行ヒ以テ戦後ノ變局ニ應ジルノ準備  
備フ急ムヘカラス我党ニ於テ一致以テ國家ノ進歩ニ  
任ス

我党ニ於テ綱領ニ基キ中三十四席及豫局ノ初ニ於  
テ十數項ノ政策ヲ決議シ之ヲ天下ニ聲明シテ有事  
政策多ク既ニ実行ヲ見ル且最近時局ノ發展ニ伴ヒ内外  
ノ情況甚タ旧ノ如クナラズ仍テ時勢ノ要求スル大變ニ對シ  
政策十項ヲ定メ以テ中三十七回豫局ノ臨ミントス夫  
レ今朝議會ニ於ケル豫算及その他ノ諸問題ニ至リ  
之ヲ議員總會ニ決議ニ任ス

## 政策

一 欧海ノ大戦乱ニ于テハ同盟及協約ノ精神ヲ尊重シ  
 與國並友邦トシテ同盟ヲ結成シテ其ノ時向  
 推移ニ應ジテ帝國ノ地歩ヲ進メ國威ヲ宣揚スルコ  
 トニ務ムルニ

一 支那ニ對シテハ最モ締結セラルル條約ノ效果ヲ實現  
 スルニ務メ其爲メ親善ヲ圖ルト同時ニ東洋永  
 ノ平和ヲ確保スルヲ帝國ノ使命ヲ爲スルニ

一 海軍ニ備ヘ補充ハ其防上最モ必要ノ事ト爲リ  
 此ノ國力ト相俟テ適切ニ実行計畫ヲ定メ之ヲ完  
 成スルニ

一 債務國タル地位ニ在リ其爲メ先決ニ務ムル同時ニ  
 外債ノ減少ヲ圖リ並其ノ借換ヲ容易ナラシムルヲ  
 講スルニ

一 時向ノ景況ハ世界ニ於テ負債物ノ生産並分配ノ状況

ニ非ズ、變化ヲ生セリナリ、宜シク此機會ヲ利用シ

内産業ノ發達ノ機ナリ以テ国力ノ充實ヲ圖リ、外貿易

ヲ伸張シテ以テ商權ノ確立ニ務ムルニ

一 特種銀行及其次他經濟機關ノ機能ヲ發揮セリテ資

金ノ供給ヲ田滿ナラシムル、策ヲ講ズト同時ニ日支經

濟干渉ヲ密接ナラシムルニ必要ナル金融機關ノ整備

ヲ圖ルニ

一 農村ノ經濟施設ヲ整備シ以テ其ノ改善發達ヲ圖

ルニ

一 社會上經濟上ノ現状ニ鑑ミ、社會改良政策ノ實行ニ

務メ以テ一般國民生活狀態ノ改善ヲ圖ルニ

一 國民ノ經濟政策上並民族發展上當今ノ急務ニ屬

又宜之外交、後援ニ依リ其ノ發達ニ務ムヘシ

政友會宣言

對第三十七議會

大正四年十一月二十七日

現内閣ノ施リタル所皆其誠意ヲ欠キ内情外交其宜  
ヲ失ルコトハ我黨カ暴ニ第三十六議會ノ開會ニ際シ  
テ闡明セシ所ナリ爾來其爲ス所一モ見ルニ足ルモノナク  
外ハ急降ノ交誼ヲ徹底スル能ハス列國ニ對シテモ  
亦既ニ其機密ヲ露ルル今後果シテ何ノ道ニ出テ  
トスヤ知ラズ内ハ紙政自出傷指瓦ニ違フラス殊ニ  
清職ノ獄起ルヤ我黨ノ爲メ一閣員ニ就シ口ヲ醒者ニ藉キ  
自ラ引責スルコトヲ爲サズ刺サハ其記述ヲ爲ス者ナリ法  
律ノ適用ヲニシセメ又乃亦伯音家ノ事ノ如キ宸衷ノ  
厚キヲ貫徹スルヲ能ハス徒ニ物論ノ沸騰ヲ來シ而シ  
テ靦然トシテ是レ之ヲ顧ミルヲ能ハス具瞻ノ地ニ居者ニシ

予斯ノ如シ何ヲ以テカ立憲ノ大義ヲ維持シテ風紀ヲ振  
 作シ大政ヲ整理スルヲ得ン惟フニ歐海ノ戦乱ハ猶ホ西  
 ニシテ蓋ニ紛糾シ前途逆睹スヘカラサ者アリ此際ニ當リ  
 庶政ヲ肅整シ經濟ヲ利導シ以テ民力ノ救済ヲ企畫  
 シ蓋ニ異國ノ基ヲ墮ルニ以テ重キヲ大局ニ持スルヲ勉  
 めルニ至大ノ急務ニシテ我黨ノ毎ニ其宏遠ヲ憂ヘン  
 ヲ期スル所ナリ然ルニ内閣ノ為ス所毫モ經綸アルナリ僅  
 ニ一時ヲ糊塗スルニ過カス此ノ如クミテ止マズニ國家ノ前  
 途洵ニ塞心ニ堪ヘサルナリ我黨ハ萍礪奮進今日ノ急  
 務ニ處シテ遠策ヲカシテナリ期シ國防問題ノ如キ職責  
 基金問題ノ如キ財政其他百般ノ問題ノ如キハ従来  
 ノ主張ニ鑑ミ更ニ審議ヲ盡シ以テ適當ノ措置ヲ取ル  
 ヘシ



# 國民黨宣言

對第三十七議會 大正四年十一月二十八日

今や我帝國の國策一新の時機に際會する世界に裏向く對して治亂共之に處して國運の振興ヲ因むの實に此時に在り

列國ノ競爭の精神及物質ノ實力角逐の外ナラズ國民ノ到健勇進以テ裝飾ノ獨立經濟ノ獨立軍器軍需ノ獨立ヲ得んことを斷レテ其伍伴ノ不能ハス吾黨此を見ル所是レ改竊ノ革新及實業ノ振作ヲ以テ先著ノ急務ト為ス所以ナリ

現由國施政ノ事績の概不當初ノ宣言ニ背違ひたる支左吾黨ハ一定ノ方策ナリ其非違ノ暴露ニ及ハハ彌縫白端以テ責任ノ所在ヲ掩ハントス是レ既ニ立憲ノ大義ニ背違ハ

況や内政、姑息外交、輕率以て禍根ヲ後日ニ遺るゝ松  
アヲや吾党ノ深ク憂フル所是ナリ

吾党ノ要求ハ政務ノ革新ニ在リ國策ノ確立ニ在リ誠ニ  
能ク之ヲ行フモノアリハ吾党奮ツテ之ヲ援助スヘシ苟ク之  
ニ及スハ爲ツテ之ヲ排撃スヘシ

加宣言ス

# 山本内閣ノ財政策要項

大正二年三月内閣成立當時

一 海軍擴充費三億五千萬圓ノ一部トシテ軍備補充費追加する萬圓ノ規定

二 西園寺内閣ノ整理額三千七百萬圓ノ基礎トシテ以上ノ節約ヲ爲シ大正三年度ニ於テ實行

三 塩價引上ハ大正二年度ヨリ實行シ所得稅輕減及營業稅及酒引所稅輕減ハ大正三年度ヨリ實行

四 國債五千萬圓償還政策ヲ維持

五 鐵道建設及改良費ハ基金及預金全部ニ於テ引受テ得ハキ資金ノ程度ニ止メ本年年度ニ於テハ預金全部ヨリ一千五百萬圓ヲ充テ市場整備ヲ爲サセリ

六 前項計畫ハ爲メ従事預金全部ヨリ貸付シテ低利貸

金二千萬圓中地方產業總合及耕地整頓等に對して  
融通額五百萬圓に除き其他一千五百萬圓に之を見  
合ふ

七 従来短期証券あり及び又他より融通し仰ぐも缺  
道資金一億圓對し外債より籌集し之を整理  
す

八 最近事業公債一時限全部又ハ長期証券より借  
入レ他日内地金融緩慢ノ季節より以テ公債及短  
期証券に借替ふこと

九 自然増収、経費節約及び公債償還期ノ按排ニ依リ  
大元証券ノ募集額より五千萬圓（前年度ハ一億圓）  
ニ止む

十 外債募集ニ就テハ一時ニ巨額ノ資金ヲ輸入スルこと

予為其且之正債準備一增減之適否之金融市  
場調節之謀也

大隈内閣財政政策要項

- 一 減税計畫ヲ立ル
- 二 公債政策ヲ改ム
- 三 大元者証券發行額ヲ制限シ納税者ノ便利並ニ金融ノ疏通ヲ計ス
- 四 國防問題其他財政及經濟上ノ不安ノ念ヲ与フハナシ問題ヲ適當ニ解決ス
- 五 豫備金増加
- 六 特殊銀行本然ノ機能ヲ發揮セシムルニ力ムト共ニ地方産業開發ヲ助長スルニ低利資金ノ供給ヲ目標トシテ之ヲ謀ル
- 七 官營事業ノ振興

大正五年七月十八日

ジャバニタイリス

寺内伯

伯ハ新内閣ヲ組織スルヤ

(通信)

一般ノ注意ハ今や寺内伯ニ集注セラル多ク、人ハ伯が進ミテ  
新内閣組織ノ任ニ當ルハキヲ確信スルモ、伯ハ衆議院ニ於テ  
多数ヲ制スルニ足ル有力ナル政黨ノ援助ヲ得ルノ困難モ  
事實ヲ知ラサル筈ナレト思料スル者モ亦尠カラズ

加フル、寺内伯從來ノ評判ハ以テ列國ノ信用又ハ同情ヲ  
贏得シ困難ナル事情アリ、其ノ經歷ヲ見ルニ微頭微

尾極端な保守主義にシテ而モ如何ナル條約國に對シテモ  
 何等同情ヲ有スルコトナシ實に伯唯一、目的と政策に  
 專制に存シ紙粹な武斷的專制政治ト云ハ即チ  
 伯ヲ聯想セシム 彼ノ陸軍、軍事に關スル事項ニ付  
 勅令ノ發布セラルニ當リテハ新ニ除外例ヲ設ケ金内  
 閣員、之ニ副署スルコトヲ必要トセラルニ至リシハ伯カ陸軍  
 大臣ナリシ當時、軍事に屬ス爾後所謂軍事命令  
 ナルモノ、軍ニ首相及陸相ノ副署、ニシテ是ルコトナレリ  
 此ノ形式ハ戰時中ニ在リテハ固ヨリ必要ナリシヤシレ而モ平時  
 ニ於テ尚之ヲ實施スルニ至リシハ實に伯ノ手ニ依ルモノナリ



西園寺首相エラモ當時斯カニ武斷的專制ヲ止  
メシムノ權力ヲ有セザリキ

故伊藤公ニ右ノ如ク寺内伯ノ創設セル新規ノ手  
續ニ付テハ極力反對ノ意ヲ有セシモ公ノ之ヲ知リタル時ニ

遷クシテ如何トモ爲スヲ得ザリキ專制ト云ハ甚ダ適切ニ

伯ノ聯想セシム彼ノ朝鮮ハ伯ノ好愛セル統治政策ニ

特別ニ場所ヲ與フタルモノト云フ一ク伯ハ副王ノ權力ヲ有シ

而モ其權力ヲ制スルハ何等ノ機關ナク此クシテ自己ノ

朝鮮統治ニ付世界ヲシテ知ラシムルヲ好マサルモノノ公表

シ差留ムルニ成功セリ

今列國に於ては、青内伯が中央政府、権力者、  
把持する時、神經を悩ます。支那より伯、朝鮮に於ては  
經歷の支那政治家間、熟知せられ、以て斯かる場合  
に於ては、本邦に對し、彼等、恐怖に猜疑、更に一層  
甚しうする。之を以て、青内伯が大隈侯、継業者  
たる、好むに、カウズト思料せられ、支那に於ては、關係に現  
最に、テリカートし、此際、新に支那、嫌疑を惹起  
する。如きは、最に之を辟け、得ざるなり。  
青内伯、友人等、恐るる、或は、金、異を考へ、抱く。  
然し、何等黨派、關係、政治家、多數中、日本、

對外關係、見地ヲ稽ム孝内伯ハ大隈侯ノ通  
當ナル継承者タルヲ得スト、意見ヲ有シ居ルナリ

日本ニ於ケル内閣ノ更迭

後藤内相

(紐育タイムズ社説)

日本ニ於ケル内閣ノ更迭ハ米國人ノ注意ヲ惹カサルヲ常トス、然レトモ今回日本ノ皇帝カ大隈侯ノ辭表ヲ受納セラレテ寺内伯ニ大命ヲ下シタリトノコトハ目下日米間ニ懸案ノ存スルアルト、且寺内内閣ハ前内閣ト異リタル政見ヲ有ストセラル、トノ爲メニ特別ノ興味ヲ喚起スルモノアリ、先般日本ニ於ケル知名ノ經濟學者ニシテ且前東京市長タル阪谷男ノ談話トシテ九月二十七日ノ本誌ニ發表セラレタル所ニ依レハ日米間ニ存スル「カリフォルニア」ニ於ケル外人土地所有問題竝其他兩國間ニ蟠ル未解決諸問題ハ今回ノ内閣更迭ヲ機トシテ前内閣ヨリモ更ニ強硬ニ主張セラルヘシトノ推測ヲ容ル、ノ餘地アリ、大隈侯ハ保守的ノ意見ヲ有シ殊ニ平和ヲ愛スル所ノ政治家ニシテ終始一貫セル米國ノ親友ナリ、其政策ハ日米ニ於ケル急進黨ノ手痛キ反對ヲ蒙リ屢々内閣破壊ノ運動ヲ受ケタリ、一方寺内將軍ハ朝鮮ノ總督トシテ強硬ナル且日本ノ見地ヨリスレハ成功シタル政治家トシテ知ラル、其性質モ亦大隈侯ト大ニ異リ軍人トシテ教育セラレタル人ナリ。

阪谷男ノ談話ノ本誌ニ記載セラル、ヤ華盛頓ニ於ケル日本大使館々員ノ一人ハ

之ニ批評ヲ加ヘタルカ其所說ヲ綜合スレハ東京政府ハ今日ヲ以テ「カリフォルニア」土地問題ヲ解決スヘキ交渉ヲ開始スルニ最適當ナル時機ナリト思考スルモノ、如クナリキ。然ルニ同大使館ハ直ニ右ノ言論ニ對スル取消文ヲ公表シ、同館員ノ談ハ阪谷男爵ノ談話ト同シク毫モ日本政府ノ意志ヲ代表セルモノト推測スヘカラサルコトヲ敍說セリ、今回着任シタル日本新大使ハ如何ナル訓令ヲ新内閣ヨリ接受スヘキヤハ全ク不明ノ問題ニシテ將タ寺内内閣ノ政策カ果シテ如何アルヘキヤモ亦同様ニ今日ニ於テ之ヲ推測スルコトヲ得サルナリ。

曩ニ論シタル阪谷男爵ノ談話ニ依レハ同男爵ハ今日ノ「カリフォルニア」土地法案ヲ以テ日本人ニ對シ差別的待遇ヲ爲スモノト爲シ其撤回ノ正當ニシテ必要ナルコトヲ痛論シタリ、男ハ更ニ進ンテ日本人ノ米國ニ對スル感情ヲ説明シタル後、更ニ米國側ニ於テモ日本ニ對シテノミ課セル他國民ト異リタル制限ヲ撤去スヘキコトヲ論シタリ、素ヨリ我々米國人ハ日米兩國間ニ存スル在來ノ交誼ニ基キテ其共通ニシテ正當ナル理解ニ達スヘキコトヲ望ムニ於テハ敢テ人後ニ落ツルモノニ在ラス、然レトモ今日カ果シテ交渉ヲ再開スヘキ適當ナル時機ナリヤ否ヤニ關シテハ男ト意見ヲ一ニセサルナリ。吾人ヲシテ忌憚ナク言ハシムレハ日本ノ支那ニ對スル企圖ハ吾人ニ取リテ明瞭ニ理解シ難キ節アルヲ免レス。否疑念ヲ有スル點及更ニ懸念ヲ懷ク點多々存スルナリ、日本ハ最近締結シタル

日露協商カ毫モ支那ニ於ケル米國ノ利益ヲ毀損セントスルモノニアラストノ保障與ヘタリ、而シテ吾人ハ固ヨリ之ヲ承認スルニ吝カナルモノニ在ラス、然ルニモ拘ラス數月前日本カ支那ニ提出セル要求箇條竝蒙古ニ於ケル最近ノ事變ノ如キハ東京政府カ支那ノ領土ニ於ケル内政ニ對シ多大ノ勢力ヲ振ハント欲スルコトヲ明示スルモノニシテ此ノ點ニ關シテハ我々米國人ハ日米兩國間ニ存スル問題ヲ解決シ日本人ニ對スル待遇ヲ改善セントスル日本側ノ希望ニ應スル前ニ上記對支政策ノ進行竝結果ヲ見ンコトヲ欲スルモノナリ。

而シテ若シ日米兩國ノ交渉再ヒ開始セラレタリトセンカ其進行ノ急速且圓滿ナル解決ヲ見ンコトハ吾人ノ切望スル所ナリ、然レトモ吾人ノ恐ル、所ハ我等米國人ニシテ日本ノ支那ニ對スル企圖ニ關シ疑惑ヲ有スル限りハ日米問題ノ圓滿ナル解決ニ對シテハ米國內ニ於テ必スシモ好感ヲ以テ迎ヘラレサルヘキコトナリ、即チ米國ニ於ケル輿論ハ數年前「カリフォルニア」土地問題ノ發生シタル當時ト今日トハ其間ニ甚シク懸隔アルコトヲ認メサルヘカラス、當時ニ於テハ米國一般ノ輿論ハ「カリフォルニア」州カ地方的法律ヲ制定シテ國際的條約ト衝突スルカ如キ結果ヲ來サントスルコトヲ非難シタルナリ、即チ換言スレハ當時ニ於テハ我カ國內ニ於ケル輿論ハ日本ニ對シ贊否二種ニ分レタリト謂ハサルヘカラス、然レトモ今日ニ於テハ日本ノ滿洲、蒙古竝北京ニ於ケル企圖ニ關シ國

民一般ノ疑惑ノ存スルカ故ニ當時ノ如キ意見ノ相違ナク米國々民ハ一般ニ日本ニ對シ好感ヲ有セサルモノト言ハサルヘカラス、故ニ米國々民ニシテ日本側ニ於ケル交渉再開ノ希望ニ反對スル者アリトセハ之決シテ米國々民一部ノ一家言ニ在ラスシテ全國民ノ意志ナリトセサルヘカラス、吾人ハ日本カ支那ヲ名實共獨立セシメ國務卿「ヘー」カ曾テ有效ニ抗議シタル領土保全ノ大義ヲ全フセシメ且外來的拘束乃至ハ干涉ヨリ擺脫セシムルカ如キ政策ヲ採ランコトヲ希望セルヲ得ス、若シ此點ニ關シ米國民間ニ於テ疑惑ノ存スルモノアリトセハ夫ハ我等カ正當ナル結論ニ達スヘキ十分ナル報道ヲ供給セラレ居ラサルカ故ナリ。

不幸ニシテ我國ニ於テモ日米兩國間ノ國交ヲ阻害スヘキ運動ヲ試ムル者アリト雖、又同時ニ日本ニ於テモ大隈內閣ノ正當ニシテ親密ナル政策ニ對シ深刻ナル非難ヲ加ヘタル排米團體アルコトヲ認メサルヲ得ス、然レトモ是等ノ有害ナル勢力ハ——夫ハ我國ト墨西哥トノ關係ヲ紛亂セシメント試ミタルモノトモ比較シ得ヘキモノナルカ——若シ吾人ニシテ支那ニ於ケル米國ノ商業上其他ノ利益ハ日本ノ行動ニ依リ毫末モ阻害セラル、モノニ在ラストノ證明ヲ得ルニ於テハ忽チニシテ其ノ效果ヲ失フモノナリ、東京ニ於ケル新內閣ノ成立、米國ニ於ケル新任大使ノ到着並日支間ノ關係ノ未解決等ヲ眼前ニ控ヘタル今日兩國間ニ多

少ノ不安ノ存スヘキコトハ當然ニシテ今日ヲ以テ華盛頓政府ト未解決問題ニ關  
スル交渉ヲ再起スルハ不便ナル時機ナルコトヲ日本政府ニ於テ認ムルナラント  
信ス、故ニ此ノ問題ヲ或時機迄延期スヘキコトハ賢明ナル方法ニシテ日本ノ新  
内閣モ亦此ノ政策ヲ採ルナラント推測セサルヲ得ス。



首相了

鄭家七事件、落着

(一月十一日ジャパン・タイムズ所載大要)

鄭家七事件モ豫想ヨリ圓滿ニ落着ク告ゲタリ  
但シ支那ハ此事件ニ関スル日本ヲ要索ヲ承認セハ  
ルヘカラサルニ至トリ實ハ是レダケニテモ支那、取  
リテハ甚シキ苦痛タルヲ免レサルナリ支那ガイヤマ  
チカラモ終ニ日本ノ申立ヲ承認シタルハ甚々不利ナ  
レトモ誠ニ致方ナキ次第ナリ既ニ日本ノ申立ヲ承認  
スルダケカ甚シキ苦痛ナリ而カモ之ニ對シ謝罪賠  
償等ヲ為サ、ルヘカラサルニ至リテハ二層ノ苦痛

ト謂ハサルヘカラス日本ノ新聞ハ此事件ノ發生セシ  
當時ハ頻リニ強硬論ヲ唱ヘタレトモ漸次軟化ス  
ルニ至リ政府モ亦最初ハ盛ニ彼ノ第五項ヲ決  
定ヲ迫リタレトモ此項タルヤ元來諸列強ニ對シ  
テ秘密ニシ求メタル者ニシテ彼ノ最後ノ通牒ヲ  
贈ルニ至リ始メテ一般ニ知レ渡リタルモノナレハ  
公然ノ要求ト稱スルコトヲ得サレナリ  
大隈侯ハ鄭家七事件ヲ利用シテ第五項ヲ解決  
ヲ遂ケントセリ日本ノ輿論モ最初ハ同様ニシテ  
而カモ列強ハ之ニ對シテ抗議ヲ挾ム者ナカリシヲ

以テ一時ハ支那ノ意見ニ日本ノ要求ヲ容レサルヘカ  
ラハ力如ク見エタリ而シテ大隈侯辭職シ寺内  
伯内閣ヲ組織スルニ至リテ世々ハ支那ノ運命ハ遂  
ニ決セラルカ如ク思惟スルカ幸ト事實ハ之ニ反シ寺  
内伯ハ單ニ支那ノ要求スルニ對スル誠意ヲ示ス  
意ヲ示スカ爲ニ日本ノ申立ヲ承認シ且速ニ此事  
件ヲ解決スヘキヲ以テセリ而カモ寺内伯ハ先ツ自  
ラ進シテ其誠意ヲ示シ支那ノ對スル過當ノ要  
求ヲ撤回スルニ至リタルヲ以テ延引ナカラ其當ニ地  
方長官會議ニ於テ公約セラレタルコトヲ實行行ス

ル、至レルナリ日本ノ新聞ハ一方、日支親善ヲ論  
スレトモ此讓步ヲ見テ必ズ外交不振ヲ叫ブナラン  
朝日新聞ノ如キ、殊ニ然ランサレド寺内伯、其  
前任者等ヨリハ支那ニ對シ公平ナル待遇ヲ與  
フルノ決心ナルヲ如シ其實行ノ延引セシハ一前任  
者ノ政策ヲ直ニ放棄スルコト能ハサリシ事情ト  
ハ輿論ノ攻撃ヲ憚ラレシカ為ナラン立憲的ニ  
シテ民主的ナルヘキ新聞カ公平ノ如何ナルモノナル  
カヲ解セスシテ却テ一官僚カ之ヲ實現セルハ頗  
ル遺憾ナルカ日本ノ新聞ハ元來目前ノ小利ヨリ

外之ヲ觀ル、明ナキナリ

日本ハ支那及合衆國トノ

親善ヲ希望ス

一九百十七年五月六日紐約

「紙上川上清氏所論

本年(大正六年)一月日本國總理大臣寺內正毅  
伯ハ帝國議會ニ於ケル演說中其日本皇帝ニ  
對シテ責任ヲ有スレトモ議會ニ對シテハ責  
任ヲ有セザルコトヲ確言セリ非立憲ノ綽號  
ヲ有スル寺內トシテハ實ニ其特色ヲ現ハセ  
ル宣言ト謂ハガルベカラズ蓋シ軍人の經世

家タル孝内ハ日本ノ政治モ其嘗テ皇帝ノ專  
制權ヲ一モ二モ十ク承認セシ時代ヲ疾クミ  
過ギ去リシコトヲ忘レタルモノ、如シ現時  
ニ於テハ如何ニ有力ナル人ト雖モ議會ニ於  
テ多數ヲ有スル政黨ノ後援ヲ得ルニ非ザレ  
バ其内閣ヲ維持スルコト能ハザルナリ  
孝内ガ此大膽ナル宣言ヲ為セシ翌日衆議院  
ハ將ニ内閣ニ對シテ不信任案ヲ通過セント  
スルニ當リ突然解散ヲ命ゼラレタリ吾人ノ  
意外ニ堪ヘザルハ此明白ニ守舊的ナル内閣

が四月二十日ノ總選舉ニ於テ勝利ヲ得ルニ  
至レルコト是ナリ抑々此豫期ニ反セシ結果  
ノ原因ハ何ニ存スルヤ

日本ノ立憲政治ノ發達ト謂フ見解ヨリ論ス  
レバ寺内が大隈の後繼者タルニ至レルコト  
ハ寔ニ不幸ト云ハガルベカラズサレド吾人  
ハ寺内々閣ハ特ニ日本ノ對支外交ヲ改善ス  
ルノ目的ヲ以テ成立セルコトヲ忘ルベカラ  
ズ疑モナク日本ノ最大問題然則支那問題  
ナリ支那ニ於テ新政策ヲ立ツルノ急務ハ其



他ノ問題ヲ一時閑却セシムルニ至レリ新内閣ノ最モ重要ナル仕事ハ大隈内閣ノ對支外交ヲ一變シ日支間ノ關係ヲ善鄰親善及尊敬ト謂フ健實ナル基礎ノ上ニ確立スルニ在リ  
一千九百十五年一月ノ對支要求ノ如キモ其内心ノ目的ヨリ論ズルバ多少ノ理由ナキニ  
アラズ然レドモ思慮先見アル外交家ハ決シテ彼ノ廿一ヶ條ノ如キ方法ニ於テ之ヲ提出セザリシナラン實ニ思慮アル外交家ハ其要求中ノ一部分ハ兩國經世家ノ談笑ノ裡ニ之

が解決ヲ試ミ決シテ高壓的ノ外交手段ヲ取  
ラザリシナラン

大隈侯ヲ崇拝スル余トシテハ此老偉人ニ對  
シテ侯が無先見ナリシトノ攻撃ヲ敢テスル  
ハ實ニ心外ニ堪ヘザル所ナルガ恐ラクハ侯  
ノ慧眼モ所謂支那通及侵略主義ノ軍人等ノ  
為メ一時眩セラル、ニ至リタルモノナルベ  
シ余ヲ以テ之ヲ見ルニ對支要求ノ真ノ責任  
者ハ支那通及軍人等ナリシガ如シ  
大隈侯辭職後ハ一月間ノ形勢ヲ見ルニ侯隱

退、真ノ原因ハ國民ノ不滿及元老ノ非難ヲ  
招クニ至リシ對支外交ノ失敗ニ在リシコト  
疑ヲ容ル、ノ餘地ナキナリ元老中ノ首席者  
ニシテ保守主義ノ權化ナルト同時ニ高尚ナ  
ル愛國心ニ富メル山縣公ハ日支兩國ノ漸次  
隔離スルヲ見テ憂懼ニ禁ヘザルモノ、如ク  
ナリシガ遂ニ此憂フヘキ状態ヲ救済シ得ル  
モノハ當時ノ朝鮮總督寺內正毅元帥ヲ除キ  
テハ一人ノ其任ニ當リ得ベキモノナシトノ  
斷決ヲ下スニ至レリ山縣ノ見解が果シテ正

確ナリシヤ否ヤハ之ヲ將來ニ問ハガルベカ  
ラズ

元來日本對支外交政策ニ最大障礙ハ總理  
大臣及外務大臣、陸軍部内ニ勢力ヲ有セザ  
ルコトニアリタリ陸軍大臣ハ文官ニ非スシ  
テ將官ナリ此故ニ内閣總辭職ニ際シテモ彼  
ハ他ノ閣僚ト共に辭職スルノ必要ナキナリ  
而シテ多クノ場合ニ於テハ文官タル總理大  
臣ハ各省ヲ支配スル筈ニシテ何省ト雖モ首  
相ノ承認ヲ經ズシテ其根本的ノ方針ヲ決定

スルコトヲ得ズ然レトモ此根本的ノ方針ヲ  
實施スルニ當リテ陛下首相ノ直接管督ヲ受  
クルコト能ハサル細目アリテ而カモ此等ノ  
細目中ハ根本的方針ト同様重要ナルモノ  
屢々之レアリ

一例ヲ舉グレバ則チ支那問題ニ関シテハ日  
本ハ同國が鞏固ナル政府ヲ設立スルコトヲ  
飽クマテ幫助セシコトヲ冀フ此政策ハ陸海  
軍大臣ヲ除キテ悉ク文官タル内閣ニ於テ決  
定セル所ノ政策ナリ左レト陸軍省ハ斯ノ如

キ政策ニ對シテ極メテ冷淡ナル大臣ノ管督  
ノ下ニアルヤモ保シ難シ

總理大臣ハ閣議ノ決定ニ基キ陸軍大臣ニ對  
シテ陸相及其部下ノ取ルベキ行動ヲ指示シ  
陸相ハ之ニ贊同スルコトアラシモ時ニ或ハ  
陸相ハ總理トノ約束ノ精神ニ違背セル行動  
ヲ取ルコトアリ斯ノ如キ場合ニ於テハ總理  
ノ位置ハ頗ル困難ナリ何トナレバ彼ハ陸軍  
部内ニ命令ヲ下スノ權能ヲ有セザレバナリ  
吾人ハ思惟ス夫ハ大隈内閣ノ對支要求ナル

モノハ恐ラクハ總理及外相が内心賛同セザ  
リシ所ノ陸軍部内ノ要求ニ過キザリシト併  
シ吾人ハ決シテ確實ナル證據ヲ有スルモノ  
ニ非ザルナリ支那ニ於ケル日支兩國兵ノ衝  
突ニ付テハ其曲却テ日本側ニヤリシが如ク  
ナレドモ陸軍省が終ニ總理及外相ヲシテ陸  
軍側ノ説明ヲ承認スルニ至ラシメタルハ實  
ニ自然ノ勢ナリ

余以爲ク日本政府ノ弱點ハ文官が武官ヲ抑  
制スルコト能ハザルニアリト故ニ理想的ノ

救濟法トシテハ文官ヲシテ陸海軍大臣タラ  
シムルニ在リ實ニ此計畫ハ屢々講究セラレ  
タル所ナトモ終ニ未タ實施サレタルコト  
ナシ是故、現時ニ於ケル最モ便宜ナル方法  
ハ陸軍ヲ管督シ得ルト同時ニ支那ニ對シテ  
寛大ニシテ且同情心アル人ヲシテ内閣ノ首  
班ニ列セシムルニ在リ

日支關係ヲ親善ナラシムルハ日本刻下ノ大  
問題ナリ此點ニ付テハ若シ寺内ガ公平且親  
切ナルニ於テハ彼ノ政權掌握ハ賀スルニ足



ルナリ日本ノ對支外交ハ必要上強硬ナラザ  
ルベカラザレドモ親切ヲ欽メル強硬政策ハ  
却テ柔軟ナル政策ニ劣ルトモ勝ルコトナシ  
若シ寺内々閣ニシテ支那ニ對スル前内閣ノ  
政策ヲ放棄シ日支官民ノ真ノ親善ヲ主トス  
ル新政策ヲ確立スルニ於テハ齋ニ日支兩國  
ニ對シテノミナラズ實ニ人道及文明ノ為メ  
賀スベキコトニ謂フベシ

寺内ノ對支政策ニ関シ豫言スルハ聊カ早計  
外誹ヲ免ヒザルトリ併シ風ノ方向ハ既ニ定

マレルガ如シ即チ寺内々閣成立後外務省ニ  
於テ彼ノ對支要求ニ関シ直接ノ責任ヲ有セ  
ル某高官ハ辭職ノ意志ヲ發表セリ

又一ノ風説アリ即チ元老ノ首位ニアル山縣  
老公ハ自ラ支那ニ赴キ同國ノ日本ニ對スル  
感情ヲ融和セントスト然レドモ新内閣ノ支  
那ニ對スル方針ハ前内閣ガ滿州ニ於ケル日  
支兩國兵ノ衝突ニ関シテ嚴重ナル談判ヲ開  
始セルニ對シ既ニ快ク之ヲ撤回シ且滿州鄭  
家屯ヨリ日本兵ヲ撤兵セルヲ見バ實ニ瞭然

タリ大隈内閣ハ鄭家屯事件ニ際シ日本兵ヲ  
滿州各地ニ駐屯セシムルト同時ニ日本將校  
ヲシテ支那兵訓練ノ任ニ當ラシムベキ權利  
ヲ要求セリ而カモ寺内々閣ハ既ニ此要求ヲ  
撤回ヲモ宣言セリ

寺内總理大臣ハ其施政及外交方針ヲ演説ス  
ルニ當リ時ニ日支親善ノ必要ヲ述べタリ外  
相本野千鶴ハ更ニ一歩進デ日本ノ支那ニ對  
スル新政策ヲ宣言セリ

寺内々閣ハ支那ノ信用ヲ得シコトヲ努ムル

トミカラズ支那ニ關係ヲ有スル列強ノ日本  
ニ對スル信賴ト好意ヲ回復セシム欲ス此故  
ニ外相ハ其演說中ニ述ベテ曰ク日本ハ他國  
列強モ支那ニ於テ利害關係ヲ有スルコトヲ  
忘ルベカラズ故ニ日本ハ其利益ヲ擁護スル  
ト同時に列強ノ利益ヲ尊重シ且先第一ニ  
日本カ特殊ノ協約ヲ有スル諸國トハ常ニ步  
調ヲ一ニシ其他ノ列強トハ利害莫ク調和セ  
ルベカラズ云々ト

夫隈内閣ノ對支政策ハ常ニ列強ノ猜忌ト疑

懼ヲ招徠セリ反之新内閣ハ支那ニ於ケル米  
國ノ利害ニ関シテハ特ニ注意ヲ拂ヒ日米兩  
國ノ意志ハ疏通ヲ圖ルコトヲ切望スルモノ  
ノ如シ

本野平爵曰ク日米兩國間ニ同情ハ念生スル  
ニ至リタル徵候アルハ實ニ賀スベキコトナ  
リ一例ヲ舉グニ日米國ノ資本家ヨリ支那ニ於  
テ日米ノ共同事業ヲ興スル提案アルタリ帝  
國政府ハ兩國間ニ經濟關係ノ發達ニハ常ニ  
專心留意スベシ云々ト

右ノ演説ニヨリ先般締結サレタルアメリカ  
シムスターナシヨナルコーポレーション及  
或ル日本資本家ノ出資ニ係ル試験的ノ共同  
事業ハ一層重要視セラレベキナリ昨年十月  
シムスターナリ山會社が支那ノ大運河ノ改築  
ノ計畫ヲ發表スルヤ日本ハ之ニ對シテ抗議  
ヲ為セリト傳フルモノアリシモ事實ハ全ク  
正反對ニシテ日本ハ米國ト共同センコトヲ  
冀ヘリ

寺内閣ノ新政策ノ支那ニ與ヘタル好感ハ

既ニ明ナリ即チ最近二ヶ月間、支那政府ハ  
從來ノ誤解ヲ一掃スルノ目的ヲ以テ日本ニ  
特使ヲ派遣セリ而シテ日本ノ官民ハ其一行  
ヲ甚タ驩待セリ而カモ日本ハ支那ノ特使派  
遣ニ對スル答禮ノ為メ米國ニ於テ多クノ知  
己ヲ有スル金子千鈞ヲ特派スルノ議アリト  
謂フ

右ノ事實ハ悉ク日支親善ノ善徵ト云フベシ  
寺内ノ對支政策ガ國民ニ由リテ認メラレタ  
ルハ總選舉ノ結果ニ由リ既ニ明ナリ今ヤ寺

内ハ其主張ヲ實行スベキノミ然レドモ若シ  
季内ニシテ其内閣ヲ永續セシメント欲セバ  
則テ舊ニ日支關係ヲ改善セルノミニテハ不  
可能ナリ即チ其常ニ有スル君主專制主義ノ  
少ナクモ一部分ヲ放擲シ現代思想ノ正路ヲ  
進歩主義ノ經世家ト共ニ相提携シテ蹈ミ行  
カザルベカラザルナリ



六月十一日アドヴァタイガー社説 抄譯

日本獨逸

六月十一日所傳がタムバシ杜説（新譯）

ハリスリツフ（譯者曰卿ハ列イニ及テ其リ

ハ、又直ニ持金ナリ）派新聞ハ一通信員ニ奉内

伯ニ會見ヲ求メ單刀直入伯ニ向テ伯處所謂國

際間ハ危機ニ當テハ或ハ日本ガ獨逸ニ於テ同

盟ヲ求マルコト無キヲ保スベカラス云云ハ意

味ヲ實問セリ之ニ對シテ首相ハ吾人が五月廿

九日ハ本紙ニ於テ提案セリ意味即チ斯ハ如

村場合ハ不可能ナルベキト返答ヲ爲セ賜蓋シ

此レ以外、<sup>返</sup>回答ハ事實上不可能ニ決テ而シテ  
吾人ハ伯シ誠實ヲ毫モ疑ハズ、且ル經驗アル  
外交家ハ、ハ一ハ之レ氏ハ假設的ノ問ニ對シテ斯  
レ如キ場合ハ決テ生ゼザルベク、且又日本  
一ハ九百十四年以來其行動ニ由リテ斯レ如キ  
場合ハ生ゼザルベク、證明シ居ルハ、回答ハ決  
テ軍人的經世家ハ外交家ニモ非ズ、政治家  
ニモ非ザルナリ、而シテ亦内伯ハ無思慮ハ其外  
國ノ新聞記者ニ對シテ淡泊ニ且滿意ナク會談  
セシゴトヲ欲セシ結果ナルヲ以テ該記者モ今

一層明瞭：首相が斯ノ如キ場合ニ決シテ事實  
上有リ得ベカラザルコトヲ述ベラレシ點ヲ記  
述スベカリシトモ、月日ノ氏ハ、昨點ニ付  
テ特ニ通譯者ノ注意ヲ惹キタレトモ、通譯者ハ  
其重要ナルコトヲ看過シタルガ如シ、首相ノ施  
政ニ對シテ批難スル人多ケレトモ、首相ハ僅々  
數人ノ敵ヲ有スルニ過ぎサルナリ、此故ニ首相  
ガ其失言ノ犠牲トナルニ至レルハ誠ニ遺憾ニ  
堪ヘザルナリ、  
日本新聞ハ此問題ヲ大ニ討議セ、其平素現

内閣ニ對シテ慊タラザルヲ以テ一層酷評ヲ下  
セルガ如シ然レドモ春秋會ノ英國新聞紙ニ日  
本國民ハ飽マテモ日英同盟ニ對シテ忠實ナル  
ヲ打電セシガ如キハ首相ハ過失ヲ償ハント欲  
スル衷情ノ結果ニ外ナラザルベシ吾人ヲ以テ  
之ヲ見ルニ新聞以外ノ有カナル社會ニ於テモ  
此問題ハ議セテタルガ其論旨ハ略同ナリ  
ギ併シ吾人ノ主張即チ首相ハ一ハ解解書ヲ發  
表スヘシト云フ點ニ付テハ賛成者ナカリシガ如  
シ蓋シ被等ハ辯明ハ蓋々事態ヲ險惡ナラシム

ルモ各ト思考セラルが如シ首相ハテハリ、  
此ノ記者ニ向テ日本ノ將來ハ英國ノ將來ト同  
シク一ニ協商國側ハ勝敗如何ニ由ルモ必深シ  
テ極東ニ於ケル獨逸ノ勢力ヲ打破スルニ非ザ  
ルハ日本ノ將來ハ頗ル危険ナリト述べテ以テ  
ルガメイソン氏ノ同一ノ質問ニ對シテ不韙ニ  
シテ首相ハ大問題ヲ惹起スニ至ル言辭ヲ乘  
セテレタリトナルド、オガエシヤ、記者ハ首相  
ノメイソン氏ニ述べテレタル言辭ニ對シテ最  
モ適切ナル解釋ヲ施セリ曰ク寺内伯ハ其意中

決シテ戦争ノ勝敗ニ付テ萬一ノ場合ヲ畫カレ  
タルモノハ非ズ伯ハ單ニ戰後國際關係ノ變化  
ニ付テ述ベラシモノニシテ萬々一日本ガ孤立  
スルガ如キ場合アラバ獨逸ト和解スルハ必要  
ヲ述ベラレタルニ過ギザルナリ云々ト吾人ハ  
ベテルド記者ト同感ニシテ而カモ日本ハ孤立  
ハ英米ガ日本ニ對シテ有害ナル政策ヲ取ル  
至ルカ又ハ日本ガ此兩國ガ反對スヘキ政策ヲ  
取ルニ至ルカノ場合ニハミ生スヘキヲ以テ事  
實上殆ンド有リ得ベカラザルコトナリ

ベラルド記者ハ更ニ進ンデ論ジテ曰ク日本ノ  
新聞ハ寺内伯（註）對シテ公平ナラザリシガ只吾  
人ハ満足ニ堪ヘタルハ新聞以外ノ有力ナ社  
會ニ於テ異口同音ニ伯（註）ノ言ヲ甚ダ遺憾ナリト  
シ伯（註）ガ日獨同盟ハ如キハ最モ嫌忌スベキコト  
ナルヲ斷言セザリシヲ惜ムモノ、如シ吾人ハ  
寺内伯ハ誠實ヲ認ムレドモ伯ガ右ハ如何斷言  
セタルタルニ於テハ則チ以テ日本國民有識階  
級ノ真意ヲ一層確實ニ表白シ得タルモノト謂  
フベキナリ云々ト



元來日本、於ハ政府ハ常ニ協商側ニ對シテ  
忠實ニシテ新聞ハ往々政府ニ反對セシガ今回  
ノ問題ニ關スル日本新聞ノ態度ハ由リ其大  
ニ變化シ來實ルヲ知ル而カモ其變化ハ協商國  
側ノ位置ヲ改善セラレ計ガ為メニ非ス亦日本  
ガ獨逸ノ軍事的功績ヲ認メサレト至ルガ為  
メニ非ス即チ之ニ獨逸ガ其人道ニ違背セル  
行為ニ由リ國際間ニ於テ其位置ヲ失フニ至リ  
然レドモ其確信ハ此ガ為メナリ

自ナ月廿日  
至の 廿日  
ジャバ  
アトワ  
タイサ  
社説大要  
(諒文)

ジャバ  
アトワ  
タイサ  
社説大要  
(諒文)

ス(キモノナ)

支那支那以獨立ヲ危クスルモノハ何ゾヤ  
外國大國多ク日本ヲ過般南滿ニ於テ日支兩國  
對兵率閥ニ小衝突ヲ起シタル結果之ヲ口實ト  
爲テ其所謂勢力并立範圍ニ屬スル滿洲如一部並  
地理學上漠然タル名稱即チ東亞トテ稱セラル  
東亞即チ領土ニ對シ其拘束ヲ一層嚴クスルキ  
トヲ確信スルカ如シ一八九十五年五月日支條約  
中ニ南滿及東亞各ト稱地ヲ示シ、地ニ附スル區域ヲ正  
確ニ決定セザリシハ遺憾ニ禁スル所ナリ若  
シ日本カ果シテ其勢力範圍ヲ益々擴張スル

ノ野志ヲ果下セザル日本ハ其特殊利益關係ヲ  
有ス此北滿州ノ地方ハ境裏ヲ決定セザルハ其  
權方其將來ノ衝突ノ原因ヲ貽セ止  
ハタチ免レズ左ノ日本ハ一九〇五年九月  
支那ノ對シテ為シテ要求ヲ見以テ日本ハ斯  
如ク野志ヲ有ス下倭定メテ決シテ不當ヲ  
非ナシ或ハ其兩國ノ協定者其故意此  
域ヲ決定ヲ為シテ其結果ハ其北滿州  
我支那側ニ於テ其歐洲戰事終局ノ後  
支那ノ國情ハ其支那ノ國情ハ其支  
支那ノ國情ハ其支那ノ國情ハ其支

本邦侵畧ヲ防グコトヲ得ズケント思惟シ日本側ニ  
於テ公他日同地方ニ於テ何等カ強事端ヲ生スル  
に至ル損害賠償トシテ新ナル利權ヲ獲得ス  
ル上ニ於テ却テ便利ナラント思惟セシモノナラ  
ン其ハ鬼ノ角入テヤ茲ハ斯ル如キ事端發生セ  
シヲ以テ日本ニ此機會ヲ利用シテ其勢力ヲ範圍ヲ  
擴張スルニ至ルヤハモ前未ダ知ルベカラサルナリ  
支那ノ識者ハ日本ヲ以テ支那ノ獨立對危ラスル  
最大原因ト爲スモノ、如シ彼等ハ日本カ他列  
強ニ比シテ支那ノ政治上大ナル勢力カヲ有スルヲ

知トリ今ヤ臺灣其既、日本化ヤラレ朝鮮モ  
亦日本帝國ノ版圖、歸スルに至リ南滿及東蒙  
古亦單ニ其名義、支那共和國ノ提封、屬  
スルニ過キス山東及福建ハ全然日本ノ勢力範  
圍ニシテ又日本ハ支那ノ製鐵業並ニ多大ノ勢力  
ヲ有セリ斯ノ如ク日本ハ既往、於テ支那ヨリ  
莫大ナル領土ヲ獲得シタルヲ以テ支那人カ曰  
本ヲ以テ其國ヲ獨立ヲ危ラスルモノト爲スル蓋  
其自然ノ勢カトナリ左レト此見解ハ全然其正鵠  
ヲ得タルモノトハ儼謂フヘカヲ也此ナリ若ク支

邦ニシテ其國家並與之タタ多クノ機人會ヲ利  
用シ其富強ヲ謀ル所アリ其國今ニ至ル其獨立  
決シテ危殆殆瀕スルカ如キコトナケラザラン然レモ  
支那ハ前世紀以來於英清戰爭佛清戰爭教訓  
ヲ無視シ依然トシテ強大ヲ以テ自ヲ誇ビリ日清  
戰爭北清事件モ亦被害ノ何等ノ教訓ヲ與ヘサ  
リシハミナラス千九百四年日露兩國カ其領土内  
於テ大戰爭ヲ開始シ南滿州ヲ馬蹄ノ下ニ蹂躪  
セリ其後ハ亦少シモ自覺見出ル所ナク遂ニ千九百  
十四年日本カ其意願ヲ行ハケ其其其領土内

ニ進マ被メシテ最モ屈辱的ノ要求ニ服セシメ  
タル時、於ニスレ尚且ツ醒覺奮起セザルコト  
歟

尊大ニシテ不遜無能ニシテ無智トモ支那ハ人ヤ  
國ニ其獨立ノ基礎破壊セザルコトヲ隱々見ナ  
カシ泰然トシテ袖手安坐シ居トリ而シテ唯其爲  
ス所ノモノハ其運命ノ支配者タル日本ニ對シテ  
時々無氣極ムル抗議ヲ試ミ止メ止マルカニ支  
那ハ其不幸ノ淵源ハ却テ其國內ニ存スルコトヲ  
未ダ自覺スルコト能ハザルナリ支那カ迫害ヲ被



ルハ其國民カ急情ニシテ且ツ自國ノ強大ヲ過信  
スルカ為メナリ換言スレハ其國民ハ歴史的ニ他國  
民ヨリ卓越セリトノ幻想ヲ抱キ世界ノ進步發達  
ニ對シテ全然其目ヲ閉ジ居ルカ為メ、今ヤ看々  
其最後ノ運命ノ淵ニ墮<sup>急キ</sup>リツ、アルナリ世ノ感情家  
ハ支那カ其獨立ヲ失フヲ見テ遺憾トスルトランモ  
實際家ハ支那カ事實實之ヲ支配シ得ル國ニ依  
テ統治セララル、ヲ以テ世界ハ為メ並ニ支那國民  
ハ為メ幸福ノ曙光ト看取センノミ、國家トシテノ  
現在支那ハ自身ノ為メ又世界ノ為メニ危險ナ

リト謂ハサルベカラス彼ノ國民性カ急激ナル且意  
外ナル大變化ヲ爲サ、此限リハ彼ノ傲慢不遜ト  
彼ノ柔弱トハ終ニ其國ヲシテ他國ニ由リテ支配  
セラルハ運命ニ陥ラシムルニ至ルヘキハ瞭然トシテ  
大ニ睹ルヨリモ明カナリ斯ル最後ノ場合ニ臨ン  
テモ尚且彼ハ其自ラ招キタル運命ヨリ救ハレ  
カ爲メ他國ニ援助ヲ期待セシカ如シ併シナカラ  
諸列強ハ既ニ支那ニ對シテハ愛憎ヲツカシタル  
カ如シ列強ハ戰後ハ一ニ永久的平和ヲ希望スル  
ナルヘシ然レモ其柔弱ニシテ府府敗セル支那ハ存立ハ反テ平

給事書不勞而虞大キ能ハス要那自ラ其國內改  
革刷新ヲ斷行果シ能ハス下已ニ證明ガ有ル前  
知速ニ此平和ヲ對スル障害ヲ除去スルコト必  
要ナシ平和ヲ對スル障害トハ何ゾ曰ク不名無義ニ獨  
立國ト爲ス支那存立ニ是ヲナリ若シ此獨立ヲ廢  
構ニ支那ヲ除キスルハ東亞之ヲ支配シ得ル國民  
ニ由リテ其改善刷新ヲ遂クルコトヲ得ヘキナリ久  
夢戰亂ニ倦ミ疲ミタル歐洲列強國或ハ日本ヨリ  
對其欲ハス所ヲ爲サシムルヤモ測知ハルカニ其ナ  
リサレト吾人ハ斯ニ思フモ境內人民求メサレト切望

シテ已マサルヲ現存、支那ヨリモ日本ニ統治下ニ  
歸シタル支那カ遙カニ優劣ハキストハ勿論疑ヲ  
容ルズ併シ其結果或ハ再ト平和ヲ攪亂セラル  
ルコトナキヲ保スヘカナルナリ

支那ノ購財政ノ竟ニ列強ノ監督下ニ歸スルニ至  
ランガ若シ支那人カ省悟シテ愛國正義ノ觀念及  
眞ノ自信心ヲ興スル至ルマニ其國家乃列強ノ合  
同統治ノ和平措クコトヲ得ハ是レ實ニ最良ノ策  
耳之ヲ要ス隨ニ現人等ニ於テ支那ノ對スル最大  
危險ハ日本ニ在ラスシテ支那自身抱ル問題ナルハ

カラサルナリ

日本ノ官憲及財政工業界ノ有力家等ノ多クハ  
常ニ日米親善論ヲ主張シ太平洋ヲ編纂ニ相對スル  
此ノ兩大國ノ實業家等方ニ密接ナル商業關係  
ヲ有スルに至ルヘキ必要アルヲ主張成爲唱導スル  
トモ新聞紙上ニ於テハ米國ノ政策ヲ攻撃セル所  
ハ記事屢々掲載セラル其甚シキに至ルハ太平洋  
對來ルヘキ大戦争ヲ舞臺トナルハ我國豫言スルモ  
アリ是實ニ意外ノ感ニ禁ミサル所ナリ

曰ク米國ノ富ハ輒近長是ノ發達ヲ爲セリ曰ク米國ハ

盛ニ海軍擴張ヲナシツ、アガト此ニ至ツ、則チ其後  
等ノ豫言ノ根據トシテ提與スル所ニ要ナリ而シテ  
彼等ハ一種不可解ノ理由ヲ下シ、米國必ズ此富ヲ  
日本ニ對シ或ル不善ナル目的ヲ為スニ使用シ且極  
東ニ何處經濟的ニ侵略スル試ムル事ヲ許サズ  
スルヲ、如シ又彼等ハ同シ薄弱ノ理由ヲ下シ米  
國ノ海軍擴張ハ帝國日本ニ對シ強對ニ脅威ヲ  
居ルモノト相シ像セリ是亦大ニ誤キトリ蓋シ米國  
海軍擴張決シテ侵略的ニ非ズシテ寧ロ防衛的

トリ

歐洲戰亂ノ結果米國ノ富力ガ著シキ増加ヲ爲シ  
其事實實ニ大ニ同時ニ日本ノ富力ガ著シク  
増加セシニ非スヤ否シテ此兩國ノ富力ハ増加ヲ比  
較スルトキ其戰前ノ富力ガ比例シテ孰レトモ多  
ク増加セシヤハ未ダ俄ニ斷言スル能ハサルナリ勿論  
戰前ニ於ケル米國ノ富力ハ日本ノ其レニ比スル  
トモハ多ク大ニ差アリシ然レトモ米國ノ其ノ富力ヲ  
持テテ以テ日本ニ對シ侵略ヲ試ミ、シユトナカリキ  
然レ則テ將來ニ於テ米國ノ其ノ富力増加シ  
タル理由ヲ以テ日本ニ對シ侵略ヲ試ムヘシト



論斷之ハキ根據ナキニテアラスヤト云ハル  
米國ノ商業的膨脹ニ關シテ固ヨリ米國カ將來  
於テ眞白輸出國トナルハキハ毫モ疑ヲ容  
レザル所ナリ左ニト現入云々ニテ米國ハ其鉅大ナル  
生産ヲ重シ其國內ノ消費ニ供シタルコト明カ  
ナリ而シテ早晚米國カ外國市場ニ向テ其手足  
伸スル時期到來スヘキヲ以テ極東ニ於テモ亦健  
全ニテ正當ナル商業的競争行ハルハ時アラシ  
キ其市場實廣大ナリ以テ破ノ遺澤男ハゲアリ  
恒氏金平子等米商張也ナリ如ク日米ノ實業家

カ互ニ相協同シテ此ノ商業的發展ヲ為スコト  
決シテ不可能ニアサルヘ

米國ニ所謂黃色新聞紙ナルモノアルカ日本ニモ  
亦之アリ唯茲ノ心外トスル所ノモノハ現今日本ニ  
於テル第一流ノ雜誌ニ甚ダシキ排米論掲載ヤ  
ラルコト是ナリ此等ノ記者ハ若シ其雜誌ヲ目  
スルニ黃色紙ヲ以テセハ必ス拂然トシテ忿怒セン鬼  
毛角日米兩國ノ言論界カ餘リ批評的ニ傾キテ  
建設的ナラサルハ吾人ハ深ク遺憾トスル所ナリ

現存日本ハ立憲政体ヲ脱セシトスルヲ傾向アルヲ  
見ル。其内伯、總理大臣不シテ任命セラレタル  
日本ハ憲法各條文ニ違背有セシトナキモ立憲政治  
ヲ精神ニ失ヒルコトハ毫モ疑ハズ。客ハ、餘地ナシ此  
ハ不幸ナル傾向アルト同時ニ外交問題ヨリテ日本  
國民力有スル唯一ノ代表機關ヨリ遠カラシメ  
ト大ニ憂慮ス。各政黨ハ外交ヲ政爭外ニ措ク  
ハ重要ナル論議所ナキモ其首領ハ既ニ之ヲ贊同同意  
ニ表シタ

反之、西洋に於てハ大戰亂ノ結果普通國民  
ト雖モ外交問題ニ客喙スル權利ヲ有スル意  
トヲ識者ハ一層深ク感スルに至レリ何レハ辭交  
懷成否ハ平和和恩惠ハ浴セシ國民ヲシテ一瞬時  
人間其希望慣ルル職業ヲ棄テ悲慘トシテ  
斬斷豪主法ヲ禁マサルカヲ至ラシムルハ大  
小研究識者ハ此問題ヲ講究スルに隨テ所謂  
秘密的國際政治盛衰時代全ク去ルタルヲ益々深  
ク感スルに至リ戰後歐洲に於テハ眞實ニ進  
化主義又ハ革命相起リ其結果著シク民權發

達スルニ至ラン各國ノ人民ハ現時マデハ不幸ニシ  
テ杜界カ過マテル基礎ノ上ニ建テラレ且誤マテ  
ル理想ヲ有セシコトヲ總見知スルニ至レリ戰後ニ生  
スヘキ幾多ノ革命的變動中ニ第一其影響ヲ  
蒙ルヘキモノハ外交ナサルヘカラス歐洲ノ大亂  
ハ何レノ國民ト雖モ決シテ希望セシ所ノモノニ非  
サルヘシ而カモ其結果終ニ殆ント無限ノ犠牲ヲ拂  
ハサル可ラサルニ至リタルハ實ニ不幸ナル國民ト謂  
フヘシサレハ吾人ハ茲ニ「アトランティック」雜誌掲載ノ  
國民外交監督權ト題スル一篇ヲ轉載シテ以

云讀者一語曰乞ハニ欲ス

副島囁枕譯

才官の訓系ニ對する評論

レヤパン カゼット

レヤパン アドバリータイガ

大正三年十一月四日

内閣總理大臣秘書官

通

信

箋

内閣成立当時毒筆

ヲ弄セル函紙一態交近

来著ク事化セル付論既  
併言覽

世才官ノ訓系ニ對スル評論

副島暎次郎

レヤパン カゼット

レヤパン アドバタイザ



# 寺内伯ノ政策

十一月一日「ジャパン・アトグタイダー」社説（摘要）

寺内伯カ總理大臣トシテ地方官會議ニ於テ  
述ヘテタル演說ノ譯文ハ去ル日曜日ノ紙上ニ  
掲載セシカ日本ノ新聞紙ノ多クハ此演說中ニ政  
策トシテハ一ノ見ルヘキモノナシト批難スレトモ吾人  
ハ伯ノ演說ヲ一讀シテ伯ノ精神ノ存スル所ハ日  
本固有ノ道德換言スレバ忠義紀律質素等ニ  
重キヲ措キ物質的進歩ニ伴フ諸般ノ弊害ヲ  
戒ムルニ在ルヲ知ル吾人ハ伯カ眞ニ高遠ナル性

格ト理想ヲ有セラルコトヲ知レトモ伯カ毫モ撓  
性ヲ有セサルヲ遺憾トス蓋シ此撓性ハ日本人  
如ク進取的人民ニ必要ナシモ在リナリ  
外交ニ関シハ伯ハ僅ニ左ノ三點ヲ述ヘラレシ  
過キス即テ聯合諸國ト共同ノ目的ヲ達スルコト  
日英同盟カ外交ノ機軸タルコト及隣邦支那ハ  
對シ殊ニ友誼ヲ示シレシコト是ナリ由是觀之ハ  
伯ノ外交ハ非侵略的ニシテ全ク友誼的ナリト謂  
フヘシ

内政ニ関シテモ立憲的ナルニハ相違ナキモ英米ニ

於ケル立憲ノ主義トハ大ニ其選ヲ異ニセリ即  
テ政黨ノ存在ハ認ムレバ内閣ハ政黨ニ對シテ  
ハ毫モ責任ヲ有セス換言ストハ伯ノ立憲主義ハ  
眞ノ立憲主義ニアラスシテ虛想的立憲主義ナ  
リ  
教育ニ關シテハ伯ハ日本固有ノ主義ヲ主張セリ  
吾人ハ此點ニ付テ日本ノ同情ヲ表スルト同時ニ  
尊敬ノ念ヲ起サハルヲ得ス寺内伯ハ如キ嚴格  
ナル主義ヲ有スル人カ多數人ノ容ル、所トナルハ  
頗ル覺束ナカラシガ伯ハ多數政黨ノ存在ニハ頗着

セハルカ如シ之ヲ要スルハ伯ノ施政ハ實行ヲ主ト  
スルカ故ニ其効果ハ蓋シ多クナルニシ問題ハ貧  
弱トシテハ全然政黨ヲ無視スルキヤ否ニ在リ此  
點ニ付テハ吾人ハ私ニ内閣ヲ前途ヲ悲觀セサ  
ルヲ得タルナリ

總理大臣寺內伯、政策二十月三十日ガゼット社説  
總理大臣元帥伯爵寺內氏カ去ル上曜日地方官會  
議ニ於テ述ベラレタル演説ハ政府、外交政策及内  
政方針ヲ示セルモノナルカ故、此際特殊、興味ア  
ルヲ覺見フルモノナリ

超然内閣ヲ標榜セル寺內内閣、成立ハ日本ニ於  
テ非立憲的ニシテ且侵畧的時代、到來セルモノ  
ナリトシ憂懼ヲ一時世人、與ヘタレトモ伯、演説ヲ  
一讀スルニ、一、非立憲的又ハ侵畧的ナル政策、存  
在スルヲ認ムルコト能ハサルナリ伯、内政ニ關スル

意見及見解ハ全ク立憲的ニシテ外交政策ハ親  
密的ナリ若シ總理大臣ノ政策ヲ一言ニシテ以テ  
之ヲ蔽ハント欲セハ則チ伯自身ノ所謂正義ヲ重  
ンシ外交ヲ信ニスル是ナリ

内政策ニ關シテハ專内伯ハ建國ノ本義ニ基キテ  
人心ノ歸向ヲ導キ立憲正道ヲ履ミテ皇謨ヲ  
翼賛スルヲ以テ其根本ノ主義ト為セリ換言ス  
レハ上ニ主仁ノ聖旨ヲ奉戴シ下ニ忠良ナル國民  
ノ希望ニ副ビ且チ宏遠ナル皇猷ヲ贊襄シ以テ  
國運ノ伸展ニ貢獻スルガ伯ノ主義政策ナリ

ト謂フヘシ所シテ此主義ヲ實行スルノ手段ニ  
至テハ高遠ナル計畫ヲ有セラル、ヤ明カナリ外交  
政策ニ關シテハ伯ハ聯合國ト協同ノ目的ヲ達成  
スルカ爲メ最善ノ努力ヲ各マサルコトヲ宣言セ  
ラレ日英同盟ハ我外交ノ機軸トスル所日露日佛協  
約ト相待テ益偉大ナル効果ヲ顯ハシツ、アリトテ  
頗ル満足ノ意ヲ表セラレ尙進ンテ述ヘテ曰ク本  
大臣ハ正義ヲ重シシ機微ヲ慎ミテ外交ヲ信ミシ  
殊ニ隣邦支那ニ對シテハ益親善ノ誼ヲ明ミシ  
ニ以テ極東全局ノ平和ヲ確保セシコトヲ期スト

人或ハ是等ノ言ハ單ニ世界ノ耳目ヲ悅ハシムル  
ノ目的ヲ以テ述ベラレタル外交的辭令ニ過キ  
スト思惟スルモノアラシモ日本ハステ曰マテ外交上  
其責任ヲ無視シタルコトナク殊ニ寺内伯ハ政治  
家トシテ正義ヲ重ンヤラル、人ナルコトヲ忘ルヘカ  
ラス

内政ニ關シテモ亦同シク高遠ナル正道信義ヲ存  
スルアルヲ見ル伯乃チ曰ク「各政黨政治ニ於ケル政  
見ノ異同ニ對シテハ公ヨ秉来リテ平ヲ持シ虚心坦  
懷其間ニ處シ上ハ至仁ノ聖王旨ヲ夫チ戴シ下ハ忠



良ナル國民ノ希望ニ副ハント欲スト換テ言スレハ伯  
ハ政見ノ異同ニハ頓着スルコトナク「恪勤奉公」心  
ヲ獎メテ質直清廉ノ風ヲ美食ヒ時弊ニ流レス  
陋習ニ泥マス柄ヲ持スル公平ヲ旨トシ事ヲ處ス  
ル簡捷ヲ尚ビ以テ其實蹟ヲ舉ケシムルコトヲ以  
テ其任務ト為シ又國防ヲ以テ國家自衛ノ保障  
トセテ教育ニ關シテハ常ニ風教ニ留意シ以テ  
質實勤儉禮義ヲ重ンシ廉恥ヲ尚フノ美風ヲ  
養フンコトヲ望ミタリ是等ハ簡單ナル武人ハ  
言ナレド亦以テ國民ノ理想トナスヘキ所ノモノナリ

伯ハ又更ニ商業道德ヲ獎勵シ保健衛生ノ事  
務ヲ整備スルノ必要ヲ述ヘ安逸ノ慣習ヲ戒メ  
紀綱ヲ嚴ニスヘキコトヲ訓示セラレタリ

之ヲ要スルニ總理大臣ハ政見ヲ讀ムニ一トシテ  
國家又ハ世界ニ害アル點ヲ見ズ寧ろ内政ニ  
關シテハ慈父ノ心ヲ以テ臨ミ外交ニ關シテハ  
親善ヲ以テ臨メリ乃チ立憲的ナルト同時ニ國  
際法ヲ遵守スルモノナリ

吾人ハ充分ノ信用ヲ以テ此政策ノ實施ヲ期待  
スルモノナリ

日本ノ國是（十月三十一日ジヤパン・ガゼット社説）

今日ハ天皇節ノ祝日ナルヲ以テ吾人ハ過日寺内  
伯カ地方官會議ニ於テ述ヘラレシ日本ノ國是ニ  
関シ更ニ論及セシト欲スルコトアリ即チ一千八百  
六十八年明治天皇ノ宣シタマヘル左ノ五箇條ノ御  
誓言文是ナリ

御誓言文省署ス

此御誓言文ハ日本ノ大憲章ダイケンチャ（譯者曰ク「マグナカータ」  
ハ垂一千二百十五年英國王「ジョージ」ガ國民ニ與ヘシ  
自由制度ノ大憲章ニ早ナリ）ニシテ此大憲章ニ由リ

國民ハ國家ノ行政ニ干與スルノ權利ヲ有スル、  
至リタルハ事實ナリ其主權ニ干渉スルノ權  
利ヲ有セサルコトヲ立證ヘカラス

一千八百七十五年四月十四日元老院ヲ設置シタマ  
ヘル時ノ詔勅ニ曰ク

朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設  
ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審  
判ノ權ヲ鞏固ナスト

而シテ更ニ一千八百七十五年、七十六年、八十二年及  
九十五年ハ詔勅ハ諱々トシテ忠良ナル臣民カ天

壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スルノ道ヲ教ヘタマヘリ  
此等ノ詔勅並ニ憲法發布ノ詔書ハ主權者ハ臣  
民ヲ撫愛シ臣民ハ皇室ニ對シ忠義ヲ盡シ國運  
ヲ伸暢スルノ目的ヲ以テ君臣俱ニ遵守スベキノ  
法則ヲ設定セルモノナリ斯ク如クニシテ日本政府ノ  
根本ノ主義ハ教化ヲ主トスルモノニシテ人民ニ對シ  
テ慈父ノ如クナートモ亦人民ヨリ忠誠ヲ期待スル  
モノナリ所シテ人民ガ智識ヲ開發シ其主責任ヲ全  
クスルコトヲ得ルニ至ラハ則テ進ンテ國家ノ行政ニ  
參與スルノ權利ヲ與フルコトヲ欲言約サレタルモノ

ト見ルヲ得ヘシ一千八百八十九年憲法發布ノ詔  
勅ヲ見ルニ曰ク

將來若レ此ノ法ニ或レ條ニ章ヲ改定スルハ必  
要ナル時宜ヲ見ルニ至テハ朕及朕カ繼統ノ  
子孫ハ發議ノ權ヲ取ル之ヲ會議ニ付シ  
議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之  
ヲ議決スル以外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之  
ガ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシト

日本ハ立憲國ナレトモ天皇ノ大權ニ屬スルモノ  
頗ル多シ陸海軍ニ關シテ殊ニ然リ此故ニ一

千九百十四年歐洲大亂ノ起ルヤ天皇ハ英國大  
使ニ對シ日本ハ日英同盟ノ條章ニ由リ英國  
ヲ援助スヘキコトヲ述ヘタマヒ其後莫大ナル援  
助ヲ與ヘラレタリ寺内伯カ日英同盟ヲ外交ノ  
機軸ト稱セラレシハ是ニ理由アルナリ

明治維新ノ目的ハ日本ヲ日本人ノ為メニ保全  
スルニワリタリ而シテ此目的ハ充分ニ達セラレ今  
日ノ日本ハ完全ナル發展ヲ為シツ、アリ此國民  
の大發展ノ指道者ハ天皇陛下ナルカ故ニ其  
責任ハ重大ナートモ亦其臣民ノ忠誠ニ由リ大

ニ輕減セラル、ヲ覺見ユ日本國ノ内外ニ住居スル  
日本ノ同盟國民ハ此佳辰ヲ當リ衷心ヨリ日本皇  
室並、國民ノ幸福ヲ祈ルモノナリ



對東坡策一前年相見也

劉鵬鵬

# 日本ノ對支政策

一月十七日ロンドン、チャイナ、エキスプレス所載（抄譯）

日支問題、真相ハ往々兩國ノ過激黨ノ喚叫裡、  
葬リ去レテ事實ヲ發見スル、若ムコトアリ鄭家  
屯事件、如キ即チ此例、屬ス支那ノ新聞紙ハ日本  
カ故意ニ此事件ヲ發生セシメテ以テ支那征服ノ口實  
ヲ作ラントセリト論スルカ如クナルガ不幸ニシテ日本ミ  
所謂對外硬派ナルモノアリテ往々日本ノ國際關係  
ヲ傷フコトアリサレド斯ノ如キ人ノ未ダ極メ少数ナ  
ルハ日本ノ爲メニ幸福ト謂ハサルヲ得スロンドン、モー

ニシテ。ホストノ東京通信員ハ日本ノ對支問題ニ  
付テ多ク人ノ有セザル公平ハ意見且先見ヲ有ス  
同員ハ通信スロウ

ト日本ノ對支政策ハ寺内内閣成立以來激變シ  
テ今ヤ平和的ニシテ且親善ヲ主トス斯ノ如キ穩  
妥和ナル政策ハ吾人等ノ久シク見ザル所ニシテ日本  
事ノ爲メニ必ズ好結果ヲ齎ラスベキハ敢テ疑ヲ  
日ニ容レザル所ナリ吾人ハ屢々我紙上ニ於テ日本カ  
支那ニ對シ誠意ト親切トヲ示ス、至ラバ支那  
モ亦日本ニ信頼スル、至リ日本ノ正當ナル要求

ハ多ク容レラル、ニ至ルベク又支那ノ門戸モ遂  
ニ開放セラル、ニ至ルベキヲ論セリ要之日本ハ  
支那ト相和シテ以テ經濟上ノ利益ヲ獲得スル  
ルヲ以テ最良ノ策トス云々ト

實ニ通信員ノ言ノ如シ然ルニ二年前ノ日本ノ政策ハ  
支那ヲ威嚇シテ以テ獨占的ノ權利ヲ得ントセリ其結果  
一時甚ダシク列國ノ猜忌ヲ招クニ至レリ現時ニ於テ  
ハ支那ノ獨立ヲ危ウスル國ハ一モ是レアラサルナリ故ニ支  
那ハ其無限ノ富源ヲ開發シテ以テ名實共ニ獨立國  
ノ體ヲ具ヘ野心アル國ノ侵略ヲ防カサルベカラス而シテ支

耶自ラ之ヲ爲シ能フ、至ルマデハ日本が代テ之ヲ  
爲ス、責任アルが如ク思惟スルハ日本トシテハ實ニ  
尤モノ次第ナリ併シ日本が此政策ヲ急激ニ遂行  
セシムスルハ直ニ復列強ノ誤解ヲ招クコトナキヲ保  
シ難シ不幸ニシテ日本人ノ多クハ自國ノ國際關  
係又ハ國際的義務ニ就テハ極メテ無預着トル  
が如シ然レドモ今ヤ東京ノ内閣ハ皇帝ヲ始メ  
元老等ノ直轄ノ下ニアリ而シテ元老等ハ日本ノ國  
際關係ノ最モ重要ナルコトヲ常ニ熟知シ居ルハ  
日本ノ對支政策ノ前途ハ頗ル有望ナリト言ハガ

ルヘカラス、吾人等ハ別ニ日本政府ノ依頼ヲ受ケテ  
辯論スルニ非サレドモ吾人ノ所信ヲ披瀝シテ以テ  
讀者ノ安心ヲ請フント欲スルナリ云々

日本改題

日本ノ政界

三月五日夕刊ニクハ紙社説抄譯

譯者曰ク本紙社長兼主筆ロバート・ヤング氏有名人ナル排日論者ニシテ且過激ナル民權論者ナリ本紙如キ穩和ナル論旨ハ同氏ノ作ニ對シテハ實ニ希有ノ事ニ屬ス故ニ今茲ニ抄譯スルコトナセリ

日本ノ政界ニ是ニ靜穩ナルヲ以テ何人ト雖モ僅々數週間内ニ政府及反對黨ハ憲法上重要ナル問題ニ付テ國民ニ訴ヘ其可否ヲ決スヘシトハ想像



スルコト能ハル所議會力眞ニ民意ヲ代表スル  
以國ニ對スル今面ノ議會解散ノ如キ必然國內ニ  
大騷擾ヲ惹起セシムヘキコトハ日本ニ於テ英國  
民ハ極メニ冷靜ニシテ而カモ各政黨ハ其候補者  
ヲ得ルニサヘ苦シムモノ、如シテ立憲政體ノ主義曰  
リ以論スルニ這般ノ解散ノ如キ實ニ無謀ト云ハル  
ルヲ得タリ然リ而シテ現內閣ノ對議會政策ハ甚  
タシキ至國體手段ヲ請リ以テ免レナレ其對外政  
策殊ニ其對外政策ニ至テ之ヲ前內閣ニ比スレ  
ハ實ニ霄壤ノ差アリ要之事內內閣ノ政策ハ現

時ノ國際情勢ハ最モ適否ニ從テ選舉民ニ  
對シテ極メテ不平等ニ爲ルナリ

彼ノ地方官會議ニ於テル等内首相後藤内相演  
說ノ如キ又ハ兒玉總長ノ新聞紙上ニ發表セラル意  
見ヲ如キ甚ダシク帝國議會ヲ輕視セル傾向アレ  
其議員方斯クマテ蔑視セラルハ至リタルハ抑モ  
亦故ナキヤ、アテナルナリ初メ議會ノ創設セラル、ヤ議  
員ノ品位モ比較的高高ナリシカ中頃ニシテ帝國議  
會ナルモノハ單ハ一ノ討論會ニ過キタルカ如キ、至  
リ是ニ於テ有爲ノ士ハ却テ之ヨリ遠シカリ帝國議

會ニ遂ニ下級ノ野心ニ家ヲ以テ充満スルニ至リリ  
斯ノ如クニテ議會ハ事實上ハ全ク無勢力ナリ  
立法上ハ如何ナル内閣モ其存在ヲ承認セサルヘカ  
ラハ其斯クニ議員ノ品質ハ漸次下落シ自尊心有  
スル人ハ其候補者ニ就テ欲セサルニ至リシナリ  
日本ハ立憲國トシテ今後如何ナル方針ヲ取ルヘキヤ  
善魯西ノ如ク軍國主義ノ寡頭政治ニ由リ國力ヲ  
發展スル期スヘキヤ又ハ政界ノ清淨ヲ圖リ立憲主  
義ノ健全ナル發達ヲ企圖スヘキヤ寡頭政治モ  
時ニハ大効果ヲ齎ラスナレバ其弊害モ亦甚クシ

若シ日本、於ケル憲政政治カ真ハ、民意ヲ代表スルニ足ラスシテ却テ弊害ヲ生スルコトアラハ則チ之ヲ矯正シテ以テ真ノ立憲政治ヲ設立スルカ經世家ノ任務ニアラスヤ

若シ後藤内相、地方官會議ニ於ケル亂暴ナル訓示ヲ選舉民ヲ覺醒セシムルコト能ハサレハ則チ日本ニ於ケル立憲政治ハ前途尙ホ遼遠ト言ハサルヲ得サルナリ

要之反對黨ノ勝利ハ民主主義ノ發展ナレバ對外關係上面白カラサルモノアルヘク政府黨ノ勝利ハ

國家ノ政策上ハ有益ナレド民主主義ノ降服ヲ意  
味スルモノニシテ憲政ノ為メニハ賀スヘキモノニアラ  
ズナリ

# 總選舉及其後、於ケル政界

四月廿三日、アトグ、タ、イ、サ、社説（抄譯）

民主國ニ於ケル局外者ヨリ之ヲ見レハ日本ノ總選  
舉ニハ其タ、空幻的ナルモノアリ何トナレハ則チ選  
舉ノ結果ハ必スシモ内閣ノ交代ヲ意味スルモノ、  
非サシハエリ如何ニ政治屋連カ暴レ廻レトモ白皇帝陛  
下ニ信任ヲ有スル内閣ハ容易ニ之ヲ顛覆スルコト  
能ハサルナリ

若シ在野黨ニシテ政府ノ行為ヲ以テ非立憲的トナシ  
之ヲ攻撃セシカシハ結局彼等自身ノ立憲的性質ヲ

シタチ香ヒルコト示ス、過キサトナリ現内閣ノ行  
爲ニモ批難スヘキモ、多クアラシガ而カモ理論上  
ヨリ言フトキハ其行為ハ決シテ非立憲的ニ非サル  
ナリ

總選舉ノ結果ハ未タ明カナリトモ結局政府  
黨ノ勝利ニ歸スヘキハ疑ヲ容ル、ソレ餘地ナキ  
如シ寺内總理大臣ハ超然主義ノ入ナルガ所カモ  
與選舉ニ際シ多少ノ干渉ヲ試ミタリト云フ傳  
フル所ニシテ眞ナラハ寺内伯耆亦議會ニ於テハ  
多數ヲ有スルハ必要ヲ終ニ認ムルニ至リタルモ、





畏、於ケル政界、大變動ヲ知悉スルカ如シ元來日  
本人、模倣の性質實有スルヲミテ又甚タシキ  
感動性ヲ有ス現時、以テ元、日本之繁榮其極  
以テ、國內何等不平、空氣存在セサレトモ萬  
一不幸、ミシテ露國、於ケルカ如ク國民飢餓迫  
ルコト、ランカ則チ群衆、其暴動の性癖ヲ表  
示スル、至ルコトナキヲ保スルカラス

要之、眞、經世術、目前ノ政治ヲミテ、著眼セス  
シテ永遠ノ策ヲ確立スル、在リ日本人如キ國家、於  
テモ超、國內閣ハ決シテ無限ノ將來ヲ有スルモノト

思惟スハカラサルナリ

政黨内閣ヲ超然内閣カ

四月廿五日、（以下ウアタイザ社説抄譯）

總選舉ノ結果ヲ見、其前數週間、（且リ超然内

閣、國家、及衆多危害ヲ叫號シ、以テ選舉與手區

々覺悟セシトセシ反對黨ニ如何ニ感スルヤ一月、於

ケル議會解散以來、反對派ノ見、ニハ寺内内閣ナ

ルモノハ世界中最惡ノ内閣ナリシナリ然ル、選舉ノ

結果ハ如何今ヤ反對派、新聞、寺内内閣ノ勝利ノ

理由ヲ説明スル、昔ハモ、如シ日本ニ於ケル新

聞紙ノ勢力ハ果シテ如何ナルモノナルヤ二三ノ政府派

ハモカヲ除キ他ニ悉ク寺内内閣ノ勝利ニ國家ヲシ  
テ危難ニ陥ヨシムベキヨ以テ選舉民ノ責任ヲ重  
大ナルトシ又叫呼セリ然ルニ有權者ハ之ニ預着セ  
ズ寺内内閣ヨリ是ヲ勝利ヨ得ルニ至ラシメタリ其  
理由如何蓋シ國民ハ既ニ超然内閣及政黨内閣ノ  
充分ナル經驗ヲ有シ僅々數月前マデハ彼等ハ  
多數ヲ有スル政黨内閣ヲ戴テリ其實驗ノ結果  
全國民ニ超然内閣ニ政權ヲ與フコトニ決セシメ  
リ政黨内閣ニ主張者ハ僅々二百萬位ノ有權者  
ノ決定ニ國民ノ輿論ヲカサズト爲サンモ而カモ縱

令選舉法改正セラレ選舉權が擴張ヤラル、其結果ハ同一ナルベキハ吾人、疑ヲ容レザル所ナリ露國ニ於テハツドマレハ常ニ政府ニ反抗シ來リ一選舉會ニ議會ト政府トノ關係ハ益々疎隔スルに至リタルガ而カモ日本ニ於テハ國民ガ主義ヲ示シテハ超然内閣ニ反對ナレト現今日本モ世界戦争ニ參加シ最モ重要ノ時期ナリ此際現内閣ヨシテ勝利ヲ得セシメ託スルニ政權ヲ以テスルノ必要ヲ認めタルナルベシ蓋シ國民ハ專ニ内閣ニ聯合諸國ニ信用ヲ博シ且其外交政策モ果敢勇政治ヲ主トスル

政黨内閣ノ其ト、比スルニ其全ナルコトヲ自覺シ  
タレバナリ、然ルニ此政黨内閣、其黨派ノ利害ヲ生  
スルヲ以テ、往々聯合國ノ政策ニ適合セサル行動ヲ  
取ル、虞アリ、要之、反對、日本力此際聯合國ノ  
利害ヲ一ニシテ以テ永遠ノ確立セル外交政策ヲ採  
ル、最モ緊要ナルコトヲ解セサル内閣、此故ニ政友  
會、憲政會及國民黨、比スルニ其黨口民意ヲ代表  
スルモノト謂フベシ

じゃバン・アトバータイサー紙

對友如交及不信任者  
二國元社況

副島囑託

# 日本及支那

一月廿七日、ジャパン・アドヴァタイザーに所載（大要）  
本野千鶴ノ議會ニ於ケル演説ハ頗ル明瞭ニシ  
テ日本ノ對支政策ニ関スル誤解ヲ一掃スルニ足  
リ、寺内伯ハ演説モ亦然リ、對支政策カ如何ニ重  
要視セラレ、カハ、外相ハ演説ハ大半ハ殆ント之レ  
関セトヲ見テ知ルヘシ、外相ハ日支衝突ノ原因ハ日本  
カ動モスレハ支那ノ内政ニ干渉セントスル傾向アリ  
シカ為メナルコトヲ演説カヒタルカ不幸ニシテ實ハ、外  
相ノ言ヲ如シ併シ、今ヤ日本カ之ヲ自覺シ且之ヲ改



至

此ニ觀リタルハ支那ハ勿論列強ノ為メニモ亦喜  
フヘキコトナリ支那ノ内政ニ干渉スルコトカ日本ニ對  
スル誤解ノ最大原因タリシハ蓋シ疑ヨク容ルノハ  
餘地ナキナリ

元來支那ハ日本ニ信賴スルヲ覺知居タ  
レトモ日本ノ所謂日支親善ナルモノハ常ニ疑ヲ  
挾ミ居タリ何トナレバ則チ其裏面ハ必ス野  
心隱謀等伏在セシヨ以テナリ本野外相ノ日支  
親善ノ政策カ實行セラルニ至ラハ日本ノ支那ニ  
於ケル勢力ハ決シテ他ヨリ犯スコト能ハサルニ至ル

ヘシ若シ日本カ支那ニ對シ親切ヲ盡シテモ尚且  
其ノ親善ノ目的ヲ達スルコト能ハストセハ強迫  
等ニ由リテハ一層其ノ不可能ナルコトヲ知ルヘシ要  
之日本ハ支那ノ歡心ヲ得テ商權ノ擴張ヲ圖ル  
ヲ以テ最良ノ策トス矣

今日マデ日本カ支那ニ對シテ小策ヲ弄セシハ實  
ニ大ニ過ナリ何トナレハ則チ小策ハ兩國間ノ意志  
ノ疏通ヲ妨害セルノミニシテ日本ニ取リテ何等  
得ル所ナカリシヲ以テナリ吾又ヲ以テ見ルニ寺内々  
閣ノ政策ハ善良ノ策ナリ大隈内閣ハ野心ヲ抱藏

セル少數軍人ノ為メ甚シキ不始末ニ終リタルカ寺  
内伯カ内閣ヲ組織セラル、至リタルハ此弊害ヲ矯  
正セシカ為メナリ其レ然リ然リト雖モ寺内伯カ支那  
ノ問題ヲ解決シタルハ實ハ一時的ノモノナリ何トナ  
レハ寺内々閣モ亦永久的ニ存立スルコト能ハサルヘ  
ケレハナリ

日本ノ對支政策、根本ハ眞ノ親善ニナリ日本ノ  
誠意カ支那ニ由テ認メラル、至ラハ則チ日本ハ  
種々ノ利益ヲ獲得スル、至ルベク列強モ亦之  
ニ對シテ異議ナカルヘシ左レト現内閣ハ大隈内

閣失政、後ヲ引續キシモノナレハ其ノ對支外交  
モ容易ノ事ニ非サルベキヲ以テ吾人ハ之ニ借ス、  
時日ヲ以テセサルヘカラサルナリ云々

反對黨ト内閣

十一月廿七日シヤ、アドヴァザーに所載(大要)  
政局ノ最モ著シキ現象ハ反對黨ノ強キ、引キ  
換ヘ内閣ノ頗ル弱キコトナリ日本ノ政史上今回  
ノ如ク就職早々不信任案ヲ決議ヲ受ケシ内閣  
尙未ダ曾テ見サルナリ寺内伯日本ノ總理大臣中  
議會開會ノ第一日、於テ不信任決議ヲ受ケシ  
唯一ノ人ナリ左レト事實ヲ茲ニ陳述スル寺内  
内閣ハ議會及新聞記者ヲ除キ時ハ國內ニ多  
數ノ良友及同情者ヲ有スルモ、ナリ而テ其之ヲ組

織不其所ノ閣員ハ竟カ尊重敬ヲ値ヒスルニ足ル  
ナリ又其政策ハ失政多カシト大隈内閣ニ比スル  
時ハ頗ル安全ニシテ且堅實ナル事ト一般ニ信  
セラル所ナリ然ルニ議會會員此内閣ニ對シ一日モ生  
命ヲ與フルコトヲ欲セザリキ其之正カ存立ヲ欲セ  
ザリシ理由ハ寺内内閣ハ所謂「非立憲的」ナルニア  
リ老獺ナル加藤平ハ此問題ヲ捉ヘテ議會會員結  
束ヲ謀ル若カズト思惟セシカ如シ余輩ハ加藤  
子ハ間接政府ヲ攻撃スルニ態ニ變ニ出ツルナラン  
ト想像セシニ事實ハ之ニ反シ直接「非立憲的」

問題ヲ以テ之ヲ攻撃シ且之ヲ以テ國民ニ訴フルコ  
トセリ

總選舉ハ來ル四月ニ行ハルヘシ而シテ双方共充  
分ニ準備アリト稱ス政府ハ二三ノ地方官ノ更迭  
ヲ行ヒタルトモ大隈内閣時代ノ更迭ニ比スル時ハ  
寔ニ微々タルモノナリ憲政會ハ多大ノ運動費ヲ  
有スト稱ヤラル而シテ加藤子ハ有力ナル奮闘家  
ナリ若シ彼レニシテ多數ヲ得ンカ則テ元老政治ハ  
遂ニ茲ニ終リヨ是ヨリ至リ所謂政黨内閣ナル  
モノ成立スルハ至ルヘシ然レドモ政黨政治ハ日本ニ取

リテ官僚政治ヨリ果シテ有益ナリト謂フコトヲ  
得ベキヤ日本ノ政治家ハ他國ノ政治家ノ缺點、  
加フル、無經驗ヲ以テス日本、於此ハ政黨内閣  
ハ現内閣ヨリ必ス無為ナルヘシ而カモ其弊害ニ至  
ス必ス多大ナルベシ水ハ其水源以上、昇ルコト能  
ハス日本ノ政黨黨員カ修養ナク理想ナキ以上彼等  
ハ善政ヲ望ムコトハ不可能ナリ然レドモ早晚此危  
險ヲ冒サハルカラサリニ至ルヘシ官僚政黨ノ大勝  
利モ不完全ナル政黨政治ト同様、弊害ヲ生ス  
ルコトナキヲ保スルカラス官僚政黨ノ成功ハヤガテ軍



人ノ跋扈トナルヘキヲ以テ民主々義ノ成功カ永遠  
ニハ或ハ平和ノ為メ又日本ノ為メトナルヤモ知ルハカ  
ラザルナリ余輩ノ此說ヲ以テ余輩ハ寺内々閣ヲ目  
スルニ武斷主義ヲ以テスト思フ勿レ現内閣ノ政  
策ハ大隈内閣ニ比スル時ハ平和的ニシテ殊ニ支那  
ニ對シテハ頗ル親善的ナリ其政策及其人格共ニ  
一ノ批難スベキ點ヲ見ス若シ國民カ彼レニ多數  
ヲ與ヘンカ彼レハ國民ヲ代表シテ日本ノ政治ヲ行  
フノ牽運ヲ見ルニ至ルベキナリ云々

# 總選舉

四月廿八日神戸クロニクル紙社説（抄譯）

友對派の新聞紙の總選舉ニ於テ政府が勝利ヲ  
得タル理由、官尊民卑、選舉年涉及寺内閣  
ハ大權發動ノ結果成立セリト謂フコトに基クモ  
トチス者如シ理論止マリモ、總選舉ハ内閣、  
天皇、對シテ責任ヲ有スルカ又ハ議會ニ對シテ  
責任ヲ有スルカハ大問題、孰テ戰ハレタリト謂  
フハ併ニ實際ニヨリ言ヘ、未ダ官尊民卑、  
正義、民權ニ存在スルコト明カナリ

季内閣ノ勝利ハ外交方面ヨリ見テ  
ハ大ニ慶賀賀スベキコトナリ無論大隈侯ノ對受外  
交ハ如キハ一時的ノ喝采ヲ國民ヨリ受ケタルガ之  
ニ反シテ消極的ノ親善策ノ如キハ無能ノ誹ヲ蒙  
ルルニ至ルベシ稱シ季内閣ノ勝利ハ少ナク其選  
舉區ハ其親善ヲ建スルニ對シテ政策ヲ承認セシ  
モノト見ル可ク此故ニ内閣ノ別問題トシテ外  
交ニ對シテ論ズルハ季内閣ノ勝利ハ慶賀賀セザルヲ  
得ザルナリ

季内閣ノ勝利ハ今日ノ立場ハ泰西ノ憲法ニ論ヨリ見テ

モ亦決シテ非立憲ニヤラザルナリ英國ニ於テスラ  
少數黨ノ首領が大命ニ由リ先ニ内閣ヲ組織シ然  
ル後國民ニ訴ヘタル例ヤリ寺内々閣ハ大命ニ由リ  
内閣ヲ組織シテ然ル後國民ニ訴ヘタルガ唯其行  
動ノ英國ニ於ケル例ト異ナル點ハ不信任案ノ  
通過ヲ待タズシテ議會ヲ解散シタルニヤリサレド  
是ト雖モ決シテ非難スベキ行為ニヤラザルナリ  
寺内伯ノ立場ハ總選舉ノ結果明瞭トナリ憲法  
上ヨリ一ノ非難スベキ點アルヲ見サレナリ唯遺憾  
堪ヘザルハ日本ニ於テハ輿論ガ内閣ヲ作ルニ非ズシ

テ内閣が輿論ヲ作ルノ傾向ヤリ政權ニ從ヒ易キ  
輿論ハ善政ヲ行フ時ハ之ヲ指導スル上ニ頗ル便  
利ナレトモ動モスレハ輒々直ニ煽動セラル、ノ虞  
アルコトヲ忘ルベカラサルナリ大隈侯が對支要求ヲ  
為スニ當リテ輿論ハ盛興シ之ヲ喝采ヤシガ如キハ日  
本人ノ此性質ヲ忌憚ルヲ表示セルモノナリ斯ノ如キ  
傾向ハ日本ニ取リテ實ニ危險ナルモノニシテ健全  
ナル輿論ヲ作ルハ今日最モ緊要ナルコトニ屬ス幸  
ヒ今日マデハ國民指導ナシ任ニ當ル者ノ常識ハ  
善ク國事ヲ處理シ得タルガ將來ニ希之ヲ希望

セガルヲ得ガルトリ要之ニ今日ノ日本ノ政治教育ノ程  
度ニテハ所謂輿論ノ結果成立セル内閣ハ寧日却テ國  
家ニ對シ危險ヲ招クコトナキヲ保スベカラガルトリ云々

紐育アウトルック新聞抄譯

日本ト合衆國

日米國交上障碍アルモノ、如クナルモ是レ無稽ノ事ニ、兩國友誼、永遠持  
續ヲ仰慕スル米人ハ正面ヨリセテ觀察スルヲ以テ適當トスルモノナリ抑モ  
日本ニ對スル米國ノ難問ハ全ク太平洋海岸殊ニ加洲ニ限ルモノナリ  
其問題ハ即チ勞働問題トシテ世ニ知ラル所ノモノナリ在加洲日本人ハ著シ  
ク勤勉ニシテ且ツ儉德ニ富ム者ナリ彼等ハ當ニ都市ニ於テ米國勞力  
ト競爭ニ勝テ制スルノミナラス又白人農夫カ好シテカレカ將タ成シ能ハサル  
廣大ナル荒蕪地ヲ開墾シ美觀ノ果物園圃又ハ畑地ヲ作り其所有者  
トナリ少ナカラカル收入ヲ得ルニ至レリ此兩間ノ競爭ハ遂ニ日人移住ニ制限  
ヲ加ヘ而シテ實際ニ於テハ土地ヲ所有スル日人ヲ加洲ヨリ放逐スルノ企圖ヲナス  
ニ至リタリ此問題ヲ熟知スルモノハ日本政府其解決ヲナサンガ爲メ多大ノ

堪忍ト真意ニテ尽シタルコトヲ覺知スルナルベシ。米國ニ於ケル日本人問題  
ニ最モ通曉スルシドニーガリツク博士云ヘルコトアリ。即チ太平洋海岸  
諸洲ハ東洋人ノ襲来ヲ恐ルナリ而シテ此ノ如キ危害ニ對シ保護  
ヲ要求スルハ正当ノ事ナリ。但モ要ハ如何ナル方法ニテ此ノ兩者ノ爲メ利益ヲ  
圖リ得ルヤト云フニアリ。則チ東洋人侮蔑ニ當ル人種ニ別ノ法制ニ依ラスシテ  
太平洋沿岸ニ保護ヲ與ウルニアリ。

太平洋沿岸ニ居住スル日本人ハ住居權及ヒ土地所有權ヲ保有スル  
モノシテ其權利ハ單ニ德義ニ依リ見ルモ偏頗ナル人種ニ別法制ニ依リ  
之ヲ奪フヘカラサルモノナリ。然レモ又一方ヨリ之ヲ見ルトキハ日本丸亦  
常ニ錯雜シタル一ノ人種問題ニ苦ミツアル。合衆國ガ正義上ヨリ考フルモ  
猶他ノ人種問題チ甚ニ起シテ市民ヲ煩スコト能ハサルコトヲ認容セ  
サルヘカラザルナリ。ルースベルト大統領ノ時代ニ所謂「紳士ノ合約」トシテ



世ニ知ラレタル協議成立シタリルノスベルト大統領ハ全カヲ尽シテ米國ニ於ケル日本條約ガ保障シタル權利ヲ保護シタリ但日本政府同時自カラ進ニテ移民ヲ制限シテ太平洋沿岸市民ガ抱ク處ノ風俗又ハ工業ニ對スル襲撃ヲ受ケルハ恐怖ヲ避ケ得ルコトヲ務メタリ日本ハ嚴正ニ紳士ノ合約ヲ履行シタリ然レモウ耳ルソシ大統領時代ニ至リ太平洋沿岸ニ於テ反日騷論及ヒ法制再發シタリ問題ハ地方的ニテラス國家的ナリ國家的處理ヲ必要トスルナリ

此必要ヲ認知シタル米國市民ノ貴重ナルニ團體ハ近者各該問題ニ関シ會議ヲ開キ其決議案ヲ大統領及ヒ元老院ノ國交調査員ハ呈出シタリ其二團體トハ即チハ米國東洋問題調査會他ハ教會堂中央會ナリニ團體各自適當ナル外國人保護法ヲ制定アラント及ビ日本及ヒ支那ニ関スル國際研究委員會ヲ中央政府ニ設置セラレントヲ議決シ

タルナリ教會堂中央會ハ決議案中ニ米國ノ日本及び支那ニ對スル友誼ト好情ノ宣言ヲ記入シ猶且米國ノ諸新聞ニ對シ將來ハ從前執リ來リタル我輩ガ甚遺憾トスル所ノ特色ヲ改メ米日國交ニ関シ同情的ニ且ツ智識的ニ執筆セラレントウ喚起シタリ是等決議ノ内中央政府ニ調査委員會設置ノ件ハ目下最も重要ナリ合衆國ハ今日未曾有國家大難ノ際會シ居レリウナルワシ大統領ノ元老院ニ於ケル演說中ニ指摘スルガ如ク萬國トノ關係ハ根本ノ變化ヲ來スモ知ルヘカラス將ニ來ラントスル是等全世界ノ變動ノ占ハリ見ル中ハ我が合衆國ニ取リテハ東洋諸國ト正實ナル國友ヲ締結スルヨリ本ル要件之レナカサルヘシ

既往ノ出來ゴトハ今敢テ問ハズ將來ニ於テハ忠告スル合衆國市民ハ日本トノ條約上ノ義務ハ眞實之レヲ守ラサルヘカラス日本ノ人自身ハ

前日既ニ條約義教ノ侵犯スベカラサルコトニ付キ顯著ナル教育ヲ得タリ

千八百六十四年合衆國其他ノ外國ハ徳川幕府ト締結シテ日本内海航行ノ權ヲ得タリ内海航路ノ諸藩ハ此ノ締約ヲ承認セス則チ幕府ノ命ニ服従セサリキ合衆國ヲ始メ列國皆ナ諸藩締約不承認ニ對シ徳川政府ニ抗議セリ幕府之ニ對シ謝意ヲ含メテ答テ曰ク幕府ハ各藩ニ命令シテ服従セシムル權カナシト此ニ於テ合衆國其他列國ハ軍艦ヲ派遣シテ反抗諸藩ノ領土ヲ砲撃シ締約遵守ヲ強行シ三百萬弗ノ償金ヲ強請シタリ合衆國ハ千八百八十三年ニ至リ大隈侯ガ爲セル償金還付ノ上之レヲ横濱改良費ニ支用スヘシトノ呈議ヲ容諾シ其分收額ヲ日本政府ハ還付シタリ之レ比智智識界ノ日本人ノ熟知スル所ナリ此ノ還付ノ事ハ日本人ノ心理情能ニ二様ノ影響ヲ生

シタリ三償金還付、爲メ合衆國ニ對シ情誼ヲ厚カラシメタリ(三)地方ノ  
人民又ハ政府ニシテ中央政府ノ命令ニ服從セサルモノアルトキハ外國ノ勢力  
ヲ加ヘ其目的ヲ達センタルモノナリトノ觀念ハヲ起シシタリ日本ハ其威力  
ニ依リ太平洋沿岸ニ於ケル條約破壞ヲ悔悟セシメ得バシト信スルモノナリ  
云々カ如キハ恐ラク當ラ得タルモノニアラサルナリ然レモ米國ハ歷史上條  
約ヲ遵守セサル可カラサルモノトスルハ正當ナル德義上ノ權利主張ナリ

日本問題ニ關シ尙論スヘキ一ト矣アリ日本政府若シ在米日本人ノ權利  
保護ニ付米國ノ市民ノ實見大ナル助勢ヲ得シコトヲ欲スルナラバ自國ニ於  
テ自國民ニ對シ寛大ナラサルヘカラス不幸ニシテ現日本政府ハ甚退歩  
主義我ノモノナリ寺内総理大臣ハ隠レナキ專政主義我者ナリ今日日本  
ニ有カナル或政派アリ寺内閣人之レト親密同情ナリ此政派ハプロ  
イス女朋ノ社會及ヒ軍國主義ヲ信スルモノナリ日本ノ自由派人之レニ

反對スルモノナリ日本自由派先進者ハ人ニ田川大吉郎アリ彼レハ日本人  
中最モ公共精神家ニシテ最モ高尚ナル思想ハ人ノ人ナリ彼レハ十  
年間衆議院ニ議席ヲ有セリ十年間東京ハ新聞副知事ナリ而シテ  
大隈内閣ハ二年間司法大臣ノ議會ニ関スル顧問官ナリシナリ彼  
近者三新聞ニ三種ノ論説ヲ投シ日本今日ハ趨勢ヲ評論シタリ是等  
論文中ニ十九百十六年十月四日寺内伯勅命ヲ奉シ新内閣ヲ組  
織セリ然レハ是レヨリ先キ彼レ首相ニ選拔セラル、ナラントハ一般ニ了知  
スル所ナリキ此報道ハ元老ヨリ出テタルモノナリ元老ハ私ニ前以テ寺内伯  
ハ首相其人ナルヘシト定メナリ而シテ元老ガ奏上スル人物ハ如何ナル人物ナ  
リトモ兼諾セラル、コト及ヒ元老ノ評議決定ハ取舍折衷ノ餘地ナリ取リモ  
直サズ之レ勅裁ナルハ既定事ナリトナシタリ斯ノ如キ事情ナリ依リ全帝  
國ノ人ハ寺内内閣ハ勅命ト云ハシヨリハ寧ロ元老ニ依テ組織セシメラル

ナリト傳スナリ斯ノ如キ方法ニ依ツテ人民ニ皇室ヲ尊敬セシメント思フガ  
如キハ益ナリ斯ノ如キ行爲ニ依テ皇室ノ尊嚴ヲ損ナガラズ毀損シタリ  
ト云ハヤルヲ得サルハ實ニ遺憾ナリ

傳ハ聞ク所ニシテ先キ頃アスキス内閣辭職ノトキダウリルダ王弟二  
ボナア甲ウロウ氏ニ内閣組織ノ勅命ヲ下シタリ而シテロウウ拜辭スル  
ヤロイドダウリルダニ勅命セリ然レヒ王何人ニ勅問アリシカ又何人モナ  
リシカ誰レモ知ル人ナシ或ル英國ノ史家バクワトストン辭職ノ時ダ  
イクトリア女王ガルースベレーニ内閣組織ノ勅命ヲ下シタラトストン  
ハ勅問アラバロルドスパンサーヲ奏上セント考按ナリント云フ此兩者  
ノ場合孰レモ恐ラク何人ニモ勅問ナク組織者へ直ニ勅命ヲ下サレタ  
モノナラン今更ナガラ英國政治機關運用有効ニシテ立憲君主國ノ  
尊嚴ヲ維持スルモノナル世ノ認知スル所ナリ我輩ハ知ラズ欲スルナリ

世界ノ人眼ニ映スル所ハ二者孰レカ美タルベキカ最近ノ内閣更迭ノ際ニ  
於ケル日本君主國ノ尊嚴ト英國ニ於テ同様ナル出来事後ノ英國君主  
尊嚴ト斯ノ如キ政治批評ハ米國又ハ英國ニアリテハ帝ニ許容スヘキミナラ  
ズ勸進スヘキナリ是レ明カニ皇帝ニ對スルモニアラスニテ内閣ヲ批評スルモ  
ノリ夫レ備寺内政府ハ皇室ノ尊嚴ヲ毀損スルモチルトノ理由多クテ  
田川氏ニ對シ刑事訴訟ヲ起シタリ是レ則テ同様ノ政治批評ニ對シ  
フイヌ國ニ於テトイゼーマシイステイト名クル犯罪ノ爲メニ處罰  
ヲ行ヒタルモノナリ檢事ハ田川氏ニ對シ禁錮十月ヲ求刑セタリ由リ  
氏ニ十八年間耶蘇教信徒ニシテ多ク年ノ間耶蘇教堂ノイムル  
(長老)タリシハ寺内政府ニ對シテ不利益ノ点ナリレドト明白ナリ  
斯ノ如キ言論ニ對シテ人物ヲ斯ノ如ク處罰スルハ全然然非近世  
式非米國式而シテ非英國式ナリ而シテ今日悦ヲ以テ猶ホ一ハ非

露國式ナルヲ追加セサルヘカラス是レ智識專制一種ニシテ  
サルノ冷落ヲ招キ而シテ急速カヲ以テフレイヌ主義及ヒ制度ヲ  
同様ノ冷落ニ促シウヤリ日本ハ死シタル露國ニア及ヒ瀕死ノ獨逸ノ  
專制後ヲ龍衣ハント急カ將タ憲法政治ノ政治自由ノ近世式ニシテ  
神速ニ發展スル制度ニ倣ントスルカ孰レゾヤ



大戦争ニ對シ日本人役割如何

日本出兵ノ實行如何

副島啓一

# 大戦争、於テ日本、役割

六月八日「クロニクル」紙社説（抄譯）

歐洲戦争、於テ日本、役割、関シ、時々種々解  
解及説明ヲ耳スル、頗ル不審、堪ハサル所  
ナリ此戦争、歐洲諸國、取リテ、死活問題ナレ  
トモ日本、恰モ歐洲諸國、ガ日露戦争、ニ對シテ  
冷然タリシト、同様傍觀スルコトヲ得、ナリ蓋シ此  
戦争、ハ日本、取リテ、死活問題、ニアラザレ  
バナリ

余輩、頗ル奇怪、堪ハザル、目下米國、ニ滞在中

ナル伊太利人特派使節ヲ發表スル所ニ由レバ日  
本ハ喜ンデ出兵スベキモ露國ニ多大ノ軍需品  
ヲ輸送スルヲ以テ船腹不足ヲ告グ其意ヲ果ス  
能ハスト云フコト是レナリ此說明ハ事情ヲ知ル  
者ハ一笑ニ附スルヲランモ華盛頓迄於テハ満足  
ヲ與ヘタルガ如シ

余ハ探知スル所ニ由レバ聯合國政府ハ未ダ一回  
タカトモ日本ニ出兵ヲ請ビ得コトナク又日本ハ開  
戰ノ當初ヨリ其不可能ナルヲ暗示セルガ如シ其  
第一ノ理由ハ船舶不足第二ニ六萬里ノ波濤ヲ

越ヘテ兵器糧食ヲ輸送スルノ困難ナルコトニ  
アリテ第三ハ言語不通ヲ爲メ共同作戰ノ不可  
能ナルコトナリキ吾人ヲ以テ之ヲ見ルニ右ノ三者  
實ニ至當ナル理由ニシテ日本ノ出征セザルハ決シ  
テ日本ノ罪ニテラサルナリ唯吾人等ノ不解スル  
ト能ハザルハ日本人等ガ日本ガ理論上ニ於テモ  
實際上ニ於テモ其交戰國ニタルコトヲ忘レ  
其國運ヲ賭シテ戰ヒツルヤ同盟國ニ對シ動モ  
スレハ輒々微々タルコトニ關心シテモ尚且抗議ヲ  
申込ムコト是ヒナリ彼ノ英國ノ輸入禁止ノ關

スル抗議ノ如キ其一例ナリ吾人等ヲ日本ガ日本  
ノ同盟國等ハ未曾有ノ犠牲ヲ拂ヒ吾人道ヲ為  
ス戦ヒシ事アレドモ日本自身同劫此戦争ノ結果  
多大ノ利益ヲ得シアルコトヲ忘レザラント云フ  
希望シテ已マサレナリ

最後ニ吾人等ガ日本ニ切望スル事ハ潜水艇戰  
ノ為メ英佛兩國ノ糧食問題ガ危機ヲ迫レルヲ  
以テ日本ガ其船腹ノ一部ヲ此兩國ニ食糧輸送  
ノ為メ割愛セシコト即チ是レナリ云々

日本ヲ以テ露軍ヲ援助セザルニシテ（抄譯）

余ノ意見 五月八日紐約タイムズに掲載

余ガタイムズ新聞紙上ニ於テ阪谷男ガ或人ニ宛  
テタル書面ニ一節ニ日本ハ百萬ノ兵ヲ以テ聯合軍  
ヲ援助スベク又合衆國ニ其輸送ヲ助メスベシ  
ト云フコトヲ記載セル旨ヲ發表セシ以來余ハ男  
以此意見ニ對シ賛成ノ意ヲ表セ加多敷リ書面  
ニ接セリ日本ハ出兵ニ関シテハ既往三二年間屢  
々論究セテ然ル所ナルヲ其可能不可能ニ就テハ  
未ダ何等ハ決定ヲ見ズ

日本が突破スベキ線ハ露國ルーマニア及ガロ  
カ<sup>ニ</sup>方面ノ三線ニ在リ若シ五十萬兵ガ<sup>ニ</sup>トザイ  
ンスクヨリ突撃セバ<sup>ニ</sup>ヲ井ルヘル<sup>ニ</sup>二世王亦其暴  
太子モ顔色蒼然タルベク<sup>ニ</sup>西シ<sup>ニ</sup>五伯林<sup>ニ</sup>モ<sup>ニ</sup>三ツ月<sup>ニ</sup>迄  
支持シ得ルヤ不<sup>ニ</sup>口ヤ更ニ二十五萬<sup>ニ</sup>日本兵ガ<sup>ニ</sup>ル  
マニ<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>國境ヨリ又同數<sup>ニ</sup>日本兵ガ<sup>ニ</sup>七年<sup>ニ</sup>又<sup>ニ</sup>テ  
ルヨリ進軍センガ<sup>ニ</sup>名<sup>ニ</sup>ヤ<sup>ニ</sup>ル<sup>ニ</sup>ス<sup>ニ</sup>帝<sup>ニ</sup>モ<sup>ニ</sup>遂<sup>ニ</sup>ニ<sup>ニ</sup>退位ス  
ル<sup>ニ</sup>已<sup>ニ</sup>ヲ得<sup>ニ</sup>ザル<sup>ニ</sup>至<sup>ニ</sup>悲<sup>ニ</sup>ヘシ

余ノ意見ハ<sup>ニ</sup>素人<sup>ニ</sup>ノ愚見<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>過<sup>ニ</sup>然<sup>ニ</sup>又余ハ阪谷  
男ノ意見<sup>ニ</sup>對スル<sup>ニ</sup>日本政府<sup>ニ</sup>ノ朝議<sup>ニ</sup>ヲ孰<sup>ニ</sup>知<sup>ニ</sup>ヤ

サレドモ男ノ謂ハルガ如ク日本ノ出兵ハ此大戦  
亂ヲ短縮スル最善ノ方法ナルコトヲ思ヒ之レニ  
大賛成ノ意ヲ表スルト同時ニ讀者ノ教ヲ仰ガ  
ント欲ス云々



九、五、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

司馬遷史記

高島嶺

友誼的忠告、干渉ナシヤ

六月十三日水曜日、アトザアタルサイト社説（秘譯）  
朝日新聞ハ合衆國政府ガ國務卿ヲリンシメ、  
氏ヲ經テ支那ノ總統ト宛テタリト云フ文書ヲ  
月曜日其紙上ニ掲載セルガ吾人ガ昨日ノ本紙  
上ニ於テ指摘セルガ如ク事實實ハ大ニ之レニ相  
違フ朝日新聞ハ紐育リーヴニングズニ於テ  
通信員ノ批評ト國務卿ノ文書トヲ混同シテ譯  
載セシコト明ナリ然ルニ朝日新聞ハ其翌日ノ紙  
上ニ於テ其正誤ヲ為サバ、ルノミナラズ却テ一社

説ヲ掲テ合衆國ヲ攻撃セシガ他、日本新聞モ  
亦同一ノ論鋒ヲ取ル、至リテ遺憾ニ堪ハサル  
所ナリ

合衆國政府ガ支那ニ宛テタル文書ハ決シテ秘密  
ナルモノニ非ズシテ六月七日上海ノ米國總領事  
カ「タヤ」チ、プレス、及北清日々新聞紙止ホテ  
テ既ニ公ニセル所ナリ此文書ハ同時ニ合衆國、  
於テ國內ノ新聞紙上ニ發表セラレタリ日本政府  
ハ支那問題ニ熱心ナリヲ以テ縱令米國政府ガ直  
接日本政府ニ通牒セザリシトスルモ米國及支那

ニ於テル日本ノ代表者ガ直ニ之ヲ本國政府ニ報  
告シタルヤ明ナリ

日本政府ハ朝日新聞ノ此誤謬ヲ正シタルノミナラズ  
其官憲ハ新聞記者ノ會見ヲ許シ形勢頗ル重  
大ナルガ如キ感興與ヘ國論喚起ヲ努ムルガ如ク解  
セラルニ是ハ遺憾ニ禁ヘサルナリ  
米國ハ支那ニ於テ野心ヲ包藏セズ而シテ其支那  
ニ死セタル忠告ノ如キ頗ル友誼的ニシテ單ニ其  
希望ヲ述ベタルニ過ヒズ此故ニ吾人ハ日本新聞ノ  
論調及日本官憲ノ會見談ナルモノヲ見テ莫クダ

シク之ヲ悲ムモノナリ殊ニ吾人ハ常ニ日米親善  
ヲ主張シ來リ且今日ガ此目的ヲ達スルニ最モ  
適切ナル時機ニシテ又現内閣ハ之ヲ實行スルニ  
最モ適當ナルモノナルコトヲ深ク信ゼシヨ以テ  
日本ハ態度ハ誤解セラルベク列強ハ日本ガ聯合  
國ヨシテ其支那ニ於ケル特殊ノ位置ヲ認メシメ  
タルヲ以テ今ヤ新ニ戰爭ニ參加シタル米國ニ向  
テ好機失フベカラズトシテ同シク之ヲ認メンコトヲ  
迫ルモノト思惟スベキコト明ナリ

ジヤハンタイムス及シヤハンマール紙上ニ於テ

外務省ノ「一高官」ハ論シテ曰ク「日本ハ米國ヨシ  
示支那ニ於ケル日本ノ特殊ノ位置ヲ公然認メシ  
此好機ヲ逸セザランコトヲ望ム斯クスルハ先般  
ノ事件ノ如キニ對シ機先ヲ制スルコトヲ得ベキナ  
リ日本ハ既往ニ於テ米國ニ對シ余餘リ遠慮ニ  
過繁タリ」云々

日本新聞紙ニ「同様に、人會見談稿載セラル日支  
關係ヲ米墨關係ニ比較シテ論セラル、カ知クハ  
此トモ是ヲ決シテ其當ヲ得タルモノト是謂フベカ  
其際リカト云々」カ、陸ハ「日本與前如後」

米國公使「ラインシュ」氏、對スル日本新聞攻撃、  
如キハ非理ト斷言セサルヲ得ズ支那政府ノ信用  
ヲ有スル米國公使ノ活動ハ日本ヲ欲ヤサル所ナラ  
ンモ氏ノ如ク尊敬スベキ人其米國ノ外交界ニ未  
ダ曾テ見サル所ナリ

吾人ガ腹藏ナク吾人ノ意見ヲ述ブル所以ハ以  
テ日本、於テハ勳モスレバ則テ米國ヲ誤解スルノ  
傾向アルトハ以テ斯ノ如キハ則テ列強ヲシテ日  
本ヲ誤解セシムル、至ルベキヲ以テ日本ノ利益ニ  
テハ此ガ爲メナリ

日本ノ實業家ハ頻リニ日米親善ヲ希望シ支  
那ニ於テ日米ノ共同動作ヲ切望ス日本ノ聯合國  
側ニ對スル援助ハ必要缺クベカラザルモノニシテ日  
本ガ極東ニ於テ有スル位置ハ特殊ノモノナルヲ以テ  
日本ハ強硬ノ態度ヲ取ラズトモ常ニ其目的ヲ得  
ルベキコトヲ志スベカラザルナリ云々



日本日本合國平和ヲ欲セズ

譯者曰ク本文ハ我國ノ一法學博士ガ  
九月廿三日ノヨリヨリ久シキナル  
ト紙上ト匿名ノ下ニ寄書セシモノナ  
リ其所論我國ヲ毒スルコト餘リニ甚  
ダシキヲ以テ果シテ我同胞ノ爲メガ  
此論文ヲ寄稿セシヤヲ信ズルコト能  
ハザレドモ兎ニ角茲ニ抄譯スルコト

日本ニセリ

本文ノ寄稿者ハ日本及合衆國ノ兩國ニ於

ニ政治經濟學ヲ專攻セシ人ニシテ氏ハ先  
ヅ日本ノ大學ヲ卒業シ後米國ノ大學ニ入  
レリ氏ハ屢々新聞及雜誌ニ投稿セルが多  
年ノ研學及經驗ハ氏ニ時事ヲ達觀シ得ル  
特殊ハ技能ヲ與フルニ至リ氏ハ東京ヨ  
リ遙々ト此文ヲ寄ルト社ニ寄ル來ル  
ガ氏ニ論ハ此時局ニ際シ特殊ハ興味ヲ有  
スルモノト謂フベシ故ニ今茲ニ其全文ヲ  
掲載ス

日本、聯合國側トシテ歐洲戰爭ニ參加セリ

然レドモ日本公事實ニ於テ親獨ナリ  
右ノ攻撃ハ一度日本帝國ノ地ヲ踏ミシモ  
齊シク為ス所ナリ日本ガ事實上獨逸側ニ  
シテ寧ロ子トシテ帝國ニ對シテ同情ヲ有ス  
ト主張スルハ或ハ餘リ過酷ノ嫌アリ併シ  
ナガラ日本ハ戦争ノ窮極ノ結果ニ関シテ無  
頻着ナリト謂フハ眞ノ事實ヲ語ルモノナリ  
其主タル理由ハ日本國民一般ニ歐洲戦争ノ  
性質及其極メテ重要ナルコトガ未ダ知ラレ  
ザルガ為ナリ蓋シ日本人ハ此戦亂ハ遠距

離シ地ニ於ケル一衝突ニ過ギザルヲ以テ何  
レガ勝利ヲ得ル事日本ニハ何等影響スル所  
共シト思惟スルモノト如シ

開戦以來殊ニ此數ヶ月間ニ於ケル英佛米三  
國民ノ牽予々其決心ヲ研究シタルモノハ日  
本政府乃國民ハ此戦争ノ結果ニ對シテ極メ  
テ無頓着ナルヲ見テ意外ニ感ズルナラン實  
ニ日本國民ハ舉シテ歐洲戦争ノ結果日本ハ  
未曾有ノ繁榮發達ヲ見ルニ至リタルヲ知覺  
スルヲ以テ只管戰亂ガ永續シ且日本ガ引續

キテ商工業上ノ利益ヲ得ルコトヲ祈願スル  
モノナリ日本入ハ聯合國ガ勝利ヲ得ルト中  
歐國ガ勝利ヲ得ルトハ敢テ問ハサルナリ日  
本ニ取りテ此戰爭ノ結果ノ如キハ極メテ瑣  
事ニ過ギザルナリ

余因此言ヲ見テ日本政府ノ聯合國側ノ爲メ  
最善ノ努力ヲ為スベシト云フ宣言ヲ信ゼル  
モノハ蓋シ意外ノ靈感ニ堪ヘザルベシ日本  
ハ唯一ノ目的ハ此戰爭ヲ利用シテ出來得ル  
限以多ク其戰時利得ニ與ラントスルニ在ル

以テ只此目的ノ為メ全力ヲ傾注シ居ルナ  
リ初カモ未ダ牽ニシテ日本ノ此態度ハ獨逸ノ  
奸計陰謀ヲ助長セラルコト頗ル大ナリ

日本ニ於テハ今日獨逸文化ノ優良ニシテ獨  
逸國ハ雄大ナルコトヲ確信スル一種ノ階級  
アリ五十年前ノ王政復古後ニ於テ日本政府  
ハ獨逸ノ文武制度ヲ模倣シ其留學生ハ多ク  
之ヲ獨逸ニ派遣セリ此故ニ過去五十年間日  
本ニ於テハ獨逸ノ文物ハ殆ド崇拜セラレ  
ルニ至リ政府及陸軍部内ニ於テ普魯西亞主

義ハ極メテ鞏固ナル根據ヲ有スルニ至レリ  
世界戰亂ノ結果歐洲ニ於ケル形勢一變シタ  
レドモ日本ニ於ケル獨逸ノ勢力ニハ毫毛影  
響ヲ及ボサズルニ至ラズ日本官憲ハ多數  
ハ未ダ獨逸ガ窮極ノ勝利ヲ得ベク且獨逸ガ  
依然トシテ卓越セルコトヲ確信スルナリ  
一千九百十四年ノ夏御前會議ニ於テ對獨逸  
戰術得失議セラル、ヤ其可否容易ニ決セザ  
リシト云フ或元老及閣員ハ窮極ノ勝利ハ獨  
逸ニ歸スベキコトヲ論シ對獨逸戰術布告ニ

反對セリト云フ否彼等ハ寧ロ聯合國ニ對シ  
テ宣戰スルヲ得策ナルヲ信ゼシトランハ  
當時ハ總理大臣大隈侯ハ此御前會議ニ於テ  
ハ議論ハ頗ル激烈ナリシトヨ語リシト云  
フ

參戰後日本ハ青島ヲ攻略シ南洋群島ヲ占領  
シ露國ニ兵器ヲ供給シ且地中海ニ驅逐艦隊  
ヲ派遣セルガ其為スベキコトヲ爲サズシテ  
却テ獨逸ニ間接ノ援助ヲ與ヘタル場合少ナ  
キヲ以テ今其主モナルモノヲ擧グルバ則チ左



ノ如シ

日本ハ露國ニ兵器彈藥ヲ供給セラルガ戦争ノ  
第一年目ニ於テハ事實上何等ノ供給ヲ爲サ  
ザリキ其理由トスル所ハ其自國ノ防備ヲ欽  
陷ヲ恐ル、其ト及其代金支拂ノ方法、不滿  
足ナルコト、アリシガ如シ其後政府ハ其工  
廠ノ職工ノ數ヲ倍加シテ盛ニ兵器ノ製造ヲ  
爲シタレドモ今ヤ殆ンド之ヲ中止セリ  
日本ハ露國ニ對スル兵器ノ供給ヲ中止シタ  
レドモ中立國ヲ經テ獨逸トノ貿易ハ今ニ之

ヲ繼續ス今春政府ハ敵國トノ貿易ヲ禁止ス  
ルノ法令ヲ發布シタレドモ此法令モ又黑表  
モ事實上嚴行セラレザルガ如シ現今獨逸ガ  
中立國ヲ經由シテ日本ヨリ買入ル、貨物、  
數般ニ僅少ニアラザルナリ

合衆國人ハ其國內ニ日探ノ數多キコトヲ憂  
フレドモ日本ニ於ケル獨探ノ數ノ比ニ非ズ  
獨探ハ日本國內ニ於テ安全ニ其活動ヲ繼續  
シ且諸種ノ印刷物ヲ發刊ス元來日本ニ於テ  
ハ出版法嚴ニシテ治安ヲ妨害スル社會主義

印刷物ハ嚴重ナル檢閲ヲ受ク然ルニ獨探  
印刷物ヲ禁止セラルザルハ奇怪ニ堪ヘザ  
ルナリ

早稻田大學ニ教授シ著セル社會主義ノ歴史  
ノ發賣ヲ禁止シ且元老ヲ攻撃セル一士人ヲ  
獄ニ投ゼル内閣ニ何故ニ獨逸ヲ幫助スルガ  
如キ記事ヲ新聞及雜誌上ニ掲載スルヲ禁止  
セザルヤ

今日交戰國ハ勿論中立國ト雖モ食糧品ノ欽  
定苦ナリ然ルニ交戰國ノ一員タル日本ハ

未曾有、贅澤ヲ極ム

政府乃成金税ヲ徵收セ、廻ルル官吏ノ主モナ  
ルモ、モ亦成金ナルガ為メ、十リト云フ

聯合國慰問、為メ三百萬圓ヲ募集セシトセ  
シ、計畫ハ一大失敗、終リ僅々百九拾八萬圓  
ノ應募ヲ見タルノミ、而カモ此中大部分ハ帝  
室及富豪ノ寄附ニ係ルモ、十リ

露國政府ヨリ羅馬尼救濟、為メ醫員百名ノ  
派遣ヲ要求シ來リ、多數ノ應募者アリタルニ  
拘テ、大寺内伯ハ其派遣ヲ中止セシメタリ

思フニ日本人ハ其國家ハ世界ニ於ケル多數  
ノ國家ノ一タルコトヲ未ダ知覺セザルガ如  
シ日清日露兩戰役ガ餘リ順調ナリシガ爲メ  
歐洲大動亂ヲ重要視スルコトヲ忘レタルヲ  
以テ之ニ對シテ斯ク冷淡ナルベシ

日本政府ハ寡頭政府ナリ故ニ國民一般ノ安  
寧幸福ヨリハ政府ノ利益及其便宜ヲ冀フモ  
ノナリ日本政府ノ實情ヲ知ルモ、ハ交戰國  
トシテノ日本ノ立場ヲ知ルコトヲ得ベシ  
要之日本<sup>清</sup>於ケル親獨主義ノ普及ニ關シテ

公政府其責に任ぜらるべからざるナリ云々

支那、将来は日本、此迄問題あり

日英米三國と支那の共同行政管理の必要

支那人チャイルド

支那ノ將來ハ日本ニ取リテ

## 死活問題ナリ

譯者曰ク本文ハ米國ニテ有力ナル週刊雜誌「リァース」ヲ井「クリ」紙上ニ於テ「オシバートン」ナル氏ノ論ゼシ所ノ者ナリ氏ハ該雜誌ノ依頼ヲ受テ支那問題研究ノ爲メ同國ニ赴キ歸途日本ニ立寄り約三週間滞在セシガ其間ニ本野外相初メ其他多數ノ有力家ト會見セリ氏ノ本職ハ辯護士ナルガ氏ハ人格高尚ク且比較的公平ナ



ル意見ヲ有スルノ人ニシテ氏ノ所論ハ米  
國ニ於テ常ニ相當ノ敬意ヲ以テ迎ヘラル  
故ニ今氏ノ最近ノ論文タル本題ヲ茲ニ抄  
譯ス

日本ハ前外務大臣石井子爵ヲ特派大使トシ  
テ米國ニ派遣セラルガ其使命ノ果シテ如何ナ  
ルモノナルヤハ未ダ之ヲ知ルコトヲ得ガル  
ナリ蓋シ其主タル使命ハ聯合國側ト戦争ニ  
関シテ協議ヲ遂ゲルニアルベシト雖モ支那  
問題ノ解決モ亦必ズ其協議スル所ナルベシ

支那ニ對スル日本ノ政策否無政策ヲ米國人  
ガ甚ダシク曲解スルヲ以テ其真相研究ノ為  
メ余ハ日支兩國ニ赴キ充分ナル研究ヲ遂ゲ  
タルガ今余ハ茲ニ米國ヲシテ極東ニ於テ國  
際的倫理及常識ヲ基礎トセラル政策ヲ取ラシ  
ムルニ適當ナル斷案ヲ下サントス

極東ニ於ケル形勢ニ関シ余ガ斯ノ如キ長文  
ノ報告ヲ作ルニ至リタル理由ハ左ノ如シ

一今日ハ日米兩國共に混亂ノ極ニ達セラル  
支那ニ對シテ其政策ヲ確立スルノ時期

ナリ

二日本ニ取りテハ今日正ニ米國ト協同一  
致ノ政策ヲ取ルベキノ時期ナリ  
三米國ガ其柔弱ナル對支政策ヲ放棄シ日  
本ヲシテ東洋文明ノ指導者トシテ其位  
置ヲ確保セシメ且之ヲシテ列強ノ猜忌  
及憎惡ヲ招クベキ軍國主義ヲ捨テ支那  
ヲ救済スルノ道ヲ講ゼシムルノ時期正  
ニ到來セリ

支那問題ハ日本ニ取りテハ實ニ死活問題ナ

リ日本ノ第一流ノ一政治家ハ余ニ言テ曰ク  
米國人等ガ日本ノ實情ヲ知ラサルハ余ソ  
頗ル意外ニ堪ヘサル所ナリ貪慾奸計ニ我  
國ノ政策ニ非ズ日本ノ政策ハ總ベテ其地  
理上ノ位置ヲ基礎トシテ打算セラレタル  
モノナリ如何ナル國民ト雖モ自衛ノ道ヲ  
講ジ且平和的發展ヲ遂グルノ權利ヲ有ス  
ト云々

支那ニ於ケル日本ノ卓越權ヲ否認スルハ不  
當ナリ日本ガ其自衛ノ為メ又ハ發展ノ為メ

無先見、軍國主義ヲ取ルカ又ハ其地理上及  
其他特殊ノ位置ヲ利用シテ平和的ニ發展ス  
ルノ深慮アル政策ヲ取ルカハ吾人等ノ刮目  
シテ注意セザルベカラザル所ナレドモ日本  
ガ支那ノ將來ニ関シテ他ノ列強ノ有セザル  
利害關係ヲ有スルコトハ之ヲ認メザルベカ  
ラザルナリ

一 度地圖ヲ開キテ日本ノ位置ヲ見トバ支那  
ノ生存ハ日本及其文明ニ取リテ死活問題々  
ルコト實ニ明瞭ナルベシ

一千九百十四年即歐州大戰亂前、日本ノ貿易ノ主ナルモノハ對支貿易ナリキ  
今日ト雖モ支那ガ日本ノ良市場タルコトハ  
其輸出入統計ヲ見ルハ明カニ元來支那人  
ハ安價ナル物品ヲ好ムヲ以テ日本ノ製品ハ  
最モ彼等ニ適ス又日本ハ支那ノ隣邦ニシテ  
且同文同種ノ民族ナルヲ以テ對支貿易上特  
殊ノ便宜ヲ有ス

余ハ嘗テ一日本人ニ左ノ質問ヲ為セリ  
支那ガ大々的ニ日貨排斥ヲ行フ時ハ日本

ハ如何ニスルカト

然ルニ件ノ日本人ハ笑テ余ニ答ヘテ曰ク  
支那人ニ取リテハ日貨ハ絶對的必要品ナ  
ルヲ以テ日貨排斥ノ如キハ決シテ永續ス  
ルモノニ非ズ

余ハ更ニ問フテ曰ク

何故ニ支那人ハ他ノ國ヨリ其必要品ヲ輸  
入セザルヤト

彼答ヘテ曰ク

如何ナル國ガ支那人ノ嗜好ニ適スル貨物

ヲ日貨ト同一ノ安價ニテ製造シ得ルヤト  
對支貿易上ニ於ケル日本ノ利害關係ハ右ノ  
一言ニテ既ニ明白ナルガ日本ガ其地理上有  
ル所ノ自衛ノ權利ハ更ニ一層明瞭ナリ日  
本ハ支那ノ隣國ニシテ其面積ハ狹隘其人口  
ハ稠密其富源殊ニ工業上必要欽グベカラザ  
ル所ノ鐵ノ如キハ甚々僅少ナリ故ニ若シ一  
強國ニシテ支那ニ對シテ侵略主義ヲ取り遂  
ニ支那ヲ支配スルニ至ラシカ日本ハ即チ直  
ニ三等國ノ班位ニ落ツルニ至ルコト明カナ



リ此故ニ日本ハ國運ヲ賭シテ露國ト戰ヒタ  
ルガ朝鮮ハ腐敗ハ早晚日本ハ獨立ヲ危リス  
ルニ至ルベキヲ見テ遂ニ之ヲ併吞セリ朝鮮  
ガ果シテ幾何ノ利益ヲ日本ニ與フルヤハ未  
ダ俄ニ斷言スルコト能ハザレドモ朝鮮人ガ  
公平ナル裁判、文明的教育、農事ノ改良、道路ノ  
改修、新造、植林、其他一般生命財產ノ安固ノ下  
ニ多大ノ利益ヲ得ツ、アルコトハ茲ニ喋々  
スルコトヲ要セザルナリ若シ他ハ強國ガ朝  
鮮ヲ併吞シタラシカ則チ日本ハ獨立ハ危機

ニ類ヤシナラン之下同ジク若シ一強國ガ支  
那大陸ニ於テ其根據ヲ得テ以テ支那ヲ支配  
スルニ至ラバ亞細亞ニ於ケル日本ノ大望即  
チ大商工業國トシテ亞洲ヲ指導スルノ霸圖  
ハ其根底ヨリ破壊セラル、ニ至ルベシ

日本ガ自衛ノ道ヲ講ジ商工業ノ大發展ヲ計  
ル、~~力~~兼ハ嫉妬心ニ富ミ且貪婪飽ラナキノ競  
争者ヲ除キテハ皆之ヲ認ムル所ナルベシ  
左ト日本ノ對支政策ハ果シテ自衛及正當  
ノ發展ノミヲ目的トスルモノナルヤ極東問

題ヲ研究スルモ、ハ皆一齊ニ明號シテ曰ク  
ノト

不幸ニシテ此ノ中ニハ十分ノ事實ヲ含  
ム而シテ日本人ニテ眞ニ平和的發展ヲ希望  
スルモノ殊ニ日本ノ將來ハ平和的發展ニ存  
スルコトヲ確信スル所ノ有力ナル政治家等  
モ不幸ニシテ此ノ事事實ナルヲ認ムルモ  
ノト

尾崎行雄氏ノ如キハ議會ニ於テ日本ガ北京  
ニ私設公使トシテ一陰謀家ヲ派遣セルト詰

問セラル、非ズヤ又日本ノ新聞紙ハ皆齊シク  
支那ニ於ケル日本浪人ノ行動ヲ批難セルニ  
非ズヤ

聞ク所ニ依レハ林公使ハ無學文盲ニシテ馬  
賊ノ首領ニ等シキ彼ノ張勳ノ為メニ復辟ノ  
數日前日本公使館ニ於テ特ニ晚餐會ヲ催セ  
リト又日本政府ハ段肇瑞ヲ援ケテ民主黨ヲ  
壓セシト計畫セリト

大隈侯曰ク寺内内閣ハ支那ニ於テ不平涉政  
策ヲ取ルベシト唱フレドモ事實ハ全ク之ニ

相反スト

大隈内閣ノ下ニ被<sub>レ</sub><sub>ル</sub>廿一ヶ條ノ對支要求ハ  
提出セラレ其結果日本ニ對シ非常ナル批難  
酷評猜忌不信用ヲ來タシ日本ノ名聲モ一時  
將<sub>レ</sub>地ニ墜ケシトスルニ至レリ

日本ヲ軍人等ハ不韙ニシテ侵略主義ヲ唱フ  
ルガ如シ而シテ李内伯公支那ノ内政ニ干渉  
ヲ試ミタル天津ニ於ケル日本ノ駐屯軍司令  
官ヲ召還セザルベカラサルニ至ルガ之ト  
同時ニ露カニ漢口ニ日本ヲ守備兵ヲ上陸セ

シメ強カナル無線電信ヲ設置セリト云フ事  
本野外務大臣ハ支那ニ對シテ不干涉ヲ聲言  
シタルトモ上海ニ在リ日本學校アリ此學校ハ  
支那ヨリ得タル償金ニテ設立スルモノナリ  
テ「トシ、リエン」校ト稱ス一譯者曰ク同文書院  
ヲ意味スルナリシカ一此學校ハ選拔サレ  
タル二百名ト日本學生アリテ今日マデニ同  
校ヲ卒業セル日本人數既ニ二千入ニ達ス  
ト云フ余ガ上海滞在中心英國人ニシテ秘密  
探偵ニ從事セルモノ余ニ告ゲテ曰ク此學校

ハ名稱ハ商業學校トモトモ事實ハ支那ニ於  
ケル日本ノ政治的代表者ヲ養成スル所ナリ  
ト余ハ日本ニ滞在中文部省ニ出頭シテ此學  
校ニ付テ問合セテ爲シタレトモ遂ニ要領ヲ  
得ガリキ蓋シ同校ハ文部省直轄ノ學校ニ非  
ザリシナラン

國民黨ノ首領犬養氏ハ其選舉演說中ニ述ベ  
テ曰ク支那ハ二省ニテモ尚且西洋諸國ト  
ノ戰爭ニ要スル總ベテノ富源ヲ有スト又日  
本ハ有力ナル一雜誌ハ論ジテ曰ク多クノ善

良ナル日本入ハ領土ノ擴張ニ反對スルモ  
領土ノ擴張ハ取リテ直サズ其國ノ健全ナル  
發達ヲ示スモノニシテ侵略主義ヲ恐ルハノ  
國ハ既ニ其國運ノ退步シツ、アルコトヲ示  
スモノニシテ獨逸ノ侵略主義其雄大ナルコ  
トヲ表示スルモノナリト

日本ハ各學校ニ於テ軍國主義ヲ注入シツ、  
アルト同時に一般人民ヨリテ日本ハ何時又  
如何ナル國ニ對シテモ干戈ヲ取リ得ベシト  
云フ觀念ヲ普及シツ、アリ教育アル一日本



入余言ニ曰ク

日本ハ未ダ嘗テ敗戦シタルコトナシト  
忘ルコト勿レ英國モ亦米國モ未ダ敗戦セ  
シコトアラズ而カモ此兩國亦無限ハ富源ヲ  
有スルヲ

思慮アル日本人ハ此事實ヲ知リ嘗テ不熱心  
ナル露國ニ對シテ戰勝ヲ得タルヲ故ヲ以テ  
濫リニ侵略主義ヲ取ルノ危險ナルヲ認ム  
右ハ日本ニ對スル批難ノ一部ヲ述べタルモ  
ソニシテ日本ノ識者モ日本ガ列強ヨリ猜忌

嫉視セラルル其情トモ知ル而シテ多數ノ日本  
人ハ今ヤ正義ヲ主トスル政策ヲ取ルル必要  
ナルヲ自覺スルニ至レルモノノ如シヤ蓋シ日  
日本ニ對スル批難攻撃ハ往々其當ヲ得ズシ  
テ極メテ不公平ナルモノアルハ其批難攻撃  
ノ如何ナルモノナルヤヲ知ルモノハ既ニ  
明カナルベシ其極端ナルモノハ即チ支那ニ  
於テ日本ノ浪人又ハ奸商之為スルモノ悉ク  
之ヲ日本政府ノ所為ニ歸スルモノ是ナリ  
支那ニ於ケル總督トハ驕勳ノ中心近クニカ

ルモ、ハ時々滑稽ナル感想、打々ハコト  
アリ乃チ一例ヲ舉グ、ハ段幕瑞ノ部下ガ國  
會ヲ襲撃セ、時排日黨ハ其主動者ハ日本ヲ  
リト稱シ黎元洪ガ段總理ヲ解職セシ時モ之  
ヲ日本ノ所為トリト為ス督軍ガ北進セシト  
セハ時其主謀者ハ日本トリト稱シ張勳ハ復  
辟策モ黎總統ハ日本公使館ニ避難セハ拘  
ハラズ之ヲ以テ日本ノ所為トナセシガ數日  
後復辟ノ陰謀ガ全然失敗、歸スルニ及シテ  
排日黨ハ其說明ニ若クハ所如シ支那ガ國交

斷絶ヲ爲サントスル時ニ當テ日本ハ之ニ反  
對ナリトノ流言盛ナリシガ支那ガ戦争参加  
ニ躊躇セル際ニハ日本ハ強制的ニ参加セシ  
メントシツトアリトハ風説專ラ行ハルタリ  
要之日本ハ猜忌ノ中心點トルガ只徒ラニ日  
本ヲ非難スル公策ノ得タルモノニ非ザルナ  
リ米國ハ日本ヲ援助スルノ任務ヲ有ス日本  
ハ今ヤ米國ノ理想ヲ採ルカ將獨逸ノ理想ヲ  
採ランガ躊躇シツトアリ吾人等ハ國民トシ  
テ又政府トシテ米國ノ理想ガ卓越セルコト

ヲ日本人ニ感得セシムベキナリ今日ハ即チ  
日本ニ取リテハ其決斷ヲ為スベキ時ニシテ  
米國ニ取リテハ之ヲ輔導スベキノ秋ナリ  
日本ノ取ルヘキ對支政策三ツアリ

第一政治上及領土上ノ侵略政策非不幸ニ

シテ此政策ハ既ニ其端緒ヲ日本ノ滿州  
統治ニ開キタルモノト謂フベク而カモ

此政策ハ「アオリク」ノ如キ形ヲ有ス其「ア

オリク」ハ一端ハ既ニ滿州ヲ貫通シ蒙

古ニ達セルガ第三尖端ハ山東州ヲ衝ケ

リ第三尖端ハ揚子江ヲ目的トシ第四尖端ハ早晚福建省ヲ透徹スルに至ルベシ此政策ヲ目的トスル政治家等ハ可及的支那ヲ柔弱ナラシメ陰謀ニ由テ其目的ヲ達セんとス

余ガ支那滞在中同國在留ノ米國官民等ハ齊シク日米協同シテ大運河ヲ改修スルコトニ反對シ居タリ而シテ支那ノ官民ハ一層反對ナリキ其理由トスル所ヲ聞クニ曰ク支那ニ對シテ新策ヲ有スル

日本ト協同事業ヲ起スハ取リモ直サズ  
敵國入ト商賈ヲ營ムニ等シト

此政策ノ實行ヲ防止シ得ルモノニアリ  
一、日本國民ガ漸次ニ國際的道義ヲ觀  
念ヲ有スルニ至リタルコト、日本ガ  
世界ノ同情ヲ失ヒ猜忌憎惡ノ中心ト爲  
ルコトヲ恐ル、コト即ち是ナリ日本ニ  
シテ此政策ヲ實施セシカ、遂ニ世界ヲ敵  
トスルニ至リ其結果忽チ敗滅スルニ至  
ルベシ何トナレバ則チ是レ獨逸ノ實力

有セズミテ獨逸ノ政策ヲ行フモノナレ  
ハナリ

第二臨機應變ノ政策 寺内内閣ノ政策即  
是ナリ日本ノ政治家余ニ言テ曰ク  
日本ハ「市井ル」ニ大統領ガ「ヌキ」ニ  
對セシ如ク暫ク傍觀スルトリト不牽ニ  
シテ支那ニ對シテ日本ガ如何ナル誠意  
ヲ有スルトテ列強ハ色眼鏡ニテ其一舉  
一動ヲ見ルノ恐アリ

第三日本ガ東洋ノ覇主東洋文明ヲ代表者



トシテ密ニ口頭上又ハ紙上ニ於テ  
トキハ誠心誠意其憫ムベキ隣邦ノ領土  
ヲ保全シ且暗黒裡ニ生活スル所ノ數億  
ノ人民ヲ指導スルノ道ヲ講ジ列強ノ贊  
同ヲ得ルコト

多數ノ有力ナル日本入余ニ問フテ曰ク  
如何ニシテ此政策ヲ實施スルコトヲ得  
ルヤト

又一日日本入ハ余ニ言テ曰ク合衆國ハ常  
ニ支那ニ同情ヲ有シ又多數ノ宣教師ハ

其開發ノ為メニ努力シ來レリ合衆國ガ  
支那ニ對シテ何等ノ陰謀奸計ヲ有セザ  
ルコトハ一般ニ之ヲ認ムル所ナリ而シ  
テ合衆國ハ支那ノ保全ヲ望ミ門戶開放  
ヲ主張ス他ノ列強モ之ヲ口ニスレドモ  
其言行ハ一致セサルナリ日本ハ支那ノ  
隣邦ニシテ支那ノ實情ヲ知悉ス不韋ニ  
シテ合衆國ハ未タ支那ヲ理解セズト  
然ラバ則チ米國ハ支那ニ對シテ如何ナル政  
策ヲ取ルヘキヤ余ヲ以テ之ヲ見ルニ其政策

亦三アリ左ノ如シ

第一支那ノ分割　人若シ此政策ヲ非難ス  
ル者アリバ余ハ笑テ之ニ答ヘテ曰ン支  
那人民ガ生命財産ノ安固ヲ得テ善政ニ  
浴シ居ル地方ハ悉ク列強支配ノ下ニ於  
ケル地方ノミナリト然レトモ國際的倫  
理トシテ強者が弱者ヲ無意味ニ征服ス  
ベキモノニアラズ其征服、正當ナル理  
由ハ其弱國ノ生存ガ世界ノ平和ニ危險  
ヲ及ボスコトノミニ存ス

第二教任政策 支那人ハ現状ヲ以テ満足  
スルモノ、如シ然ラバ教任政策モ亦一  
理アリト云フベシ

第三協力一致ノ政策 日米ガ相共同シテ  
英國ヲ勸誘シ協力一致シテ支那ヲ救済  
スルニ至ラバ則テ其効果ハ蓋シ多ク十  
ルモノアラシ併シ此政策ヲ實行スルニ  
當テ強者が弱者ヲ壓スルガ如キ態度ヲ  
取ルハ非ナリ強者が弱者ヲ輔導スルノ  
覺悟ヲ有スルコト緊要ナリ

此政策ノ要旨ハ左ノ如シ

一 支那ガ其行政ヲ日英米其他ノ列強ニ  
委託スルコト但シ支那ト諸外國トノ  
條約協商其他ノ契約等ハ現在ノ儘存  
續スルコト

二 列強行政委員會ハ支那人一名日本人  
一名及列強ノ代表者各一名ツトノ委  
員ヲ以テ之ヲ組織ス

三 此委員會ハ租稅關稅貨幣歲出警察司  
法教育及交通ノ事ヲ司トル

四此委員會、下ニ支那ノ行政部ヲ置ク  
五支那ノ各省ニ自治制度ヲ布キ他日ハ  
支那ヲ聯邦制度ノ下ニ置クコト

又或ハ曰ク此政策ハ言フベクシテ行ヒ難シ  
ト或ハ然ラシ然レトモ他ニ適當ナル政策ノ  
存セザルニ於テハ之ヲ試ムルヲ敢テ無益ノ  
コトニ非ザルベシ

又曰ク支那人ガ之ニ反對スルコト明ナリ  
ト然レトモ余已以テ之ヲ見ルニ此政策ハ支  
那人ヲシテ其位置境遇ヲ自覺セシムルニ至

ルベシ

此政策ニシテ實施セラル、ニ至ラバ日本ハ  
永久外國ノ侵略ヲ免ル、ニ至リ其結果軍費  
ノ節減ヲ見ルベク又一方同文同種ノ支那ス  
ト眞ノ親善ヲ結ビ其無限ノ市場ヲ利用スル  
コトヲ得ル、ニ至ルベシ加之其驚クベキ精力  
其鞏固ニシテ健全ナル愛國主義ヲ擧ゲテ商  
工業發展ノ為メニ之ヲ利用スルコトヲ得ル  
ニ至ルベシ

借問ス日米兩國、此政策ヲ實施シ得ル經世

家存スルヤ否ヤ





◎日本支那及極東（抄譯）

譯者曰、本文ハ川上某ナルモ、ガ紐  
育、リガエ、オヴ、レガユ、ース紙上ニ  
於テ論述セシモノトリ元來紐育ニハ  
二名ノ日本ノ評論家アリ一ハ川上某  
ニシテ一ハ家永某ナリ兩者共に米國  
ノ言論界ニ於テハ日本政府ノ代辯者  
ト見做サル兩氏ノ所論時ニ或ハ事實  
ト相反スルコトアレトモ之ヲ我國ノ  
新聞記者及其他無責任ノ批評家ノ言

論ニ此ストハ蓋シ雲泥ノ差アリト謂  
フベシ川上氏ハ先般極東問題研究ノ  
為メ十數年振リニ歸朝シタルガ數日  
前再び渡米セリト云フ

一千九百十七年ハ意外ノ事變ヲ續出セシ年  
ナリ米國ガ其傳來ノ政策ヲ捨テ歐洲大亂ニ  
參加セラルコト露國ニ於ケル口マノ口朝ノ顛  
覆及支那ニ於ケル滿朝ノ復辟ノ如キ蓋シ其  
重モトナルモノナリ

日本ハ極東平和ノ保障者タルヲ以テ露支兩

國ニ於ケル政變ニハ最モ密接ナル利害關係  
ヲ有スルナリ余ガ北京ニ赴クノ途次東京ニ  
立寄リタルニ日本ノ政治家等ハ萬一露國ガ  
單獨講和ヲ為ス場合ニハ日本ハ如何ナル政  
策ヲ取ルベキヤニ付頗ル關心シ居ルガ如ク  
ナリキ余ノ會見セシ政治家等ハ余ニ語ルニ  
若シ露獨握手スルコトアリテ其結果聯合國  
ガ日本ニ征露ノ師ヲ出スコトヲ要求スレバ  
則チ我國ハ之ニ應スルハ一途アルベキノミ  
ヲ以テヤリ露獨講和ヲ締結スルモ若シ露國

ニシテ聯合國ヲ敵トセザルニ於テハ日本ハ  
如何ナル政策ヲ取ルベキヤト、余ノ問ニ對  
シ満足ナル返答ヲ爲セルモノアラザリキ然  
レトモ彼等ノ意見ハ聯合國ノ意向如何ニ由  
テ日本ハ其態度ヲ決スベキコトニ一致セ  
ルガ如クナリキ

寺内内閣ガ日英同盟ノ章條以上ニ聯合國ヲ  
援助スルノ決心アルハ地中海ヘノ艦隊派遣  
及米國ヘ特派大使ノ派遣ニ由テ明ナリ  
支那問題ニ關シテハ日本ハ直接ノ利害關係

有スルカ不牽ニシテ大隈内閣ハ所謂支那  
通、無思慮極マレル意見ヲ採用シテ彼、有  
名ナル廿一條ヲ要求シ為セリ反之寺内内  
閣ハ其成立後間モ十々鄭家屯ヨリ撤兵スル  
ト同時ニ遠カラズシテ漢口ノ日本兵ヲモ亦  
撤スベシト聞ケリ併シ公平ニ論ズルハ若シ  
大隈内閣ニシテ其對支外交ニ失敗セザリシ  
夫レシカ寺内伯ハ恐ラカハ之ヨリ得タル教  
訓ヲ利用スルコト能ハザリシトラン  
要之寺内内閣ノ對支外交ハ維遜大統領ノ墨

其西哥ニ對シテ取ルト同一ノ所謂油斷ナ  
キ監視ニ在ルガ如シ

支那參戰ノ問題起ルヤ支那政府ハ直ニ日本  
ノ意向ヲ質シタルニ寺內伯ハ本野外相ヲシ  
テ回答セシメテ曰ク日本政府ハ支那ノ外交  
政策ニ干涉スルノ疑ヲ招クノ虞アル問題ニ  
關シテ意見ヲ述ブルヲ躊躇スルモノナリ併  
シ既ニ米國ガ參戰セル今日ニ於テ支那ノ參  
戰ハ決シテ其不利ニ非サルベシ若夫其報  
酬トシテ支那關稅ノ増率ヲ許スベシト云フ

問題ノ如キニ至テハ列強ニ於テ異議ナキ以  
上日本モ亦敢テ異議ヲ挾マザルトリト  
右ノ事實ヲ周知スルモノハ日本ハ支那ノ參  
戰ニ反對セリトノ說ヲ否認スルコトヲ躊躇  
セザルベシ

前述<sup>日本</sup>如ク寺内内閣ノ對支外交ハ不干涉ヲ  
主トスレドモ支那ノ内政今日ノ如ク依然ト  
シテ紊亂ヲ繼續スルニ於テハ遂ニ餘儀ナク  
干涉セザルベカラザルニ至ルベシ何トナレ  
ハ列強ハ必ズ秩序ヲ回復ヲ要求スルニ至ル

ベク其結果日本モ亦今日ノ政策ヲ捨テザル  
ベカラザルニ至ルベケルハナリ云々

## ◎日本ト歐洲戦争

(ニエーヨーク・アウトルック紙掲載)

歐洲戰亂ガ日本ニ及ボス影響ハ其露國ニ及  
ボス影響ノ如ク大ナラズト雖モ重要ナル點  
ニ至テハ敢テ之ニ讓ラザルナリ米國人ノ多  
數ハ日本ガ此戦争ニ於テ盡シ且盡シツツア



ルコトヲ周知セザルが如シ實ニ日本が大動  
亂ノ為メ盡セラルコトハ其直接ノ結果ヨリモ  
寧ロ其間接ノ結果ニ於テ頗ル有効ナリト謂  
フベキナリ

人或ハ問フテ曰ク日本ハ何故ニ露國ニ出兵  
セザルヤト余ヲ以テ之ヲ見ルニ其理由ニカ  
リ第一日本ハ東洋ノ平和ヲ保障セザルベカ  
ラズ第二歐洲戦争ハ實ニ歐洲人ノ戦争ナル  
コト是レナリ

要之日本ハ太平洋ヲ管理シ米國ハ歐洲ノ民

主國ト共ニ大西洋ヲ支配セザルベカラザル  
ナリ

日本ニ獨逸ノ敗戦ヲ冀フモノナリ何トナル  
ハ若シ獨逸ニシテ窮極ノ勝利ヲ得ンカ則チ  
獨國ニ早晚東洋ヲ支配スルニ至ルコト明ナ  
ルニシテナリ

陰險極マリナキ獨逸ノ日米離間策モ今ヤ全  
然失敗ニ歸シ茲ニ兩國ノ握手ヲ見ルニ至レ  
ルガ日本トシテハ英米佛ノ三國トノ親善ヲ  
主トシテ其國是ヲ建ツルコト緊要ナリ云々

◎日本ノ外交ハ誠實ヲ主トス

「マニラタイムズ」紙上「イード」氏所述（抄譯）

譯者曰「クイート」氏ハ香港ニ於ケル三大  
會社ノ總支配人ニシテ南清及香港ニ  
住スルコト三十數年ニシテ既往廿々年  
間ハ熱心ニ日英親善ヲ唱ヘ來リ殊ニ歐  
洲戰爭開始以來ハ單獨ニテ南清方面ニ  
於ケル獨逸ノ日英離間策ヲ打破セシコ  
トヲ努メ彼ノ有名ナル排日雜誌「イース  
タートン・レガユ」ヲシテ遂ニ其排日記事

ヲ中止セシメタルが去五月ヨリ九月マ  
デ五ヶ月間日本ニ滞在シ内相及外相  
其他多數ノ有力者ニ面會スルノ機會ヲ  
得ラレタリ本記事ハ同氏ガ十月下旬馬  
尼刺滞在中マニラタイムズ新聞記者ノ  
訪問ニ接セシ時語リシ所ノモノナリ  
實業家トシテ有力ナルシー、イー、ド氏目下富  
市ニ滞在中ナルが記者ノ訪問ニ際シ左ノ談  
話ヲナセリ

記者日本ハ比律賓島ニ對シテ野心アリト

聞ク如何

「不」ド氏全然無根ナリ日本ノ有力者中  
ニ斯ノ如キ野心ヲ抱藏スルモノ一人モ  
ナシ余ノ確信スル所ニテハ寺内總理大  
臣及本野外務大臣ハ誠實ナル經世家ニ  
シテ兩氏ニハ十二分ノ信用ヲ措テ然ル  
ベキナリ

寺内伯ノ對支外交ハ眞ノ親善ヲ主トス  
ルノミナラス列強ニ對シテハ均等ノ機  
會及門戶開放ヲ主トス若シ日英同盟ガ

永續セラレ而カモ米國ガ此兩國ト協同  
スルニ於テハ東洋ノ平和ハ永久保障セ  
ラルベシト調フモ敢テ過言ニ非タルナ  
リ武士道ノ精神ハ日本ノ今日ノ外交關  
係ニ於テ歷然タルヲミナラズ世界ノ未  
來ノ平和ニ對シテ好影響ヲ及ボスコト  
アルベシ  
歐洲大亂ニ於ケル日本ノ援助ハ決シテ  
忘ルベカラズ實ニ日本ノ誠意ハ感謝ス  
ルニ餘リアリ

記者石井特派大使ノ東洋ニ於ケル「モンロ  
主義」ニ關スル貴見如何

「イード氏」余ヲ以テ之ヲ見ルニ氏ノ所謂  
「モンロ」主義ナルモノハ氏一人ノ突發  
的意見ニ非ズシテ氏ノ日本出發前豫メ  
協議セラレタルモノニシテ決シテ日本  
ガ其尊大ヲ驕ラシガ爲メニ宣言セルモ  
ノニ非ズシテ寧ロ其誠意ヲ示サシガ爲  
メニ爲セル宣言ニ外ナラザルトリ日本  
ハ聯合國ノ請ヲ容レテ東洋ノ海上權ヲ

把握ス故、日本が斯ノ如キ宣言ヲ為ス  
トモ決シテ不思議ニ非サルナリ獨逸ハ  
既往十數年、亘リ盛ニ日米離間策ヲ試  
ミタルガ今ヤ日米兩國之ヲ覺知スルニ  
至リタルヲ以テ兩國ノ親善ハ今後益々  
増進スルニ至ルベシ云々



日未戰，  
編動

副島  
囑托

日米戦争ノ煽動者

米國コリアース、ウヰル<sup>1</sup>クリ<sup>1</sup>所載（秘譯）

譯者曰ク本文中所記ノ日本ナル冊子ハ恐  
ラクハ排日思想ヲ有スル米國人カ又ハ例  
ノ獨逸ノ陰謀者等ガ日米離間ノ目的ヲ以  
テ發刊セシモノナルベシ歐洲戰亂ノ當初  
ニ於テ上海及其他支那ノ開港場等ニ於テ  
日本人ノ名儀ニ英國排斥<sup>1</sup>英文雜誌  
刊行セラル其目的トスル所ハ日英ノ離間  
ニアリシト云フガ本文所記ノ冊子モ蓋シ

亦日米ノ離間ヲ目的トスルモノナラン今  
ヤ石井大使其使命ヲ終ヘ日米兩國ノ誤解  
始メテ米釋シ其意思漸ク疏通セントスル  
ヲ時ニ當リ陰險極マリナキ獨逸人等ガ斯  
ノ如キ冊子ヲ配附シ而カモ米國人中其所  
論ヲ信ズルモノアルハ實ニ遺憾ニ禁ヘザ  
ルトリ

日本下題セラル冊子ヲ本社ニ寄贈セラルモ  
アルガ其標榜スル所ハ戦争ヲ防止スルニア  
リト称スレドモ内實ハ寧ロ大ニ之ヲ煽動ス

ルモノノ如シ該冊子ノ目的ハ米國人ヨシテ  
日米關係ノ不満足ナルコトヲ知覺セシメ且  
之ヲ改善スルト同時ニ太平洋沿岸ニ於ケル  
米國ノ海陸ノ防備ヲ嚴ニスルニアリト云フ  
不牽ニシテ此冊子中ニ米國人ニ關スル日本  
人ノ見解ナルモノハ掲載セラルルヲ見ル即  
チ左ノ如シ

五千萬ノ同胞ガ遂ニ世界ヲ征服スルニ至  
テバ實ニ壯快ナラン羅馬帝國ハ少數ノ人  
口ヲ以テ建設セラレタリ奈翁ノ帝國亦然

リ英國モ若シ勝利ヲ得レバ——若シ  
勝利ヲ得レバ——何々

先ヅ第一、日本ニ支那ヲ占領スベシ支那  
ハ日本ノ軍馬ニ過ギザルトリ斯ノ如クニ  
入シ兵五千萬ノ同胞ニ躍シテ五億ノ同胞  
トナリ貧國ハ日本モ俄カニ強國タルニ至  
ルベシ被ノ暗愚ニシテ間拔ナル米國無結  
合無能力ノ米國ニ至テハ是亦支那ノ如キ  
ナリ余ハ一友スハ米國ハ兎ニヤ有スル  
ハ盜賊ノ以團ニ過ギズト謂ヘルガ真ニ然リ

米國ハ今ヤ正ニ成熟セル一西瓜ナリト謂  
フベシ北米ハ優ニ十億ノ人口ヲ支持スル  
ニ足ル此十億ノ白人ハ其黒奴ト共ニ亦遂  
ニ日本臣民タルニ至ルベシ元來彼ノ豊穰  
ナル沃土ハ我日本國ガ發見シテ以テ開發  
スベキモノナリシナリ左レド今ヤ一層光  
榮ナル征服ニ由リ我領土タルニ至ルベシ  
云々

日本ガ我米國ニ對シテ有スル見解ニシテ果  
シテ右ノ如クナランカ吾人等ハ直ニ太平洋

ノ沿岸ニ於テ三百萬ノ兵ヲ募集シテ以テ之  
ニ答フルベキノミ然レドモ日本ハ真ニ米國  
ニ對シテ斯ノ如キ了解ヲ有スルヤ否ヤ右ノ  
説ハ恐ラクハ一新聞ノ杜説又ハ一政治家一  
狂人或ハ日本ノ「ワースト」ノ見解ナルベシ其  
出所ヲ示サズシテ斯ノ如キ説ヲ轉載スルハ  
却テ誤解ヲ生ゼシムルニ至ルベシ多クノ人  
ハ其出所ヲ確メントセザルノミナラズ一モ  
ニモナク之ヲ以テ有カタル人ノ意見ナリト  
信ズルノ恐アリ

要之日米戦争ヲ惹起カシムル原因ハ相互間  
ノ恐怖心ト憎惡ノ念トニアリ而シテ右ノ如  
キ記事ハ最モ能ク斯ノ如キ念ヲ生ゼシムル  
モノナリ



上海三友社

遠東時報主筆

アール・エス・トーマス

大正七年五月二十日譯

7

16

獨化ナルタル西伯利亞ノ危險

「フ」ノ「ス」タイン「レ」ザ「ユ」イ四月號杜說抄譯

譯者曰「ク」ヲ「ア」ト「ハ」ト「ス」タ「ス」レ「ザ」ユ「ー」ノ杜  
長兼主筆「ト」ナル「ド」氏ハ約一年半前マデハ  
非常ナル排日論者ニシテ彼ノ辰九事件當時  
「日」貨排斥運動ヲ張本ス「シ」テ又廿一ヶ條  
ノ對支要求當時ニ於ケル排日運動ヲ煽動者  
トシキ「レ」ド昨年四月五ニ「オ」ノ保險會社總  
支配人「ド」氏ハ說得「シ」由リ日支英米西々  
國々親善ハ極東ニ於テ永遠ノ平和ノ基礎ト

此ル必キヲ確信スルニ至ル爾來政治運動ヲ  
罷止其經營キハ雜誌ノ性質ニ純然タル實業  
主義ニ變更セリ而シテ最近瀝澤男爵等ハ贊  
助ヲ得テ東京ニ支局ヲ設置シ廣ク日本國事  
業ヲ支那及英米等諸國ニ紹介スルコトニ  
決定セリ今試ニ其社説ヲ抄譯スルコト左  
如キ

數月前、於テハ歐洲大亂モ日支兩國ニ取リ  
テハ殆シド對岸ノ大事ノ如クナリシガ今ヤ危  
險ハ刻々ハ切迫シヨリ獨逸ノ陰謀並ニ過

激派ノ狂愚暴行及無政府ハ此兩國ヲシテ遂ニ  
夫戰ヨリ生ズル危險ヲ自覺セシムルニ至レリ  
日本ハ單ニ強大ナル陸軍ヲ有スルノミナラズ  
莫大ナル利益關係ヲ有シ且其義務ヲ覺知スル  
ガ故ニ一朝必要ノ場合ハ其利害ヲ顧慮セズ  
斷然躍起スルハ毫モ疑ヲ容レザル所ナ  
リ

日本ノ位置ハ最モ困難ナリ日本ノ經世家ハ皆  
舉テ聯合國ハ一層有効ナル援助ヲ與フルコト  
ヲ欲スルモ西伯利亞ニ於テル干渉ハ却テ露

國ヲシテ全然獨逸化スルに至ラシムル虞ナル  
ヲ以テ太ニ躊躇シ居ルモノナリテ日本ノ位置  
ニ居ラバ如何ナル國民ト雖モ同一ノ態度ヲ取  
ルニ至ルベキコトハ大ニ觀ルヨリ明ナリ日本  
國民ハ多數ハ露米等ノ精思ヲ恐レ慎重ノ態度  
ヲ主張シ他ハ多數ハ聯合國ガ日本ガ其共同ノ  
義務ヲ盡ササルヲ責ムルに至ルベキヲ慮リ出  
兵ヲ主張スルモノ、如シ前者ハ西伯利亞、何  
等憂ラベキ事態ノ發生セザル、拘ハラズ政府  
ハ報告ヲ棒大ニ過デルヲ答メ後者ハ聯合國ヨ

此屢々非公式、日本亦向來援助ヲ請ふに拘ハ  
テズ日本が冷淡ナルヲ排ヲ誹難スルモノ如  
形勢以上甚如く困難ナルが而かも倫敦巴里華  
盛頓等ヨリは電報亦悉く矛盾也此ヲ以て日本  
經世家は困難は未層重大トナレリ此故言事内  
伯が專断内外の輿論ヲ考究スルコトヲ努メ敢  
て輕舉々出ズが至る蓋し自然ノ事理ヲ謂フベ  
シナリ

日本は位置ヲ解スル至る日本は慎重ナル態

度ヲ解スベシ然レバモ全然解シ難キ支那ノ  
態度ニシテ世界ノ危機ニ際シ兎戯ニ齊シキ内  
亂ヲ事ト決ルモ至テ其列強ノ信用ヲ失フモ  
亦寔ニ當然ノコトナリ

日本ノ現在及將來ノ政策ノ如何ナク豫言者又  
批評家ト雖モ日本政府ハ聯合國ト密接ナル  
關係ヲ維持シ且其滿州及西伯利亞ニ於テ行  
動ハ一々右諸國ト協議ノ上決定セラルベキコ  
トヲ信セザルモノナシ併シ支那ノ態度ニ至テ  
ハ全然不明瞭ニシテ滿州帝統轉覆以來支那ノ

指導者が單に私利ヲノミ主トシ毫モ國事ニ顧  
着セザル事實ヲ今日ノ如ク表示セシコトハ未  
ダ嘗テ之レアラガルトリ云々



池邊祕書官板